

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2016 看護学部 業
計 画
看 護 学 科

看 護 学 部

(学部略号：N)

Faculty of Nursing

看護学科

(学科略号：N)

Department of Nursing

看護学部 教育目標

看護学部看護学科は、生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観、心豊かな人間性と看護実践能力を備えた人材を育成し、地域社会における保健・医療・福祉の向上、看護の発展に貢献できる看護職者を養成することを目的とする。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
イ		
医療経済論	田井 義人	256
エ		
英語 I	村木 美紀子	145
英語 I	米田 繭子	147
英語 I	中道 英美子	148
英語 II	沢田 美保子	149
英語 II	米田 繭子	151
英語 II	中道 英美子	152
英語 III	米田 繭子	227
英語 III	村木 美紀子	228
英語 III	木村 理恵子	229
英語 IV	大塚 正人	231
疫学・保健統計	小堀 栄子	253
カ		
海外医療セミナー	田中 結華	119
カウンセリング論	宮川 貴美子	249
家族関係論	中川 由理	22
家族看護学	後閑 容子	115
看護学概論	竹中 泉	23
看護関係法規	竹中 泉	258
看護管理学	竹中 泉	50
看護教育学	竹中 泉	117
韓国語 I	北島 由紀子	157
韓国語 I	北島 由紀子	158
韓国語 II	北島 由紀子	159
韓国語 II	北島 由紀子	160
看護研究 I	後閑 容子	126
看護研究 II	後閑 容子	127
看護対人関係論	田中 結華	25
看護対人関係論	田中 結華	38
看護倫理	鎌田 佳奈美	116
感染と防御	伊藤 潔	16
キ		
基礎看護学実習 I	竹中 泉	33
基礎看護学実習 II	竹中 泉	52
基礎看護技術 I	佐久間 夕美子	27
基礎看護技術 I	佐久間 夕美子	30
基礎看護技術 II	中山 由美	40
基礎看護技術 II	中山 由美	42
基礎看護技術 III	森木 ゆう子	44
基礎看護技術 III	森木 ゆう子	46
基礎看護技術 IV	中山 由美	48
北河内を知る	尾山 廣	212
キャリアデザイン	西鶴 智香	225
キャリアデザイン	西鶴 智香	235
キャリア入門	鎌田 佳奈美	237

科目名	担当者	ページ
ケ		
経済学	紀国 正典	203
研究入門	小堀 栄子	125
コ		
公衆衛生学	小堀 栄子	255
国際看護学	竹中 泉	118
コミュニケーション論	金 瑛	195
コミュニケーション論	金 瑛	219
サ		
災害看護論	中山 由美	124
在宅看護学援助論 I	田中 結華	107
在宅看護学援助論 II	山本 十三代	109
在宅看護学概論	後閑 容子	105
在宅看護学実習	田中 結華	111
在宅看護学実習	田中 結華	112
シ		
疾病・治療論 I	小崎 篤志	20
疾病・治療論 II	小崎 篤志	251
周産期医学	杉本 有紀子	130
小児看護学援助論 I	鎌田 佳奈美	81
小児看護学援助論 II	池田 友美	84
小児看護学概論	鎌田 佳奈美	79
小児看護学実習	鎌田 佳奈美	86
小児看護学実習	鎌田 佳奈美	87
情報リテラシー	小堀 栄子	165
情報リテラシー	小堀 栄子	166
情報リテラシー I	小堀 栄子	221
情報リテラシー I	小堀 栄子	222
情報リテラシー II	小堀 栄子	223
情報リテラシー II	小堀 栄子	224
食生活論	浅野 真理子	242
助産学概論	赤井 由紀子	131
助産学実習	赤井 由紀子	141
助産管理論	赤井 由紀子	140
助産技術学演習	宮本 雅子	138
助産診断・技術学 I	赤井 由紀子	133
助産診断・技術学 II	但馬 まり子	134
助産診断・技術学 III	宮本 雅子	136
女性学	荒木 菜穂	198
女性学	荒木 菜穂	200
人体の構造と機能 I	倉本 展行	9
人体の構造と機能 II	岩崎 綾乃	10
人体の構造と機能 III	栗名 利津子	11
人体の構造と機能 IV	米山 雅紀	12
ス		
スポーツ科学	藤林 真美	167
スポーツ科学	藤林 真美	169

科目名	担当者	ページ
セ		
成人看護学援助方法	神 戸 美輪子	63
精神看護学援助論 I	眞 野 祥 子	100
成人看護学援助論 I	竹 下 裕 子	57
精神看護学援助論 II	山 本 奈津子	102
成人看護学援助論 II	森 谷 利 香	59
精神看護学概論	眞 野 祥 子	98
成人看護学概論	白 田 久美子	34
成人看護学概論 I	神 戸 美輪子	53
成人看護学概論 II	白 田 久美子	55
精神看護学実習	眞 野 祥 子	103
精神看護学実習	眞 野 祥 子	104
成人看護学実習 I	神 戸 美輪子	65
成人看護学実習 I	神 戸 美輪子	66
成人看護学実習 II	白 田 久美子	67
成人看護学実習 II	白 田 久美子	68
成人病態看護論	稲 垣 美 紀	61
生物・化学の基礎	眞 島 崇	207
生命科学概論	竹 内 健 治	220
生命倫理	山 本 奈津子	208
専門日本語 F I	中 岡 樹 里	181
専門日本語 F II	中 岡 樹 里	182
専門日本語 R	中 岡 樹 里	191
ソ		
総合看護学演習	後 閑 容 子	128
ソーシャル・イノベーション実務総論	石 井 三 恵	213
タ		
代謝栄養学	竹 内 健 治	13
代謝栄養学	竹 内 健 治	241
チ		
地域看護学	後 閑 容 子	113
地域と私	鶴 坂 貴 恵	210
中国語 I	今 中 崇 文	153
中国語 I	今 中 崇 文	154
中国語 II	今 中 崇 文	155
中国語 II	今 中 崇 文	156
ト		
統合看護学実習	後 閑 容 子	129
ニ		
日本語会話 F I	高 井 美 穂	183
日本語会話 F II	高 井 美 穂	184
日本語会話 R	高 井 美 穂	192
日本語総合 F I	古 川 由理子	179
日本語総合 F II	古 川 由理子	180
日本語総合 R	古 川 由理子	190
日本語読解 F I	中 岡 樹 里	173

科目名	担当者	ページ
日本語読解 F II	中 岡 樹 里	174
日本語読解 R	中 岡 樹 里	187
日本語表現作文 F I	中 岡 樹 里	177
日本語表現作文 F II	中 岡 樹 里	178
日本語表現作文 R	中 岡 樹 里	189
日本語表現法	瀧 中 祐 子	161
日本語表現法	瀧 中 祐 子	163
日本語文法 F I	中 岡 樹 里	175
日本語文法 F II	中 岡 樹 里	176
日本語文法 R	中 岡 樹 里	188
日本事情 F I	門 脇 薫	171
日本事情 F II	門 脇 薫	172
日本事情 R I	門 脇 薫	185
日本事情 R II	門 脇 薫	186
ヒ		
病院薬学演習	菊 田 真 穂	245
病院薬学演習	菊 田 真 穂	247
病理学総論	小 崎 篤 志	14
フ		
文章表現法	瀧 中 祐 子	215
文章表現法	瀧 中 祐 子	217
ホ		
法学入門	安 藤 由香里	202
保健医療福祉行政論	小 堀 栄 子	254
母性看護学援助論 I	泉 川 孝 子	90
母性看護学援助論 II	福 山 智 子	92
母性看護学概論	泉 川 孝 子	88
母性看護学実習	泉 川 孝 子	94
母性看護学実習	泉 川 孝 子	96
ボランティア活動論	森 本 誠 一	196
ヤ		
薬物治療学	田 中 雅 幸	244
薬理学総論	眞 島 崇	18
薬理学総論	奈 邊 健	243
リ		
臨床看護学演習 I	松 本 葉 子	120
臨床看護学演習 II	松 本 葉 子	122
ロ		
老年看護学援助論 I	松 田 千登勢	71
老年看護学援助論 II	松 田 千登勢	73
老年看護学概論	松 田 千登勢	36
老年看護学概論	松 田 千登勢	69
老年看護学実習 I	松 田 千登勢	37
老年看護学実習 I	松 田 千登勢	75
老年看護学実習 I	松 田 千登勢	76
老年看護学実習 II	松 田 千登勢	77

科目名	担当者	ページ
老年看護学実習Ⅱ	松 田 千登勢	78

專 門 科 目

科目名	人体の構造と機能 I	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	倉本 展行

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「解剖学」「組織学」の基礎から学習を始め、「骨格」「関節」の全容を学習すると共に、全身を取りまく「骨格筋」と、骨格筋による「運動」を学習する。さらに、「末梢神経系」の支配について学習する。
授業方法と留意点	授業方法はプレゼンテーション及び板書による「講義」を中心として、人体臓器模型等を用いた演習形式学習も行う。授業は指定席で実施することがある。できるだけ毎回講義前に小テストを実施するので、普段からの学習習慣を身につけるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	細胞、組織、臓器・器官の成り立ち	細胞の機能及び細胞、組織、臓器・器官の成り立ちと、人体の正常機能を維持するための仕組みについて学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
2	4 大組織	4 大組織について名称をあげ、その特徴、分布を学習する。	同上
3	骨の構造、発生・成長、機能	人体の骨の構造・機能、発生と成長、全身の骨格について学習する。	同上
4	人体の骨格	人体の骨格 (連結を含む) について学習する。	同上
5	筋の構造・機能	骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能について学習する。	同上
6	筋の収縮とその特徴	骨格筋、心筋、平滑筋の収縮の仕組み、収縮の特徴について学習する。	同上
7	体幹の骨格と筋	脊柱、胸郭、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋について学習する。	同上
8	上肢の骨格と筋	上肢帯の骨格、自由上肢の骨格、上肢帯の筋群、上腕の筋群、前腕の筋群、手の筋群、上肢の運動について学習する。	同上
9	下肢の骨格と筋	下肢帯の骨格、自由下肢の骨格、下肢帯の筋群、大腿の筋群、下腿の筋群、足の筋群、下肢の運動について学習する。	同上
10	頭頸部の骨格と筋	脳頭蓋、顔面頭蓋、頭部の筋、頸部の筋について学習する。	同上
11	自律神経系の機能	自律神経系 (交感神経と副交感神経) の特徴・機能について学習する。	同上
12	自律神経系の構造	交感神経系と副交感神経系の構造について学習する。	同上
13	自律神経系の調節	自律神経系の神経伝達物質、受容体、調節について学習する。	同上
14	筋の神経支配	骨格筋、心筋、平滑筋の神経支配について学習する。	同上
15	総合演習	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	同上 及び 講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分を見つけ、この部分を学習し、定期テストに備える。

関連科目	人体の構造と機能 II、III、IV
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学 (人体の構造と機能①)」	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院
	2	メディカルイメージブック 解剖学	中島雅美 編	医歯薬出版株式会社
	3	人体の構造と機能 I 講義ノート		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、定期試験 (70%) により総括評価する。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	『人体の構造と機能 I II 講義ノート』を活用しながら授業をまとめ、小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1 号館 (薬学部) 7 階 倉本准教授室
------------	-----------------------

科目名	人体の構造と機能Ⅱ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩崎 綾乃

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「消化器系器官」の構造と機能を学習して栄養の消化と吸収を理解する。また、「呼吸器系器官」「血液系」の構造と機能を学習して呼吸と血液のはたらきを理解する。また、すでに学習した「自律神経系」の機能による内臓の調節について、理解を深める。
授業方法と留意点	授業方法はプレゼンテーション及び板書による「講義」を中心とする。人体臓器模型等を用いた演習形式学習や授業を指定席で実施することがある。講義前にレポート課題の提出または小テストを実施するので、普段から学習習慣を身につけるようにすること。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	消化器系： 概要、口腔～食道	口、咽頭、食道の構造と機能について	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（1時間）
2	消化器系： 胃	胃の構造、運動、機能、調節について	同上
3	消化器系： 十二指腸～胆嚢、膵臓	十二指腸、胆嚢、膵臓の構造と機能について	同上
4	消化器系： 小腸 栄養素の消化と吸収	小腸の構造、運動、機能、調節について 栄養素（糖質、タンパク質、脂質）の消化・吸収とビタミンやミネラルの吸収について	同上
5	消化器系： 肝臓 大腸	肝臓、大腸の構造、運動、機能、調節について	同上
6	呼吸器系： 概要 鼻腔～咽頭	鼻腔から咽頭の構造について	同上
7	呼吸器系： 喉頭～気管 気管支	喉頭、気管支、肺胞の構造について	同上
8	呼吸器系： 呼吸筋、呼吸量	呼吸運動、呼吸気量について	同上
9	呼吸器系： 呼吸中枢とガス交換	呼吸の神経調節、呼吸運動、ガスの運搬と交換について	同上
10	血液： 機能と成分	血漿タンパク質の種類と働きについて	同上
11	血液： 造血、血球	造血機構、血球の種類と働きについて	同上
12	血液： 赤血球、白血球	赤血球、白血球の種類と働きについて	同上
13	血液： 血小板 止血	血小板の働きおよび止血の機構について	同上
14	血液： 血液凝固 血液型	血液凝固機構および血液型について	同上
15	総合演習	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	同上及び講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、この部分を学習し、定期テストに備える。

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学（人体の構造と機能①）」	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院
2	メディカルイメージブック 解剖学	中島雅美 編	医歯薬出版株式会社
3	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ講義ノート		

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	小テストまたはレポート(30%)、定期試験(70%)により総括評価する。
----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	『人体の構造と機能ⅠⅡ講義ノート』を活用しながら授業をまとめ、小テスト、レポートを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館(薬学部) 4階 臨床薬理学研究室
----------	----------------------

備考	指定した教科書3冊は「人体の構造と機能Ⅰ」で使用したものと同一ものです。必ず持ってきてください。
----	--

科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	菜名 利津子

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「循環器系器官」「泌尿器系器官」の構造と機能を学習して血液の循環と調節及び尿生成と体液の調節を理解する。また、「内分泌系器官」の構造と機能を学習して内臓機能の調節を理解する。
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、人体臓器模型や問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	心臓の機能	心臓の興奮と伝播、心電図について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
3	心臓の機能	心臓の収縮とその調節について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
4	末梢循環系の構造	血管の構造、肺循環、全身の動脈系、全身の静脈系について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
5	血液の循環調節	血圧、血液循環について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
6	血液の循環調節	血圧調節、微小循環、循環器系の病態生理について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
7	リンパ系の構造と機能	リンパ管の構造、リンパ循環について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
8	体液の調節と尿の生成	腎臓の構造と機能、糸球体の構造と機能、尿細管の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
9	体液の調節と尿の生成	傍糸球体装置、腎臓から分泌される生理活性物質、排泄路の構造について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
10	体液の調節と尿の生成	尿の貯蔵と排尿、体液調節について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
11	内分泌系による内臓機能の調節	ホルモンの化学構造と作用機序、内分泌系器官について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
12	内分泌系による内臓機能の調節	視床下部-下垂体系、甲状腺、副甲状腺(上皮小体)について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
13	内分泌系による内臓機能の調節	膵臓、副腎、性腺の構造と分泌ホルモンの機能について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
14	内分泌系による内臓機能の調節	ホルモン分泌調節、ホルモンによる生体機能調節について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
15	人体解剖見学	人体の胸部、腹部、頭部を中心とした解剖の見学を通して、内臓の位置、色、構造等について理解する。	事前に人体模型等で主な臓器について学習する(授業時間以外に補習として実施するので必ず出席すること)。事後にレポートを提出すること

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、薬理学Ⅰ、Ⅱ
------	----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。ただし、小テスト、レポート、その他の課題等も評価に入れることもある。
----------	---

学生へのメッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館5階 微生物学研究室
----------	---------------

備考	薬理学の基礎となる教科ですから、講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。
----	--

科目名	人体の構造と機能Ⅳ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	米山 雅紀

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「神経系器官・感覚器系器官」の構造と機能、「生体防御機構」を学習して生体情報の伝達・受容と調節や生体防御反応について理解する。また、「生殖器系器官」の構造と機能を学習して生殖・発生・老化のしくみを理解する。
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、人体臓器模型や問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	脊髄と脳	脊髄の構造の機能、脳の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
3	脊髄神経と脳神経	脊髄神経の構造と機能、脳神経の構造と機能、運動性上行路、感覚性下行路について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
4	脳の高次機能	脳波と睡眠、記憶、本能と情動行動、内臓調節機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
5	眼の構造と機能	眼球の構造、眼球付属器、視覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
6	耳の構造と機能	耳の構造、聴覚、平衡感覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
7	味覚、嗅覚、疼痛	味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚、痛みの分類、疼痛発生機序について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
8	皮膚の構造と機能	皮膚の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
9	生体防御	皮膚・粘膜における防御、食食作用・細胞傷害物質による防御、免疫による防御について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
10	体温	熱の出納、体温の分布と測定、体温調節について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
11	男性生殖器	男性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
12	女性生殖器	女性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
13	受精と胎児発生	生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
14	成長と老化	小児期の成長、老化について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
15	体表から見た人体の構造	体表から触知できる骨格部分・骨格筋・血管を各自が確認して部位の名称を確認する。	授業のまとめノートを作成すること。

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、薬理学Ⅰ、Ⅱ
------	----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。ただし、小テスト等の一定割合を評価に入れることもある。尚、必要に応じて課題レポートを課すことがある。
----------	---

学生へのメッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館6階 薬理学研究室
----------	--------------

備考	薬理学の基礎となる教科ですから、講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。
----	--

科目名	代謝栄養学	科目名(英文)	Biochemical Nutriology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹内 健治

授業概要・目的	糖質、脂質、タンパク質(アミノ酸)、ビタミン、ミネラルの五大栄養素を中心に、その構造、性質、役割など生化学的な特徴を理解する。また、摂取した食物の消化、吸収の機序を知り、どのように体内で代謝され生体のエネルギーや構成成分になるのかについて、体内で起こる種々の化学反応とその反応を触媒している酵素の役割を中心に理解する。さらに、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解する。
到達目標	栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、プロジェクター、プリントなどを用いて講義する。
科目学習の効果(資格)	生物系科目全般の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	糖質の代謝	食べた糖質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	糖質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
3	栄養素各論「脂質」	栄養素としての脂質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「脂質」の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
4	脂質の代謝	食べた脂質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	脂質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
5	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」	栄養素としてのアミノ酸とタンパク質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
6	アミノ酸とタンパク質の代謝 エネルギー代謝の統合と制御	食べたタンパク質の消化、吸収と、アミノ酸の代謝を理解する。 代謝のバランスが崩れたときに、どのようなことが起こるかを理解する。	アミノ酸とタンパク質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
7	体の中での酵素の役割 代謝異常と疾患	私たちの体温は37℃、pHは中性である。このような緩和な状況で栄養を代謝できるのは体内に酵素があるおかげである。 遺伝情報に誤りがあると、それが原因で代謝異常がおこることを理解する	酵素の役割の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
8	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」 遺伝情報	ヌクレオチドと核酸の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。 遺伝情報がどのように保存され、どのように次世代へ伝わるのかを理解する。	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」と遺伝情報の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 生物・化学の基礎など生物系科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 小テストと課題(25%)、定期試験(75%)で評価する。

学生へのメッセージ 代謝栄養学の観点からみると、健康とは、食物の消化・吸収から代謝、および老廃物の排出という人体の活動が正常に営まれることであり、疾病はこの正常な営みが崩れた場合に起こる。代謝栄養学の知識は、他領域の分野を学習するための基礎であり、それらの習得に役立つことは間違いない。講義時間が少ないため、覚えるだけの部分は授業時間以外の学習で補ってもらおう。講義内容についての質問はいつでも受け付けますので、気軽にたずねてください。

担当者の研究室等 1号館5階

備考

科目名	病理学総論	科目名(英文)	Pathology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小崎 篤志

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に消化器および代謝内分泌疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲへと引き継がれる。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	病理学総論(消化器1)	講義にて消化器疾患、主に消化器総論・消化器内視鏡総論等について学習する
2		病理学総論(消化器2)	講義にて消化器疾患、主に食道疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
3		病理学総論(消化器3)	講義にて消化器疾患、主に胃十二指腸疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
4		病理学総論(消化器4)	講義にて消化器疾患、主に胃十二指腸疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
5		病理学総論(消化器5)	講義にて消化器疾患、主に腸および腹膜疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
6		病理学総論(消化器6)	講義にて消化器疾患、主に腸および腹膜疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
7		病理学総論(消化器7)	講義にて消化器疾患、主に胆肝膵疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
8		病理学総論(消化器8)	講義にて消化器疾患、主に胆肝膵疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
9		病理学総論(消化器9)	講義にて消化器疾患、主に胆肝膵疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の復習
10		病理学総論(代謝内分泌1)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
11		病理学総論(代謝内分泌2)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
12		病理学総論(代謝内分泌3)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の復習
13		病理学総論(代謝内分泌4)	講義にて代謝内分泌疾患、主に尿酸代謝および異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
14		病理学総論(代謝内分泌5)	講義にて代謝内分泌疾患、主に甲状腺疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
15		病理学総論(代謝内分泌6)	講義にて代謝内分泌疾患、主に副甲状腺・下垂体疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習

関連科目	疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.1 消化器		メディックメディア
	2	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌		メディックメディア
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度等を評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度評価など(10%)で最終評価する。
学生への メッセージ	授業には指定教科書を持参して下さい。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室23
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	感染と防御	科目名(英文)	Microbiology and Immunology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 潔

授業概要・目的	それぞれの感染症に特定のウイルスや微生物が関与することを理解するため、代表的な病原体の種類や特徴とそれらが引き起こす症状について学ぶ。また、病原体に対する生体防御機構と予防法や治療法の基礎知識を学ぶことにより、科学的な根拠に基づいて感染症の予防と治療に従事する専門職としての能力を身につける。さらに、分子生物学的・遺伝学的観点から感染と防御について概説することにより、最先端の感染症医療に対応できる能力を身につける。
到達目標	1. 代表的な病原微生物の生物学的特徴、感染経路、代表的な治療法および予防法などについて説明できる。2. 微生物の検出、取扱い、滅菌と消毒について概説できる。 3. 免疫学の発展と免疫系について説明できる。 4. 感染症の患者や家族などに対して適切な態度で接することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容を中心に PowerPoint を用いて解説する。必要に応じて練習問題や課題を出すので、正誤にかかわらず自らの考えを記すこと。PowerPoint の内容をまとめたプリントを配布するので、講義前に教科書の該当領域と合わせて熟読し、概要を理解すること。また、講義中に重要と思われる内容をマークしたり、必要に応じて書き込みすること。講義後、再度、教科書とプリントの内容を確認し、重要な内容をノートにまとめること。疑問や質問などがあれば研究室に来て確認して欲しい。
科目学習の効果(資格)	目に見えない病原体の存在とそれらの特性を理解することで、一般市民の健康と生命を守るために必要な衛生的知識を修得できる。また、感染防御と感染症治療の基礎を理解することで、感染症患者の治療や院内感染防止に役立つ知識を身につけることができる。感染症が誰にでも起こりうる病気であることを理解することで、感染症の患者やその家族に対する偏見を無くし、献身的に医療に従事する態度を醸成する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション(講義の概要について) 感染症とは何か? 病原体とは何か? 免疫とは何か?	講義の方法、資料、注意事項、評価方法について説明する。 様々な病原体によって引き起こされる感染症と、免疫の概念について解説する。	事前学習: 教科書 p. 43~p. 56 を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
2	病原体の概要と分類	病原体(プリオン・ウイルス・細菌・真菌・原虫・寄生虫)の特徴と分類、および疾患との関連について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 4~p. 9 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
3	免疫の概念	免疫反応に関与する細胞や分子の種類と、それらの働きについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 56~p. 61 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
4	免疫系のネットワーク	自然免疫と獲得免疫の特徴、および細胞性免疫反応と液性免疫反応の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 62~p. 66, p. 70~p. 71 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
5	免疫による感染防御と、免疫に基づく疾患	正常な免疫系が関与する疾患と、免疫系の過剰反応や異常によって起こる疾患の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 66~p. 70 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
6	微生物検査法・滅菌と消毒	病原微生物の存在や特性を知る方法と、それらを除去する方法について解説する。	事前学習: 教科書 p. 74~82, p. 102~p. 107 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
7	滅菌と消毒・化学療法・感染症の予防	病原体を除去したり殺滅する方法と、感染症の予防や治療について解説する。	事前学習: 教科書 p. 74~p. 100 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
8	プリオンとウイルスのアウトライン	プリオンの特徴やプリオン感染症と、ウイルスの特徴・構造・分類・増殖などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 28~p. 36, p. 189 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
9	代表的なウイルス感染症-1	ウイルス感染症の例として、ヘルペスやインフルエンザを中心に解説する。	事前学習: 教科書 p. 159~p. 183 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
10	代表的なウイルス感染症-2	ウイルス感染症の例として、後天性免疫不全症候群(AIDS)を中心に解説する。	事前学習: 教科書 p. 184~p. 190 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
11	細菌のアウトライン	細菌の形態・構造・遺伝子などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 12~p. 25 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
12	代表的な細菌感染症-1	グラム陽性菌による感染症の例として、ブドウ球菌感染症、ボツリヌス症、結核などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 111~p. 126 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。

				疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
	13	代表的な細菌感染症－2	グラム陰性菌やその他の細菌による感染症の例として、ペスト、コレラ、大腸菌感染症などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 128～p. 158 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
	14	真菌・原虫・寄生虫のアウトライン	真菌・原虫・寄生虫の特徴や分類について解説する。	事前学習：教科書 p. 37～p. 41 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
	15	代表的な真菌・原虫・寄生虫感染症	真菌・原虫・寄生虫感染症の例として、マラリアや住血吸虫症などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 191～p. 197 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
関連科目	生命科学概論、生物・化学の基礎、公衆衛生学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジュアル微生物学	小田 紘	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験（100点満点中60点以上で合格）により総合評価する。			
学生への メッセージ	ヒトは多種多様な生物との関わり合いの中で生きている。目に見えないほど小さな生物の中には、ヒトにとって有益なものもあれば、有害なものもある。正常な免疫系は我々の身体を種々の病原体から守る役割を果たしているが、免疫系の異常によって病気が引き起こされる場合もある。ヒトと微生物の関係と免疫の仕組みを理解し、科学的な見地に基づいて感染防御に必要なことは何かを考えられる医療従事者になることを望む。			
担当者の 研究室等	1号館5階 微生物学研究室			
備考	感染症や免疫系、および微生物について学ぶためには、生物学の基礎的知識が不可欠であり、高校レベルの生物学の知識を有することが要求される。高校で生物学を履修していない者は、本講義を履修する前に高校の生物学の教科書や教材を参考に自己学習することを勧める。			

科目名	薬理学総論	科目名(英文)	Pharmacology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞島 崇

授業概要・目的
薬物療法における看護師の役割として、(1) 誤薬の防止、(2) 治療効果の確認、(3) 有害作用の予防と早期発見、(4) 服薬に対する患者指導、(5) 患者・家族に対する治療の説明、などがある。これらを適切に実行するためには、薬物が生体に及ぼす種々の作用及びその作用機序について詳細に学ぶ必要がある。薬理学総論では、薬物の作用を、分子、細胞、臓器、個体レベルで学習し、上記の役割を実践していく上で必要な薬物の基礎知識を修得する。また、薬物の投与方法と投薬後の注意点、副作用とその対策、医薬品の取り扱い上の留意点等を総合的に理解し、臨床での実践へ向けた薬物療法の基盤を確かなものとする。

到達目標
(1) 薬物療法における看護師の役割について概説できる。
(2) 薬が作用するしくみについて、受容体、イオンチャネル、酵素、などを交えて説明できる。
(3) 薬を投与した際の体内挙動(吸収、分布、代謝、排泄)について概説できる。
(4) 薬物相互作用について例を挙げて説明できる。
(5) 薬物の危険性について理解し、例を挙げて説明できる。
(6) 薬に関連した法律について概説できる。
(7) 自律神経系(交感神経・副交感神経)に作用する薬物について説明できる。
(8) 体性神経系(運動神経、知覚神経)に作用する薬物について説明できる。
(8) 心臓血管系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。
(9) 呼吸器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。
(10) 泌尿器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。

授業方法と留意点
基本的には指定した教科書に沿って講義を進め、必要に応じてプリントなどを配付します。また、臨床的観点から、薬物治療や新薬の話題も提供したい。小テストを複数回実施する。普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。

科目学習の効果(資格)
看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬による病気の治療について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
2	薬理学の基礎知識(1)	薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
3	薬理学の基礎知識(2)	薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
4	薬理学の基礎知識(3)	薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
5	薬理学の基礎知識(4)	薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
6	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について看護職経験教員が臨床経験に基づいて講義する。	レポート「看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割」の作成・提出
7	末梢での神経活動に作用する薬物(1)	神経系による情報伝達、自律神経作用薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
8	末梢での神経活動に作用する薬物(2)	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
9	末梢での神経活動に作用する薬物(3)	筋弛緩薬・局所麻酔薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
10	心臓・血管系に作用する薬物(1)	抗高血圧薬・狭心症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
11	心臓・血管系に作用する薬物(2)	心不全治療薬、抗不整脈薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
12	心臓・血管系に作用する薬物(3)	利尿薬、脂質異常症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
13	心臓・血管系に作用する薬物(4)	血液に作用する薬物について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
14	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
15	泌尿器系に作用する薬物	排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習

関連科目
人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち2 臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版
2			
3			

評価方法(基準)
定期試験、小テスト、出席率等を加味し、100点満点の60点以上で合格とする。

学生へのメッセージ
私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で薬剤師と意見交換が出来るよう薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。質問は遠慮せず来てください。

担当者の 研究室等	1号館
備考	

科目名	疾病・治療論Ⅰ	科目名(英文)	Clinical Medicine I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小崎 篤志

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に呼吸器および循環器疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	疾病・治療論(呼吸器1)	講義にて呼吸器疾患、主に呼吸器の解剖・生理、酸塩基平衡などについて学習する	教科書内授業部分の復習
2	疾病・治療論(呼吸器2)	講義にて呼吸器疾患、主に呼吸機能検査などについて学習する	教科書内授業部分の復習
3	疾病・治療論(呼吸器3)	講義にて呼吸器疾患、主に呼吸器感染症などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
4	疾病・治療論(呼吸器4)	講義にて呼吸器疾患、主に免疫・アレルギー性肺疾患および間質性肺疾患の原因、原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
5	疾病・治療論(呼吸器5)	講義にて呼吸器疾患、主に閉塞性肺疾患などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
6	疾病・治療論(呼吸器6)	講義にて呼吸器疾患、主に肺腫瘍の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
7	疾病・治療論(呼吸器7)	講義にて呼吸器疾患、主に肺循環異常・換気障害などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
8	疾病・治療論(循環器1)	講義にて循環器疾患、主に循環器の解剖生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
9	疾病・治療論(循環器2)	講義にて循環器疾患、主に心不全の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
10	疾病・治療論(循環器3)	講義にて循環器疾患、主に虚血性心疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
11	疾病・治療論(循環器4)	講義にて循環器疾患、主に不整脈疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
12	疾病・治療論(循環器5)	講義にて循環器疾患、主に先天性心疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
13	疾病・治療論(循環器6)	講義にて循環器疾患、主に心臓弁膜症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
14	疾病・治療論(循環器7)	講義にて循環器疾患、主に心筋・心膜疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
15	疾病・治療論(循環器8)	講義にて循環器疾患、主に血管疾患および高血圧疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習

関連科目 病理学総論、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.4 呼吸器		メディックメディア
2	病気がみえる vol.2 循環器		メディックメディア	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度など(10%)で最終評価する。

学生へのメッセージ	授業には指定教科書を持参して下さい。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室23
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	家族関係論	科目名(英文)	Family Relationship
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 由理

授業概要・目的	本科目では、家族を構成する子どもなどの個人の発達と夫婦関係などの関係性について学び、現代家族が直面している心理面の諸問題に対する理解を講義とディスカッションを通じて深めていく。また、何からの困難を持つ個人を家族や社会の一員とみなし援助を行う具体的な介入事例や方法についての知識を身につける。これらを通じて、対人援助の対象である個人と、個人の背景としての家族をアセスメントし、適切に介入する力の基礎を養成する。
到達目標	家族は患者の治療への意志、QOLと関係する。現場では様々な家族に出会うことが予測される。客観的に家族関係を捉える視点を持つことは的確な看護につながる。そのための知識を得ることができる。
授業方法と留意点	講義を中心とし、時々グループディスカッションを取り入れる予定である。その他、特別に必要なものがあれば授業中に伝える。質問時間は授業中に設ける。
科目学習の効果(資格)	援助専門職として、患者、患者の家族に関わる際の心理的援助の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	家族とは何か	オリエンテーション。各自が持つ家族イメージや家族とのコミュニケーションについて考える	なし	講義内容の整理
2	家族の構造と過程	家族システムと社会との関係を概観し、コミュニケーションを通じて変化する家族の過程について学ぶ	なし	講義内容の整理
3	友人関係	現代に於ける友人関係の様相について概観し、その形成と発展について学ぶ	現代に於ける友人関係の特徴について情報収集を行う	講義内容の整理
4	恋愛関係と配偶者選択	恋愛関係の形成と進展について学ぶ	なし	講義内容の整理
5	夫婦関係	現代に於ける結婚の現状について概観し、価値や夫役割、妻役割について学ぶ	現代に於ける結婚の現状について情報収集を行う	講義内容の整理
6	親子関係1	発達論について概観し、対人関係の基礎的構えについて学ぶ	なし	講義内容の整理
7	親子関係2	現代に於ける子育ての現状や親子関係の様相について概観し、親役割について学ぶ	現代に於ける子育ての現状について情報収集を行う	講義内容の整理
8	きょうだい関係	ひとりっ子、出生順位からみた子どもの心理やきょうだい関係の影響について学ぶ	なし	講義内容の整理
9	多世代関係と家族の発達段階	家族形態の変化、多世代世帯の歴史と変容、家族の発達段階論について学ぶ	なし	講義内容の整理
10	児童虐待・家庭内暴力	児童虐待、夫婦間暴力や子どもの暴力問題の現状と課題について概観し、家族との関連や具体的な援助法について学ぶ	なし	講義内容の整理
11	子どもの自殺と非行	自殺の現状、青少年非行の実態について概観し、家族との関連や具体的な援助法について学ぶ	なし	講義内容の整理
12	子どもの神経症・人格障害	障害を持つ子どもの特性を概観し、その家族の形成と具体的な援助法について学ぶ	なし	講義内容の整理
13	中年期・老年期家族の心理的危機	中年期・老年期の様相や課題について概観し、介護問題と対策について学ぶ	現代に於ける介護問題の現状について情報収集を行う	講義内容の整理
14	家族の理解と支援1	映像資料を題材とし、多様な家族の姿について理解する	なし	授業で扱ったテーマや援助法についての整理
15	家族の理解と支援2	家族を支援する具体的な方法のいくつかを概観し、家族への支援について学ぶ	なし	全体的な講義内容の整理

関連科目	臨床心理学 カウンセリング論
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業中の課題レポート提出30%、授業参加度10%、定期試験60%を目安として総合評価する
----------	--

学生へのメッセージ	身近なテーマから家族を考察していきます。積極的な参加を期待します。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹中 泉

授業概要・目的
 初学者が看護学を学ぶ導入とし、基礎となる看護の基本的概念を学び、その後の看護学を発展させる基盤を形成する。看護の歴史を振り返り、看護の本質を探究し、保健医療システムとチーム医療における看護の役割を学ぶ。
 看護の倫理と法的責任を知ることで、看護職者に必要な態度や社会的責任について考える。
 看護の現場と看護の機能を知ることを通して、看護の対象である人々への健康支援へのアプローチの概略を学ぶ。
 また、様々な看護理論を理解することで、自身の看護観を発展させる基礎的能力を培う。

- 到達目標**
1. 看護の基本的概念、看護の役割・機能について説明することができる。
 2. 看護の倫理と法的責任について説明することができる。
 3. 看護の歴史的発展について説明することができる。
 4. 看護理論を学ぶことを通して、自身の看護観について述べるができる。
 5. 看護学に関する学びを学生同士で話し合い、発展させることができる。

授業方法と留意点
 下記の授業計画に沿って講義を行う。新入生を看護学の世界へ導き、今後の学習を動機づける。授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料も適宜追加する。授業では要点やポイントを自分で把握し、ノートやメモをとることも必ず行うこと。また、学生による発表を課する。他学生と話し合いを重ね、意見を共有して学びを発展させる。積極的に発言し、大学生として学ぶ態度で授業に参加すること。
 授業計画は学習の進捗状況によって調整することがあるが、その際は授業で説明を行う。
 また、授業の連絡にはポータルを用いて連絡することがある、常に確認すること。

科目学習の効果(資格)
 すべての看護学を学ぶ導入となり、皆さんのキャリアデザインを行うための基礎となる授業科目で、必須科目となっています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後課題
1	授業ガイダンス、看護とは何か	授業ガイダンスで授業計画、評価方法等の詳細について説明する。看護及び看護学とは何かについて概観する。	事前課題：シラバスをよく読み、テキストの目次にどのような項目があるかを確認してきて下さい。	事後課題：第1章を読み返し整理して下さい。
2	看護の基本的概念(1)：人間および環境	看護における基本的概念のうち、人間及び環境を理解する。	事前課題：テキストの第2章を読んで来て下さい。	事後課題：授業で学んだ人間・環境について整理しておいて下さい。
3	看護の基本的概念(2)：健康	看護における健康の概念を理解する。	事前課題：テキストの第3章を読んで来て下さい。	事後課題：授業で学んだ健康の概念や健康を表す諸指標、看護との関係について整理しておいて下さい。
4	ライフサイクルと健康	成長と発達の内容について理解する。	事前課題：テキストの第4章を読んで来て下さい。	事後課題：授業で学んだ重要な用語について整理しておいてください。
5	看護における倫理と法的責任	看護ケアを行うとき、自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその価値の意味を考える。	事前課題：テキストの第6章を読んで来て下さい。	事後課題：倫理の原則、看護者の倫理綱領について復習しておいて下さい。
6	看護ケアの基本的役割	看護ケアにおける看護師の役割と責任について理解する。	事前課題：テキストの第7章を読んで来て下さい。	事後課題：今までの講義内容から看護という職業について理解した内容をまとめ、今後の自己の課題を考え整理してください。
7	看護過程	看護過程の学習を通して、看護の現場の実際と、看護の機能、看護実践過程について知る。	事前課題：第8章を読んで来て下さい。	事後課題：看護過程の5つのステップを整理しておいて下さい。
8	看護実践のための理論的根拠(1)	看護理論の分類、看護理論の変遷について概要を理解する。	事前課題：第5章1・2・3を読んで来て下さい。	事後課題：看護理論の分類について整理しておいて下さい。
9	看護実践のための理論的根拠(2)	さまざまな看護理論について紹介する。	事前課題：第5章4を読んで来て下さい。	事後課題：代表的な理論家の理論を整理しておいて下さい。
10	看護実践のための理論的根拠(3)	さまざまな看護理論について紹介する。	事前課題：第5章4を読んで来て下さい。	事後課題：代表的な理論家の理論を整理しておいて下さい。
11	看護における法的側面	看護実践の職業的および法的規則について理解する。	事前課題：第9章を読んで来て下さい。	事後課題：保健師助産師看護師法の看護師の定義をわかりやすく説明できるよう整理しておいて下さい。
12	看護ケアと医療安全	医療安全の基本的知識を理解する。	事前課題：第9章を読んで来て下さい。	事後課題：安全に関する自己の課題について整理してください。
13	保健医療システムとチーム医療	社会における保健医療を提供するシステムと、チーム医療による様々な活動と看護の果たすべき役割について解説する。	事前課題：テキストの第10章を読んで来て下さい。	事後課題：チーム医療について整理しておいて下さい。
14	看護学の発展、まとめ(1)	グループでの学びを発表し討議することを通して、自己の看護及び看護学への考えをまとめる。	事前課題：発表準備を行って下さい。	事後課題：自分自身の看護への考え方、今後の勉強への課題を整理しておくこと。
15	看護学の発展、まとめ(2)	グループでの学びを発表し討議することを通して、自己の看護及び看護学への考えをまとめる。	事前課題：発表準備を行って下さい。	事後課題：自分自身の看護への考え方、今後の勉強への課題を整理しておくこと。

関連科目
 今後学ぶ、全ての看護学の専門科目の基礎となる科目です。特に、この科目で学んだ内容を、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱで発展させ、実践する力としていきます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナシグ・グラフィカ	基礎看護学①看護学概論	志自岐康子 編

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護理論家の業績と理論評価	筒井真優美 編	医学書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	評価は定期試験及び小テスト・レポート・グループ活動を総合して判定する。 評価割合は定期試験 (60%)、小テスト・レポート・グループ活動 (40%)			
学生への メッセージ	看護学を学ぶ学生として自己の課題は何か、自分自身を振り返りながら、成長していきましょう。 他の学生との意見交換を活発に行えるよう、他者にわかる表現ができるように工夫して臨みましょう。 また、自分とは異なる価値観を認め合い、発展的に学習を深められるよう取り組んでください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室25 竹中			
備考				

科目名	看護対人関係論	科目名(英文)	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華

授業概要・目的	看護の場における対人関係についての基本的概念・技法の理解と修得を目指す。患者-看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、「聴くこと」「話すこと」を中心に、看護場面のロールプレイ等を用いた学生同士のグループ学習を通して修得する。また、実習マナー、チーム医療での人間関係のあり方について、リフレクティブな学習方法を通して学ぶ。
到達目標	1. 患者-看護師間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 2. コミュニケーションの際に必要な基本的技法について説明できる。 3. 看護場面のロールプレイを、コミュニケーションの基本的技法を用いて学生同士で行うことができる。 4. ロールプレイを通して、自分自身と他者のコミュニケーションの振り返りを行うことができる。
授業方法と留意点	講義で理論を説明し、その中で重要なコミュニケーション技法については小グループを編成し演習を行う。グループで協力して学ぶことが必要である。「知っている」と「できる」とは違う。「できる」ようになるよう、積極的に参加する態度が必要である。そして、この授業で学んださまざまなコミュニケーションの技術を、日常生活の中で練習することが欠かせない。授業では、名札をつけて出席すること。またテキストを毎回持参すること。
科目学習の効果(資格)	患者中心の看護実践にむけて、看護の対象者と適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる力を付けます。また、全ての実習科目を行う上で、この科目での学びが重要です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護の場における対人関係とは	授業ガイダンスを行うとともに、看護の場における対人関係について概要を説明する。また、対人関係を振り返り学習することの重要性、グループの協力について説明する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
2	患者-看護師関係のコミュニケーションの特徴、「聴くこと」と「話すこと」	患者と看護師の間で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について事例を用いながら学ぶ。また、「聴くこと」・「話すこと」について演習し、考えを深める。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
3	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(1)	会話は話のキャッチボールを行うものであり、相手が受け取っていないければ何も伝わらない。相手の気持ちを受けとめる会話による「受容」と「傾聴」について学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
4	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(2)	「受容」と「傾聴」についてグループで練習し、相手の気持ちを受けとめる会話について、体験を通じた学習を行う。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
5	患者との会話を練習しよう(1)	模擬患者設定を使って、患者の気持ちを受けとめることを目的にロールプレイを行う。学生同士で互いに協力して、役割を変えながら繰り返し練習する。観察役がフィードバックし、よりよいコミュニケーションになるよう練習する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
6	患者との会話を練習しよう(2)	前回の続きを行う。会話を通して、患者のこぼれに耳を傾け、その気持ちを受けとめる関わりが、「共感」につながり、看護の重要なスキルであることを体験的に理解する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
7	現場での学び、チーム医療の人間関係	現場で学ぶことについて、視聴覚教材を用いて、実習に必要なマナーについて考える。また、チーム医療で互いに尊重し合いながら率直にコミュニケーションする人間関係について学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
8	まとめ	グループに分かれ、看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、達成できたことや今後の課題について話し合い、発表する。	事前課題：特になし。 事後課題：指示したテストの出題範囲について復習しておく。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 看護学概論、各看護学の科目と関連します。特に、各看護学実習で現場で学ぶ際に基本となる科目です。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	仲間とみがかく 看護のコミュニケーション・センス	大森 武子, 矢口 みどり	医歯薬出版株式会社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業の参加度とレポート(60%)、筆記試験(40%)により総合評価する。
学生への メッセージ	対人関係能力は看護実践に必須の基本的能力です。人と話し、「相手の立場にたって考える」姿勢をもつことが看護の基本です。また、どんな会話だったかという「事実」と、そのときの「気持ち・考え」を分けて話し合うことが重要です。コミュニケーションに失敗はありません。また、逆に100%の成功ありません。果敢に挑戦する行動を評価します。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室9(田中)
備考	

科目名	基礎看護技術Ⅰ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 中山 由美, 森木 ゆう子, 岡田 純子, 森嶋 道子

授業概要・目的	看護を实践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を实践するための基本的能力を培う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。技術演習は、毎回、教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示すことにより行う。また、少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅰ、Ⅱの履修にかかわる科目。 基礎看護技術Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	療養環境の調整(1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	療養環境の調整(2)	ベッドメイキングを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	療養環境の調整(3)	ベッドメイキングを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	療養環境の調整(4)	臥床患者のシーツ交換を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	療養環境の調整(5)	臥床患者のシーツ交換を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	体位の整え(1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	体位の整え(2)	臥床患者の体位の整えを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	体位の整え(3)	臥床患者の体位の整えを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	移動・移送の援助(1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	移動・移送の援助(2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	移動・移送の援助(3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	バイタルサインの観察(2)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
16	バイタルサインの観察(3)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
17	衣生活の援助(1)	衣生活の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
18	衣生活の援助(2)	臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
19	食事の援助(1)	食事の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
20	食事の援助(2)	食事の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
21	排泄の援助(1)	排泄の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
22	排泄の援助(2)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
23	排泄の援助(3)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
24	身体の清潔(1)	身体の清潔に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
25	身体の清潔(2)	身体の清潔を実践する：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
26	身体の清潔(3)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
27	身体の清潔(4)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
28	身体の清潔(5)	身体の清潔を実践する：臥床患者の清拭・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
29	身体の清潔(6)	身体の清潔を実践する：臥床患者の清	【事前課題】

		拭・足浴を実践する	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
30	まとめ	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する	【事前課題】 トレーニング課題について指示した準備をしておくこと。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
関連科目	基礎看護技術Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護技術 講義・演習ノート〈上巻〉日常生活援助技術篇	山口瑞穂子	医学芸術社
	2	基礎看護技術	阿曾洋子	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況（レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など）により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 40%、授業への参加状況 20%			
学生への メッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に身につけて下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1（森木）、研究室2（中山）、助教室1（岡田、森嶋）			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	基礎看護技術Ⅰ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 中山 由美, 森木 ゆう子, 岡田 純子, 森嶋 道子

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。技術演習は、毎回、教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示すことにより行う。また、少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅰ、Ⅱの履修にかかわる科目。 基礎看護技術Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	療養環境の調整(1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	療養環境の調整(2)	ベッドメイキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	療養環境の調整(3)	ベッドメイキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	療養環境の調整(4)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	療養環境の調整(5)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	体位の整え(1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	体位の整え(2)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	体位の整え(3)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	移動・移送の援助(1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	移動・移送の援助(2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	移動・移送の援助(3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	バイタルサインの観察(2)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
16	バイタルサインの観察(3)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
17	衣生活の援助(1)	衣生活の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
18	衣生活の援助(2)	臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
19	食事の援助(1)	食事の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
20	食事の援助(2)	食事の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
21	排泄の援助(1)	排泄の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
22	排泄の援助(2)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
23	排泄の援助(3)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
24	身体の清潔(1)	身体の清潔に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
25	身体の清潔(2)	身体の清潔を実践する：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
26	身体の清潔(3)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
27	身体の清潔(4)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
28	身体の清潔(5)	身体の清潔を実践する：臥床患者の清拭・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
29	身体の清潔(6)	身体の清潔を実践する：臥床患者の清	【事前課題】

		拭・足浴を実践する	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
30	まとめ	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する	【事前課題】 トレーニング課題について指示した準備をしておくこと。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
関連科目	基礎看護技術Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護技術 講義・演習ノート〈上巻〉日常生活援助技術篇	山口瑞穂子	医学芸術社
	2	基礎看護技術	阿曾洋子	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況（レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など）により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 40%、授業への参加状況 20%			
学生への メッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に身につけて下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1（森木）、研究室2（中山）、助教室1（岡田、森嶋）			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	基礎看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	竹中 泉, 中山 由美, 森木 ゆう子, 佐久間 夕美子, 岡田 純子, 森嶋 道子, 青野 美里

授業概要・目的	看護学概論等の既習内容を踏まえ、保健医療の現場における看護の対象である人とその生活・健康状態、それらを取り巻く環境のあり方、看護職者やチーム専門職者の役割を体験的に学び、看護の役割や機能について理解を深め、今後の看護を学ぶ動機とする。 [実習目的] 看護の対象となる人とその人を取り巻く環境を理解する。また、実習による体験を通して、看護の目的と役割、看護の機能する場および看護活動に関する知識を深める。																
到達目標	1) 看護の対象となる人の療養生活を支える環境のあり方を理解する。 2) 看護の対象となる人とその健康状態、生活や思いを理解し、看護職者およびその他の専門職者による援助の実際を知る。 3) 看護の目的、看護が果たす役割や機能する場、看護のあり方について自己の考えをまとめ、今後の看護を学習する上での課題を見出すことができる。 4) 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。																
授業方法と留意点	原則として実習病棟への学生配置は1グループ4～6人編成とし、各グループは教員の指導を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 実習時期 9月上旬 2. 事前学内オリエンテーション ○実習前に、実習目的・目標、実習計画、事前学習、留意事項等の説明を受ける。 ○実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 3. 病院実習 ○臨床講義：看護部長より病院の概要および看護職者の役割についての講義を受ける。 ○病院内見学：病院環境の見学を行い、各部署の機能について説明を受ける。 ○病棟実習：看護場面を見学する。 4. 学内実習 ○実習を通して学んだことを討議し、発表する。																
関連科目	看護学概論、対人関係論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録を総合して評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	実習病院 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属枚方病院																

科目名	成人看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Adult Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	白田 久美子, 神戸 美輪子

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家族や職場・地域社会で様々な役割をもつ成人期の対象の健康及び健康の危機状況や急性期症状を呈する健康問題をもつ成人期の対象の理解と看護、及び慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と看護について学習する。また成人看護に有用な主要概念・理論について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成長発達と特徴について説明できる。 2. 成人保健の動向について統計的な視点から説明できる。 3. 急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護について説明できる 4. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 5. 成人看護に有用な主要概念・理論について説明できる。 6. リハビリテーションを必要とする対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 7. がんと共に生きる患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 8. ターミナル期にある患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 9. 成人期の特徴をとらえた統合的なアセスメント・看護過程の展開について説明できる。
授業方法と留意点	成人期にある自分を理解する。そして授業計画に沿った講義を通して、ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴を理解する。成人の特徴を踏まえた急性期看護および慢性期看護を学習する。教科書による予習・復習を課し、教科書の内容を活用して学習する。また臨床事例や視聴覚教材を活用して、主要概念や看護理論の知識を深め、実践に活用できるようなみかた・考え方を学習する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験の試験科目「成人看護学」の内容を修得するための授業科目の一つである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ライフサイクルからみた成人期の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の区分 ・成人期の特徴 ・成人発達段階の理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第1章「成人看護学の概念と構成」、第2章「成人看護学の特性」2～4を読んでおくこと、授業後は学んだ内容の復習すること。以下の授業でも同様に復習を課す。
2	成人期の生活と健康、成人保健の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の生活状況の特徴 ・成人期の健康指標から健康問題をみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第3章「保健・医療・福祉における動向と課題」、第5章「健康レベルにおける枠組み」1～2、第2章「成人看護学特性」1を読んでおくこと。
3	保健・医療・福祉の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・変化する保健・医療・福祉のニーズと制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第3章「保健・医療・福祉における動向と課題」を読んでおくこと。
4	急性期看護の基礎となる理論	<ul style="list-style-type: none"> ・危機状態に対する看護の基盤となる理論・モデル 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第6章「成人看護に使用される理論・モデル3」を読んでおくこと。
5	急性期にある対象の特徴と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期の健康の急激な破綻、急激な健康破綻をきたした対象の理解と看護 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第5章「健康レベルにおける枠組み」3を読んでおくこと。
6	周手術期における対象の特徴と看護(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・周手術期の概念 ・周手術期(術前・術中・術後)看護の特徴 	<ul style="list-style-type: none"> 参考書の「周手術期看護論」に目を通しておく。
7	周手術期における対象の特徴と看護(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・周手術期(術前・術中・術後)看護の特徴 ・周手術期のチーム医療 	<ul style="list-style-type: none"> 参考書の「周手術期看護論」に目を通しておく。
8	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント、アセスメントの統合、看護展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第VII章「成人におけるヘルスアセスメント」、第VIII章「看護過程の展開」を読んでおくこと。
9	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患及び治療法の特徴 ・対象の心理・身体・社会的な特徴と看護 ・病の軌跡理論の理解と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第V章3「慢性的な経過をたどる健康障害の患者」、第VI章14「病の軌跡」を読んでおくこと。
10	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の再構築への支援が必要な対象の理解 ・支援が必要となった要因(QOL)とその援助 ・セルフケア理論の理解と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第V章4「健康再構築への支援を必要としている対象」、第VI章5「セルフケア論」を読んでおくこと。
11	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンドラゴジ理論の理解と活用 ・自己効力理論理解と活用、患者支援教育の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第VI章10「アンドラゴジ」、6「自己効力理論」を読んでおくこと。
12	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・アドヒアランス理論、エンパワーメント理論、適応理論、それぞれの理解と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第VI章13「アドヒアランス」、8「エンパワーメント」、7「適応理論」を読んでおくこと。 ・授業後に関病記の感想文をレポートとして課す。
13	リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの概念の理解、リハビリテーションを必要とする対象の理解(障害受容)と看護の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第V章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと。
14	がんと共に生きる患者の理解と特徴的な看護	<ul style="list-style-type: none"> ・がんと共に生きる対象の理解(全人的苦痛をもつ患者の理解)と特徴的な看護 ・がん医療における緩和ケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に参考書の「がん看護」の「がん患者の特徴」の項に目を通しておく。
15	ターミナル期の患者の理解と特徴的な看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナル期の定義 ・ターミナル期にある対象の特徴(心理過程の理解)と必要な援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第V章5「ターミナル期の援助を必要としている対象」を読んでおくこと。

関連科目													
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学概論(第2版)</td> <td>大西和子、岡部聡子編</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学概論(第2版)	大西和子、岡部聡子編	ヌーベルヒロカワ	2			
番号	書籍名	著者名	出版社名										
1	成人看護学概論(第2版)	大西和子、岡部聡子編	ヌーベルヒロカワ										
2													

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2015/2016 (厚生 の 指標)		
	2	周手術期看護論 (第3版)	雄西智恵美、秋元典子	ヌーベルヒロカワ
	3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ
評価方法 (基準)	定期試験及びレポート課題を総合して総括的評価をする。尚レポート課題は授業中に説明する。 定期試験(90%)、レポート(10%)			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では広範な内容を網羅し、かつ聞き慣れない専門用語が多いため、予習・復習を欠かさず行いましょう。 ・成人看護学の基礎となる内容で広範囲にわたる講義を行うので、遅刻・欠席をせず、時間を有効に活用しましょう。 ・対象の理解を深め適切な援助を展開していくためにも、闘病記を読み、また身近な人の体験談を聞くなど試みてみましょう。 			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室22 (白田)			
備考				

科目名	老年看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 千登勢

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とQOLを高めるための理論と看護の役割を学ぶ。具体的には、統計データを通して高齢者の現状と特徴を学び、加齢現象の変化と生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族をとりまく社会制度について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 加齢現象について身体・心理・社会的変化について理解できる。 高齢化社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者看護に必要な医療・福祉・看護の制度・施策について理解できる。 様々な場での高齢者看護の特徴を理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。必要に応じてプリントを配布しますが、プリントの内容も重要事項となります。 普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験の科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	老年看護の概念	老年看護とは 老年看護学の理念と目標、概念、活用できる理論について学びます。	老年看護を学ぶにあたり、基本的なことを講義します。 テキストを予習して、概要をとらえておいてください。 今後の講義や実習の根幹になりますので、しっかり復習すること。
	2	高齢者を取り巻く社会の理解	統計データから高齢者を取り巻く社会状況に関して学習します。	厚生労働白書などの統計データを事前に準備・学習し、グループワーク内容をまとめてください。
	3	加齢現象の理解(1)	老年期にある人の身体的加齢変化について学習します。	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
	4	加齢現象の理解(2)	老年期にある人の心理的・社会的変化について学習します。	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
	5	加齢現象の理解(3)	老年期にある人の認知機能の変化、アセスメントツールについて学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
	6	高齢者をとりまく社会制度	高齢者にかかわる医療・介護・福祉の制度と施策について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
	7	高齢者への様々な場における看護活動	高齢者看護を実践する場として、病院・施設・在宅における高齢者看護の特徴について学びます。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
	8	老年看護における倫理的課題	高齢者の意思決定、エンドオブライフケア・高齢者虐待など倫理的課題について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、 看護関係法規
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座：老年看護学	北川公子	医学書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学概論	正木治恵、真田弘美	南江堂
	2	最新老年看護学	水谷信子、水野敏子他	日本看護協会出版会
	3			

評価方法(基準)	定期試験(80%)、レポート(20%) 試験は客観的問題と論述問題を合わせて出題します。 レポートは、提出されたレポートを評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	予習、復習はもちろんのことですが、できるだけ高齢者と関わる機会を増やして、高齢者を理解してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	
----	--

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松田 千登勢, 金原 京子, 小川 宣子, 吉井 輝子, 田中 真佐恵

授業概要・目的	<p>【概要】 介護保険サービスを利用しながら地域で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とのかかわりを通して、高齢者の理解を深めるとともに高齢者観を培う。</p> <p>【実習目的】 地域で暮らす高齢者とのかかわりを通して、高齢者の身体的・心理的・社会的変化や特徴を理解する。</p>																
到達目標	<p>1. 高齢者の身体的特徴を理解する。 2. 地域で暮らす高齢者の「思い」を知る。 3. 高齢者の地域での生活状況を知る。</p>																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>月曜日 学内：オリエンテーション 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学概論 老年看護学実習 II																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ「看護学概論」「コミュニケーション論」「看護対人関係論」で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	看護対人関係論	科目名(英文)	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華

授業概要・目的	看護の場における対人関係についての基本的概念・技法の理解と修得を目指す。患者-看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、基本的技法としての言語的・非言語的コミュニケーション、治療的コミュニケーションと非治療的コミュニケーションを学び、看護場面のロールプレイ等を用いた学生同士の体験的学習を通して修得する。また、授業全体を通じて、自分自身を振り返るリフレクション、自分と相手を共に尊重するアサーティブな人間関係のあり方について学ぶ。
到達目標	1. 患者-看護師間、医療チーム間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 2. コミュニケーションの際に必要な基本的技法について説明できる。 3. 看護場面のロールプレイを、コミュニケーションの基本的技法を用いて学生同士で行うことができる。 4. ロールプレイを通して、自分自身と他者のコミュニケーションの振り返りを行うことができる。
授業方法と留意点	講義で理論を説明し、その中で重要なコミュニケーション技法については小グループを編成し演習を行う。グループで協力して学ぶことが必要である。「知っている」と「できる」とは違う。「できる」ようになるよう、積極的に参加する態度が必要である。そして、この授業で学んださまざまなコミュニケーションの技術を、日常生活の中で練習することが欠かせない。授業では、名札をつけて出席すること。またテキストを毎回持参すること。
科目学習の効果(資格)	1年生後期の基礎看護学実習Ⅰでの実践にむけて、看護の対象者やチームのなかで適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる力を付けます。また、全ての実習科目を行う上で、この科目での学びが重要です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護の場における対人関係とは	授業ガイダンスを行うとともに、看護の場における対人関係について概要を説明する。また、対人関係を振り返るためのリフレクションについて解説する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
2	患者-看護師関係のコミュニケーションの特徴、「聴くこと」と「話すこと」	患者と看護師の間で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について事例を用いながら学ぶ。また、「聴くこと」・「話すこと」について演習し、考えを深める。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
3	相手に伝わるように話す(1)	会話は話のキャッチボールを行うものであり、相手が受け取っていないければ何も伝わらない。会話分析と演習を通して、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、および相手に伝わるように話すためのポイントをつかむ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
4	相手に伝わるように話す(2)	自分と異なる世代、立場の人と適切に会話をするために、敬語による表現について演習する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
5	相手の気持ちを受けとめる	相手の気持ちをうけとめることによって、相手の心を開き、望ましい関係を築くことができる。会話事例を分析し、相手の気持ちを受けとめるためのポイントをつかむ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
6	自分から出る、自分を出す	自分の主張を伝え、相手に適切に働きかけるためのアサーティブネスを学ぶ。会話事例の分析を行い、会話を組み立ててロールプレイを行う。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
7	看護の現場で学ぶ	看護の現場では、学生もチームの一員である。チーム内で成果を挙げるための、態度、マナーや表現方法について学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
8	まとめ	グループに分かれ、看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、達成できたことや今後の課題について話し合い、発表する。	事前課題：特になし。 事後課題：指示したテストの出題範囲について復習しておく。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 カウンセリング論、臨床心理学、基礎看護学の各科目と関連する。内容は、実習や現場で直接役立つ技術となる。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	仲間とみがかく 看護のコミュニケーション・センス	大森 武子, 矢口 みどり	医歯薬出版株式会社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業の参加度とレポート(60%)、筆記試験(40%)により総合評価する。
学生への メッセージ	対人関係能力は看護実践に必須の基本的能力です。患者-看護師間はもちろん、医療チームの中で適切にコミュニケーションをおこなっていくことが欠かせません。講義とロールプレイなどを通じた体験に自分から進んで参加し、コミュニケーションスキルを高めましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室9(田中)
備考	

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中山 由美, 森木 ゆう子, 佐久間 夕美子, 岡田 純子, 森嶋 道子

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。対象者の立場に立ち、正確で安全な援助を提供できるように、根拠を踏まえた技術を修得する。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについて技術を修得する。
到達目標	診療に伴う看護技術について、手技の1つ1つの根拠を理解し、実施することができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習する。 最新の情報を提供するため、適宜、資料を配布し説明する。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等を使用する。 毎回、教員によるデモンストレーションを実施する。教員が少人数制のグループを担当し、注射等の技術実践時には、安全をはかりながら個別指導を行う。また患者役を体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護とはどのようなものか、また関連法規からも理解をする。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
11	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
12	技術トレーニング/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
16	技術トレーニング/実技	学習した注射関連の技術トレーニングを	【事前課題】

	技到達度チェック	行い、技術の到達度を確認する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
18	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
19	創傷の看護／リラクゼーション	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。また看護技術としてのリラクゼーションについて、意義と基礎的な方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン浣腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
21	無菌操作 (2)	滅菌物の取り扱い、および滅菌手袋の装着等を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
22	創傷管理	ガーゼやドレッシング材を使用した創傷処置と包帯法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
23	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
24	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
25	栄養障害の看護 (栄養/浣腸)	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
26	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
27	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
28	体温維持の看護および温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
29	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対しての援助をグループで検討する。	【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。																
30	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対しての援助をグループで検討する。	【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。																
関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ</td> <td>深井喜代子 (編)</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ</td> <td>深井喜代子 (編)</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社																
2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎看護技術</td> <td>阿曾洋子他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、およびレポートと授業参加度や授業態度により評価する。 筆記試験 (60%)、技術到達度チェック (10%)、課題レポート (10%)、授業参加度および授業態度 (20%)																		
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全な演習を実施していくためにも気を引き締めて演習を行っていきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2 (中山)、研究室1 (森木)、研究室4 (佐久間)、助教室1 (岡田、森嶋)																		
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示する。																		

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中山 由美, 森木 ゆう子, 佐久間 夕美子, 岡田 純子, 森嶋 道子

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。対象者の立場に立ち、正確で安全な援助を提供できるように、根拠を踏まえた技術を修得する。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについて技術を修得する。
到達目標	診療に伴う看護技術について、手技の1つ1つの根拠を理解し、実施することができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習する。 最新の情報を提供するため、適宜、資料を配布し説明する。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等を使用する。 毎回、教員によるデモンストレーションを実施する。教員が少人数制のグループを担当し、注射等の技術実践時には、安全をはかりながら個別指導を行う。また患者役を体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護とはどのようなものか、また関連法規からも理解をする。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
11	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
12	技術トレーニング/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
16	技術トレーニング/実技	学習した注射関連の技術トレーニングを	【事前課題】

	技到達度チェック	行い、技術の到達度を確認する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
18	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
19	創傷の看護／リラクゼーション	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。また看護技術としてのリラクゼーションについて、意義と基礎的な方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン浣腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
21	無菌操作 (2)	滅菌物の取り扱い、および滅菌手袋の装着等を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
22	創傷管理	ガーゼやドレッシング材を使用した創傷処置と包帯法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
23	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
24	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
25	栄養障害の看護 (栄養/浣腸)	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
26	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
27	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
28	体温維持の看護および温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
29	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対しての援助をグループで検討する。	【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。																
30	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対しての援助をグループで検討する。	【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。																
関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ</td> <td>深井喜代子 (編)</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ</td> <td>深井喜代子 (編)</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社																
2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎看護技術</td> <td>阿曾洋子他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、およびレポートと授業参加度や授業態度により評価する。 筆記試験 (60%)、技術到達度チェック (10%)、課題レポート (10%)、授業参加度および授業態度 (20%)																		
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全な演習を実施していくためにも気を引き締めて演習を行っていきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2 (中山)、研究室1 (森木)、研究室4 (佐久間)、助教室1 (岡田、森嶋)																		
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示する。																		

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森木 ゆう子, 中山 由美, 佐久間 夕美子, 岡田 純子, 森嶋 道子

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を適宜追加する。技術演習は少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方に 関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術に関する理論を学び、実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	消化器系のフィジカルアセスメント(2)	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(1)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(2)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント(1)	脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント(2)	脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	フィジカルアセスメントトレーニング	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

関連科目	基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	成人看護学 ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめてのフィジカルアセスメント	横山美樹	メヂカルフレンド社
	2	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版
	3	ベイツ診察法	Lynn S. Bickley	メディカル・サイエンス・インターナショナル
評価方法 (基準)	筆記試験、実技課題、授業への参加状況（レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など）により評価する。 筆記試験 60%、実技課題 20%、授業への参加状況 20%			
学生への メッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また授業後は、視聴覚教材等を活用し、積極的に自己学習をしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1（森木）、研究室2（中山）、助教室1（岡田、森嶋）			
備考				

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森木 ゆう子, 中山 由美, 佐久間 夕美子, 岡田 純子, 森嶋 道子

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を適宜追加する。技術演習は少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			【事前課題】	【事後課題】
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方に 関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術に関する理論を学び、実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	消化器系のフィジカルアセスメント(2)	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(1)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(2)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント(1)	脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント(2)	脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	フィジカルアセスメントトレーニング	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

関連科目	基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	成人看護学 ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめてのフィジカルアセスメント	横山美樹	メヂカルフレンド社
	2	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版
	3	ベイツ診察法	Lynn S. Bickley	メディカル・サイエンス・インターナショナル
評価方法 (基準)	筆記試験、実技課題、授業への参加状況（レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など）により評価する。 筆記試験 60%、実技課題 20%、授業への参加状況 20%			
学生への メッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また授業後は、視聴覚教材等を活用し、積極的に自己学習をしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1（森木）、研究室2（中山）、助教室1（岡田、森嶋）			
備考				

科目名	基礎看護技術Ⅳ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中山 由美, 森木 ゆう子, 佐久間 夕美子, 岡田 純子, 森嶋 道子

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。
到達目標	授業および演習を通して、看護過程の展開方法を理解できる。 具体的には、事例を活用し、情報整理、情報の分析、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、評価方法、看護実践時の記録の記載方法および振り返り方法などを理解できるようになる。
授業方法と留意点	教科書を基本とし、適宜、配布資料を用い説明する。また看護過程の展開方法をイメージできるように視聴覚教材やパワーポイントを使用する。看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱおよび看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護過程の展開(1)	看護理論と看護過程の展開について、またヘンダーソンの理論と14の基本的ニーズなどについて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
2	看護過程の展開(2)	事例を通して、情報の分類やアセスメント方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3	看護過程の展開(3)	事例を通して、情報の分類やアセスメント方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4	看護過程の展開(4)	事例の全体像の把握、看護問題、看護目標の立案について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5	看護過程の展開(5)	事例を通して、看護計画の立案について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6	看護過程の演習(1)	グループワークにて、事例の情報分類を行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
7	看護過程の演習(2)	グループワークにて、事例の情報についてアセスメントを行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
8	看護過程の演習(3)	グループワークにて、事例の情報についてアセスメントを行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
9	看護過程の演習(4)	グループワークにて、事例の看護問題の抽出、関連図の検討を行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
10	看護過程の演習(5)	グループワークにて、事例の看護問題の抽出、関連図、看護目標の検討を行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
11	看護過程の演習(6)	グループワークにて、事例の看護計画を検討する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
12	看護過程の演習(7)	グループワークにて、事例の看護計画を立案する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
13	看護過程の演習(8)	グループワークにて行った看護過程の展開内容を発表する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
14	看護過程の展開(6)	看護問題、看護目標、看護計画、看護実践内容などの評価方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
15	看護過程の展開(7)	ケアの実践方法、患者の反応を記録に記載し、考察する方法が理解できる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。

関連科目	基礎看護技術Ⅲおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践看護アセスメント	渡辺トシ子	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポートおよびグループワークでの課題達成状況や授業参加度、授業態度などで評価する。 グループワークでの課題達成状況や参加度等 50%、レポート等 40%、小テスト 10%			
学生への メッセージ	基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。課題を達成していけるように自己学習をしっかり行っていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室2(中山)、研究室1(森木)、研究室4(佐久間)、助教室1(岡田、森嶋)			
備考	授業で行った内容については、小テストを行うので、その都度、配布資料と教科書を読み直すこと。 グループワーク時の課題については、適宜、指示をしますので次回期日までに行ってくること。			

科目名	看護管理学	科目名(英文)	Nursing Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 泉、後閑 容子

授業概要・目的	<p>看護管理者として、組織・人材、社会・行政、情報、予算、安全などに関する基本的な学習をして、質の良い看護を効率的にかつ効果的に提供し、医療の向上のため、看護管理としてのあり方を学ぶ。具体的には、医療チームの一員として多職種との連携と看護職の専門性、看護職としてのキャリア形成、自身の健康管理などを学ぶ。さらに、最近の話題として、看護管理からみた看護職の倫理、医療安全のあり方をリスクマネジメントへの組織やチームおよび個人としての取り組みと基本的な対策に関して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>第1～3回/後閑 容子</p> <p>第4回 / 伊藤 恵子</p> <p>第5～8回/竹中 泉</p>
---------	---

到達目標	(授業概要・目的と同じ)
------	--------------

授業方法と留意点	適切な看護を提供するために個々の看護職者が果たす役割について、講義や少人数でのグループ討議を行い学びを深める。臨地実習での体験を看護管理の視点から学び直し発表する機会も設定する。
----------	---

科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。看護管理はどのような場においても、対象を中心に看護サービスを提供するために必要な学修である。より良い看護の提供を創造できる看護職になるために自律的な成長への課題を見出すことができる。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	看護管理の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・組織とマネジメント ・看護管理の対象とその実践範囲 	<p>事前課題：統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく。</p> <p>事後課題：看護管理の概要について講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。</p>
	2	保健医療福祉職との連携と看護職の専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・看護に関する法律 ・看護と行政組織 ・看護と専門機関・職能団体 ・最近の保健医療福祉政策の動向 	<p>事前学習：最近の保健医療福祉行政の情報収集をしておく。</p> <p>事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み、看護関係法規の学習内容と併せて学びを整理する。</p>
	3	情報と倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・医療における情報管理 ・患者の権利擁護と看護倫理 	<p>事前学習：看護が扱う情報についてどのようなものがあるか考えてみる。</p> <p>事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み情報管理のために心がけることを整理する。</p>
	4	病院、施設における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理のスキル ・組織の理解 ・経営 	<p>事前学習：臨地実習で学修した看護管理について振り返っておく。</p> <p>事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み実習での学びの根拠を整理する。</p>
	5	看護職としてのキャリア形成	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職と生涯教育 	<p>事前学習：これまでの学修した経験より自己のキャリア形成について振り返ってみる。</p> <p>事後学習：自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。</p>
	6	医療安全と看護の責務	<ul style="list-style-type: none"> ・看護業務の法的な規定 ・看護職能団体の取組み 	<p>事前課題：看護関係法規で学んだ内容を復習しておく。</p> <p>事後課題：臨地実習で学んだことと併せて看護の責務について自己の考えを整理する。</p>
	7	看護における安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・看護業務と事故発生要因 ・医療事故の種類と安全対策 	<p>事前学習：看護職が関係した医療事故について調べてみる。</p> <p>事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要な安全対策について考え整理する。</p>
	8	組織的な安全管理対策	<ul style="list-style-type: none"> ・組織としての取り組み ・事故原因の分析と対策の検討、実施 ・安全文化の醸成 	<p>事前学習：医療現場での安全対策についてどのような取り組みがされているか調べておく。</p> <p>事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み安全文化の醸成に不可欠なことは何か考え整理する。</p>
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

関連科目	保健医療福祉行政論、看護関係法規、看護学概論、各領域の看護学概論、看護倫理、実習科目全般、キャリアデザイン
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナソグ・ケフイカ 看護の統合と実践(1)看護管理 第3版	村島さい子他	メディカ出版
	2	ナソグ・ケフイカ 看護の統合と実践(2)医療安全 第2版	松下由美子他	メディカ出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜提示する		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。 定期試験 60%、課題・グループワーク 40%			
学生への メッセージ	看護管理は管理者だけが行うものではない。チームの一員として一人一人が自分の果たす役割を認識したうえで、リーダーシップを発揮できるように取り組むこと。主体的に参加し、自己の考えを述べ、ディスカッションにより多様な考えを受止め、視野を広げられることを期待する。			
担当者の 研究室等 備考	7号館・3階 研究室8 (後閑) 研究室25 (竹中)			

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	竹中 泉, 中山 由美, 森木 ゆう子, 佐久間 夕美子, 岡田 純子, 森嶋 道子

授業概要・目的	<p>[概要]</p> <p>医療の場で療養生活を送る対象者を受け持ち、看護過程を日常生活上のニーズに焦点をあてて実践する。既習の知識・技術を統合して、臨床における看護実践の基礎的能力を培う。看護過程は段階的に行い、対象者と人間関係を形成し、情報収集を行い分析し、看護問題を抽出する。対象者に即した援助の必要性を検討し、看護計画を立案・実施する。また看護過程の評価の方法を理解する。これらの実践過程を通して、自己の看護観について考えを深める。</p> <p>[実習目的]</p> <p>看護の対象となる人を総合的に理解し、対象者の日常生活の援助に焦点をあて、看護過程を段階的に展開できる基礎的能力を培う。また、看護職者に必要な態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者と対人関係を築きながら発達段階、健康状態、日常生活に焦点を当てて情報を収集することができる。 2. 収集した情報を整理・分析し、看護の対象として対象者の全体像を把握することができる。 3. 対象者の全体像から、日常生活援助の必要性を導き出し、看護上の問題を明確化することができる。 4. 看護上の問題に対する目標を設定し、目標達成に必要な看護計画を立案することができる。 5. 立案した看護計画を指導のもと、実施することができる。 6. 看護問題、看護目標、看護計画および実施した看護について、評価、修正する方法を理解することができる。 7. 実習を通して得た学びを振り返り、看護に対する自らの考えを明らかにすることができる。 8. 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法と留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習グループは、1グループ5～6名編成とし、担当教員の指導を受ける。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行う。 5. 実習にあたり、実習病院・病棟から、病棟の機能や看護職の役割について、オリエンテーションを受ける。 6. 原則として、入院中の患者を1名受け持ち、対象者に適した看護過程の展開を段階的に行う。 7. 病棟実習では毎日、学生主体のカンファレンスを行う。 8. カンファレンスでは、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 9. 実習記録は、毎日必ず記録し、担当教員および臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 10. 各自の実習における学びを各グループで検討してまとめ、互いに発表を行って共有する。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 実習前にオリエンテーションを受け、実習に必要な知識・技術の復習を行う。 2. 病院実習：2月に、以下の内容で2週間の実習を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の紹介をうけ、人間関係を形成する。 2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活を把握するために必要な情報を、インタビューや記録、フィジカルイグザミネーション、および看護の場面への参加を通して収集する。 3) 収集した情報を整理して分析し、対象者の全体像を把握する。 4) 全体像から日常生活援助の必要性を導きだし、看護上の問題を明確化する。 5) 得られた問題に対する目標を適切に設定する。 6) 目標を達成するための計画を立案する。 7) 計画を実施するために必要な看護技術について、対象者に応じた方法を検討する。 8) 立案した計画を、指導の下で実施する。 9) 看護および実施した看護について、指導教員の指導のもと、評価・修正する。 10) 最終的に実習全体を通じた学びを振り返り、看護に対する自らの考えを述べる。 11) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術を復習して実習の準備をする。 12) 実習を行う上で必要な情報を積極的に求め、グループメンバーと共有し連携する。 13) 臨地実習指導者・指導教員からの助言を適切にうけとめ、積極的に実習に生かす。 14) 実施内容については臨地実習指導者・指導教員の指導を得てから行う。 15) 観察・実施内容については、臨地実習指導者・指導教員に適切に報告を行う。 16) 対象者の権利を尊重し、プライバシーの保護を行う。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書・なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書・なし			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教科書・なし																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>参考書・必要に応じて適宜紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	参考書・必要に応じて適宜紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	参考書・必要に応じて適宜紹介する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録、実習態度)を総合して評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>[実習場所]</p> <p>星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属枚方病院</p>																

科目名	成人看護学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	神戸 美輪子

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家族や職場・地域社会で様々な役割をもつ成人期の対象の健康及び健康の危機的状況や急性症状を呈する人の健康問題の特徴を理解し、急性的な健康問題のある成人を支援する看護について学習する。また、危機的状態や急性期における看護援助に有用と考える理論や概念について理解を深める。
到達目標	【到達目標】 1. ライフサイクルにおける成長発達と特徴について説明できる。 2. 生活者としての対象の特徴と健康段階について説明できる。 3. 成人保健の動向について統計的な視点から説明できる。 4. 保健・医療・福祉の連携の重要性について説明できる。 5. 危機的状態やストレスの高い状態の対象への看護援助の基礎となる理論について説明できる。 6. 急激な健康破綻を生じた対象が抱える健康問題の特徴と看護援助について説明できる。 7. 周手術期の概念、周手術期における対象の特徴と看護の役割について説明できる。
授業方法と留意点	まず成人期にある自分を理解する。そして授業計画に沿った講義を通して、ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴とその看護、特に急性期看護をいろいろな視点から幅広く学習する。教科書による予習・復習を課し、教科書の内容を学習するのではなく、教科書の内容を活用して学習する。また、臨床事例や視聴覚教材を活用して、看護の理論などの知識と実践を関連付ける。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験の試験科目「成人看護学」の内容を修得するための授業科目の一つである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ライフサイクルからみた成人期の特徴	・成人期の区分 ・成人期の特徴 ・成人発達段階の理論	・授業前に第 I 章「成人看護学の概念と構成」、第 II 章「成人看護学の特徴」2～4. を読んでおくこと、授業後は学んだ内容の復習をすること。以下の授業でも同様に復習を課す。
2	成人期の生活と健康、成人保健の動向	・成人期の生活状況の特徴 ・成人期の健康指標から健康問題をみる	・授業前に第 III 章「保健・医療・福祉における動向と課題」、第 V 章「健康レベルにおける枠組み」1～2. 第 II 章「成人看護学特性」を読んでおくこと。
3	保健・医療・福祉の連携	・変化する保健・医療・福祉のニーズと制度	・授業前に第 III 章「保健・医療・福祉における動向と課題」を読んでおくこと。
4	急性期看護の基礎となる理論	・危機的状態に対する看護の基盤となる理論・モデル	・授業前に第 VI 章「成人看護に使用される理論・モデル」3. を読んでおくこと。
5	急性期にある対象の特徴と看護	・急性期の健康の急激な破綻、急激な健康破綻をきたした対象の理解と看護	・授業前に第 V 章「健康レベルにおける枠組み」3. を読んでおくこと。
6	周手術期における対象の特徴と看護(1)	・周手術期の概念 ・周手術期(術前・術中・術後)看護の特徴	・参考書の「周手術期看護論」に目を通しておく。
7	周手術期における対象の特徴と看護(2)	・周手術期(術前・術中・術後)看護の特徴 ・周手術期のチーム医療	・参考書の「周手術期看護論」に目を通しておく。
8	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	・成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント、アセスメントの統合、看護過程の展開	・授業前に通う箇所第 VII 「成人におけるヘルスアセスメント」、第 VIII 章「看護過程の展開」を読んでおくこと
9	-	-	-
10	-	-	-
11	-	-	-
12	-	-	-
13	-	-	-
14	-	-	-
15	-	-	-

関連科目 1 年次前期履修科目のうち、人体の構造と機能 I、人体の構造と機能 II、看護学概論。
1 年次後期履修の同期進行する科目のうち、人体の構造と機能 III、人体の構造と機能 IV、病理学総論、疾病・治療論 I、成人看護学概論 II、地域看護学。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	成人看護学概論(第 2 版)	大西和子、岡部聡子 編	ヌーヴェルヒロカワ(2,200 円 + 税)
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2014/2015 年版(厚生省の指標・増刊)		厚生労働統計協会(2,315 円 + 税)
2	周手術期看護論(第 3 版)	雄西智恵美、秋元典子 編	ヌーヴェルヒロカワ(2,400 円 + 税)
3			

評価方法 (基準) 定期試験及びレポートの内容を総合して総括的評価する。なお、レポート課題は授業中に説明する。
定期試験 (90%)、レポート (10%)。

学生へのメッセージ
・これまでの講義で修得した知識と成人看護学が関連し、理解が深められるよう、同期進行の授業科目も含めて関連科目をしっかり学習すること。
・常に問題意識をもち、なぜそうなのかを考え、自分の意見を述べるようにしましょう。
・成人看護学の基礎となる内容で広範囲にわたる授業を行うので、遅刻・欠席をせず、時間を有効に使用すること。

担当者の 研究室等	7号館3階 研究室 神戸
備考	

科目名	成人看護学概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	白田 久美子

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性を踏まえ、家族や職場・地域社会で様々な役割を持つ成人期の対象者の健康及び慢性的な健康問題の特徴を理解し、慢性的な健康問題のある成人を支援する看護について学習する。また、慢性的な健康問題のある成人が、主体的にQOLの高い療養生活を送ることができるよう援助するために有用な理論・概念について理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解および特徴的な看護について説明できる。 2. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の看護に有用な主要概念・理論について説明できる。 3. リハビリテーションを必要とする対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 4. がんと共に生きる患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 5. ターミナル期にある患者の理解及び特徴的な成宜について説明できる。 6. 成人期の特徴をとらえた統合的なアセスメント・看護過程を学び、効果的な実践への活用について説明できる。
授業方法と留意点	ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴とその看護、特に慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と看護を幅広く学習する。臨床事例や視聴覚教材を活用して看護理論の知識を深め、実践に活用できる視点、考え方を学習する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験の試験科目「成人看護学」の内容を修得するための授業科目の一つである。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント ・アセスメントの統合、看護過程	授業前に教科書第Ⅶ章「成人におけるヘルスアセスメント」、第Ⅷ章「看護過程の展開」を読んでおくこと授業後は学んだ内容について復習すること。以下の講義でも同様に復習を課す。
2	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(1)	・慢性疾患及び治療法の特徴 ・対象の心理・身体・社会的特徴と看護 ・病の軌跡理論の理解と活用	授業前に教科書第Ⅴ章3「慢性的な経過をたどる健康障害患者」、第Ⅵ章14「病の軌跡」を読んでおくこと。	
3	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と特徴的な看護(2)	・健康の再構築への支援が必要な対象の理解、支援が必要となった要因(QOL)とその援助 ・セルフケア理論の理解と活用	授業前に教科書第Ⅴ章4「健康再構築への支援を必要としている対象」、第Ⅵ章5「セルフケア論」を読んでおくこと。	
4	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ患者の看護に有用な主要概念・理論(1)	・アンドロゴジ理論の理解と活用 ・自己効力理論の理解と活用 ・患者支援教育の理解	・授業前に第Ⅵ章10「アンドロゴジ」、6「自己効力理論」、を読んでおくこと。	
5	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ患者の看護に有用な主要概念・理論(2)	・アドヒアランス理論、エンパワメント理論、適応理論、それぞれのの理解と活用	・授業前に第Ⅵ章13「アドヒアランス」、8「エンパワメント」、7「適応理論」を読んでおくこと。	
6	リハビリテーションを必要とする対象の理解および特徴的な看護	・リハビリテーションの概念の理解、リハビリテーションを必要とする対象の理解(障害受容)と看護と役割	・授業前に第Ⅴ章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと。 ・授業後、闘病記の感想文をレポートとして課す。	
7	がんと共に生きる患者の理解および特徴的な看護	・がんとともに生きる対象の理解(全人的苦痛をもつ患者の理解)と特徴的な看護 ・がん医療における緩和ケア	・授業前に参考書の「がん看護」の「がん患者の特徴」の項に目を通しておく。	
8	ターミナル期の患者の理解と特徴的な看護	・ターミナル期の定義 ・ターミナル期にある対象の特徴(心理過程の理解)と必要な援助	・授業前に第Ⅴ章5「ターミナル期の援助を必要としている対象」を読んでおくこと。	
9	-	-	-	
10	-	-	-	
11	-	-	-	
12	-	-	-	
13	-	-	-	
14	-	-	-	
15	-	-	-	

関連科目	1年次前期履修科目のうち、人体の構造と機能Ⅰ、人体の構造と機能Ⅱ、看護学概論。 1年次後期履修の同期進行する科目のうち、人体の構造と機能Ⅲ、人体の構造と機能Ⅳ、病理学総論、疾病・治療論Ⅰ、成人看護学概論Ⅰ、地域看護学。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学概論(成人看護学概論Ⅰと同じ教科書)	大西和子、岡部聡子編	ヌーベルヒロカワ(2,200円+税)
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	がん看護	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ(3,000円+税)
2	がん看護 ビジュアルナースィング	濱口恵子、花出正美	学研メディカル秀潤社(4,200+税)	
3				

評価方法(基準)	定期試験及びレポートの内容を総合して評価する。なお、レポート課題は授業中に説明する。 定期試験(90%) レポート(10%)、
学生へのメッセージ	講義では広範な内容を網羅し、かつ聞き慣れない専門用語も多いため、予習・復習は欠かせず行いましょう。慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解を深め適切な援助を展開していくためにも、闘病記を読み、身近な人の体験談を聞くなど試みてみましょう。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室22(白田)

科目名	成人看護学援助論 I	科目名 (英文)	Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹下 裕子, 神戸 美輪子, 吉川 有葵

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象や、手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。 麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。 手術によって、形態変化や機能障害をもたらされた対象とその家族の適応および新たなセルフケア能力獲得を促すための看護援助について理解できる。 手術を受ける対象とその家族が、周手術期および退院後も、QOLのより高い生活を獲得できるよう、チーム医療のもとで行う看護援助について理解できる。 手術を受ける対象とその家族の看護問題を解決するために、主体的な学習態度で取り組むことができる。
授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って講義を中心に授業を行う。事前学習として、教科書の該当範囲を読んでおくこと。事後課題として、授業内容を出題範囲とした過去の看護師国家試験問題を解いてくること（講義後に配布する）。なお、課題は提出を求めないが、事後課題（国家試験問題）は定期試験の試験範囲に含める。</p>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習（成人看護学実習 I）において、看護援助を実践するための基盤となる。 看護師国家試験の出題範囲である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	救急医療を必要とする対象の看護援助①	救急医療における看護	事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
2	救急医療を必要とする対象の看護援助②	救急患者に対するアセスメント、救命救急処置	事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと	
3	周手術期にある対象の特徴と理解①	周手術期にある対象とその家族の特徴と理解、麻酔・手術侵襲に伴う生体反応	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート1理論編を読んでおくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと	
4	周手術期にある対象の特徴と理解②	術後疼痛の特徴と理解、疼痛マネジメント（患者管理鎮痛法：PCAの管理含む）	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート1理論編の「II 3. 術後疼痛の体験」、パートII実践編の「4. 術後の看護」と、教科書「成人看護技術」の「疼痛管理(p.170～p.174)」について読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと	
5	術後合併症予防のための看護援助①	呼吸器合併症（呼吸法、排痰訓練含む）、循環器合併症予防のための看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「V 1. 肺合併症、2. 循環不全」と、教科書「成人看護技術」の「呼吸法、排痰訓練(p.104～p.108)」について読んでおくこと。また、術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと	
6	術後合併症予防のための看護援助②	術後感染、縫合不全（創傷管理・ドレーン管理含む）	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「V 4. 術後感染、5. 縫合不全」と、教科書「成人看護技術」の「ドレーン管理(p.190～p.192)」について読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと	
7	術後合併症予防のための看護援助③	早期離床、日常生活援助	事前課題：教科書「成人看護技術」の「離床の介助(p.207,208)」について読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと	
8	周手術期過程に応じた看護援助①—術前	インフォームド・コンセントの支援、術前オリエンテーション、手術に向けた準備、手術室入室時の看護	前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「1. 診断から手術の決定過程の看護」「2. 術前の看護」を読んでおく。教科書「成人看護技術」の「呼吸機能検査・循環機能検査(p.2～p.14)」、「膈処置・除毛(p.110,111)」について読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと	
9	周手術期過程に応じた看護援助②—術中	手術室環境、麻酔の基礎知識と麻酔導入時～覚醒時の看護	前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「2. 術中の看護」と、「成人看護技術」の「術中の看護技術(p.120～p.154)」を読んでおくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと	
10	周手術期過程に応じた看護援助③—術直後	術直後の全身状態の観察と看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「4. 術後の看護」を読み、術直後のモニタリングのポイント・観察項目とそれぞれの正常（または基準値）についてまとめておくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと	
11	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助①	胃切除術を受ける対象に対する看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「VII 4. 開腹術を受ける人の看護」を読み、胃がんの原因と誘因、症状と発生機序、分類と進行度、術式と各術式の特徴（切除部位、再建方法）などをまとめておくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと	

				おくこと																
	12	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助②	開胸術を受ける対象に対する看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「Ⅶ3. 開胸術を受ける人の看護」を読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと																
	13	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助③	開頭術を受ける対象に対する看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「Ⅶ1. 開頭術を受ける人の看護」を読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと																
	14	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助④	人工股関節置換術を受ける対象に対する看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編のⅦ7. 運動器の手術を受ける人の看護を読み、関節リウマチの原因と誘因、症状と発生機序、分類、術式と各術式の特徴などをまとめておくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと																
	15	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助⑤	腎・泌尿器科手術を受ける対象に対する看護（腰椎麻酔）	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編のp.112～p.115を読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと																
関連科目	成人看護学概論Ⅰ・Ⅱ 成人病態看護論 人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 病理学総論 疾病治療論Ⅰ・Ⅱ 感染と防御																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>周手術期看護論（第3版）</td> <td>雄西智恵美・秋元典子編</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ（目安価格2,592円）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術</td> <td>野島真奈美 他編</td> <td>南江堂（目安価格3,240円）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美・秋元典子編	ヌーヴェルヒロカワ（目安価格2,592円）	2	看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術	野島真奈美 他編	南江堂（目安価格3,240円）	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美・秋元典子編	ヌーヴェルヒロカワ（目安価格2,592円）																	
2	看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術	野島真奈美 他編	南江堂（目安価格3,240円）																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	定期試験（事後課題の国家試験問題を試験範囲に含める） 評価割合：定期試験100%																			
学生へのメッセージ	急性期にある対象に対しては、迅速な対処を必要とされることが多く、看護の展開が速いのが特徴です。習得した知識を個別の対象に適用できるようにするためには、十分な事前・事後学習が不可欠です																			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室30（竹下）																			
備考																				

科目名	成人看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香, 稲垣 美紀, 志戸岡 恵子, 青野 美里

授業概要・目的	<p>【概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々を理解し、対象が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また代表的な慢性病をモデルにして、疾病や症状をコントロールするために必要とされる対象のセルフケア、ストレスコーピング、生活の再構築や適応を促進するための看護の援助方法について学習する。</p> <p>【学習目的】 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」とその家族が、慢性的な健康問題によって受ける心身や生活、QOL、倫理的な影響について説明できる。 2. 代表的な慢性病をモデルにして、対象とその家族の、QOLの維持・向上のために必要なセルフケア、ストレスコーピング、あるいは生活の再構築や適応の促進に向けた看護の援助方法について理解し、また、これに関連する援助技術を習得できる。 3. 代表的な慢性病をモデルにして、対象とその家族が主体的な療養生活を送り、QOLの維持・向上のために必要なチーム医療について理解し、看護の役割について説明できる。 4. 対象とその家族の看護問題の解決に向けて、主体的な学習態度で取り組むことができる。また、看護職者としての価値観、態度、信念を養う。
授業方法と留意点	授業方法は講義を中心とし、演習やグループワークを含める。事前学習と講義をつなげて理解を深め、事後には復習やレポート課題によって知識の確実な習得を目指すとともに自分の考えをまとめる。また、講義の途中で小テストを行い、知識の確認を行う。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	セルフケアを促進するための看護援助1)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護①	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
2	セルフケアを促進するための看護援助2)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護②	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
3	セルフケアを促進するための看護援助3)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護①	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
4	セルフケアを促進するための看護援助4)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護②	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
5	セルフケアを促進するための看護援助5)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護①	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
6	セルフケアを促進するための看護援助6)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護2)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。またレポートを課す。</p>
7	ストレスコーピングを促進するための看護援助1)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護①	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
8	ストレスコーピングを促進するための看護援助2)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護②	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
9	ストレスコーピングを促進するための看護援助3)	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護①	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
10	ストレスコーピングを促進するための看護援助4)	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護②	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
11	ストレスコーピングを促進するための看護援助5)	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護③	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと。</p>

				【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
	12	ストレスコーピングを促進するための看護援助6)	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
	13	生活の再構築や適応を促進するための看護援助1)	膠原病（関節リウマチ）によりライフイベントに影響を受ける患者の理解と看護	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-4を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
	14	生活の再構築や適応を促進するための看護援助2)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護①	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
	15	生活の再構築や適応を促進するための看護援助3)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護②	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。またレポートを課す。																
関連科目	成人看護学概論、成人病態看護論、疾病・治療論Ⅰ～Ⅱ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、病理学総論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 慢性期看護</td> <td>鈴木久美他</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 慢性期看護	鈴木久美他	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学 慢性期看護	鈴木久美他	南江堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>慢性期看護論</td> <td>鈴木志津枝他</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)～(8)、(11)</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	慢性期看護論	鈴木志津枝他	ヌーヴェルヒロカワ	2	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)～(8)、(11)		医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	慢性期看護論	鈴木志津枝他	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)～(8)、(11)		医学書院																	
3																				
評価方法 (基準)	筆記試験(80%)、小テスト(10%)、レポート(10%)の内容を総合して評価する。																			
学生への メッセージ	本科目ではさまざまな慢性の病を持つ対象と家族への看護を学びます。慢性の病をもつ対象への関心を深め、また今後の看護実践につなげるために、積極的に学習してください。																			
担当者の 研究室等	研究室29(森谷)																			
備考																				

科目名	成人病態看護論	科目名(英文)	Adult Nursing in Clinical State
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	稲垣 美紀, 神戸 美輪子, 白田 久美子, 吉川 有葵, 志戸岡 恵子

授業概要・目的	<p>【概要】 様々な症状を呈する成人期の人々に対して、看護を提供するためには、その症状の原因や発生機序、経過、増悪あるいは軽減させる要因について理解する必要がある。本科目では、成人期にある対象の主要な症状を取り上げて、病態とその病態が対象者に及ぼす身体的・心理的・社会的な影響及び的確なアセスメントと看護援助の方法について学習する。</p> <p>【目的】 疾病やそれに伴う治療・処置、または、事故や災害などにより発現あるいは増悪する身体症状について、その体験が成人期の対象やその家族に与える身体的・心理社会的影響をふまえ、アセスメントから看護実践につなげる方法を理解する。なお、疾病については発症から終末までのすべての病期を含む。</p>
---------	---

到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状を発現する病態を理解する 2. 症状をもたらす今後の予測される経過とそれに対する看護方針を理解する 3. 症状の予防、緩和、および、症状に伴う苦痛の軽減、二次障害の予防のための看護実践方法を理解する
------	---

授業方法と留意点	授業方法は講義を中心として、一部は模擬患者（ペーパーペーシェント）を用いて演習を行う。
----------	---

科目学習の効果（資格）	病態や症状に関する看護方法は、看護を实践するうえで不可欠な基礎的能力です。
-------------	---------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	消化に関連する症状 1	「便秘」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
2	消化に関連する症状 2	「悪心・嘔吐」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
3	消化に関連する症状 3	「腹痛」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
4	呼吸・循環に関連する症状 1	「咳嗽・喀痰」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.1 呼吸器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
5	呼吸・循環に関連する症状 2	「呼吸困難」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.1 呼吸器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
6	呼吸・循環に関連する症状 3	「胸痛」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
7	呼吸・循環に関連する症状 4	「浮腫」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.2 循環器 Vol.8 腎・泌尿器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
8	生命の危機的状況に関連する症状 1	「動悸」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
9	生命の危機的状況に関連する症状 2	「ショック」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
10	脳神経機能に関連する症状 1	「意識障害」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.1 脳・神経の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
11	脳神経機能に関連する症状 2	「運動麻痺」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.1 脳・神経の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
12	終末期の特徴的な症状 1	「全身倦怠感」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：成人看護学概論のターミナル期の援助を必要としている対象についての復習	事後：教科書と資料の復習
13	終末期の特徴的な症状 2	「がん性疼痛」の症状をもつ患者の理解と看護	事前：成人看護学概論のターミナル期の援助を必要としている対象についての復習	事後：教科書と資料の復習
14	症状をもつ対象のアセスメント 1	模擬事例を使用したアセスメント 1)	事前：1～13 回の授業の復習	事後：個人課題
15	症状をもつ対象のアセスメント 2	模擬事例を使用したアセスメント 2)	事前：1～13 回の授業の復習	事後：個人課題

関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、IV、疾病・治療論 I、II、病理学総論、成人看護学概論、成人看護援助論 I、II
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポインント 第4版	高木永子監修	学研
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる Vol. 1 消化器	福本陽平 監修	メディックメディカ
2	病気がみえる Vol. 2 循環器	荻原誠久 監修	メディックメディカ	
3	病気がみえる Vol. 2 呼吸器	滝澤 始 監修	メディックメディカ	

評価方法（基準）	定期試験（90%）、レポート課題（10%）により総括評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。原則として演習を欠席した場合の補講は実施しない。
-----------	--

担当者の研究室等	研究室 22（白田）
----------	------------

科目名	成人看護学援助方法	科目名(英文)	Adult Nursing Skills
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	神戸 美輪子・白田 久美子・稲垣 美紀・竹下 裕子・森谷 利香・吉川 有葵・志戸岡 恵子

授業概要・目的	<p>[概要] 成人期にある看護の対象となる人々の健康段階における代表的な健康問題のある事例を取り上げて、看護過程の展開について学習する。また、成人看護学において必要とされる看護技術について、演習を通して修得する。</p> <p>[目的] 成人期にある対象およびその家族のニーズを、健康レベルや生活背景を踏まえてアセスメントしたうえで、根拠に基づいた看護を計画展開できる基礎的能力を養う。また、アセスメントをもとにした模擬患者への看護援助技術の提供や患者役の体験を通して、より適切な看護援助技術の実践に向けた自己の課題に気付くことができる。学内実習の振り返りを通して、看護職者としての倫理観やより質の高い看護実践を展開する応用力を養う。</p>
---------	--

到達目標	<p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象に適切な看護技術を提供するための情報を得る方法を模擬患者への実践を通して考察する。 2. 身体情報の判断に応じた模擬患者への看護技術の実践を通して、自己の判断や技術を評価する。 3. 模擬患者の情報をもとに、根拠に基づいた看護を計画する方法を理解する。 4. 模擬患者への看護援助およびロールプレイを通して、対象への倫理的配慮をふまえた態度を考察する。
------	--

授業方法と留意点	授業方法は模擬患者（ペーパーペーシェントやシミュレーター）を用いたグループでの演習を中心に行う。原則として欠席は認めない。
----------	---

科目学習の効果（資格）	成人看護学実習で実際に活用する援助方法である。
-------------	-------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後課題
1	看護過程 1	事例（ペーパーペーシェント）をもとにグループワークにより看護過程を展開する（情報の整理・解釈・分析）。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。事前課題を完成していない場合、演習への参加を認めない。	事後課題：グループワークの記録を提出する。
2	看護過程 2	第1回 看護過程 1と同様	第1回 看護過程 1と同様	第1回 看護過程 1と同様
3	看護過程 3	事例（ペーパーペーシェント）をもとにグループワークにより看護過程を展開する（関連図の作成、情報の統合、看護問題の明確化、長期目標の設定）。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。事前課題を完成していない場合、演習への参加を認めない。	事後課題：グループワークの記録を提出する。
4	看護過程 4	第3回 看護過程 3と同様	第3回 看護過程 3と同様	第3回 看護過程 3と同様
5	看護過程 5	事例（ペーパーペーシェント）をもとにグループワークにより看護過程を展開する（目標の設定、看護計画の立案）。グループワークの成果を発表する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。事前課題を完成していない場合、演習への参加を認めない。	事後課題：グループワークの記録を提出する。
6	看護過程 6	第5回 看護過程 5と同様	第5回 看護過程 5と同様	第5回 看護過程 5と同様
7	慢性的な健康問題を持つ対象の看護 1	慢性的な健康問題を持つ対象への患者教育技術を実践する。 ・対象の教育課題に応じた媒体を部分的に作成する ・対象への技術教育を実践する ・対象に有用な教育方法を考察する	事前学習：配布資料を読み、技術の手順と留意点を確認する。また、資料の事例に対する技術教育のシナリオを検討し、教育媒体を部分的に作成する。	事後学習：演習での技術教育の場を振り返るとともに対象に有用な教育方法を考察する。
8	慢性的な健康問題を持つ対象の看護 2	第7回 慢性的な健康問題を持つ対象の看護 1と同様	第7回 慢性的な健康問題を持つ対象の看護 1と同様	第7回 慢性的な健康問題を持つ対象の看護 1と同様
9	術後患者の看護 1-①	術直後の全身状態の観察を実施する。実施を振り返り、術直後の対象の特徴に合わせた観察方法について考察する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。	事後課題：実施を振り返り、レポートを提出する。
10	術後患者の看護 1-②	第9回 術後患者の看護 1-①と同様	第9回 術後患者の看護 1-①と同様	第9回 術後患者の看護 1-①と同様
11	術後患者の看護 2-①	術後 1 日目の早期離床および清潔ケアの援助を実践する。 術後の患者に挿入されている点滴・ドレーン類の適切な扱い方を学ぶ。	事前課題：配布する課題に沿って、早期離床および清潔ケアの意義、手順などをまとめる。	事後課題：実践の振り返りを行い、手順やポイント等を追加修正した上で課題を完成させて提出する。
12	術後患者の看護 2-②	第11回 術後患者の看護 2-①と同様	第11回 術後患者の看護 2-①と同様	第11回 術後患者の看護 2-①と同様
13	輸液管理技術	輸液ポンプとシリンジポンプを使用した輸液を実施する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。	事後課題：実施を振り返り、レポートを提出する。
14	気道浄化ケア 1	気道内分泌物の排出の援助（排痰法、体位ドレナージ、吸引）を実施する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。	事後課題：実施を振り返り、レポートを提出する。
15	気道浄化ケア 2	第14回 気道浄化ケア 1と同様	第14回 気道浄化ケア 1と同様	第14回 気道浄化ケア 1と同様

関連科目	人体の構造と機能 I～IV、疾病・治療論 I～II、病理学総論、成人看護学概論 I～II、成人看護援助論 I～II、成人病態看護論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術	野島真奈美 他編	南江堂
	2	看護学テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護 改訂第2版	鈴木久美 他	南江堂
	3	成人看護学 周手術期看護論(第3版)	雄西智恵美 秋元典子 編	ヌーヴェルヒロカワ

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (30%)、演習課題の達成状況 (70%) により総括評価する。
学生への メッセージ	原則として演習を欠席した場合の補講は実施しません。 関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。グループ学習を基本とします。メンバー間でよい学びができるよう協力してください。また、看護はチーム医療の一員です。グループワークを通し、リーダーシップやメンバーシップを習得してください。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室
備考	

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	神戸 美輪子, 稲垣 範子, 松本 葉子, 竹下 裕子, 吉川 有葵

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助的人間関係を築き、対象を全人的に捉え、身体的・心理的危機を乗り越えて自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。</p>																
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 周手術期における基本的な看護援助を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。 6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。 																
授業方法と留意点	<p>【実習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1グループ5～6人編成とする。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、急性期の受持ち対象者に応じた看護過程の展開を行う。 6. 毎日学生主体のカンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 7. 実習記録は、必ず記録し、指導教員及び臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 8. 各自の実習における学びを振り返り、学びと課題を記録する。 <p>【実習施設】 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院（計3カ所）</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 対象の身体的、心理社会的状態を理解し、全体像をとらえることができる。 1-2. 対象への病名告知、治療方法・手術の説明内容を踏まえて、対象の意思決定の過程を説明できる。 1-3. 対象やその家族と援助的関係を形成できる。 2-1. 対象の全体像をとらえたうえで、看護問題を抽出し、優先順位を決定できる。 2-2. 看護計画を立案し、実施、評価、修正できる。 2-3. 受け持ち終了時に、現在の状態の要約、継続看護の視点においてサマリーを記録できる。 3-1. 【術前】手術に向けた身体的、心理社会的準備状態をふまえて、術前オリエンテーション・術前準備について理解できる。 3-2. 【術中】手術見学を通して、対象が受けた麻酔・手術内容および手術経過を説明できる。 3-3. 【術後】麻酔・手術侵襲に対する生体反応をふまえて術後合併症の予防に向けた援助ができる。 3-4. 【術後】術後合併症の早期発見につながる観察ができる。 3-5. 【術後】手術による形態機能変化に対して必要となる新たなセルフケア能力獲得をうながすための援助ができる。 4-1. 周手術期の各段階で、対象にかかわる職種や部門を挙げ、その役割を述べることができる。 4-2. 医療チームにおける看護師の役割および関係職種との協働・連携の必要性について説明できる。 5-1. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけることができる。 5-2. 対象が直面する倫理的課題を挙げ、それに対する自らの考えを述べるができる。 5-3. 対象の看護に積極的に参加し、自らの行動に責任をもつことができる。 6-1. グループディスカッションを通して、疾患・術式、個別的特徴による看護実践の違いを明確にできる。 6-2. 自らの看護実践の振り返りにより自己の課題を見出すことができる。 6-3. 文献や資料などから理論的知識を探索し、自らの学習に活用できる。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	必要に応じて適宜紹介する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習期間出席した上で、実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、実習態度を総合して評価する。																
学生へのメッセージ	対象の経過は急性に短期間に変化するので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を発揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	神戸 美輪子, 稲垣 範子, 松本 葉子, 竹下 裕子, 吉川 有葵

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助的人間関係を築き、対象を全人的に捉え、身体的・心理的危機を乗り越えて自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。</p>																
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 周手術期における基本的な看護援助を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。 6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。 																
授業方法と留意点	<p>【実習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1グループ5～6人編成とする。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、急性期の受持ち対象者に応じた看護過程の展開を行う。 6. 毎日学生主体のカンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 7. 実習記録は、必ず記録し、指導教員及び臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 8. 各自の実習における学びを振り返り、学びと課題を記録する。 <p>【実習施設】 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院（計3カ所）</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 対象の身体的、心理社会的状態を理解し、全体像をとらえることができる。 1-2. 対象への病名告知、治療方法・手術の説明内容を踏まえて、対象の意思決定の過程を説明できる。 1-3. 対象やその家族と援助的関係を形成できる。 2-1. 対象の全体像をとらえたうえで、看護問題を抽出し、優先順位を決定できる。 2-2. 看護計画を立案し、実施、評価、修正できる。 2-3. 受け持ち終了時に、現在の状態の要約、継続看護の視点においてサマリーを記録できる。 3-1. 【術前】手術に向けた身体的、心理社会的準備状態をふまえて、術前オリエンテーション・術前準備について理解できる。 3-2. 【術中】手術見学を通して、対象が受けた麻酔・手術内容および手術経過を説明できる。 3-3. 【術後】麻酔・手術侵襲に対する生体反応をふまえて術後合併症の予防に向けた援助ができる。 3-4. 【術後】術後合併症の早期発見につながる観察ができる。 3-5. 【術後】手術による形態機能変化に対して必要となる新たなセルフケア能力獲得をうながすための援助ができる。 4-1. 周手術期の各段階で、対象にかかわる職種や部門を挙げ、その役割を述べるができる。 4-2. 医療チームにおける看護師の役割および関係職種との協働・連携の必要性について説明できる。 5-1. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけることができる。 5-2. 対象が直面する倫理的課題を挙げ、それに対する自らの考えを述べるができる。 5-3. 対象の看護に積極的に参加し、自らの行動に責任をもつことができる。 6-1. グループディスカッションを通して、疾患・術式、個別的特徴による看護実践の違いを明確にできる。 6-2. 自らの看護実践の振り返りにより自己の課題を見出すことができる。 6-3. 文献や資料などから理論的知識を探索し、自らの学習に活用できる。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	必要に応じて適宜紹介する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習期間出席した上で、実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、実習態度を総合して評価する。																
学生へのメッセージ	対象の経過は急性に短期間に変化するので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を発揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	白田 久美子, 松本 葉子, 稲垣 美紀, 森谷 利香, 志戸岡 恵子, 青野 美里

授業概要・目的	<p>【概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象者を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象者が主体的に療養生活に取り組むことができるよう、看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p> <p>【目的】 慢性的な経過をたどる健康障がいをもつ対象者とその家族を理解し、その人らしく生きていくことができるよう支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。 2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。 3) 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。 4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。 5) 対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。 6) 自らの看護実践について、対象と家族のQOLの維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。 2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。 3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。 4) 臨地に向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。 5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。 6) 実習中に看護過程、サマリー、カンファレンス資料、レポートなどの記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。 7) 実習を通して、自己の課題を明確にする。 8) 実習を通した学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。 2. 実習期間・病棟実習時間 期間…3週間 病棟実習時間…9時～16時(うち1時間を休憩とする) 3. 実習施設 社団法人全国社会保険協会連合会 星ヶ丘厚生年金病院 市立枚方市民病院 関西医科大学附属枚方病院 国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習内容】 看護過程に沿って以下のような看護を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・バイタルサインの測定、フィジカルイグザミネーション ・日常生活上の援助 ・治療や処置に関する援助 ・患者教育 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	白田 久美子, 松本 葉子, 稲垣 美紀, 森谷 利香, 志戸岡 恵子, 青野 美里

授業概要・目的	<p>【概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象者を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象者が主体的に療養生活に取り組むことができるよう、看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p> <p>【目的】 慢性的な経過をたどる健康障がいをもつ対象者とその家族を理解し、その人らしく生きていくことができるよう支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。 2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。 3) 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。 4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。 5) 対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。 6) 自らの看護実践について、対象と家族のQOLの維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。 2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。 3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。 4) 臨地に向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。 5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。 6) 実習中に看護過程、サマリー、カンファレンス資料、レポートなどの記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。 7) 実習を通して、自己の課題を明確にする。 8) 実習を通した学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。 2. 実習期間・病棟実習時間 期間…3週間 病棟実習時間…9時～16時(うち1時間を休憩とする) 3. 実習施設 社団法人全国社会保険協会連合会 星ヶ丘厚生年金病院 市立枚方市民病院 関西医科大学附属枚方病院 国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習内容】 看護過程に沿って以下のような看護を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・バイタルサインの測定、フィジカルイグザミネーション ・日常生活上の援助 ・治療や処置に関する援助 ・患者教育 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	老年看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 千登勢

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とQOLを高めるための理論と看護の役割を学ぶ。具体的には、統計データを通して高齢者の現状と特徴を学び、加齢現象の変化と生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族をとりまく社会制度について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 加齢現象について身体・心理・社会的変化について理解できる。 高齢化社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者看護に必要な制度・施策について理解できる。 様々な場での高齢者看護の特徴を理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。必要に応じてプリントを配布しますが、プリントの内容も重要事項となります。 学生同士でのグループワーク、発表も入れています。 普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験の科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	老年看護の概念	老年看護とは 老年看護学の理念と目標、概念、活用できる理論について学びます。	老年看護を学ぶにあたり、基本的なことを講義します。 テキストを予習して、概要をとらえておいてください。 今後の講義や実習の根幹になりますので、しっかり復習すること。
2	高齢者を取り巻く社会の理解	統計データから高齢者を取り巻く社会状況に関してグループワークを通して学習します。	厚生労働白書などの統計データを事前に準備・学習し、グループワーク内容をまとめてください。
3	加齢現象の理解 (1)	老年期にある人の身体的加齢変化について学習します	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
4	加齢現象の理解 (2)	老年期にある人の身体的加齢変化について学習します	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
5	加齢現象の理解 (3)	老年期にある人の認知機能、心理・社会的変化について学習します。	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
6	加齢現象の理解 (4)	高齢者アセスメントツールについて学習します。	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
7	加齢現象の理解 (5)	加齢現象の理解の4回の講義を通して、高齢者のとらえ方、理解を深めるためのグループワークを行います。	今までの講義を踏まえて、グループワーク・発表内容の復習をしましょう。
8	高齢者とその家族の理解	高齢者と家族を取り巻く社会情勢、介護する家族の特徴とそれに応じたケアについて学習します。	家族に関して参考図書等を活用して、予習・復習してください。
9	高齢者を取り巻く関連法 (1)	高齢者の保健・医療・福祉対策について、関係する制度・施策について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
10	高齢者を取り巻く関連法 (2)	高齢者の保健・医療・福祉対策として、介護保険制度について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
11	高齢者を取り巻く関連法 (3)	介護保険制度について理解を深めるために、グループワークによる事例検討を行います。	今までの講義を踏まえて、グループワーク・発表内容の復習をしましょう。
12	高齢者への看護活動 (1)	高齢者看護を実践する場として、病院における高齢者看護の特徴について学びます。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
13	高齢者への看護活動 (2)	高齢者看護を実践する場として、高齢者施設・在宅での高齢者看護の特徴について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
14	高齢者へのエンドオブライフ・ケア	高齢者の死に関する状況の特徴とそのケアについて学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
15	老年看護における倫理的課題	高齢者の意思決定、高齢者虐待など倫理的課題について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。

関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、 看護関係法規
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座：老年看護学	北川公子	医学書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学概論	正木治恵、真田弘美	南江堂
	2	最新老年看護学	水谷信子、水野敏子	日本看護協会出版会
	3			

評価方法	定期試験 (80%)、レポート (20%)
------	-----------------------

(基準)	試験は客観的問題と論述問題を合わせて出題します。 レポートは、提出されたレポートを評価します。
学生への メッセージ	予習、復習はもちろんのことですが、できるだけ高齢者と関わる機会を増やして、高齢者を理解してください。
担当者の 研究室等	7号館3階
備考	

科目名	老年看護学援助論 I	科目名 (英文)	Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 千登勢, 小崎 篤志, 金原 京子, 小川 宣子, 吉井 輝子, 田中 真佐恵

授業概要・目的	<p>(概要)</p> <p>高齢者の生きてきた背景や価値観を踏まえたうえで、エンパワメントの視点から、高齢者のQOLを高めるケアについて学びます。また、高齢者にみられる疾患の特徴を理解し、必要な治療やケアについて学習します。そのために、講義だけでなく、高齢者体験等の演習を通して高齢者理解を深めます。</p> <p>(オムニバス方式/全23回)</p> <p>(松田千登勢/4回)</p> <p>疾患を持つ高齢者の看護 (脳血管疾患・パーキンソン, 呼吸器・循環器・内分泌系疾患), 加齢による日常生活機能の低下と援助 (コミュニケーション), 老年看護学におけるケアマネジメント</p> <p>(金原京子/5回)</p> <p>疾患を持つ高齢者の看護 (認知症 I・II), 高齢者の社会・価値観の理解(2)</p> <p>(小川宣子/3回)</p> <p>疾患を持つ高齢者の看護 (筋・骨格系疾患), 加齢による日常生活機能の低下と援助 (活動と休息・移動の援助, 転倒・転落)</p> <p>(松田千登勢, 金原京子, 小川, 田中真佐恵, 吉井輝子/4回)</p> <p>高齢者疑似体験, 事例検討(転倒・転落), アクティビティ企画, コミュニケーション (ロールプレイ) 演習</p> <p>(小崎篤志/8回)</p> <p>高齢期にあたる人の身体の構造や機能変化のメカニズム, 医学的対応が必要となる高齢期に起こりうる特徴的な疾病を取り上げ, 疾病の原因, 主要症状, 病態生理, 検査法, 治療法等について学習します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の起こりやすい健康障害を理解し、生活への影響や具体的援助を考えることができる。 2) 加齢現象を理解した上で、加齢に伴う日常生活能力の変化をアセスメントし、それに適した援助が理解できる。 3) 高齢者の生きてきた背景を知り、長年の生活で培われた価値観や生活習慣を尊重する態度を養う。 4) 高齢者に多く見られる代表的な疾患の病態、治療法を理解できる。
授業方法と留意点	<p>基本的には授業計画に沿って授業を実施します。テキストを中心に授業を進めますが、プリントなどの補助教材を使用しますので、併せて学習するようにしてください。前半は講義中心の授業ですが、後半には、事例検討、アクティビティ企画など演習を行います。学習の習熟度については、小テストを行うこともあります。また、演習にはレポートを課し、評価の対象とします。</p>
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疾患を持つ高齢者の看護 (1)	【脳血管疾患・パーキンソン】 高齢者に多くみられる 脳血管疾患・パーキンソン病のアセスメント・看護について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。
2	高齢者疑似体験	【演習】グループに分かれ、高齢者疑似体験などを行います。	演習方法について事前にオリエンテーションを行います。レポート課題があります。
3	疾患を持つ高齢者の看護 (2)	【呼吸器・循環器・内分泌】 高齢者に多くみられる 呼吸器・循環器・内分泌系疾患として、心不全、呼吸器不全、糖尿病などのアセスメント・看護について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。
4	疾患を持つ高齢者の看護 (3)	【骨・筋肉系疾患】 高齢者に多くみられる骨・筋肉系疾患系疾患として、骨折、関節症などのアセスメント・看護について学習します	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。
5	疾患を持つ高齢者の看護 (4)	【認知症】 認知症について、定義、診断、病態、スケール等について学習します。	基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。
6	疾患を持つ高齢者の看護 (5)	【認知症】 認知症の中核症状からくる生活障がい、BPSD への対応など具体的なケアについて学習します。	基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。
7	加齢による日常生活機能の低下と援助(1)	【活動と休息、移動の援助】 加齢現象により生じる、睡眠、廃用性などを理解した上でのケアを学習します。	老年看護学概論で学んだ知識を復習して授業に臨んでください。
8	加齢による日常生活機能の低下と援助(2)	【転倒・転落】 老化に伴い、転倒しやすくなります。転倒の原因などを知り、転倒予防と転倒による傷害および寝たきりについて学習します。	老年看護学概論で学んだ知識を復習して授業に臨んでください。
9	加齢による日常生活機能の低下と援助(3)	【活動と休息、移動の援助】 事例検討を通して、転倒に対するケアの在り方を考察します。	活動と休息・移動の講義資料を復習して授業に臨んでください。 レポート課題があります。
10	加齢による日常生活機能の低下と援助(4): 演習	【活動と休息、移動の援助】 高齢者の活動を促進するためのアクティビティケアの在り方の講義と実際の企画をグループワークで検討します。	活動と休息・移動の講義資料を復習して授業に臨んでください。
11	高齢者の社会・価値観の理解: 演習 (1)	高齢者の生きてきた時代背景のグループワークにより、高齢者の価値観や社会的	事前に、高齢者の生きてきた時代の出来事を準備し、授業後自分なりに整理してください。

			側面の理解を深めます。	
12	高齢者の社会・価値観の理解：演習(2)		実施したグループワークの発表を通して、理解を深めます。	他の発表を聞き、整理をしてください。レポート課題があります。
13	加齢による日常生活機能の低下と援助(5)		【コミュニケーション】 加齢に伴う、コミュニケーションの変化とその援助方法について学びます。	基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習をして授業に臨んでください。
14	加齢による日常生活機能の低下と援助(4)：演習		【コミュニケーション】 コミュニケーションで学んだことをもとに、学生同士でロールプレイを実施し、高齢者とのコミュニケーションの在りかたを考察します。	13回のコミュニケーションの講義資料を復習して授業に臨んでください。レポート課題があります。
15	老年看護学におけるケアマネジメント		地域包括支援センターからゲストスピーカーを招き、高齢者のケアマネジメントについて学習します。	高齢者を支える法律や制度、社会資源について復習してから授業に臨んでください。
16	老年における疾病・治療論(脳神経1)		講義にて脳神経疾患、主に神経変性疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(1)	教科書内授業部分の予習・復習
17	老年における疾病・治療論(脳神経2)		講義にて脳神経疾患、主に神経変性疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(2)	教科書内授業部分の予習・復習
18	老年における疾病・治療論(脳神経3)		講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(1)	教科書内授業部分の予習・復習
19	老年における疾病・治療論(脳神経4)		講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(2)	教科書内授業部分の予習・復習
20	老年における疾病・治療論(脳神経5)		講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(3)	教科書内授業部分の予習・復習
21	老年における疾病・治療論(脳神経6)		講義にて脳神経疾患、主に認知症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(1)	教科書内授業部分の予習・復習
22	老年における疾病・治療論(脳神経7)		講義にて脳神経疾患、主に認知症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(2)	教科書内授業部分の予習・復習
23	老年における疾病・治療論(骨疾患など)		講義にて骨疾患、主に骨折や骨粗鬆症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。	教科書内授業部分の予習・復習
24	—		—	—
25	—		—	—
26	—		—	—
27	—		—	—
28	—		—	—
29	—		—	—
30	—		—	—
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、薬理学総論、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅱ、看護基礎技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 老年看護学	北川公子	医学書院
	2	病気がみえる vol.7 脳神経		メデックメディア
	3	医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験 70%、レポート 30%			
学生へのメッセージ	既習の基礎看護学を高齢者に適応する知識や技術と、老年看護概論で学んだ「加齢現象」をもとにした学習になります。しっかりと復習して、理解した上で、老年看護学援助論に取り組みましょう。			
担当者の研究室等	7号館3階			
備考	病理学総論・疾病治療論と同シリーズの教科書を使用します。(小崎)			

科目名	老年看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 千登勢, 金原 京子, 小川 宣子, 吉井 輝子, 田中 真佐恵

授業概要・目的	<p>高齢者に特有な心身の健康状態の変化についての知識をもとに、高齢者によくみられる脳神経・循環器・呼吸器・骨関節・感覚器等の疾患をもつ方への援助方法を学習します。また、認知症については、病態の理解とともに、家族や地域を含めた援助方法について学びます。さらに、臨地実習でよく遭遇する事例をもとに、科学的根拠に基づいた看護過程が展開できる能力を養います。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(松田千登勢/4回) 疾患をもつ高齢者の看護(脳神経疾患, 循環器・消化器疾患, 呼吸器・泌尿器疾患, 精神・感染症疾患他)</p> <p>(金原京子/4回) 認知症高齢者の看護1・2, 看護過程, 老人看護専門看護師(CNS)の専門性と役割</p> <p>(小川宣子/2回) 治療を受ける高齢者の看護, 疾患を持つ高齢者の看護(運動器系)</p> <p>(金原京子, 小川宣子/2回) 看護過程の展開(アセスメント)</p> <p>(松田千登勢, 金原京子, 小川宣子, 田中真佐恵, 吉井輝子/3回) 看護過程の展開(グループワーク), 事例発表</p>
---------	---

到達目標	<p>1) 高齢者に良くみられる疾患をもつ対象の援助方法について理解できる。</p> <p>2) 認知症の正しい理解とその援助方法について理解できる。</p> <p>3) 健康障害をもち、療養中の高齢者(紙上患者)の看護過程の展開ができる。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>授業はオムニバス形式で行います。基本的にはテキストを使用して授業を進めますが、適宜プリント等の補助教材を使用します。毎回、テキストと配布したプリントを必ず持参してください。講義で学習した内容については毎回復習を行い、疑問があれば、解決を図るようにしてください。</p>
----------	---

科目学習の効果(資格)	<p>看護師国家試験</p>
-------------	----------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/ 高齢者の看護過程について	この授業の進め方、学習の仕方について説明を行います。高齢者の看護過程を展開するために必要な看護上の視点について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
2	疾患をもつ高齢者の看護(1)	【治療を受ける高齢者の看護】手術療法、リハビリテーション等の治療を受ける高齢者の看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
3	疾患をもつ高齢者の看護(2)	【疾患をもつ高齢者の看護についての理解(1):脳神経疾患】主に脳血管疾患(脳梗塞)、パーキンソン病等の対象者への看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
4	疾患をもつ高齢者の看護(3)	【疾患をもつ高齢者の看護についての理解(2):循環器・泌尿器疾患】主に心不全、逆流性食道炎等の対象者への看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
5	疾患をもつ高齢者の看護(4)	【疾患をもつ高齢者の看護についての理解(3):呼吸器・泌尿器疾患】主に肺炎、閉塞性肺疾患(COPD)、前立腺肥大症等の対象者への看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
6	疾患をもつ高齢者の看護(5)	【疾患をもつ高齢者の看護についての理解(4):運動器疾患】主に大腿骨頸部骨折、骨粗鬆症、変形性関節症等の対象者への看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
7	疾患をもつ高齢者の看護(6)	【疾患をもつ高齢者の看護についての理解(5):精神・感染症疾患他】主にうつ病、疥癬、白内障等の対象者への看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
8	認知症高齢者の看護(1)	認知症について、定義・診断・病態・認知症評価スケール等について学習します。	疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
9	認知症高齢者の看護(2)	認知症高齢者の看護について、具体的に学びます。映像や、手記等から、看護するものとしての考えをまとめていただきます。	前回の授業、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
10	看護過程の展開(1)	事例学習(アセスメント)	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。
11	看護過程の展開(2)	事例学習(アセスメント)	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。
12	老年看護学の発展的学習	老人看護専門看護師(CNS)をお招きし、高齢者の看護について専門家の視点からの講義をしていただきます。	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。
13	看護過程の展開(3)	事例学習(グループワーク)	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分

				の復習をしておいてください。
	14	看護過程の展開（４）	事例学習（グループワーク）	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。
	15	看護過程の展開（５）	事例発表	自分のグループの発表のみではなく、他者の評価も行います。
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
	2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
	3	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、提出物（授業内で指示するもの） 40%			
学生への メッセージ	疾患をもつ対象者の看護については既習のものが多いと思いますが、老年期における特徴をふまえて考えていくことが必要となります。高齢者によくみられる疾患の特徴と、どのような看護を必要とするのかについての基本を学習しますので、これまでに学習した疾病治療論や看護の実践方法について復習をしておいてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階			
備考	看護過程の展開の演習は進度によって、内容が変更になる場合があります。 授業中に案内します。			

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢, 金原 京子, 小川 宣子, 吉井 輝子, 田中 真佐恵

授業概要・目的	<p>【概要】 地域や施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者の理解を深めるとともに、高齢者が健康状態を維持することの意義及び医療依存度の低い高齢者への援助の実際を学ぶ。さらに、保健・医療福祉を取り巻く高齢者ケアのあり方と看護師の役割について学び、自己の高齢者観を培う</p> <p>【目的】 高齢者の日常生活の能力について身体的・精神的・社会的側面から理解し、地域で生活する高齢者への健康生活課題について学ぶ。高齢者を取り巻く家族や社会資源について理解を深め、健康生活課題の解決を支援する方法について考えることができる。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、高齢者に生じやすい健康問題とそれに関連する要因などから、その高齢者が持つ疾患や障害などから、高齢者を多面的・総合的に理解する。 2. 高齢者とその家族を一つの単位としてとらえ、身体的・精神的・社会的機能をアセスメントし、健康・生活上の課題について考えることができる 3. 高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉に関する社会資源の実際について考えることができる。 4. 高齢者の保健・医療・福祉にかかわる専門職の役割・機能を理解する。 5. 高齢者の保健・医療・福祉にチームの中での看護の役割について考えることができる。 6. 高齢者とその家族の健康問題の解決を支援する方法について説明できる。 7. 実習を通して自己の高齢者観を深め、老年看護における看護観を考察することができる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1 週目) 月曜日 学内・オリエンテーション・実習準備 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 実習施設：実習</p> <p>(2 週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習 II																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢, 金原 京子, 小川 宣子, 吉井 輝子, 田中 真佐恵

授業概要・目的	<p>【概要】 地域や施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者の理解を深めるとともに、高齢者が健康状態を維持することの意義及び医療依存度の低い高齢者への援助の実際を学ぶ。さらに、保健・医療福祉を取り巻く高齢者ケアのあり方と看護師の役割について学び、自己の高齢者観を培う</p> <p>【目的】 高齢者の日常生活の能力について身体的・精神的・社会的側面から理解し、地域で生活する高齢者への健康生活課題について学ぶ。高齢者を取り巻く家族や社会資源について理解を深め、健康生活課題の解決を支援する方法について考えることができる。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、高齢者に生じやすい健康問題とそれに関連する要因などから、その高齢者が持つ疾患や障害などから、高齢者を多面的・総合的に理解する。 2. 高齢者とその家族を一つの単位としてとらえ、身体的・精神的・社会的機能をアセスメントし、健康・生活上の課題について考えることができる 3. 高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉に関する社会資源の実際について考えることができる。 4. 高齢者の保健・医療・福祉にかかわる専門職の役割・機能を理解する。 5. 高齢者の保健・医療・福祉にチームの中での看護の役割について考えることができる。 6. 高齢者とその家族の健康問題の解決を支援する方法について説明できる。 7. 実習を通して自己の高齢者観を深め、老年看護における看護観を考察することができる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1 週目) 月曜日 学内・オリエンテーション・実習準備 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 実習施設：実習</p> <p>(2 週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習 II																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢, 金原 京子, 小川 宣子, 吉井 輝子, 田中 真佐恵

授業概要・目的	<p>【概要】 健康問題を持ち治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の問題を、身体的・精神的・社会的側面から解決する方法を学ぶ。さらに援助においては、老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、看護者として高齢者の人権と権利を擁護する態度を養い、自己の高齢者観を深める。</p> <p>【目的】 老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、加齢に伴う変化について身体的・精神的・社会的側面から理解し、入院治療を必要とする高齢者の健康上の問題を解決する方法を学ぶ。 また、高齢者とその家族を理解し、その人がその人らしく生きていくことができるように支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、高齢者に生じやすい健康問題とそれに関連する要因などから、その高齢者が持つ疾患や障害などから、高齢者を多面的・総合的に理解する。 2. 疾病や障害をもつ高齢者の身体的・精神的・社会的機能をアセスメントし、入院が高齢者におよぼす影響を理解し、健康上の問題を明確にすることができる。 3. 健康問題をもつ高齢者の特性・個性を考慮した援助計画が立案できる。 4. 高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正をすることができる。 5. 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。 6. 高齢者を取り巻く環境と看護職の役割と責任について理解できる。 7. 実習を通して自己の高齢者観を深め、老年看護における看護観を考察することができる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 学内：記録整理 金曜日 実習施設：実習</p> <p>(2週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢, 金原 京子, 小川 宣子, 吉井 輝子, 田中 真佐恵

授業概要・目的	<p>【概要】 健康問題を持ち治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の問題を、身体的・精神的・社会的側面から解決する方法を学ぶ。さらに援助においては、老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、看護者として高齢者の人権と権利を擁護する態度を養い、自己の高齢者観を深める。</p> <p>【目的】 老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、加齢に伴う変化について身体的・精神的・社会的側面から理解し、入院治療を必要とする高齢者の健康上の問題を解決する方法を学ぶ。 また、高齢者とその家族を理解し、その人がその人らしく生きていくことができるように支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、高齢者に生じやすい健康問題とそれに関連する要因などから、その高齢者が持つ疾患や障害などから、高齢者を多面的・総合的に理解する。 2. 疾病や障害をもつ高齢者の身体的・精神的・社会的機能をアセスメントし、入院が高齢者におよぼす影響を理解し、健康上の問題を明確にすることができる。 3. 健康問題をもつ高齢者の特性・個性を考慮した援助計画が立案できる。 4. 高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正をすることができる。 5. 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。 6. 高齢者を取り巻く環境と看護職の役割と責任について理解できる。 7. 実習を通して自己の高齢者観を深め、老年看護における看護観を考察することができる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 学内：記録整理 金曜日 実習施設：実習</p> <p>(2週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	小児看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 佳奈美

授業概要・目的	小児看護学の対象である子どもと家族の理解を踏まえ、発達の促進および健康保持増進に向けた看護者の役割と機能、支援方法を学習する。また、子どもと家族の理解を深めるために、必要な発達理論、親子関係理論、家族システム理論および概念について理解し、子ども観・家族観を深める。
到達目標	1. 小児看護の対象である子どもと家族の理解を深めることができる 2. 子どもの健康保持増進および発達を促進に向けた看護者の役割と機能を理解する 3. あらゆる発達レベル、健康レベルにある子どもへの支援方法のあり方について理解する 4. 小児看護によく適用される発達理論や家族理論について理解し、看護への適用を考えることができる
授業方法と留意点	子どもの成長・発達的一般原則を理解し、子どものイメージ化を促すため、視聴覚教材や事例を多く用いて講義を進める。また、毎回、事前課題を提示し、それをもとに講義を展開したり、グループワークなどを取り入れながら授業を進める。学習した内容については、身近な子どもの姿を通じて、振り返りができるような課題も取り入れ、学生が主体的に本科目に取り組めるよう工夫をする。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス、小児看護学の概観、子どもとは	授業計画をもとに、小児看護学の構成を概観し、授業の進め方、評価について詳細に説明を行う。子どもに対するイメージを言語化し、大人と比較しながら子どもの特徴について、学生間で話し合う。	事前課題：教科書「序章 小児看護学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
2	子どもの特徴	子どもの範囲、発達区分、発達観 保健統計からみた子どもと家族、および子どもを取り巻く環境	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
3	小児看護とは、子どもを取り巻く医療の変遷と課題	小児医療・小児看護の変遷、小児看護の対象と目標、小児看護の場と看護の特徴	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
4	子どもの最善の利益	子どもの権利条約、医療における子どもの権利、小児医療で起こりやすい倫理的問題について	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
5	小児看護で用いる概念と理論	発達に関する概念、発達理論(ピアジェ、エリクソン)、母子関係理論(ボウルビー)、家族システム理論等	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
6	子どもの成長・発達の特徴Ⅰ	成長・発達的一般原則、成長・発達への影響因子、各発達段階の特徴と主な健康問題、成長・発達の評価と家族環境アセスメント	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
7	子どもの成長・発達の特徴Ⅱ	子どもの形態的成長と機能的発達の特徴	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
8	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅰ(動く機能)	乳児期から就学前までの子どもの動く機能の特徴と日常生活援助 (「移動」に関する育児用品に関するグループ発表)	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
9	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅱ(食べる機能)	乳児期から就学前までの子どもの食べる機能の特徴と日常生活援助 (「食べる」に関する育児用品に関するグループ発表)	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
10	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅲ(眠る機能)	乳児期から就学前までの子どもの眠る機能の特徴と日常生活援助 (「眠る」に関する育児用品に関するグループ発表)	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
11	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅳ(排泄する機能)	乳児期から就学前までの子どもの排泄する機能の特徴と日常生活援助 (「排泄する」に関する育児用品に関するグループ発表)	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
12	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅵ(身だしなみを整える)	乳児期から就学前までの子どもの身だしなみを整える機能の特徴と日常生活援助 (「身だしなみを整える」に関する育児用品に関するグループ発表)	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
13	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅶ(遊び)	乳児期から就学前までの子どもの遊ぶ機能の特徴と日常生活援助 (「遊ぶ」に関する育児用品に関するグループ発表)	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
14	子どもの事故の特徴と予防接種	予防接種法の意義、対象疾患、ワクチンの種類および接種時期などに関する基本的な知識	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
15	子どもを守るわが国の法律と制度についてグループワーク発表	母子保健法、学校保健安全法、児童虐待防止法、予防接種法 予防接種に関して	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる

関連科目	看護学概論、生命倫理
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論・小児保健	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
2				

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①	中野綾美 編集	MC メディカ出版
	2	系統看護学講座 承認看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学①	奈良間美穂他	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	前期の定期試験および課題やグループワーク内容を総合して評価する。 定期試験 80%、課題・グループワークおよびピア評価 20%			
学生への メッセージ	小児看護学概論では広範な内容を網羅し、子どもの看護を理解する上での基盤となります。知識の記憶ではなく、自らが主体的に考え、理解することを目指しましょう。習得した知識を活用できるよう、周囲の子どもにも目を向け、洞察を深めてください。			
担当者の 研究室等	7号館・3階、研究室17（鎌田）			
備考				

科目名	小児看護学援助論 I	科目名 (英文)	Pediatric Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 亀田 直子, 中山 祐一, 大橋 敦

授業概要・目的	様々な発達段階にある子どもの健康状態に応じた日常生活を理解し、適切な看護を提供するために必要な基本的知識と援助技術を学修する。また、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもと家族を尊重した看護のあり方を考える。
到達目標	1. 各発達段階にある子どもの日常生活と看護援助の特徴を理解する。 2. 子どもの健康問題の特徴と、健康問題が子どもと家族に与える影響について理解する。 3. 子どもの日常生活援助技術および子どものヘルスアセスメントについて理解する。 4. 子どもの身体構造的・機能的な特徴に基づいた症状を理解する。 5. 子ども特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、低出生体重児などに関する病態生理、検査・処置、治療等について理解する。
授業方法と留意点	小児看護学概論で習得内容の振り返りを行いながら授業をすすめる。簡単な事例を用いて演習を行い、習得した知識を活用を促す。小児看護学における援助技術については、事前にグループ学習し、学生が主体となってデモンストレーション、実施、ピア評価を行うことで、学生の自主性、主体性、相乗効果を促せるよう工夫する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児援助論II、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後課題
1	病気や入院に対する子どもの理解	子どもの病気の特徴について概観する 子どもは病気や入院をどのように理解するか(認知発達段階の特徴を踏まえ、子どもが病気や入院をどう理解するかについて)	事前課題：小児看護学概論の復習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。	
2	日常生活援助技術演習の準備	演習の方法、内容、グループ学習のすすめ方の説明の後、グループワークを行う	事前課題：日常生活看護技術に関する自己学習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
3	健康問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	健康問題や入院が子どもに及ぼす影響について 健康問題が入院が家族に及ぼす影響について 子どもと家族にとって適切な外来および入院環境について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
4	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護 I	健康問題をもつ乳児(新生児を含む)と家族の特徴と看護について 健康問題をもつ幼児と家族の特徴と看護について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
5	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護 II	健康問題をもつ学童と家族の特徴と看護について 健康問題をもつ思春期の子どもと家族の特徴と看護について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
6	子どもによくみられる症状と看護	啼泣、不機嫌、発熱、発疹、けいれん、嘔吐、下痢、脱水など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
7	子どもによく見られる症状と看護	呼吸困難、痛み、意識障害、浮腫、掻痒感など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
8	小児看護技術(日常生活援助)	抱っこ、移動に関する援助技術確認	事前課題：日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
9	小児看護技術(日常生活援助)	抱っこ、移動に関する援助技術確認	事前課題：日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
10	さまざまな制限を受ける子どもと家族への看護	隔離を必要とする子どもと家族の看護について 行動制限を必要とする子どもと家族の看護について 食事制限を必要とする子どもと家族の看護について	事前課題：身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
11	治療や検査・処置を受ける子どもと家族への看護	子どもの参加する権利の保障 プレパレーションについて 検査・処置技術(与薬、洗腸、救急処置)について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
12	子どものヘルスアセスメント	子どもとのコミュニケーションについて ヘルスアセスメントの目的・意義について 子どもの観察と情報収集の方法について	事前課題：身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
13	ヘルスアセスメント技術演習	事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：身体アセスメント看護技術のリフレクション 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
14	ヘルスアセスメント技術演習	事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：身体アセスメント看護技術のリフレクション 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
15	プレパレーション演習	検査を受ける子どもの事例に応じたプリ	事前課題：プレパレーションに関する自己学習	

		パレージョン計画書の作成	事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
16	新生児の疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個別性（年齢、疾患の重症度、家庭環境）に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 新生児、未熟児の生理機能と代表的な疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
17	小児の呼吸器疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個別性（年齢、疾患の重症度、家庭環境）に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児の呼吸生理の特徴と、小児に多い呼吸器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
18	小児の循環器疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個別性（年齢、疾患の重症度、家庭環境）に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児の循環生理の特殊性と先天性心疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
19	小児の血液疾患・悪性腫瘍について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個別性（年齢、疾患の重症度、家庭環境）に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児に多い血液疾患、悪性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
20	小児の消化器疾患、腎・泌尿器疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個別性（年齢、疾患の重症度、家庭環境）に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児に多い消化器疾患、腎・泌尿器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
21	小児の神経疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個別性（年齢、疾患の重症度、家庭環境）に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児に多い神経疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
22	小児の内分泌・代謝疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個別性（年齢、疾患の重症度、家庭環境）に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児に多い内分泌疾患、成長障害、代謝性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
23	小児の感染症、免疫・アレルギーについて	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個別性（年齢、疾患の重症度、家庭環境）に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児に多い感染症、免疫・アレルギー疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
24	—	—	—
25	—	—	—
26	—	—	—
27	—	—	—
28	—	—	—
29	—	—	—
30	—	—	—

関連科目 小児看護学概論、基礎看護技術

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社

	3	ナーシンググラフィカ 小児看護技術 小児看護学 ②	中野綾美 編集	メディカ出版
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児科学 第2版	金子一成 編集	金芳堂
	2	小児の疾患と看護 小児看護③	中野綾美 編集	メディカ出版
	3	小児臨床看護学各論 小児看護学②	奈良間美穂 他	医学書院
評価方法 (基準)	後期の定期試験70%、課題、演習、グループワーク30%とし総合的に評価する			
学生への メッセージ	小児看護学援助論Ⅰでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶に止まらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室17(鎌田)、18(池田)			
備考				

科目名	小児看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Pediatric Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田 友美, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子, 中山 祐一

授業概要・目的	疾病・障がいがある子どもと家族の健やかな育ちを支えるために、小児期によくみられる疾患をもつ子どもの看護を理解する。また、さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を看護過程を通して考える。
到達目標	1. 疾患や障がいがある子どもと家族の援助について説明できる。 2. 急性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 3. 慢性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 4. さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を考案できる。 5. 小児看護特有の基本的技術を習得する。
授業方法と留意点	視聴覚教材や外部講師による講義を活用し、疾患や障がいのある子どもを理解しやすいように解説する。また、事例演習はグループワークによって、さまざまな健康レベルにある子どもの援助についての理解をうながす。技術演習では、事例を用いて、子どもの発達、健康状態、生活、心理面を力動的にアセスメントし、子どもと家族のニーズから抽出された看護援助を検討するためにグループワークを行なう。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	急性期にある子どもと家族への看護(1)	急性期にある子どもと家族の特徴	事前課題：教科書第6章Ⅰを読む。 事後課題：授業内に提示する。
2	【事例演習】急性期にある子どもと家族の看護(2)	急性期における子どもと家族の看護過程の展開(情報収集・分析)	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
3	【事例演習】急性期にある子どもと家族の看護(3)	急性期における子どもと家族の看護過程の展開(分析の統合・計画立案)	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
4	【事例演習：事例の発表】急性期にある子どもと家族の看護(4)	急性期における子どもと家族の看護過程の事例発表	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
5	慢性期にある子どもと家族への看護(1)	慢性疾患を抱えながら生活する子どもとその家族の特徴	事前課題：教科書第6章Ⅱを読む。 事後課題：課題プリント
6	【事例演習】慢性期にある子どもと家族の看護(2)	慢性期における子どもと家族の看護過程の展開	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
7	【事例演習：事例の発表】慢性期にある子どもと家族の看護(3)	慢性期における子どもと家族の看護過程の事例発表	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
8	手術を受ける子どもと家族の看護	子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族への援助	事前課題：教科書第7章Ⅶを読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
9	障がいのある子どもと家族の看護 在宅に移行する子どもと家族の看護	障がいのある子どもとその家族の意思決定、在宅に移行するための準備、地域で生活するための看護師の役割(外部講師による講義を予定しています)	事前課題：教科書第7Ⅶを読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
10	災害に遭遇した子どもと家族の看護 心の問題がみられる子どもと家族の看護	子どもの被災の特徴 心の問題をもつ子どもと家族への援助	事前課題：教科書7章13、7章15を読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
11	ターミナル期の子どもと家族の看護	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族への援助	事前課題：教科書第6章Ⅲを読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
12	【事例演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護 まとめ(1)	事例による看護計画の立案	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
13	【技術演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護 まとめ(2)	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
14	【技術演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護 まとめ(3)	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
15	これからの小児看護の方向性	子どもと家族の最善の利益を守るための、小児看護における看護師の役割(外部講師による講義を予定しています)	事前課題：子どもの権利に関する情報を収集する。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。

関連科目 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武、濱中喜代	メヂカルフレンド社
2	ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術	中野綾美	メディカ出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間美保	医学書院
2	写真でわかる小児看護技術	山元恵子	インターメディカ
3			

評価方法 (基準)	定期試験および課題・グループワーク・技術演習を総合的に評価する。 定期試験 70%、課題・グループワーク・技術演習 30%
学生への メッセージ	小児看護学実習に向けての実践的な授業になります。 課題やグループワークも多いので、既習の知識を振り返りながら計画的にすすめましょう。
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室 18 (池田)、17 (鎌田)、4 (亀田)
備考	

科目名	小児看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 亀田 直子, 中山 祐一

授業概要・目的	<p>【概要】 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。 2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。 3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。 4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。 5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1グループ5～6人編成とし、小児病棟において2週間の実習を行う。 2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。 3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。 4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。 5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。 6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。 <p>【留意点】 小児看護学実習要綱の注意事項を参照のこと。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。 <p>【実習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2日間の保育所実習を行い、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。 2) 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 1 週目：受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 2 週目：子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。 <p>【事後の計画】 臨地での体験の振り返りを通じて、自己の看護観、子ども観および今後の学生自身の課題を明確化する。</p>																
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する																
学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要な看護を実践して下さい。																
担当者の研究室等																	
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、枚方市立保育所																

科目名	小児看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 亀田 直子, 中山 祐一

授業概要・目的	<p>【概要】 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。 2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。 3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。 4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。 5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1グループ5～6人編成とし、小児病棟において2週間の実習を行う。 2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。 3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。 4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。 5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。 6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。 <p>【留意点】 小児看護学実習要綱の注意事項を参照のこと。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。 <p>【実習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2日間の保育所実習を行い、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。 2) 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 1 週目：受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 2 週目：子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。 <p>【事後の計画】 臨地での体験の振り返りを通じて、自己の看護観、子ども観および今後の学生自身の課題を明確化する。</p>																
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する																
学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要な看護を実践して下さい。																
担当者の研究室等																	
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、枚方市立保育所																

科目名	母性看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	泉川 孝子, 福山 智子, 名草 みどり

授業概要・目的	母性看護の基盤となる概念を理解し、母性とはなにかを幅広く捉え、人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。母性の特性については、母性保健の動向や現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題を理解し、現代女性・家族へのサポートについて考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について理解する。 人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。 母性看護の変遷や母性保健統計の動向、母子保健施策から現状を理解する。 現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題について理解する。 女性のライフステージ各期における諸問題、看護について理解する。 現代の女性・家族の健康に関する諸問題へのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。
授業方法と留意点	事前の学習課題は展開される講義内容が書かれているテキスト部分をよく読んでくる。グループ課題もあり、主体的に参加してください。母子保健、生殖医療等に関する情報を、新聞、雑誌などから見聞を広め問題意識をもつてのぞみましょう。
科目学習の効果(資格)	授業内容は、看護師国家試験の母性看護学の科目に出題されることがあり、国家試験に直結する科目です。また、助産選択に関わる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母性の概念について1?	母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について学ぶ(講義)?	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習?
2	母性の概念について2?	セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて学ぶ(講義)?	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
3	母性看護の対象を取り巻く社会について1	母性看護の歴史の変遷と現状、日本と諸外国の助産の歴史、について学ぶ(講義)?	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
4	母性看護の対象を取り巻く社会について2?	母子保健統計からみた動向、母子保健施策からみた現状、母性看護に必要な法制度について理解する(講義)?	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
5	母性看護の対象理解1	母性看護の対象の特徴を理解し(形態・機能含む)、人間の性差について理解し、セクシュアリティについて学ぶ(講義)?	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
6	母性看護の対象理解2	女性のライフサイクルと家族の発達段階における家族看護について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
7	母性看護の対象理解3?	母性の発達・成熟・継承。母性と親性について理解し、子どもへの愛や親となる過程の支援に必要なことを学ぶ(講義)?	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
8	母性看護における看護技術1	周産期の死と看護、障害を持つ子どもと家族のケアについて学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
9	女性のライフステージ各期における看護?	女性のライフサイクル、母性各期(小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期)の特徴について理解する(講義)?*11回事例検討の説明	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
10	思春期の健康と看護1?	思春期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、思春期におけるセクシュアリティの課題について学ぶ(講義)?	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
11	思春期の健康と看護2	思春期の性教育における、問題行動事例をロールプレイングで検討する(一部発表)?	事前学習課題: グループ発表事例の準備をする 事後学習課題: グループレポート提出(グループで検討した事例のレポートとメンバーの役割を記載)?
12	成熟期の健康と看護?	成熟期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、成熟期のセクシュアリティの課題について学ぶ(講義)?	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
13	更・老年期の健康と看護?	更年期・老年期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、セクシュアリティの課題について学ぶ(講義)?	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
14	リプロダクティブヘルスケア?	女性の健康に関する、性感染症・妊娠中絶・喫煙・DV、国際化社会等におけるリプロダクティブヘルスケアについて理解する(講義、討議)?	事前学習課題: テキスト、資料の該当部分を読んでくる 事後学習課題: グループ討議のレポート提出?
15	母性看護における看護技術2	母性看護の特殊性を踏まえた看護技術やウエルネス看護過程について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習

関連科目	人体の構造と機能、食生活論、家族関係論、疾病治療論、看護関係法規、看護学概論、看護対人関係論、生命倫理、地域看護学、家族看護学、看護倫理、女性学
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	親と子のきずな	クラウス・ケネル	医学書院
	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院

	3		
評価方法 (基準)	定期試験、授業参加度（提出課題・授業態度等）を総合して判定する。 割合：定期試験85%（泉川70点、福山5点、名草10点）、提出課題等15%		
学生への メッセージ	授業は学生と教員とのパートナーシップで、力を合わせて実りある内容にしましょう。		
担当者の 研究室等	泉川孝子：研究室15、福山智子：研究室13、名草みどり：共同研究室5		
備考			

科目名	母性看護学援助論 I	科目名 (英文)	Maternal Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	泉川 孝子, 福山 智子, 名草 みどり, 小林 浩

授業概要・目的	<p>〈概要〉</p> <p>次世代を担う母性準備期 (思春期)、母性が最も発揮する時期 (成熟期)、母性継承期 (更年期・老年期) にある女性の、月経異常、性感染症、不妊症、ホルモン療法、婦人科疾患 (子宮筋腫、子宮がんなど)、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について学ぶ。</p> <p>また、妊娠期・分娩期・産褥期の生理的变化、心理・社会的特徴、胎児の発育、新生児の生理、周産期における家族の役割について学び、アセスメントと看護の方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全23回)</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 2. 婦人科疾患 (月経異常、性感染症、不妊症、子宮筋腫、子宮がんなど)、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について理解する。 3. 正常経過にある妊産褥婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。 4. 異常経過にある妊産褥婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。
授業方法と留意点	講義・グループワーク・DVD鑑賞・課題などの方法で学ぶ
科目学習の効果 (資格)	母性看護学援助論IIの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母性の発揮を促す看護	子どもを生み育てるあたり生じる遺伝、不妊の問題、不妊治療を受ける女性の心理的特徴からその支援、看護について理解する	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
2	婦人科疾患の診断と治療	遺伝と出生前診断、不妊治療について学ぶ 月経困難症と子宮内膜症、子宮がんについて学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
3	婦人科疾患の診断と治療	STD (HIV の母子感染も含む)、エストロゲン欠乏に関連する疾患 (更年期障害・尿失禁・骨粗鬆症) について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
4	正常な妊娠経過について	母体の生理的变化と正常な妊娠経過、妊娠の成立、妊娠期の身体的特性、胎児の発育について	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
5	正常妊娠	妊娠期：妊娠期間等の概要、母子手帳発行について、全身の変化、循環器系の変化、糖代謝の変化、呼吸器系の変化、泌尿器系の変化	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
6	妊娠の異常	妊娠期：妊娠高血圧症候群、流産・早産、胎児発育評価と IUGR、IUGR と将来の生活習慣病、胎盤機能の異常と IUGR、羊水の機能と生理 分娩期：児頭の下降、フリードマン曲線	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
7	妊娠期の異常	ハイリスク妊婦とは 妊娠期の異常：妊娠初期の異常 (妊娠悪阻、流産、異所性妊娠)、 妊娠中期 (多胎妊娠、早期産、切迫早産)、 妊娠後期 (前置胎盤、常位胎盤早期剥離) 妊娠期の感染症 (母子感染について、風疹、トキソプラズマ症、B型肝炎、C型肝炎、成人 T 細胞性白血病、パルボウイルス B19 感染症、B 群溶血性レンサ球菌感染症、梅毒、性器クラミジア、淋菌感染症、エイズ)	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
8	分娩期の異常	分娩期：陣痛発来について、胎位について、娩出力について、分娩監視装置について 分娩期の異常：産道の異常、微弱陣痛、過強陣痛、胎位の異常、胎児機能不全の診断について、帝王切開について	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
9	産褥・新生児の異常	産褥期：精神障害、マタニティブルー、エジンバラ産後鬱診断表について、新生児の異常：新生児仮死、新生児蘇生アルゴリズム、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
10	婦人科疾患、妊娠・分娩・産褥の異常	DVD 視聴、全体的まとめ (試験対策)	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
11	妊娠期の心理と社会的特性	1. 妊娠期の心理的变化 2. 親となる心理的变化と母性の心理を把握するための理論を学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
12	妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の看護	1. 妊婦検診の実際と妊娠経過のアセスメントについて学ぶ 2. 妊婦が受ける母性保健サービスと保健指導について学ぶ 3. マイナートラブルと対処について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
13	ハイリスク妊婦の看護	1. ハイリスク妊婦 (高年、若年、過剰	事前学習課題：テキストを読んでくる

		体重増加) 2. 異常妊娠 (感染症、妊娠高血圧症候群、血液型不適合など) 3. 合併症のある妊婦	事後学習課題：講義内容の復習
14	正常分娩の経過	1. 分娩の要素と機序 2. 分娩経過に伴う産婦の身体的変化 3. 分娩経過の胎児への影響 4. 分娩期の産婦・家族の心理的变化 5. 出生2時間までの新生児の生理	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
15	分娩期のアセスメントと看護	1. 分娩経過と産婦の健康状態のアセスメントと看護 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 3. 安全・安楽な分娩への援助 4. 胎児の健康状態のアセスメントと看護 5. 出生後2時間までの新生児のアセスメントと看護 6. 母子関係形成に向けての援助	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
16	ハイリスク分娩の看護	1. 分娩期の異常と看護 2. 産科手術と看護 3. 胎児・新生児の異常と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
17	褥婦の身体的変化	退行性変化と進行性変化について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
18	褥婦の心理・社会的変化	Rubin の母親への適応過程、家族の心理的变化について学ぶ。	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
19	産褥期の異常と看護 1	子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、会陰裂傷・会陰切開を行った褥婦、乳房にトラブルのある褥婦	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
20	産褥期の異常と看護 2	精神にトラブルのある褥婦、および新生児に問題がある褥婦の看護等について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
21	新生児の生理と看護	新生児の生理と看護について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
22	低出生体重児、高ビリルビン血症児の看護	低出生体重児のおこりやす問題と看護、ディベロップメンタルヘルスケア、高ビリルビン血症児：黄疸のリスク因子、検査、治療と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
23	帝王切開術と看護	帝王切開術を受けた褥婦のアセスメントと看護について学ぶ 母子分離、喪失感覚、悲嘆へのケアについて学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

関連科目 人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院
2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ルヴァ・ルービン母性論	新道幸恵他訳	医学書院
2	成人看護学⑨女性生殖器	末岡 浩	医学書院
3	病気がみえる vol.10: 産科		メディックメディア

評価方法 (基準) 定期試験、提出物、授業参加度等を見て総合的に評価する

学生へのメッセージ 母性看護学は妊婦だけではなく、女性の健康を支援する看護学です。そのために、夫をはじめとした家族も看護の対象となるなど、幅広い対象に看護を行います。本科目で学ぶ内容は身近な現象として想像することができます。「生命の始まりはいつか」「子どもを産めばすぐに親になれるのか」などのたくさんの問いを持って、楽しく真摯に学んで下さい。

担当者の研究室等 泉川孝子 (研究室 15)、福山智子 (研究室 13)、名草みどり (共同研究室 5)

備考

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Maternal Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	福山 智子, 泉川 孝子, 名草 みどり

授業概要・目的	<p>〈概要〉 母性看護学実習で、対象（妊産褥婦と新生児）を受け持つ時に必要な科学的思考と、母性看護技術について、講義、自己学習、グループワーク、実技演習を通して学びます。</p> <p>〈目的〉 マタニティサイクルにある女性が、心身共に健康な状態を維持・促進するために、科学的思考を用いて、一人一人に応じた看護を見出し、実践する方法を学ぶ。</p>
到達目標	<p>1) マタニティサイクルにある女性とその新生児が、健康な状態を維持・促進するための看護過程の方法について理解する。</p> <p>2) マタニティサイクルにある女性が、異常に移行した際に必要な看護について考えることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は、講義、自己学習、グループワーク、母性看護技術の実技演習で行います。</p> <p>個人およびグループの課題の内容、母性看護技術の実技演習の概要、評価方法については授業で全て説明します。</p> <p>母性看護技術演習は、ユニフォームを着用して母性小児・助産実習室で行います。</p>
科目学習の効果(資格)	母性看護学実習に向けて重要な科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	母性看護の看護過程に必要な理論を学ぶ	科学的看護論の概要について学ぶ(講義)	テキスト・配布資料で事後学習をする
2	母性看護の看護過程に必要な思考を学ぶ	看護問題の考え方について学ぶ(講義)	テキスト・配布資料で事前・事後学習をする
3	事例による看護過程の展開<情報化>	●オリエンテーションを受けて看護過程の展開と母性看護技術の演習について理解する。 ●紙面とDVDから事例の情報を整理する(講義)	3回目に配布する資料を参考に、自己学習で課題を完成させる
4	事例による看護過程の展開<アセスメント>	事例の情報をアセスメントする(講義と演習)	3回目に配布する資料を参考に、自己学習で課題を完成させる
5	母性看護技術演習(1)	第5回と第6回は2クラスに分かれて、2コマ続きで母性の技術演習を行う。(母性小児・助産実習室) 妊娠期:レオポルド触診法、子宮底と腹囲の測定、児心音の聴取 分娩期:分娩期の援助 産褥期:産褥子宮底の観察法、乳房タイプ別授乳時の抱き方、排気法	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
6	母性看護技術演習(2)	5回目と同内容	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
7	事例による看護過程の展開<看護問題の明確化>	アセスメントの結論を導きだして、看護問題を明確化する(講義と演習)	3回目に配布する資料を参考に、自己学習で課題を完成させる
8	母性看護技術演習(3)	第8回と第9回は2クラスに分かれて、2コマ続きで母性の技術演習を行う。(母性小児実習室) 新生児のバイタルサインの測定、沐浴法コットの環境整備	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
9	母性看護技術演習(4)	第8回と同内容	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
10	事例による看護過程の展開<看護計画の立案>	看護計画を立案する(講義と演習)	3回目に配布する資料を参考に完成させた資料を提出する
11	事例による看護過程の展開<看護計画の実践>	グループで考えた看護計画を、2クラスに分かれてロールプレイングで実施(発表)する	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
12	事例による看護過程の展開<看護計画の評価>	看護の評価と修正の必要性を考える(講義と演習)	3回目に配布する資料を参考に、自己学習で課題を完成させる
13	正常を逸脱した事例の看護計画を立案する	12回目に配布された紙面事例の看護計画を考える	12回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
14	正常を逸脱した事例の看護計画を発表する	2クラスに分かれて13回目の内容を発表する	12回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
15	退院支援と退院から1か月までの継続看護について考える	退院指導の種類、退院後1か月までの支援の必要性について学ぶ(講義)	テキスト・配布資料で事前・事後学習をする

関連科目 既習の専門基礎科目、専門科目は全て関連していますが、特に、人体の構造と機能、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰは大きく関連しています。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森恵美他	医学書院
2	系統看護学講座 母性看護学概論	森恵美他	医学書院	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	写真でわかる母性看護技術	小沢ひとみ編	インターメディカ
2	病気がみえる10巻 産科	医療情報科学研究所	メディックメディア	

	3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版
評価方法 (基準)	筆記試験、課題の進行・提出状況、授業態度を見て総合的に評価します			
学生への メッセージ	母性看護学援助論Ⅱは母性看護学実習をイメージした実践に近い科目です。課題は多いですが、既習の知識を整理しながら頑張りましょう。			
担当者の 研究室等	福山智子（研究室13）、泉川孝子（研究室15）、名草みどり（共同研究室5）			
備考				

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	泉川 孝子, 福山 智子, 名草 みどり

授業概要・目的	<p>概要</p> <p>妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、母親（父親）役割適応の過程を明らかにすることができる。 2. 周産期の母子とその家族に対して、安全・安楽に健康維持・増進（促進）について看護過程の展開ができる。 3. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚した行動ができる。 4. 各施設における母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす役割と地域連携を考えられる。 5. 生命の尊厳を認識し、対象となる母子とその家族を尊重し、倫理的配慮のある態度と言動がとれる。 																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則1グループ5名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。 2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもちに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。 3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。 4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。 5. 実習2日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。 6. 実習中は1組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。 7. 日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する 8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。 9. 最終週の水曜日前後には臨床側（病棟師長、指導者）に参加してもらい反省会を行う。 10. 最終週の金曜日は学内で、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、学びを共有する。 <p>留意点</p> <p>妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強いので、訪室時間や言動に注意をし、新生児は抵抗力がなため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に2つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内 <ul style="list-style-type: none"> 初日に実習のオリエンテーション、最終週木曜日は学内でテーマカンファレンスの資料を作成。金曜日、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを実施する。 2. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1組の褥婦とその新生児を2人の学生で情報を共有しながら受け持ち看護過程の展開をする。 2) 分娩があれば、産婦を受け持ち、産婦および新生児のケアを指導者と共に実施または見学する。 3) 新生児室実習は治療や要観察、新生児だけの入院の新生児で、スタッフの指導の下もとにケアを行う。 3. 外来実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師の妊婦健診を受ける妊婦の妊娠経過を把握し、健康診査に同行し、見学又は一部を実施する。 2) 助産師外来の妊婦健康診査に同行し、指導者の基に健康診査や保健指導を見学する。 3) 不妊外来、思春期外来、更年期外来などの特殊外来、学級活動の見学を行う。 4. カンファレンス <ol style="list-style-type: none"> 1) 一日の実習の振り返り、疑問点や困っていることの意味交換を行い、教員や指導者から助言を受ける。 2) 受け持ち事例に関連したテーマで全員が発表し、学びを共有する。 3) 学内で施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、実習目標に沿って、その評価や今後の課題をのべ、学びを共有する。 5. 事前事後学習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習で計画した実習内容に必要な知識や技術は事前に学習し、技術は習得しておく。また、実習での学びは自分で学習ノートを作り、復習しておく。 2) 実習で必要となる情報は、学生間で共有し、連携も取っておく。 6. 実習態度およびルール <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師・教員の助言は真摯な態度で受け止め、積極的に実習や学習に生かす。 2) 実習内容は事前にスタッフや教員に報告して助言や許可を得てから実施する。勝手に行動することは、禁止する。 3) 実習で知れた情報や実施内容は、適宜、看護師や教員に必ず報告する。 4) 対象に畏敬の念を持ち、対象の権利を尊重し、プライバシーの保護に努める。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の																	

研究室等	
備考	実習場所 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、JCHO 大阪病院、はるか助産院

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	泉川 孝子, 福山 智子, 名草 みどり

授業概要・目的	<p>概要</p> <p>妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、母親（父親）役割適応の過程を明らかにすることができる。 2. 周産期の母子とその家族に対して、安全・安楽に健康維持・増進（促進）について看護過程の展開ができる。 3. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚した行動ができる。 4. 各施設における母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす役割と地域連携を考えられる。 5. 生命の尊厳を認識し、対象となる母子とその家族を尊重し、倫理的配慮のある態度と言動がとれる。 																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則1グループ5名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。 2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもちに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。 3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。 4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。 5. 実習2日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。 6. 実習中は1組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。 7. 日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する 8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。 9. 最終週の水曜日前後には臨床側（病棟師長、指導者）に参加してもらい反省会を行う。 10. 最終週の金曜日は学内で、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、学びを共有する。 <p>留意点</p> <p>妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強いので、訪室時間や言動に注意をし、新生児は抵抗力がなため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に2つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内 <ul style="list-style-type: none"> 初日に実習のオリエンテーション、最終週木曜日は学内でテーマカンファレンスの資料を作成。金曜日、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを実施する。 2. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1組の褥婦とその新生児を2人の学生で情報を共有しながら受け持ち看護過程の展開をする。 2) 分娩があれば、産婦を受け持ち、産婦および新生児のケアを指導者と共に実施または見学する。 3) 新生児室実習は治療や要観察、新生児だけの入院の新生児で、スタッフの指導の下もとにケアを行う。 3. 外来実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師の妊婦健診を受ける妊婦の妊娠経過を把握し、健康診査に同行し、見学又は一部を実施する。 2) 助産師外来の妊婦健康診査に同行し、指導者の基に健康診査や保健指導を見学する。 3) 不妊外来、思春期外来、更年期外来などの特殊外来、学級活動の見学を行う。 4. カンファレンス <ol style="list-style-type: none"> 1) 一日の実習の振り返り、疑問点や困っていることの意味交換を行い、教員や指導者から助言を受ける。 2) 受け持ち事例に関連したテーマで全員が発表し、学びを共有する。 3) 学内で施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、実習目標に沿って、その評価や今後の課題をのべ、学びを共有する。 5. 事前事後学習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習で計画した実習内容に必要な知識や技術は事前に学習し、技術は習得しておく。また、実習での学びは自分で学習ノートを作り、復習しておく。 2) 実習で必要となる情報は、学生間で共有し、連携も取っておく。 6. 実習態度およびルール <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師・教員の助言は真摯な態度で受け止め、積極的に実習や学習に生かす。 2) 実習内容は事前にスタッフや教員に報告して助言や許可を得てから実施する。勝手に行動することは、禁止する。 3) 実習で知れた情報や実施内容は、適宜、看護師や教員に必ず報告する。 4) 対象に畏敬の念を持ち、対象の権利を尊重し、プライバシーの保護に努める。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の																	

研究室等	
備考	実習場所 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、JCHO 大阪病院、はるか助産院

科目名	精神看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	眞野 祥子

授業概要・目的	精神看護学の対象は、精神疾患を持つ人に限らず、あらゆる発達段階にある人々を含んでいる。本科目では、心の健康を保持・増進するために必要となる基本的な知識を学び、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。具体的には、精神看護学と精神保健の基本、現代社会におけるストレスと健康、精神医療・保健・福祉の歴史と法律、精神疾患を持つ人の実態、リエゾン精神看護について学習する。また、将来、看護職に就く者として自身の心の健康を保持・増進するための知識についても学習する。
到達目標	心の構造と機能について説明できる。 心の健康・不健康について説明できる。 現代社会の変化によって、私たちの心の健康にどのような影響があるか説明できる。 自分自身の心の健康を保つための知識を身につけ、実践することができる。 災害時などの状況において危機状況とその対応・予防について説明できる。 精神保健の概念について説明できる。 精神科看護師の役割について説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神看護学を身近に感じられるように、学生自身の経験や知識、健康に関するトピックスを活用し、メンタルヘルスの現状や問題点を概観し、心の健康・不健康について自分の言葉で考察できるようになることを目指す。また、精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、視聴覚教材や精神医療に関する映画などを補助的に活用して興味・関心を引き出し、イメージの促進を促していく。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促したい。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	精神看護学の基本	精神看護学の位置づけ、精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前：教科書①「第1章I～IV」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
2	心とは何か	精神力動的な考え方にもとづいて、心の構造と働きを理解する。	事前：教科書「第2章I」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
3	心の健康とは何か	心の健康―不健康について理解する。	事前：教科書①「第2章I～II」「第3章I～III」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
4	ストレスと健康	ストレスの概念、対処行動、危機介入、PTSDについて理解する。	事前：教科書①「第6章I～IV」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
5	暮らしの場と心の健康	現代社会に生きる人々の心の健康問題について、家庭、地域、学校の生活の場ごとに学習する。	事前：教科書①「第5章I～IV」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
6	ライフサイクルと危機	エリクソンの生涯発達理論、フロイトの精神的発達論について理解する。	事前：教科書①「第4章I」「第6章II」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
7	看護師のメンタルヘルス	バーンアウトとその対処法、看護職者の感情体験について理解する。	事後：授業内容を整理しておいてください。
8	自己理解	エゴグラムを用い、自分から見た自分と他者から見えている自分を知り、自分と他者との認識の違いから生じる不都合とその対処法について考える。	事後：授業内容を整理しておいてください。
9	精神保健医療福祉の歴史の変遷①	視聴覚教材を用い、精神保健医療福祉の歴史について理解する。	事後：レポートを作成し提出してください。
10	精神保健医療福祉の歴史の変遷②	欧米、日本の精神保健医療福祉の歴史と変遷について理解する。	事前：教科書①「第7章I～II」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
11	精神看護における法と人権擁護	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)について理解する。	事前：教科書①「第7章III～IV」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
12	精神障害者の現状と精神保健医療福祉施策の動向	自立と社会復帰、地域生活支援など、精神障害者の保健・医療・福祉の現状について理解する。	事前：教科書①「第7章V」、教科書②「第1章I」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
13	精神障害を持って生きる人の生活	精神障害者が置かれている社会的立場、偏見、社会生活を維持する上での困難について理解する。	事前：教科書②「第2章I」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
14	リエゾン精神看護	身体疾患を持つ患者の精神的健康、患者・家族の精神的健康について理解する。	事前：教科書②「第11章」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
15	精神看護学の動向と課題	認定・専門看護師制度、触法精神医療等について理解する。	事後：授業内容を整理しておいてください。

関連科目 精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健	佐藤 壹三	メヂカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤 壹三	メヂカルフレンド社	
3				

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験及びレポート、ワークシートを総合して判定する。なおレポート課題については授業の時に説明する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)			
備考	学生の理解度に応じてシラバスを変更することがある。			

科目名	精神看護学援助論 I	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子, 吉村 公一, 小笠原 一能

授業概要・目的	精神看護を实践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者―看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者―看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者―看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるロールプレイング、プロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者―看護師関係における自己の活用能力向上を目指す。 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す。また、精神科で行われている治療とその看護について学ぶ。 精神科医療における診断と治療の概念、精神疾患に関する病態、診断、回復過程、治療について精神医学の立場から学ぶ。
到達目標	援助的人間関係に関する理論を理解する。 援助的人間関係に関する技術を身につける。 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。 精神科救急で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。 各精神疾患の症状、診断、治療について理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、現場で働いている看護師による講義を取り入れ、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促す。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	援助的人間関係 (理論編)	患者―看護師関係の発展	事前:「第2章-I-C」「第2章-II・III」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
2	援助的人間関係 (実践編)	ロールプレイングの演習を通して、治療的援助としての患者―看護師関係について理解を深める。	事前:同上
3	援助的人間関係 (実践編)	プロセスレコードを用いた演習を行い、自己洞察を深める。	事前:「第2章-III-B」「第2章-V-B-2」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
4	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返りを行う。	
5	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前:「第4章-I-B-1・2」「第4章-I-C-3」「第7章-I-C」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
6	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前:「第4章-I-B-5」「第4章-I-C-7・8」「第7章-I-L」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
7	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前:「第4章-I-B-5」「第7章-I-J」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
8	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前:「第4章-I-B-4」「第4章-I-C-1」「第6章-I-C-1」「第7章-I-A・E」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
9	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前:「第2章-VII-D-1」「第4章-I-C-4」「第7章-I-B」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
10	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前:「第4章-I-B-5」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
11	精神科治療と看護 (1)	薬物療法を受ける患者の看護	事前:「第5章-III-A」「第8章III・IV」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
12	精神科治療と看護 (2)	精神療法、作業療法を受ける患者の看護	事前:「第5章-III-C、D」「第8章-V、VI」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
13	症状マネジメント力を高める支援	心理教育、SST、症状マネジメント	事前:「第5章-III-D-2」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
14	家族支援	精神障害者の家族心理や家族支援のあり方	事前:「第3章」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
15	精神科救急の実際	・精神科救急の現場で実践されている看護 ・精神科救急における看護師の役割・機能	復習をしておいてください
16	総論・外因性精神疾患	・精神疾患の診断体系、原因、症状、治療 ・外因性精神疾患	事前:「第1章」「第4章」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
17	うつ病・躁うつ病・統合失調症	うつ病、躁うつ病、統合失調症の症状、診断、治療等	事前:「第6章-I-A」「第6章-I-B」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
18	発達障害 (遅滞・LD・ADHD・ASD 他)	児童・青年期の精神障害の症状、診断、治療等	事前:「第6章-II-A、B」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。ください。
19	脳神経系と精神的治療	・精神疾患における脳神経の機能、 ・薬物療法	事前:「第5章-III」、概論で使用した教科書「精神看護学概論精神保健」の「第2章-I-B-4、5」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。

	20	精神科的治療Ⅱ、神経症性障害	・薬物療法、非薬物療法 ・神経症性障害の分類、症状、治療	事前：「第6章-Ⅱ-C」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	21	神経症性障害・心身症	神経症性障害の分類、症状、治療等	事前：「第6章-Ⅱ-C」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	22	パーソナリティ障害、依存・乱用・嗜癖	・パーソナリティ障害の分類、症状、治療等 ・依存症の症状、治療等	事前：「第6章-I-D」「第6章-I-G」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	23	摂食障害、てんかん、性関連、睡眠障害他	・摂食障害の症状、治療等 ・てんかんの類型、発作の種類、治療等	事前：「第6章-I-H」「第6章-Ⅱ-C」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	24		-	-
	25	-	-	-
	26	-	-	-
	27	-	-	-
	28	-	-	-
	29	-	-	-
	30	-	-	-
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三	メヂカルフレンド社
	2	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	合否は、定期試験及びワークシート、演習、演習時の課題を総合して判定する。 なおレポート課題については、授業の時に説明する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)、共同研究室4(吉村)			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 16～23回は外部講師による講義になる。日程(日程変更を含む)は追って連絡するので、注意深く掲示板の確認をすること。			

科目名	精神看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 智津子, 眞野 祥子, 吉村 公一

授業概要・目的	<p>本科目は、精神看護学概論および精神看護学援助論Ⅰで学んだ基本的な知識・技術をふまえたうえで、精神疾患と治療等を理解するとともに、精神疾患を有する対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。</p> <p>また精神看護学概論および精神看護学援助論Ⅰで学んだ基礎知識を活用しながら、ペーパーペーシェントによる看護過程の展開を行い、対象をアセスメントする技術と、必要な看護援助方法を理解する。</p> <p>さらに精神科救急における看護や、地域社会でその人らしく暮らすための支援体制について学ぶ。</p>
到達目標	<p>各精神疾患の症状、治療、看護援助方法について理解できる。</p> <p>ペーパーペーシェントを通して、対象にとって必要な看護援助方法が理解できる。</p> <p>精神科救急で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解できる。</p> <p>地域における精神保健福祉活動が理解できる。</p>
授業方法と留意点	<p>基本的には授業計画にそってスライドを用いながら講義を行う。一方的な講義にならないよう学生が発言する機会を設け、また精神疾患・精神症状や精神障害者への理解を深められるように視聴覚教材を活用する。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>看護師国家試験受験資格のための必修科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地域精神保健福祉活動の現状、他職種との連携 精神症状がセルフケアへ及ぼす影響のアセスメント	精神障害者の地域生活支援 オレム・アンダーウッド理論と活用法	事前：「第10章－Ⅱ」および事前に配布する資料で予習をしておいてください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
2	事例演習(1)	情報収集と整理	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してきてください。
3	事例演習(2)	情報収集と整理	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してきてください。
4	事例演習(3)	アセスメント	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してきてください。
5	事例演習(4)	看護計画立案と実践	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してきてください。
6	疾患による看護の特徴(1)	統合失調症(者)の理解と看護	事前：「第9章－G」を読んできてください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
7	疾患による看護の特徴(2)	気分障害(者)の理解と看護	事前：「第9章－H」を読んできてください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
8	疾患による看護の特徴(3)	神経症性障害(者)の理解と看護	事前：「第9章－I」を読んできてください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
9	疾患による看護の特徴(4)	人格障害・摂食障害(者)の理解と看護	事前：「第9章－JおよびN」を読んできてください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
10	疾患による看護の特徴(5)	アルコール依存および薬物依存(者)の理解と看護	事前：「第9章－E」を読んできてください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
11	疾患による看護の特徴(6)	身体合併症をもつ対象の看護、精神科救急	事前：「第9章－K」を読んできてください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
12	精神障害者(当事者)の理解	精神障害者(当事者)の語り	事前：これまでの授業内容を復習してきてください。
13	事例演習(5)	事例発表会①	事前：第6～12回までの授業内容を復習してきてください。
14	事例演習(6)	事例発表会②	事前：第6～12回までの授業内容を復習してきてください。
15	事例演習(7)	看護過程のまとめ	事前：第6～12回までの授業内容を復習してきてください。

関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学実習
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神看護学②精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三監修	メヂカルフレンド社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>合否は定期試験、グループ討議、事例発表会、レポート等を総合して評価する。</p>
学生へのメッセージ	<p>積極的に授業に参加してください。</p>
担当者の研究室等	<p>7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)、共同研究室4(吉村)</p>
備考	<p>学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。</p>

科目名	精神看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子, 吉村 公一

授業概要・目的	<p>【概要】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱでの学習をもとに、精神科病棟での精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p>【目的】 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 ・受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 ・精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1グループ5名編成とし、担当教員の指導を受ける。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、受け持ち対象者に適した看護過程の展開を行う。 6. 毎日カンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、互いの学びを共有する。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習期間】 2016年9月～12月の2週間</p> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は特定の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、振り返りを行う。 3. 治療効果を考慮して、学生主催のレクリエーションを企画・運営する。 <p>【事前学習課題】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習をしておくこと。特に統合失調症、うつ病、躁うつ病、精神保健福祉法、援助的人間関係に関しては必ず復習しておくこと。</p>																
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)、共同研究室4(吉村)																
備考	<p>【実習場所】 大阪府立精神医療センター、ハートランドしぎさん、大阪市立総合医療センター、京都府立洛南病院、宇治おうばく病院</p>																

科目名	精神看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子, 吉村 公一

授業概要・目的	<p>【概要】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱでの学習をもとに、精神科病棟での精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p>【目的】 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 原則として1グループ5名編成とし、担当教員の指導を受ける。 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 実習中は、受持ち対象者に適した看護過程の展開を行う。 毎日カンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、互いの学びを共有する。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習期間】 2016年9月～12月の2週間</p> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 学生は特定の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、振り返りを行う。 治療効果を考慮して、学生主催のレクリエーションを企画・運営する。 <p>【事前学習課題】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習をしておくこと。特に統合失調症、うつ病、躁うつ病、精神保健福祉法、援助的人間関係に関しては必ず復習しておくこと。</p>																
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)、共同研究室4(吉村)																
備考	<p>【実習場所】 大阪府立精神医療センター、ハートランドしぎさん、大阪市立総合医療センター、京都府立洛南病院、宇治おうばく病院</p>																

科目名	在宅看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 容子, 田中 結華

授業概要・目的	在宅看護の変遷を踏まえて、社会の変化と諸制度、人々の多様な価値観の変化、QOLの重視、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の目的を理解する。同時に、地域で生活しながら療養する人々とその家族・生活環境を理解し、療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基本的知識・技術・倫理観を学ぶ。在宅看護における社会資源及びチームケア・職種間の連携の在り方について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的と特徴の理解ができる。 2. 在宅看護を支える制度と在宅看護の変遷について理解ができる。 3. 在宅看護とケアマネジメント方法について理解できる <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の種類を理解する ・社会資源の活用方法と看護職の役割を理解する 4. 在宅療養者の家族を支援する必要性を理解する 5. 在宅看護過程の特性について理解する 6. 在宅療養生活に必要な支援・教育について知る <ul style="list-style-type: none"> ・対象別看護の概要を理解する 7. 継続看護について理解できる
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義を中心に進めていく予定である。教科書を用い、資料も配付する。在宅看護の方法としての訪問看護や他職種・他機関との連携、在宅ケアマネジメント方法などイメージが困難な学習には、DVDの活用、事例を用いて学習を進める。講義終了後は、講義資料やノート整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、次講義時間を活用する、あるいは教員の研究室の方に来るなど、その時の学びを大切に、主体的に学習に取り組むこと。事前・事後学習については、授業内で別途指示することがある。
科目学習の効果(資格)	患者の入院から退院・退院後の生活に向けて継続した看護に必要な基礎的知識を獲得をする領域でもある。在宅看護は、療養者の生活の場で展開される。したがって、医療・保健・福祉分野との連携に必要な知識・技術・倫理観について幅広く学ぶ機会である。臨床看護師としてだけではなく、地域社会における役割と認識を深め、社会のニーズに即した専門職のあり方を持つことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	訪問看護(在宅看護)の概念と歴史	地域における訪問看護(在宅看護)の概念、歴史を学ぶ。講義、および訪問看護の実際について動画視聴を行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
2	社会背景から考える訪問看護の役割と機能	在宅で療養する人々と社会背景および、訪問看護の役割について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
3	病院などの施設内看護と訪問看護(在宅看護)との連携: 切れ目のない看護を目指して	施設内看護と在宅看護を比較しながら、在宅看護の特性について、継続看護、在宅における医行為、チーム医療について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
4	在宅看護の法的基盤	介護保険、医療保険等、在宅看護の法的基盤や関連する制度について学ぶ。講義を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
5	在宅看護と倫理	在宅看護における倫理、特に療養者と家族の意志決定を支える看護について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
6	在宅療養者と家族への看護	療養者、および家族と看護介護家族の状況(家族の介護負担とその軽減)、家族に関する理論などから学ぶ。講義を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
7	地域包括ケアにおける在宅看護の役割、看護職の役割	地域包括ケア、および継続看護、チーム医療における看護職の役割を考える。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
8	訪問看護ステーションの看護	訪問看護ステーションの経営、看護管理、地域における役割について、ゲストスピーカーの講義によって学ぶ。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
9	在宅看護を支える社会資源の活用と多職種連携(1)	在宅看護を支える多様な社会資源と、その活用について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
10	在宅看護を支える社会資源の活用と多職種連携(2)	多職種との連携・協働の必要性とその方法について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
11	在宅看護を支える社会資源の活用と多職種連携(3)	在宅ケアにおける保健医療福祉チームについて学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
12	在宅看護におけるリスクマネジメントと感染管理	在宅看護における、リスク管理、災害への対応、感染管理について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
13	さまざまな療養者に対する在宅看護 1	在宅看護の実際について、事例を用いて学ぶ。要介護高齢者、認知症高齢者、終末期の療養者などの事例を取り上げる。講義、視聴覚教材、討議を行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
14	さまざまな療養者に対する在宅看護 2	在宅看護の実際について、事例を用いて学ぶ。神経難病をもつ療養者、精神疾患を持つ療養者、子どもの在宅療養などの事例を取り上げる。講義、視聴覚教材、討議を行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
15	在宅看護のまとめ	学びをまとめ、今後の在宅看護への展望を整理する。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。

関連科目	家族関係論 地域看護学 専門科目の概論のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア		メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	在宅看護技術（看護実践のための根拠がわかる）	正野逸子・本田彰子	メヂカルフレンド社
	2	在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版
	3			
評価方法 (基準)	小テスト・ レポート (10%) 定期試験(90%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	現在、我が国は少子化社会そして超高齢社会にあり、看護職の働く場は病院看護から在宅看護へ拡大されています。病院看護との違いは、療養者の「生活の場」で行う看護支援は、幅広い知識と創造力を更に求められます。短い時間で幅広い学習をすることになります。日々の学習(予習・復習)を大事にしましょう。講義中の質問は大歓迎です。15コマを通して在宅看護の理解に達します。欠席をしないように受講することが求められます。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 第8研究室 後閑容子、第9研究室 田中結華			
備考	不定期に、小テスト、レポートを行う。授業での発言や課題・討議等に取り組む姿勢も評価の対象とする。参考書は大いに参照すること。文献等は授業でも紹介する。			

科目名	在宅看護学援助論 I	科目名 (英文)	Home Care Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華, 後閑 容子, 山本 十三代, 坂本 結美子

授業概要・目的	在宅看護実践は、療養者の自宅に赴き「生活の場」で展開される。在宅療養者・家族の、健康、生活機能、およびQOLの維持・向上のための支援方法について学ぶ。具体的には、在宅看護に必要な面接技術、さまざまな発達段階や健康障害（神経難病、COPD、脳血管障害後遺症、精神疾患、終末期ケアなど）を持つ人への在宅療養支援について、事例を通じて理解する。また、在宅療養者に必要な日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術を理解する。
到達目標	1. 在宅看護に必要な面接技術について理解できる。 2. 在宅療養者に必要な日常生活援助技術について理解できる。 3. 在宅療養者に必要な医療処置技術を理解できる。 4. さまざまな発達段階や健康障害における在宅療養支援について理解できる
授業方法と留意点	講義と演習、グループワークにより授業を行う。テキストおよび配付資料、視聴覚教材を用いて理解を深める。基礎看護技術、および各看護で学ぶ看護技術を基盤として、在宅療養の場でどのように実践するかを深く考えて頂きたい。事例検討では、高度実践を専門的に行っている看護師を招いて学ぶ。授業へは主体的に取り組み、積極的に参加すること。各回にフィードバックカードの提出を求める。
科目学習の効果（資格）	在宅看護学実習に必要な技術、事例を学び、在宅看護学援助論IIでの学習に関連づける。また、入院患者の退院後の生活に向けて支援する際に必要な知識・技能を習得することにつながる。看護師国家試験受験のために、単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 在宅看護の場で必要な面接技術 (1)	在宅看護におけるコミュニケーションの特徴、面接技術、および訪問時のマナー・態度について学ぶ。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。 <事後課題>講義後のノート整理を行うこと?
2	在宅看護の場で必要な面接技術 (2) ?	在宅看護に必要な面接技術についてグループで演習課題に取り組む。	<事前学習>第1回授業の内容を復習すること。 <事後課題>グループワークの課題提出?
3	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (1)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例を用いてグループで取り組み、在宅での具体的援助方法について検討する。	<事前学習>事前に必要な看護技術について予習すること。詳細は授業時に指示する。 <事後課題>グループで事例検討に必要な作業を分担し、各自が行う。
4	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (2)	前回に引き続きグループで検討する。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題>グループで事例検討に必要な作業を各自分担し、次回の準備をすること。
5	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (3)	グループでの検討をまとめ発表準備をする。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題>グループで事例検討に必要な作業を各自分担し、次回の準備をすること
6	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (4)	グループでの検討をまとめ発表準備をする。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題>次回発表できるように準備すること。
7	在宅看護に必要な日常生活援助技術:グループ発表と討議 (1) ??	各グループで、検討した事例をもとに、在宅看護に必要な日常生活援助技術について発表し、質疑応答を行う。また、教員からもコメントする。	<事前学習>他のグループの取り上げた日常生活援助技術についてテキストで予習しておくこと <事後課題>各援助技術のポイントを整理しておくこと。
8	在宅看護に必要な日常生活援助技術:グループ発表と討議 (2)	各グループで、検討した事例をもとに、在宅看護に必要な日常生活援助技術について発表し、質疑応答を行う。また、教員からもコメントする。	<事前学習>他のグループの取り上げた日常生活援助技術についてテキストで予習しておくこと <事後課題>各援助技術のポイントを整理しておくこと。また、ピア評価を提出すること。 講義後、課題レポートあり
9	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>テキストで各技術を予習しておくこと。 <事後課題>各援助技術のポイントを整理しておくこと。
10	神経難病をもつ在宅療養者の看護	神経難病をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅人工呼吸器による呼吸療法についても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーによる講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
11	COPDをもつ在宅療養者の看護	COPDをもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅酸素療法、呼吸器リハビリテーションについても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーによる講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
12	認知症をもつ在宅療養者の看護	認知症をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。ゲストスピーカーによる講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
13	精神疾患をもつ在宅療養者の看護	精神疾患をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。ゲストスピーカーによる講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
14	終末期にある在宅療養者の	終末期にある在宅療養者の看護につい	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習し

	看護	て、事例に基づいて学ぶ。また、疼痛管理、看取りについても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーによる講義と討議を行う。	ておくこと。 〈事後課題〉 事例における援助のポイントを整理しておくこと。																
15	まとめ	まとめ 本授業科目での学びについてまとめる。	〈事前学習〉ノート、資料を整理しておくこと。 〈事後課題〉 授業全体を復習し、筆記試験に備えること。																
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学、家族看護学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 在宅看護論</td> <td>木下由美子</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>在宅看護技術（看護実践の根拠が分かる）</td> <td>正野逸子・本田彰子</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版	2	在宅看護技術（看護実践の根拠が分かる）	正野逸子・本田彰子	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版																
2	在宅看護技術（看護実践の根拠が分かる）	正野逸子・本田彰子	メヂカルフレンド社																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>よくわかる在宅看護</td> <td>角田直枝</td> <td>GaKken</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKken	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKken																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	講義・演習への参加態度 40%（フィードバックカード、グループワーク、レポート、発表、ピア評価も含める） 筆記試験 60%																		
学生への メッセージ	在宅看護では、患者のことを「患者」とは言いません。療養者あるいは訪問看護を利用する「利用者さん」と呼称します。在宅援助方法の原理原則は基礎看護技術と変わりませんが、療養者それぞれの生活があるように援助も百人百様の方法で援助を提供しなければなりません。看護のフィールドも変化・拡大しつつあります。頭を柔軟に学習に取り組んでください。																		
担当者の 研究室等	後閑容子 7号館 3階 第8研究室 田中結華 7号館 3階 第9研究室 山本十三代 7号館 3階																		
備考																			

科目名	在宅看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Home Care Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代, 後閑 容子, 田中 結華, 坂本 結美子

授業概要・目的	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰの既習知識を活用し、様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者への援助方法および家族を1単位とした看護過程の展開について学ぶ。 在宅における看護過程の展開の特徴と訪問看護の役割を述べることができる。 在宅で提供する援助技術が安全、安楽に実施できるための方法論、および系統的チームアプローチの実践について学ぶ。
到達目標	1. 在宅における看護過程の展開を理解できる 1) 事例に基づいて、情報収集の視点の必要性を理解できる 2) 対象を生活者として捉え、アセスメントする必要性を理解できる 3) 療養者、家族介護者に無理のない計画内容で立案できる 4) 計画内容の実践シミュレーションを計画できる(援助計画) 5) シミュレーションに沿った援助の実践と評価ができる 6) 看護計画の実践、評価から、適宜、修正することの必要性を理解できる 2. 既習の学習で修得した日常生活援助技術を、在宅という生活環境の中で、療養者、家族の身体的、精神的状況に応じて創意工夫して考えることができる。 3. 系統的チームアプローチについて理解できる。
授業方法と留意点	この授業は、演習科目です。以下のことを留意して受講してください。 ・事前学習、課題を通して講義内容の理解ができるようにしてください。 ・家族看護学で学んだジェノグラム、エコマップ、家族看護理論については理解しておくこと。 ・共同学習、グループ学習の場面が多くあります。個人の意見をもって参加できること、また、他者の意見に耳を傾けることが大切になる授業展開になります。
科目学習の効果(資格)	在宅看護学実習及び他領域実習に必要な「知識・技術・態度」を学ぶことができる。看護師国家試験学習のために知識の獲得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義: 家族を集合体とした看護過程の展開	事例紹介(COPDの療養者) 事例に基づいて①情報収集 ②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践⑤評価のプロセスの一連の流れを示す	看護過程の構成要素について復讐をしておくこと 事例については、提示した課題について自己学習して参加する
2	同上	同上 次回から検討する事例とグループと担当教員について発表する。 グループのリーダー、サブリーダーを決める。	事後学習課題について説明する。
3	演習: グループワーク(1) 情報の整理、全体像の把握、問題点の明確化	脳梗塞事例: 6グループ×6人 ALS事例: 12グループ×6人 教員(3人)別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、グループで情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	個人学習を必ずして参加する。 個人学習は授業終了後提出
4	演習: グループワーク(2) 同上	同上	同上
5	演習: グループワーク(3) 看護計画の立案、具体的援助計画の立案	個人学習を基に、グループで看護計画の立案、具体的援助計画の立案を行う。	個人学習を必ずして参加する。 個人学習は授業終了後提出
6	演習: グループワーク(4) 同上	同上	同上
7	演習: 中間発表 具体的な援助内容の決定と計画の修正	全体像、問題点、看護計画、具体的な援助内容(必要物品、手順、評価方法)について発表し、意見交換する。実演する援助内容についてグループ内で打ち合わせを行い実演へ向けて準備する。	発表運営は、学生が行う。 グループの援助計画を担当教員に提出
8	実演: 援助技術の改善と訪問看護の実際	前半、後半グループに分かれる。在宅、成人の実習室で援助計画に沿って、援助を実演し、グループ間で創意工夫をして、療養者にとって最良の援助について検討する(50分)。 訪問看護場面を想定し、バイタルサイン測定から援助、訪問終了の一連の流れを実演する(40分)。 実演をしていないグループは情報処理演習室で発表資料の作成を行う。	援助計画については、頭に入れて参加する。 準備や片付けは全員で行う。 グループで準備する物品は忘れないこと。
9	同上	同上	同上
10	演習: グループワーク(5) グループ発表「実演内容と評価」の準備	実演の評価を行う。 発表運営、発表時の役割について決定する。 情報処理演習室で発表資料をパワーポイントで作成する。	発表資料を担当教員に1部提出
11	演習: グループ発表「実演内容と評	担当教員ごとのグループ内で発表し意見交換する(1グループ10分程度)	発表は学生が運営する。時間厳守で行う。

	価																			
	12	<p>演習: グループワーク(6) チームアプローチの実際 サービス担当者会議</p>	<p>同事例に関わる社会資源をエコマップに起こし、それぞれの支援内容について討議し、発表する。</p>	<p>ジェノグラム・エコマップについて復習しておくこと。 在宅看護学概論で作成した「在宅ケアマネジメント」を持参すること。</p>																
	13	<p>演習: 個人ワーク(1) ロールプレイング(サービス担当者会議)の準備</p>	<p>社会資源の関係職種になり切り、教員が提示した問題について、思いや対応についてとサービス担当者会議に期待することをレポートする。</p>	<p>レポートは授業終了後提出</p>																
	14	<p>演習: ロールプレイング サービス担当者会議</p>	<p>在宅・成人の実習室に分かれ、各グループ内で関係職種になり切り、サービス担当者会議に出席する。問題解決につながるようすすめる(30分)。 サービス担当者会議終了後、演じた職種としての感想と訪問看護師の役割についてレポートする(60分)。</p>	<p>レポートは授業終了後提出</p>																
	15	<p>在宅看護学演習のまとめ 事例を用いた看護過程の展開と演習から学んだこと-意見交換-</p>	<p>在宅看護援助技術 地域で生活を支えるということ 家族、多職種との関わり方についてのまとめ</p>	<p>ロールプレイングでの感想や自分なりの意見を持って講義に参加する。 演習後のレポート課題について説明する。</p>																
関連科目	<p>家族関係学、家族看護学、地域看護学、在宅看護概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学実習、他領域の看護学、専門基礎科目</p>																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>根拠のわかる在宅援助技術</td> <td>正野逸子</td> <td>メジカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新版 在宅看護論</td> <td>木下由美子</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	根拠のわかる在宅援助技術	正野逸子	メジカルフレンド社	2	新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	根拠のわかる在宅援助技術	正野逸子	メジカルフレンド社																	
2	新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>写真でわかる訪問看護</td> <td>押川眞喜子</td> <td>インターメディカ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかる在宅看護</td> <td>角田直枝</td> <td>GaKKen</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>継続看護マネジメント</td> <td>長江弘子</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディカ	2	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen	3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディカ																	
2	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen																	
3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版																	
評価方法 (基準)	<p>グループでの学習成果(提出物)や個人課題の提出物、演習への参加姿勢(ピア評価)を含め点数評価;60点 演習を終えての課題レポート;40点</p>																			
学生への メッセージ	<p>演習中心(GW)に学習を進めていきます。 グループ学習は、個人の参加意識が学習成果に影響します。グループで取り決めた到達目標、自己役割を果たし在宅で療養する人に必要な看護の展開方法や必要な医療処置やセルフケアに必要な支援方法について学習しましょう。</p>																			
担当者の 研究室等	<p>後閑容子 7号館 3階 第8研究室 田中結華 7号館 3階 第9研究室 山本十三代 7号館 3階</p>																			
備考	<p>演習内容によっては、2コマ続きがあります。時間割の確認を怠らないことと全出席ができるように体調管理・生活管理をしてください。</p>																			

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 結華, 後閑 容子, 山本 十三代, 坂本 結美子

授業概要・目的	<p>実習目的 在宅で看護を必要としているあらゆるライフステージにある人々やその家族の生活の実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																		
到達目標	<p>到達目標 1)訪問看護ステーションの組織・機構の概要について述べられる。 2)地域看護における訪問看護の特性について述べられる 3)対象の健康上の問題について述べられる 4)対象に対する医療・福祉活動の実際について述べられる 5)対象およびその家族の生活の実際について記述できる 6)対象およびその家族に対する看護活動の実際について記述できる 7)対象およびその家族の尊厳と権利を尊重した態度、行動をとることができる</p>																		
授業方法と留意点	<p>1.看護学臨地実習要項をよく読み理解した上で、在宅実習要項で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。 2.実習オリエンテーションには、必ず出席する。 3.実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。 4.実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実際を見学/体験をする。 5.実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1.訪問看護ステーションで2週間(学内演習3日間、臨地実習7日間)の実習。 2.実習1日目は、直接実習施設に行くので事前に交通アクセスの把握が必要。 3.初日より、訪問看護師に同行し在宅療養者のご自宅へ行き看護の実際を学ぶ。 4.訪問は1日2ケース(2ケース×7日のうち1ケースを継続訪問する)。 5.2日目からの同行は基礎看護技術を用いて療養者にかかわれるように取り組む。 6.継続訪問の利用者に対しては、ケース把握(全体像)、問題点の明確化、看護計画の立案という流れを用いて在宅療養者や家族に対する必要な援助を考える。 7.他機関、他職種との協働の場面もあるので事前学習は確実にしておく。 8.実習施設の最終日には、指導者を交えたカンファレンスの実施。 9.学内最終日は、各施設ごとのプレゼンテーションを行い情報の共有と意見交換を行い在宅看護の理解を深める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2.3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2.3年次に用いた教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	2.3年次に用いた教科書																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>1.実習目標の達成度や実習態度を含めて評価 (実習への出席率によって目標の達成が困難な場合は確認・指導します)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。 在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>後閑 容子 7号館 3階 第8研究室 田中 結華 7号館 3階 第9研究室 山本十三代 7号館 3階 研究室</p>																		
備考	<p>体調管理に気をつける。</p>																		

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 結華, 後閑 容子, 山本 十三代, 坂本 結美子

授業概要・目的	<p>実習目的 在宅で看護を必要としているあらゆるライフステージにある人々やその家族の生活の実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																		
到達目標	<p>到達目標 1)訪問看護ステーションの組織・機構の概要について述べられる。 2)地域看護における訪問看護の特性について述べられる 3)対象の健康上の問題について述べられる 4)対象に対する医療・福祉活動の実際について述べられる 5)対象およびその家族の生活の実際について記述できる 6)対象およびその家族に対する看護活動の実際について記述できる 7)対象およびその家族の尊厳と権利を尊重した態度、行動をとることができる</p>																		
授業方法と留意点	<p>1.看護学臨地実習要項をよく読み理解した上で、在宅実習要項で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。 2.実習オリエンテーションには、必ず出席する。 3.実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。 4.実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実践を見学/体験をする。 5.実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1.訪問看護ステーションで2週間(学内演習3日間、臨地実習7日間)の実習。 2.実習1日目は、直接実習施設に行くので事前に交通アクセスの把握が必要。 3.初日より、訪問看護師に同行し在宅療養者のご自宅へ行き看護の実際を学ぶ。 4.訪問は1日2ケース(2ケース×7日のうち1ケースを継続訪問する)。 5.2日目からの同行は基礎看護技術を用いて療養者にかかわれるように取り組む。 6.継続訪問の利用者に対しては、ケース把握(全体像)、問題点の明確化、看護計画の立案という流れを用いて在宅療養者や家族に対する必要な援助を考える。 7.他機関、他職種との協働の場面もあるので事前学習は確実にしておく。 8.実習施設の最終日には、指導者を交えたカンファレンスの実施。 9.学内最終日は、各施設ごとのプレゼンテーションを行い情報の共有と意見交換を行い在宅看護の理解を深める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2.3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2.3年次に用いた教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	2.3年次に用いた教科書																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>1.実習目標の達成度や実習態度を含めて評価 (実習への出席率によって目標の達成が困難な場合は確認・指導します)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。 在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>後閑 容子 7号館 3階 第8研究室 田中 結華 7号館 3階 第9研究室 山本十三代 7号館 3階 研究室</p>																		
備考	<p>体調管理に気をつける。</p>																		

科目名	地域看護学	科目名(英文)	Community Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	後閑 容子

授業概要・目的	地域看護学の理念、対象(個人・家族・集団・コミュニティ)、活動の場の特性、法規、活動の展開方法、計画策定と実践などの概要の学習を通して、地域看護学の概念を理解し、看護の役割と機能を学習する。さらに、地域看護学の歴史的發展と現状、今後の課題を社会的現象とのかかわりを通して、地域において看護職が果たす機能や役割を考える。 また、地域保健における母子保健管理体系の学習と保健・医療・福祉との連携、看護職の役割を理解する。
到達目標	1. 地域看護学、公衆衛生看護学の対象、場、活動方法などを学び、地域看護学、公衆衛生看護学の概念を理解する。 2. 地域看護/公衆衛生看護の歴史を学ぶ。 3. ヘルスプロモーションと施策を理解する。 4. 地域保健活動において用いる理論、モデルを理解する。特に、地域診断、保健指導で用いるモデルを理解する。 5. 地域保健活動におけるグループ支援、組織活動などの、集団およびコミュニティーへの活動について理解し、看護職の役割を把握する。 6. 地域保健福祉計画、健康増進計画などをとおして、地域における各種保健政策を知る。 7. 地域看護における倫理を学ぶ。
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づき授業を展開する。授業に使用するテキストは「公衆衛生看護学.JP」、「国民衛生の動向」を使用し、授業に参加する学生には、予習を促すようにする。毎回、授業の振り返りを行い、さらに学生の質問と授業への感想、要望をとり、授業の内容と進め方に反映させる。 地域看護学における活動方法などは、実践例を用いた教材を作成し、学生が理解できるように工夫する。さらに、保健指導の方法では、集団や個別の指導方法を実践的に学ぶ機会を設けるなどして、学生の学習を助ける。
科目学習の効果(資格)	地域の理解、地域看護(保健師)の理解により、統合看護に繋がる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地域看護の概要	地域看護学、公衆衛生看護学の理念、活動の概要、活動の対象と場	健康とはどのような状態か、健康の定義とは何か、調べてまとめてください。2.公衆衛生看護学.JP3-13ページを読んでください。
2	地域保健活動の歴史	リアンワールドと公衆衛生看護活動、日本の保健師活動の特徴と歴史	公衆衛生看護学.JP22-37を読んでください。2.保健師の活動について書かれた本を紹介しします。	
3	ヘルスプロモーションと施策	プライマリーヘルスケア、WHOの活動、オタワ憲章、バンコク憲章、世界の健康と看護職の活動	ヘルスプロモーションに関する文献を読んでください。第1回授業時に渡します。	
4	地域診断と保健活動	地域診断の目的・意義を理解する 1.地域診断過程、2.コミュニティアズパートナーモデル、プリシード・プロシードモデル、3.地域保健活動でどのように地域診断を活用しているか、事例をとおして理解する。	地域診断に関するテキストの章を読んでください。	
5	プリシード・プロシードモデルと健康教育(1)グループディスカッション	プリシード・プロシードモデルを基に、食生活に関する健康問題を考える	プリシード・プロシードモデルについてテキストを予習する	
6	プリシード・プロシードモデルと健康教育(2)グループディスカッションと発表	プリシード・プロシードモデルを基に、食生活に関する健康問題を考える	グループ学習の発表の準備	
7	地域保健活動の方法	地域保健活動に用いる方法として、健康教育、健康相談、家庭訪問など、個人・家族、集団に対する活動方法の概要を学ぶ	公衆衛生看護学.JP、保健師と公衆衛生活動、公衆衛生活動の場、方法を予習する	
8	公衆衛生看護活動方法の実際	家庭訪問について学ぶ	事後学習として、家庭訪問のVTRを視聴し、保健師の行う家庭訪問の特徴と地域における看護活動に関してレポートを作成する。	
9	行動変容と保健指導	地域看護活動と行動変容モデル・看護活動モデル	自分の保健行動に関して評価します。事後学習としてまとめてください。	
10	保健信念モデル、保健行動のシーソーモデル	保健信念モデルの理解と、保健活動への活用	保健信念モデルの活用を考える。	
11	母子保健活動	母子保健の諸指標と保健師活動の概要 母子保健における地域の健康問題と保健活動 1.母子手帳と保健活動、2.こんにちは赤ちゃん事業、3.乳幼児健康診査・健康相談	自分の母子手帳を持ってきてください。	
12	地区組織活動	保健師活動と地区組織活動について、実際の活動例を基に学ぶ	事前に配布する資料を読んで予習してきてください。	
13	自助グループ支援	コミュニティにおける保健師活動、地域住民と健康意識、健康づくり、自助グループ育成への支援などについて理解する。	自助グループについて調べてみましょう。地域にはどのようなグループがあるでしょうか?	
14	地域看護管理	地域における保健医療福祉計画、事業計画などと保健師の役割	あなたの住んでいる市町村のHPから地域保健計画を探してみましょう。どのような計画がありましたか。あらかじめ調べて授業に参加しましょう。	
15	地域看護における倫理	個人情報保護と保健活動、保健活動における倫理的判断などを理解する。	あなたのご家族は健康診査の結果をどのように知りますか?保健師と関わりがあるかどうか、聞いてみましょう。	

関連科目	看護学概論 在宅看護学概論
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.JP第4版	荒賀直子、後閑容子編	インターメディカル
	2	国民衛生の動向(最新版)(8月頃発売予定です)	厚生統計協会	厚生統計協会

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	保健師業務要覧	日本看護協会監修	日本看護協会
	2	ヘンリー・ストリートの家	リリアン・ウォルド	日本看護協会出版会
	3			
評価方法 (基準)	<p>授業で紹介する保健師の活動記録に関する本や論文に関するレポート、講義中の質問に対する回答及び定期試験の結果を基に、総合的に評価する。 授業の欠席が多い場合は定期試験を受けることができない。 定期試験 (80%)、講義の参加状況 (10%)、レポート (10%)</p>			
学生への メッセージ	<p>地域看護学には公衆衛生看護学、在宅看護学、学校保健、産業看護などたいへん広い看護の活動の場が含まれています。本授業では、地域看護学とは何か、健康と看護とのかかわりを理解し、さらに、健康増進や健康づくり、疾病予防に関連する看護活動を広く学習します。看護学への導入とともに地域における看護活動の実際も理解できるように、事前・事後学習として出された課題をしっかりと学習してください。また、授業に出席することは、本科目にとって必須条件です。自身の健康管理に気をつけて、授業を休まないようにしてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室8 (後閑)			
備考				

科目名	家族看護学	科目名(英文)	Family Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 容子

授業概要・目的	看護職は患者とともに家族を看護の対象として、またチーム医療の構成員として協働する者と捉えて、看護を行う。本科目は、家族看護学の歴史や概念を理解し、家族を理解するための理論を学ぶ。さらに、実践の場において活用できるように、実際例を通して、家族への看護のアセスメント、計画、をとおして看護職の役割りを学ぶ。具体的には、家族看護過程に沿った展開を学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護学の概念を理解する。 2. 家族を理解するための理論を学ぶ。 3. 家族アセスメントモデルを理解する。 4. 家族看護過程を学ぶ。 5. 家族看護における看護者の役割りを学ぶ。
授業方法と留意点	講義及び演習を取り入れて、具体的に学習できるようにする。講義においては、既学習における学びをもとに、家族看護学における理論の学びを深め、さらに、実際例をとおして看護過程の展開を学ぶ。そのために、看護学の専門領域で学んだことを復習することを期待する。
科目学習の効果(資格)	看護学部3年生を対象とした授業科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	家族看護学とは何か	家族看護学の定義、目的 家族看護学に求められているもの	テキスト第1章を読んでくる
	2	看護学における家族の理解	わが国の家族 家族と健康	国民衛生の動向から、人口、世帯数、世帯構造の推移を学習
	3	家族と理論 1	家族発達理論	テキストの予習
	4	家族と理論 2	家族システム理論	テキストの予習
	5	家族と理論 3	家族ストレス対処理論	テキストの予習
	6	家族看護過程 1	家族看護アセスメント	テキストの予習
	7	家族看護アセスメント	ジェノグラム、エコマップの学習	事前配布資料の学習
	8	家族看護アセスメントモデル	カルガリアアセスメントモデル、等	事前配布資料の学習
	9	家族看護アセスメントモデル	フリードマン家族アセスメントモデル	テキスト予習
	10	家族看護アセスメントモデル	家族生活力量モデル、家族エンパワーメントモデル	テキスト予習
	11	家族看護の実際例を学ぶ 1	在宅療養の高齢者の家族への看護 グループ学習	配布資料の予習
	12	家族看護の実際例を学ぶ 2	在宅療養の高齢者の家族への看護 グループ学習 共有	グループ検討の資料
	13	家族看護の実際例を学ぶ 3	終末期看護の実際例 グループ学習	事前配布資料の予習
	14	家族看護の実際例を学ぶ 4	週末期看護の実際例 グループ学習 共有	グループ検討資料の確認
	15	家族看護学のまとめ	授業の振り返り 看護者の役割と援助姿勢	今までの振り返り

関連科目	授業中に紹介する
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	家族看護学 理論と実践	鈴木和子、渡辺裕子	日本看護協会出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	家族看護学 理論・実践・研究	村田恵子ほか訳	医学書院
	2	家族のケア 家族へのケア	上野千鶴子ほか	岩波書店
	3	長期療養を支える家族ケア	渡辺裕子	医学書院

評価方法(基準)	期末試験、グループ学習への参加の程度などを総合的に評価する。授業への欠席の多い場合、期末試験を受けることはできない。期末試験80%、グループ学習への貢献度20%を予定している。
----------	--

学生へのメッセージ	看護学実習に入る前に、家族は看護の対象であり、時には、患者への看護の協働者でもあることを理解し、実際の看護に活用できる学びを期待する。予習復習をすること、グループ学習への積極的な参加を期待する。
-----------	---

担当者の研究室等	教員研究室は7号館3階。
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	看護倫理	科目名(英文)	Nursing Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	鎌田 佳奈美

授業概要・目的	あらゆる対象や看護場面で遭遇する倫理的諸問題に対する感受性を高め、倫理原則や理論を用いて、倫理問題の解決に向けた姿勢を育む。
到達目標	1. 倫理理論、倫理原則、諸概念について理解する。 2. 倫理問題に関わる人々の立場や背景を理解し、考慮できる。 3. あらゆる側面から倫理的に判断する素地を身に付ける
授業方法と留意点	統合実習で各学生が体験した倫理場面を取り上げ、課題を見出す。1事例を選択し、各グループで課題の整理および倫理課題のアプローチ方法に基づき、倫理的課題の整理および検討を行う。各グループで検討した内容のプレゼンテーションを行い、学びを共有する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	倫理的課題の抽出	統合実習で各学生が体験した倫理場面についてグループで話し合い、課題を見出す	グループ検討
3	看護倫理とは倫理課題へのアプローチ	看護における倫理原則に基づくアプローチ法について	看護倫理における概念を調べておく 講義内容をまとめる
4	倫理課題へのアプローチの実際	各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する	課題についてグループワーク
5	倫理課題へのアプローチの実際	・各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する ・プロダクトを作成し発表の準備を行う	課題についてグループワーク
6	患者の権利尊重と倫理問題(基礎)	患者の権利擁護にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
7	老年患者の権利尊重と倫理問題(老年)	高齢者、認知症患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
8	慢性期成人患者の権利尊重と倫理問題(成人慢性)	慢性期にある成人患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
9	精神患者の権利尊重と倫理問題(精神)	精神疾患患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
10	生命の尊重と倫理問題(母性)	母体保護、出産をめぐる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
11	子どもと家族の権利尊重と倫理問題(小児)	子どもと家族にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
12	急性期成人患者の権利尊重と倫理問題(成人急性)	急性期にある成人患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
13	分娩・出産にまつわる倫理問題(助産)	遺伝子、生殖補助医療の現状と生命倫理の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
14	在宅療養者の権利尊重と倫理問題(在宅)	在宅療養者と家族にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
15	まとめ	看護師としての倫理的態度、看護観を明確にする	授業内に指示する

関連科目	生命倫理、看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、助産学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、在宅看護学概論、全看護学実習
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション内容の評価、授業態度を統合的に評価する。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	統合実習では、看護倫理の授業を意識し、倫理的な感受性を高めて下さい。 また、皆さんが体験した倫理場面に応じて検討、プレゼンテーションがなされるため、シラバス内容が変更する可能性があります。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館3階 鎌田、各実習担当教員他
------------	-------------------

科目名	看護教育学	科目名(英文)	Nursing Education
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹中 泉

授業概要・目的
看護教育制度の歴史の変遷や現状を知り、継続教育の必要性を理解し、教育方法や教育評価について学ぶ。具体的には、看護教育制度、看護教育課程、看護継続教育、看護教育学における倫理的基盤、看護教育方法、教育目標・計画等の立案および看護教育評価等に関する基礎的知識を学ぶ。

到達目標
(授業概要・目的と同じ)

授業方法と留意点
看護教育の歴史の変遷や現状に興味をもてるよう、社会背景の変化と比較しながら講義する。
看護教育課程は、社会のニーズを踏まえて構築されると同時に、国家資格を得るために必要不可欠な法的基盤との関係性について説明する。
看護職の自律について考え、自己の課題と将来展望について討議し、専門職として自己のキャリア形成に結び付けられるようにする。
教授学習過程は到達をめざす目標に向かって、何を教授する必要があるのか吟味し、内容に応じた方法論が必要であり、評価が次のステップの重要な指標となることをグループや全体で討議しながら理解できるよう展開する。また、これまでの学習経験を振り返ることにより、自己評価能力を高める必要性を自覚できるようにする。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護教育制度	看護教育の歴史の変遷と看護教育制度	事前学習：自分自身が看護を学ぶ場として大学を選んだ理由を説明できるように準備する。 事後学習：看護教育・看護学教育・看護教育学の定義を整理する。
2	看護教育課程	指定規則と看護学基礎教育課程の関係、カリキュラムデザイン	事前学習：保健師助産師看護師法における保健師助産師看護師学校養成所指定規則について読んで受講する。 事後学習：自身が学んできたカリキュラムを通して科目間の関連や履修の時間がどのように学習経験に影響しているか検討する。
3	生涯教育と看護継続教育	看護職としてのキャリア形成	事前学習：キャリアの定義を説明できるように準備する。 事後学習：自己のキャリア目標・ビジョンを表現する。
4	成人教育における学習理論	主体的・自発的学習	事前学習：学生生活の中でどのような場合に学習意欲が高まったか説明できるように準備する。 事後学習：自己の看護を学ぶことへの動機づけは何か考察する。
5	看護教育学における倫理的基盤	看護教育の場における倫理の重要性と倫理的問題	事前学習：看護を学ぶ過程で倫理の重要性を感じた状況を説明できるように準備する。 事後学習：看護教育の場における倫理的問題についての対策を整理する。
6	看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価(1)	教授学習過程、看護学教育における授業形態と授業方法	事前学習：講義・演習・実習それぞれの授業方法の特徴を説明できるように準備する。 事後学習：学習内容と授業形態の選択について整理する。
7	看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価(2)	看護学教育評価	事前学習：評価に関する自己の考えを説明できるように準備する。 事後学習：教育評価の意義について整理する。
8	看護教育学の課題と展望	看護教育学の学習内容の整理、看護教育学の課題と展望	事前学習：看護教育学の課題は何か説明できるように準備する。 事後学習：看護教育学の課題を整理し、展望についてまとめる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目
看護学概論、看護関係法規その他これまでに学んだ全ての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護教育学 第5版増補版	杉森みどり/舟島なをみ	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う	クレグ美鈴/池西悦子	南江堂
2				
3				

評価方法(基準)
定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。
定期試験 60%、課題・グループワーク 40%

学生へのメッセージ
看護職として成長することは、人として成長することである。今の自分に向き合い、自分自身について考え、自己の課題を明確にして取り組んでほしい。

担当者の研究室等
7号館・3階 25研究室 (竹中)

備考

科目名	国際看護学	科目名(英文)	International Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	竹中 泉

授業概要・目的	国際看護学は、地球上に生活するすべての人々の生活と健康、特に開発途上国の人々の健康問題をマイクロ・マクロの視点からとらえ、看護者として持つべき基礎的知識・態度・行動を育成することを目的とする。また異文化(多文化共生) 地域における保健・医療・看護の現状および在日外国人や海外在留邦人の健康・健康問題についても理解を深める。
到達目標	1. 国際看護の概念・意義について理解できる 2. 国際保健・看護活動にかかわる国際機関および活動について理解できる 3. 世界の人々、ことに開発途上国の人々の健康状況とプライマリヘルスケアの活動について理解できる 4. 異文化を考慮した看護活動について考察できる 5. 国際間の看護者間協力の必要性について理解できる 6. 世界の保健・医療・看護について概観する
授業方法と留意点	授業は講義の他、学習課題に基づいたグループワークなどを取り入れる。 テキスト使用およびプリント配布
科目学習の効果(資格)	「海外医療セミナー」を履修するための必須科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	国際社会の現状と看護の課題	・プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション ・国連ミレニアム開発目標 ・人間の安全保障	事前：テキスト第1章を読んで授業を受ける 提示された課題に取り組む 事後：関連するニュースを調べる
3	国際看護活動の範囲	・活動範囲 ・海外における看護活動	事前：テキスト第2章を読んで授業を受ける 提示された課題に取り組む 事後：関連するニュースを調べる
4	国際看護活動の推進	・国際援助・国際協力組織 WHO ・日本の国際協力活動 ODA、GO・NGO	事前：テキスト第3章を読んで授業を受ける 提示された課題に取り組む 事後：関連するニュースを調べる
5	国際看護活動の展開プロセス	・地域把握 ・プロジェクト ・実施のための評価	事前：テキスト第4章を読んで授業を受ける 提示された課題に取り組む 事後：関連するニュースを調べる
6	異文化理解と国際看護活動	・異文化理解 ・国際看護活動に必要な能力	事前：テキスト第5章を読んで授業を受ける 提示された課題に取り組む 事後：関連するニュースを調べる
7	国際看護活動の実際	・国際看護活動の側面 ・協力活動の実際 ・看護活動の実際	事前：テキスト第6章を読んで授業を受ける 提示された課題に取り組む 事後：関連するニュースを調べる
8	国際看護への興味関心	・海外で学ぶチャンス ・海外で看護職として働くチャンス	各自の関心のある内容についてまとめ、ディスカッションする
9	—	—	—
10	—	—	—
11	—	—	—
12	—	—	—
13	—	—	—
14	—	—	—
15	—	—	—

関連科目	公衆衛生学、地域看護学、文化人類学など
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護の統合と実践③国際看護学	田村やよい編	メディカルフレンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際保健医療学 第3版	日本国際保健医療学会編	杏林書院
2	国際看護・国際保健	丸井英二・森口育子・李節子 編	弘文堂	
3	開発と健康 ジェンダーの視点から	青山温子、原ひろ子、喜多悦子	有斐閣	

評価方法(基準)	定期試験40%、講義時間内小テスト、課題(40%)、グループワークなど(20%)の内容を総合して評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	本科目は選択科目であり、学生が主体的に授業に参加されることを希望します。 選択した学生数および学生のニーズにより授業内容・方法を変更することがあります。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 研究室25 竹中
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	海外医療セミナー	科目名(英文)	International Health Care Seminar
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 結華, 山本 十三代

授業概要・目的
 国際看護学を学んだ学生を対象に、実際に海外の臨床現場を訪れ、そこで行われている看護の実践について学ぶ。現地では病院見学・講義等を行い、看護・保健・医療をめぐる事情について学習する。日本とは異なる社会環境の中で実践されている臨床現場での学習を通して、日本の看護とそのあり方についても一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について考える機会とする。

到達目標

授業方法と留意点
 事前研修、海外研修、報告会をおこなう。

科目学習の効果(資格)
 -

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	-	渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設を見学し、また現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。	-
2	-	-	-
3	-	-	-
4	-	-	-
5	-	-	-
6	-	-	-
7	-	-	-
8	-	-	-
9	-	-	-
10	-	-	-
11	-	-	-
12	-	-	-
13	-	-	-
14	-	-	-
15	-	-	-

関連科目
 国際看護学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 事前学習、海外研修、報告会

学生へのメッセージ
 国際看護学を履修すること。
 事前学習課題を行い、現地での体験を学びにつなげられるようにすること。
 海外研修では自己の考えを表現し、研修内容を深まりのあるものにできるよう自ら働きかけること。
 報告会ではディスカッションにより、他者との意見交換を行い、自己の学びを意味づけること。

担当者の研究室等
 7号館3階25 竹中

備考
 なし

科目名	臨床看護学演習 I	科目名 (英文)	Clinical Nursing Practice I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子・神戸 美輪子・稲垣 美紀・吉川 有英・稲垣 範子・辻 琢己・青野 美里

授業概要・目的	<p>【授業概要】 看護学部学生と薬学部学生との共同演習を通して、医療職の専門性を尊重しつつ、役割分担と連携の必要性を理解し、各健康障がい看護の対象となる人々に関する情報を模擬カルテから読み取り、看護計画及び薬物治療計画の立案に必要な基本的知識と技術を学習する。</p> <p>【学習目的】 模擬カルテから対象の情報を読み取り、薬学部学生との共同演習を通して、それぞれの医療専門職の視点から明らかになった情報や問題点及び対策を共有し、チーム医療に貢献できる看護師に必要な基本的資質が修得できる。</p>
到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 提示された事例に関する様々な情報を模擬カルテから収集して、疾患と治療経過および心理的社会的背景といった対象の全体像を説明できる。 対象の情報をアセスメントし、医療上の問題と解決策を明らかにして、チームメンバーに提案できる。 自分の意見をわかりやすくチームメンバーに伝え、メンバーの意見を尊重し、積極的に効果的なグループ討議に主体的に参加できる。 看護師・薬剤師の医療専門職の役割を理解し、相手の立場を尊重したコミュニケーションを行うことができる。 演習を通して、対象を中心とする治療・看護計画について他職種と共通の理解をもつことの重要性や医療チームの協働・連携の必要性と方法を説明できる。
授業方法と留意点	<p>看護学部学生のみグループで模擬カルテからの情報収集、アセスメント、看護計画の立案、他職種との協働と連携について討議し、課題を作成する。薬学部学生と合同で互いの視点でまとめた事例発表を行い、その後、薬学部学生と合同でグループワークを行い、同じ模擬事例患者における多職種との協働と連携についての課題を作成する。合同グループワークの成果物を合同発表会で共有する。</p> <p>グループワークに積極的に参加すること。個人情報取り扱いについて留意すること。</p> <p>本演習は集中日程で実施するため、スケジュールや演習場所を間違わないように留意し、教員からの連絡(ポータル・掲示)は必ず確認すること。</p>
科目学習の効果(資格)	臨床実習でのカルテ読解が円滑になり、実習の学習効果の促進に貢献する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	演習の進め方・注意事項について説明する	看護の役割・機能や看護過程を中心とした看護の展開やその思考について、他の科目の学習を振り返っておく。 担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
2	カルテ読解演習 (1)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
3	カルテ読解演習 (2)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
4	カルテ読解演習 (3)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する	
5	カルテ読解演習 (4)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
6	カルテ読解演習 (5)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療の目標および目標達成のための課題を明確にする	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
7	カルテ読解演習 (6)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療の目標および目標達成のための課題を明確にする	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
8	カルテ読解演習 (7)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
9	カルテ読解演習 (8)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
10	カルテ読解演習 (9)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
11	カルテ読解演習 (10)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
12	カルテ読解演習 (11)	薬学部学生とのグループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
13	カルテ読解演習 (12)	薬学部学生とのグループ討議によって、他職種チームによる医療における協働と連携の在り方について考える	課題レポートの作成	
14	事例発表会 (1)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成	
15	事例発表会 (2)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成	

関連科目 成人看護学概論 I・II、成人看護学援助論 I・II、成人病態看護論、成人看護学援助方法、病理学総論、疾病治療論 I・II、薬物治療学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	関連科目で使用した教科書・参考書、資料など		
	2	病気がみえる Vol.2 循環器、Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌、Vol.8 腎・泌尿器科		メディックメディア
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート・課題成果物・参加態度から総合的に評価する。			
学生への メッセージ	臨地実習やその後の実践において必ず必要になる知識・技術を修得する機会です。積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室28 (松本)			
備考				

科目名	臨床看護学演習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Nursing Practice II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子, 白田 久美子, 竹下 裕子, 森谷 利香, 志戸岡 恵子, 堀 由美子, 菊田 真穂, 小森 浩二, 青野 美里

授業概要・目的	<p>《概要》 看護学生と薬学生との共同演習を通して、医療職の専門性を尊重しつつ、役割分担と連携の必要性を理解し、医療の対象となる人々に対して計画的かつ安定した医療に参画できるようになるために、検査・治療計画の標準化の必要性とクリニカルパス作成に対する看護師と薬剤師の関与を理解し、クリニカルパス作成に必要な基本的知識と技術を学習する。</p> <p>《学習目的》 薬学部学生との共同演習を通して、計画的かつ安定した医療の提供のための検査・治療の標準化の必要性およびそのツールとしてのクリニカルパスについて理解する。クリニカルパス作成における各医療職種役割と連携のあり方について理解し、チーム医療に貢献できる看護師に必要な基本的能力を修得できる。</p>
到達目標	<p>《一般目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計画的かつ安定した医療に参画できるようになるために、検査・治療計画の標準化の必要性について理解し、説明できる。 2. クリニカルパス作成およびパスに沿った医療の提供における各医療専門職の役割について理解し、説明できる。 3. クリニカルパス作成を通して、看護の視点に立った患者に有効な指導内容及び方法を他職種に提案できる。 4. 自分の意見をわかりやすくチームメンバーに伝え、メンバーの意見を尊重し、積極的に効果的なグループ討議に主体的に参加できる。 5. 看護師・薬剤師の医療専門職の特性を理解し、相手の立場を尊重したコミュニケーションを行うことができる。 6. 演習を通して、患者を中心とする治療・看護計画について他職種と共通の理解をもつことの重要性や医療チームおよび地域の関連機関との協働・連携の必要性と方法について説明できる。
授業方法と留意点	<p>薬学部学生と小グループを編成してグループワークを行い、課題を作成する。成果物は全体発表会にて共有する。グループワークには積極的に参加すること。</p> <p>本授業は集中日程で実施するため、スケジュールや演習場所を間違わないように留意し、教員からの連絡(ポータル・掲示)は必ず確認すること。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>臨地実習においてクリニカルパスが適応されている患者を担当することがある。そのため、実習の学習成果の促進に貢献する。</p>

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	クリニカルパスの概要・作成・評価(バリエーション)について(1)	授業テーマに関する講義
2		クリニカルパスの概要・作成・評価(バリエーション)について(2)	授業テーマに関する講義	講義内容の復習
3		クリニカルパスの概要・作成・評価(バリエーション)について(3)	演習に関するオリエンテーション	講義内容の復習 担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。
4		患者用クリニカルパス作成(1)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。 個人課題を作成する。
5		患者用クリニカルパス作成(2)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
6		患者用クリニカルパス作成(3)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
7		患者用クリニカルパス作成(4)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
8		患者用クリニカルパス作成(5)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
9		患者用クリニカルパス作成(6)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
10		患者用クリニカルパス作成(7)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
11		患者用クリニカルパス作成(8)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。 対象とする疾患に対する各職種のケアの在り方について討議する。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
12		患者用クリニカルパス作成(9)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。

			ついて患者用クリニカルパス作成をする。発表用資料を作成する。対象とする疾患に対する各職種のケアの在り方について討議する。	グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。個人課題を作成する。																
	13	発表 (1)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成																
	14	発表 (2)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成																
	15	発表 (3)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成																
関連科目	成人看護学概論 I II、成人看護学援助論 I II、病態看護論、成人看護学援助方法、病理学総論、疾病治療論 I II、薬物治療学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関連科目の教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	関連科目の教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	関連科目の教科書																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	レポート・課題成果物・参加態度から総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	臨地実習やその後の臨床実践において必要な知識・技術を修得する機会です。積極的に参加してください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 松本研究室 (28)																			
備考																				

科目名	災害看護論	科目名(英文)	Nursing in Disaster
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中山 由美、竹中 泉、佐久間 夕美子、森嶋 道子、京極 多歌子

授業概要・目的	災害を体験した対象者の心身の健康問題について理解するとともに、災害時の看護の役割、トリアージ方法、救命救急時の看護について学ぶ。具体的には、災害に対応できる看護の知識を養うために、災害の概念、災害看護の定義および被災者のメンタルヘルスなどについて学習する。また救命救急時の実際として、一次救命処置、二次救命処置、災害時のトリアージ方法について講義、演習を通して学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害および災害看護に関する基礎知識を理解する。 2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。 3. 災害サイクルに応じた看護支援活動と看護の果たす役割を理解する。 4. 心のケア、トリアージおよび救急救命等を理解する。 5. 個人の備えと地域防災を理解し、具体的な備えを検討できる。 6. 国際的視野での看護活動を理解する。
授業方法と留意点	講義や演習において、配布資料、教科書、ビデオなどを用いる。本講義は、具体的に災害看護を実践できる基礎知識を養うために演習や課題別グループワークなどをおこないますので、積極的に参加してください。
科目学習の効果(資格)	講義、演習およびグループワークを通して災害看護の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	災害および災害看護に関する基礎知識 災害時に看護が果たす役割と災害各期の看護活動	健康危機管理、災害の種類と各期などについて学ぶ。	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
3	災害時に必要な技術(トリアージの概念・方法・課題)	トリアージについて学ぶ。事例での振り分けを行い学びを深める。	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
4	災被災者の心理のプロセスとこころのケア等	被災者の精神的援助について学ぶ。	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
5	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。演習(グループワーク)	課題別学習したことをまとめておくこと。
6	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。演習(グループワーク)	課題別学習したことをまとめておくこと。
7	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。演習(グループワーク)	課題別学習したことをまとめ、発表の準備をすること。
8	災害の取り組みについて	演習の結果を発表する。	課題別学習した内容を発表し学びを共有する。
9	災害の取り組みについて	演習の結果を発表する。	課題別学習した内容を発表し学びを共有する。
10	国際災害看護活動	海外での災害看護活動の実際と課題について概説する。 非常勤講師：京極歌子	授業内容について復習すること。
11	国際災害看護活動	海外での災害看護活動の実際と課題について概説する。 非常勤講師：京極歌子	授業内容について復習すること。
12	災害時の援助について	演習：モデル人形を用いて、一次、二次救急救命措置、災害時の支援活動などについて学ぶ。	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。
13	災害時の援助について	演習：モデル人形を用いて、一次、二次救急救命措置、災害時の支援活動などについて学ぶ。	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。
14	災害時の援助について	演習：モデル人形を用いて、一次、二次救急救命措置、災害時の支援活動などについて学ぶ。	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。
15	災害時の援助について	演習：モデル人形を用いて、一次、二次救急救命措置、災害時の支援活動などについて学ぶ。	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。

関連科目	救急看護、臨床心理学、公衆衛生学および公衆衛生看護学
------	----------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	災害救護	勝見 敦・小原真理子編集	廣川書店
3			

評価方法(基準)	学期末試験 60%、授業参加状況 30%、演習時のレポート 10%で評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	災害が頻繁に起こっており、看護職者として支援の役割があると考えますので、災害への関心を持ってもらい、積極的に課題に取り組んで欲しいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館研究室2(中山由美)
----------	---------------

備考	12~15コマ目の演習は、中山、竹中、佐久間、森嶋が担当する。
----	---------------------------------

科目名	研究入門	科目名 (英文)	Introduction to Research
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子

授業概要・目的	<p>【参考】設置認可申請「授業科目の概要」</p> <p>研究とはまだ明らかになっていないことを明らかにするため、科学的手法を用いてデータを収集し、科学的推論によって仮説を検証する一連のプロセスである。本科目では、卒業研究を行う前に理解しておくべき研究についての基本的な事柄について学習し、受講者が研究とは何か、データをどのように収集するのか、集めたデータをどのように要約するのか、要約したデータをどのように解釈するのかなどのプロセスを踏まえて研究を行える能力を養う。また、研究倫理について学ぶ。</p>																																																																		
到達目標	研究の意義、目的、方法、プロセスなどを理解し、研究の基礎を習得する。研究倫理の意味と重要性を理解し、研究不正の重大性を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解を深める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>研究とは何か</td><td>研究の役割、種類、プロセス</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>2</td><td>研究テーマ (1)</td><td>研究テーマを見つける</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究テーマ (2)</td><td>リサーチ・クエスションと概念モデル</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>4</td><td>研究の倫理</td><td>研究実施に必要な倫理的配慮と科学的姿勢の重要性</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>5</td><td>文献の検索方法</td><td>文献検索の必要性と方法</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>6</td><td>量的研究の概要</td><td>研究の種類、研究デザイン、対象者の抽出</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>7</td><td>量的研究のデータ収集 (1)</td><td>質問票の目的、構成、作成方法</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>8</td><td>量的研究のデータ収集 (2)</td><td>質問票の作成</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>9</td><td>量的研究のデータ分析</td><td>データの入力と分析</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>10</td><td>質的研究の概要</td><td>研究の種類、データの収集・分析法</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>11</td><td>質的研究のデータ収集・分析</td><td>インタビューガイドとデータ分析</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>12</td><td>文献の読み方</td><td>文献の構造と内容</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>13</td><td>研究計画書の書き方</td><td>研究計画書の構成と内容</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>14</td><td>論文の書き方</td><td>論文の構成とまとめ方、引用文献、図表作成</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>15</td><td>研究発表</td><td>研究発表の準備と実践</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	研究とは何か	研究の役割、種類、プロセス	授業をよく聞くこと	2	研究テーマ (1)	研究テーマを見つける	授業をよく聞くこと	3	研究テーマ (2)	リサーチ・クエスションと概念モデル	授業をよく聞くこと	4	研究の倫理	研究実施に必要な倫理的配慮と科学的姿勢の重要性	授業をよく聞くこと	5	文献の検索方法	文献検索の必要性と方法	授業をよく聞くこと	6	量的研究の概要	研究の種類、研究デザイン、対象者の抽出	授業をよく聞くこと	7	量的研究のデータ収集 (1)	質問票の目的、構成、作成方法	授業をよく聞くこと	8	量的研究のデータ収集 (2)	質問票の作成	授業をよく聞くこと	9	量的研究のデータ分析	データの入力と分析	授業をよく聞くこと	10	質的研究の概要	研究の種類、データの収集・分析法	授業をよく聞くこと	11	質的研究のデータ収集・分析	インタビューガイドとデータ分析	授業をよく聞くこと	12	文献の読み方	文献の構造と内容	授業をよく聞くこと	13	研究計画書の書き方	研究計画書の構成と内容	授業をよく聞くこと	14	論文の書き方	論文の構成とまとめ方、引用文献、図表作成	授業をよく聞くこと	15	研究発表	研究発表の準備と実践	授業をよく聞くこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	研究とは何か	研究の役割、種類、プロセス	授業をよく聞くこと																																																																
2	研究テーマ (1)	研究テーマを見つける	授業をよく聞くこと																																																																
3	研究テーマ (2)	リサーチ・クエスションと概念モデル	授業をよく聞くこと																																																																
4	研究の倫理	研究実施に必要な倫理的配慮と科学的姿勢の重要性	授業をよく聞くこと																																																																
5	文献の検索方法	文献検索の必要性と方法	授業をよく聞くこと																																																																
6	量的研究の概要	研究の種類、研究デザイン、対象者の抽出	授業をよく聞くこと																																																																
7	量的研究のデータ収集 (1)	質問票の目的、構成、作成方法	授業をよく聞くこと																																																																
8	量的研究のデータ収集 (2)	質問票の作成	授業をよく聞くこと																																																																
9	量的研究のデータ分析	データの入力と分析	授業をよく聞くこと																																																																
10	質的研究の概要	研究の種類、データの収集・分析法	授業をよく聞くこと																																																																
11	質的研究のデータ収集・分析	インタビューガイドとデータ分析	授業をよく聞くこと																																																																
12	文献の読み方	文献の構造と内容	授業をよく聞くこと																																																																
13	研究計画書の書き方	研究計画書の構成と内容	授業をよく聞くこと																																																																
14	論文の書き方	論文の構成とまとめ方、引用文献、図表作成	授業をよく聞くこと																																																																
15	研究発表	研究発表の準備と実践	授業をよく聞くこと																																																																
関連科目	情報リテラシーⅡ、疫学・保健統計																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>楽しくなる看護研究</td> <td>上野栄一 出口洋二 一ノ山隆司</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	楽しくなる看護研究	上野栄一 出口洋二 一ノ山隆司	メヂカルフレンド社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	楽しくなる看護研究	上野栄一 出口洋二 一ノ山隆司	メヂカルフレンド社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、研究入門を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁 ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い 																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	看護研究Ⅰ	科目名(英文)	Nursing Research I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 容子, 鎌田 佳奈美, 赤井 由紀子, 泉川 孝子, 神戸 美輪子, 小崎 篤志, 小堀 栄子, 白田 久美子, 竹中 泉, 田中 結華, 松田 千登勢, 池田 友美, 稲垣 美紀, 竹下 裕子, 中山 由美, 松本 葉子, 眞野 祥子, 森谷 利香, 小川 宣子, 金原 京子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 但馬 まり子, 名草 みどり, 福山 智子, 宮本 雅子, 森木 ゆう子, 山本 智津子, 山本 十三代, 吉川 有葵

授業概要・目的	「研究入門」の学びをもとに、看護実践上の問題解決にむけ、看護研究の意義を理解し看護研究の実施(遂行)に必要な基礎的知識を習得するとともに、研究成果を活用して科学的に探究する基礎的能力を養う。																		
到達目標	1. 看護実践上の問題解決のために、研究成果を活用する意義を理解できる。 2. 研究方法の種類と基本的手法を理解できる。 3. 研究論文の検索、クリティークの方法を理解できる。																		
授業方法と留意点	看護研究の目的や研究方法、研究プロセス、研究手法、看護研究論文のクリティーク等について、担当教員のもとで学習する。これらの学びを4年次開講の「看護研究Ⅱ」に発展させる。 具体的な学習方法や課題、スケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項(ポータル・掲示等)を見落とさないように留意すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	第1回目 担当教員から看護研究をすすめる上で、研究倫理および研究不正防止について、詳細に説明を受ける。 第2回目以降 担当教員の指示を受け研究をすすめる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の達成状況および参加態度等に基づいて総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	看護研究ⅠとⅡは同じ教員が担当する。																		

科目名	看護研究Ⅱ	科目名(英文)	Nursing Research II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	後閑 容子, 鎌田 佳奈美, 赤井 由紀子, 泉川 孝子, 神戸 美輪子, 小崎 篤志, 小堀 栄子, 白田 久美子, 竹中 泉, 田中 結華, 松田 千登勢, 池田 友美, 稲垣 美紀, 竹下 裕子, 中山 由美, 松本 葉子, 眞野 祥子, 森谷 利香, 小川 宣子, 金原 京子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 但馬 まり子, 名草 みどり, 福山 智子, 宮本 雅子, 森木 ゆう子, 山本 智津子, 山本 十三代, 吉川 有葵

授業概要・目的	「研究入門」「看護研究Ⅰ」の学びをもとに、人や看護に対して関心や疑問をもち、それらを探究できるような研究的・倫理的態度と方法論を習得する。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、担当教員のもとで、研究計画書の作成、研究への取り組み、論文作成、発表を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人や看護に関する疑問を研究テーマにすることができる。 2. 研究計画書を作成できる。 3. 研究対象者に対し倫理的配慮ができる。 4. テーマに沿った研究への取り組みができる。 5. 研究成果を論文にすることができる。 6. 研究成果を発表できる。 		
授業方法と留意点	担当教員のもとで研究をすすめること。具体的な方法やスケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項（ポータル、掲示）を見落とさないように留意すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の指示を受け研究をすすめる。 ・研究における倫理的配慮について、担当教員から指導を受ける。 ・研究計画書を作成する。 ・研究計画書に沿って研究を実施する。 ・人を対象とする研究の場合は必ず研究倫理審査を受ける。 ・倫理審査を受けるため、指導教員から指導を受けて申請書類作成する。 ・論文作成時の不正について担当教員より説明を受ける。 ・研究結果に基づいて忠実に論文を作成し、発表する。 		
関連科目	「研究入門」「看護研究Ⅰ」		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	担当教員の指示を受けること	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	担当教員の指示を受けること	
	2		
	3		
評価方法(基準)	課題の達成状況および参加態度に基づいて総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	自ら積極的・計画的に研究をすすめて下さい。		
担当者の研究室等			
備考	看護研究Ⅰ・Ⅱは、原則として同じ教員が担当する。		

科目名	総合看護学演習	科目名(英文)	Seminar in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	後閑 容子, 泉川 孝子, 神戸 美輪子, 小崎 篤志, 小堀 栄子, 白田 久美子, 竹中 泉, 田中 結華, 松田 千登勢, 池田 友美, 山本 智津子

授業概要・目的	4年間の学習内容を総合的に振り返り、専門基礎科目、専門科目を統合して、横断的に学習する。また、学生自ら本学で学習した必要な知識を系統的に整理し、理解することで、看護を行う上での基盤を形成し、加えて、将来にわたり主体的に学習が継続できる力を養う。																																																																		
到達目標	1. これまでに学習した学習内容の知識を系統的に整理し、理解する。 2. 自ら主体的に学習を継続することができる。																																																																		
授業方法及び留意点	各専門科目をオムニバス形式で、講義および演習形式で実施する。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>人体の構造と機能</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>2</td><td>薬理学総論・薬物治療学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>3</td><td>病理学総論</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>4</td><td>疾病・治療論</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>5</td><td>公衆衛生</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>6</td><td>統合看護・関係法規</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>7</td><td>基礎看護学Ⅰ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>8</td><td>基礎看護学Ⅱ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>9</td><td>成人看護学Ⅰ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>10</td><td>成人看護学Ⅱ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>11</td><td>老年看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>12</td><td>在宅看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>13</td><td>母性看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>14</td><td>小児看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>15</td><td>精神看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	人体の構造と機能	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	2	薬理学総論・薬物治療学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	3	病理学総論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	4	疾病・治療論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	5	公衆衛生	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	6	統合看護・関係法規	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	7	基礎看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	8	基礎看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	9	成人看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	10	成人看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	11	老年看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	12	在宅看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	13	母性看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	14	小児看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	15	精神看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	人体の構造と機能	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
2	薬理学総論・薬物治療学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
3	病理学総論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
4	疾病・治療論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
5	公衆衛生	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
6	統合看護・関係法規	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
7	基礎看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
8	基礎看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
9	成人看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
10	成人看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
11	老年看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
12	在宅看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
13	母性看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
14	小児看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
15	精神看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
関連科目	全専門基礎科目、全専門科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>看護師国家試験高正答率過去問題集一でた!でた問</td><td>東京アカデミー</td><td>東京アカデミー</td></tr> <tr><td>2</td><td>看護学生スタディガイド</td><td>池西静江、石東佳子</td><td>照林社</td></tr> <tr><td>3</td><td>レビューブック</td><td>岡庭 豊</td><td>MADIC MADIKA</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた!でた問	東京アカデミー	東京アカデミー	2	看護学生スタディガイド	池西静江、石東佳子	照林社	3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた!でた問	東京アカデミー	東京アカデミー																																																																
2	看護学生スタディガイド	池西静江、石東佳子	照林社																																																																
3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA																																																																
評価方法(基準)	定期試験で評価する。 (但し、全ての臨時試験を受験しておくことを定期試験の受験要件とする)																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	各担当教員の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	統合看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	後閑 容子, 鎌田 佳奈美, 赤井 由紀子, 泉川 孝子, 神戸 美輪子, 白田 久美子, 竹中 泉, 田中 結華, 松田 千登勢, 池田 友美, 稲垣 美紀, 竹下 裕子, 中山 由美, 松本 葉子, 眞野 祥子, 森谷 利香, 小川 宣子, 金原 京子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 但馬 まり子, 名草 みどり, 福山 智子, 宮本 雅子, 森木 ゆう子, 山本 智津子, 山本 十三代, 吉川 有葵, 稲垣 範子, 岡田 純子, 亀田 直子, 坂本 結美子, 中山 祐一, 穂迫 享子, 森嶋 道子, 吉村 公一

授業概要・目的	<p>【授業の概要】 自らが関心のある看護専門領域(対象領域;基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、小児看護学領域、母性看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域)を選択し、指定の実習施設において実習を行う。</p> <p>【実習目的】 自らが関心のある看護領域において自己の課題解決を目指し、これまでに学習した看護を統合して、対象者の健康課題を明らかにするとともに、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働・連携し、必要な看護を考え提供するための能力を養う。また、その看護実践の基盤となる看護観と倫理観を育み、自己の課題の達成状況を評価し、さらなる看護実践能力と問題解決能力を高めるため、専門職業人として自己研鑽し続ける能力を身につける。</p>																
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践上の自己の課題を明確にし、その解決をめざして主体的に実習に取り組むことができる。 2. 既習の知識・技術・態度を統合して看護の対象者を全人的に捉え、健康課題を明らかにし、看護を実践できる。 3. 看護の機能と役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他の医療専門職者との協働・連携の必要性を説明できる。 4. 実習を通して、自らの看護に対する考えを深め、看護観を説明できる。 5. 倫理的視点で看護実践を捉え、人間の尊厳と権利を尊重した行動ができ、自らの倫理観を説明できる。 6. 生涯にわたり看護専門職者として成長し続けるために、自己の課題の達成状況および看護実践過程や方法を振り返ることを通して、主体的に自己研鑽に取り組む必要性を説明できる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習1日目は、学内において領域別にオリエンテーションを受ける。午後より、看護管理について受講する。 2. 実習2日目より、領域別臨地実習をおこなう(詳細については、各領域の実習要綱参照)。 3. 実習最終日は、学内において領域別に実習目標の達成の成果、学びを深める。 <p>【留意事項】 統合実習要綱を熟知し、実習に臨む。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	担当教員の指示をうけること。																
関連科目	専門基礎科目・専門科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容・態度・記録を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	これまでの学習内容を統合したまとめの実習です。自らの課題を克服できるよう目標を定め実習に臨んで下さい。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	周産期医学	科目名(英文)	Perinatal Medicine
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	杉本 有紀子, 田村 玲子, 担当者未定

授業概要・目的	最新の周産期医療現場で必須の知識を修得し、異常に対する診断および治療法を理解する。 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。演習では新生児蘇生を学ぶ
到達目標	1. 周産期医療で必須の知識を修得する。 2. 異常に対する診断および治療法を理解する。 3. 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。 4. 演習では縫合術と新生児蘇生(NCPR)を習得する。
授業方法と留意点	産科: 各自に割り振られたテーマを調べ、授業で発表。可能であれば実症例を提示してディスカッションを行う。実技練習も取り入れていきたい。 新生児科: テキストおよび配布するプリント等により授業を行います。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験に合格するとともに、実際の現場で異常を察知し対応できるために、知識ならびに手技・手法を身に付ける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	内分泌異常・不妊症	月経異常と排卵障害、月経随伴症候群と不妊症、不育症と漢方治療	事前なし	事後: 講義内容の復習
2	新生児の異常兆候	新生児の異常兆候(呼吸障害、嘔吐、けいれん、麻痺、黄疸、心雑音、なんとなく元気がない<not doing well>など)	事前なし	事後: 講義内容の復習
3	妊娠初期の異常	妊娠初期の異常(悪阻、切迫流産、流産、異所性妊娠、胎状奇胎) 実技: 縫合練習	事前なし	事後: 講義内容の復習
4	新生児の疾患-1	新生児の疾患-1(新生児仮死、呼吸異常、奇形、分娩外傷、感染症など)	事前なし	事後: 講義内容の復習
5	ハイリスク新生児とその対応	ハイリスク新生児とその対応(新生児蘇生、新生児挿管を含む)	事前なし	事後: 講義内容の復習
6	妊娠中期の異常	妊娠中期の異常(切迫早産、経管無力症、前期破水、妊娠高血圧症候群、HELLP症候群)	事前なし	事後: 講義内容の復習
7	妊娠後期の異常	妊娠後期の異常(Rh不適合妊娠、胎児の異常、胎児発育不全、羊水の異常)	事前なし	事後: 講義内容の復習
8	分娩期の異常-1	分娩期の異常-1(胎位異常、微弱陣痛、遷延分娩、前置胎盤、常位胎盤早期剝離、肩甲難産)	事前なし	事後: 講義内容の復習
9	ハイリスク新生児とその対応	ハイリスク新生児とその対応(低出生体重児・早産児を含む)	事前なし	事後: 講義内容の復習
10	分娩期の異常-2	分娩期の異常-2(産科救急: 分娩時出血、妊娠合併症、アナフィラキシー、意識消失)	事前なし	事後: 講義内容の復習
11	新生児疾患-2	新生児疾患?2(呼吸器疾患、分娩外傷、感染症、など)	事前なし	事後: 講義内容の復習
12	演習: 胎児心拍モニター図、縫合練習	演習: 胎児心拍モニター図、縫合練習	事前なし	事後: 講義内容の復習
13	産褥期の異常-1	産褥期の異常-1(子宮内反症、子宮破裂、羊水塞栓、産科的異常出血)	事前なし	事後: 講義内容の復習
14	妊娠合併症、合併症妊娠	妊娠合併症、合併症妊娠(感染症: HIV, HTLV, GBS, クラミジア、麻疹、ムンプス、リンゴ病。心疾患、腎疾患、免疫疾患)	事前なし	事後: 講義内容の復習
15	周産期のトピックス	周産期のトピックス	事前なし	事後: 講義内容の復習

関連科目 助産学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト 2015 改訂版	細野 茂春	メジカルビュー社
3	新生児学入門第4版	仁志田 博司	医学書院

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 産科: レポート作成、試験、実技で評価
新生児科: 講義内で行う小テスト等、および演習への参加意欲などにより評価します。

学生へのメッセージ 産科: 卒後は、疑問に思ったことは自学自習することが必要です。助産学異常編では、各自が調べ発表したものに、補足を加える形で進めていきたいと考えています。産科実技を行えるものは実技練習もできるだけ取り入れていく予定です。
新生児科: 正しい知識に基づいた、自ら考える医療を実践してくために、新生児時期の特徴的な疾患と病態を理解し学習しましょう。

担当者の研究室等 1号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	助産学概論	科目名(英文)	Introduction to Midwifery
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	赤井 由紀子, 宮本 雅子

授業概要・目的	この授業では、助産学の理論と助産学の発展のために必要な、助産ケアの実践能力の基礎への理解を深めます。そして、専門職として社会から期待される助産師の役割について考えていきます。
到達目標	助産学の理論を理解し、学んだ理論を助産ケアと関連づけて考えることができる。さらに、助産師の役割を認識することができる。
授業方法と留意点	講義とグループワークを中心に進めていきます。毎回の講義の振り返りをしてください。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産とは	助産とは何かを軸に、助産の起源、概念の変遷と社会的背景の関連について述べる。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
2	助産の概念	助産に関係する概念(リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダーなど)と、助産診断について概説する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
3	助産師の歴史と文化	助産の歴史、産育習俗について説明の後、課題の提示をする。	事前学習：なし 事後課題：講義の復習と課題を調べる
4	助産と法律	①助産師教育の変遷からの学びを深め、これからの助産師のあり方を考える。②助産師をとりまく法律について理解し、助産業務に関する法律について考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
5	助産学の理論	助産学を構成する理論について学習する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
6	日本と諸外国の母子保健－1	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
7	日本と諸外国の母子保健－2	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前学習：なし該当部分を読んでくる 事後課題：講義の復習と課題を調べる
8	助産師と倫理	今日の倫理的課題と助産師の役割・職業倫理	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
9	グループワーク 1	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス(DV含む)についてグループワークをする	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
10	グループワーク 2	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス(DV含む)についてグループワークをする	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
11	専門職としての助産師	専門職のあり方と助産業務について考える。 講師：日本助産師会会長 岡本喜代子	事前学習：発表できる準備 事後課題：講義の復習
12	専門職としての助産師	専門職のあり方と助産業務について考える。 講師：日本助産師会会長 岡本喜代子	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
13	グループワークの発表	グループ発表の内容から、我が国の助産師に期待されること、専門職としての課題について考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
14	助産と研究－1	エビデンスは助産ケアをよりよく行うための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
15	助産と研究－2	エビデンスは助産ケアをよりよく行うための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、周産期医学
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎助産学Ⅰ 助産学概論	我部山キヨ子 他	医学書院
2	基礎助産学〔2〕 母子の基礎科学〔第5版〕	我部山 キヨ子／武谷 雄二 編集	医学書院	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	試験60%、グループワーク・課題発表40%
------	-----------------------

(基準)	
学生へのメッセージ	助産師を目指す皆さんが「助産とはなにか」、「看護とどう違うのか」など、助産のあり方について考えていく科目です。助産師としての課題を明確にしていきます。
担当者の研究室等	7号館3階 赤井(研究室14)、宮本(研究室12)
備考	

科目名	助産診断・技術学Ⅰ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	赤井 由紀子

授業概要・目的	妊娠期の助産過程の展開を通して、助産診断に必要な知識と技術の基本を学ぶ。
到達目標	妊娠期の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理について考察する。また、健康問題を解決するために必要な相談、教育、援助技術の基本を理解する。
授業方法と留意点	学習方法は、グループワークを多く取り入れた内容です。積極的に意見交換をしてください。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後学習課題
1	助産診断とは	助産診断とは何か、助産診断の定義と範囲、助産診断類型について学ぶ	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
2	助産技術学の概要	助産技術の意義と助産診断学・助産技術学の理論構築について学ぶ	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
3	妊娠期の助産診断とは	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
4	妊娠期の助産診断指標について①	妊娠の健康生活診断・経過診断の指標にそって、診断指標を検討する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
5	妊娠期の助産診断指標について②	妊娠の健康生活診断・経過診断の指標にそって、診断指標を検討する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
6	妊娠期の助産診断指標について③	妊娠の健康生活診断・経過診断の指標にそって、診断指標を検討する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
7	妊娠期の助産過程の展開①	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
8	妊娠期の助産過程の展開②	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
9	妊娠期の助産過程の展開③	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
10	妊娠期の助産過程の展開④	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
11	妊娠期の助産過程の展開⑤	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
12	妊娠期の助産過程の展開⑥	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
13	妊娠期の助産過程の展開⑦	グループワークの発表	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
14	妊娠期の助産過程の展開⑧	グループワークの発表	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。
15	妊娠期の助産過程の展開⑨	グループワークの発表	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習。

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期	我部山キヨ子 他	医学書院
2	基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 [第4版]	村瀬 聡美/我部山 キヨ子 編集	医学書院	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	試験70%、グループワーク・課題発表30%
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	妊娠期の助産診断の特徴を理解し、事例の展開から助産診断について考えていきます。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 赤井(研究室14)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	助産診断・技術学Ⅱ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子, 赤井 由紀子

授業概要・目的	分娩期の助産過程の展開を通して、助産診断に必要な知識と技術の基本を学ぶ。
到達目標	産婦の安全・安楽な分娩のために必要な助産診断とケアを実践するための基本を学ぶ。 産婦の状況に応じたケアが実践できる知識と技術の基本について学ぶ。 また、異常の発生予測と予防的行動、異常発生時の観察と対処について学習し、産婦のケアと助産師の役割について考える
授業方法と留意点	教科書を用いた講義とグループワークを中心とする。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	分娩期の助産診断について	分娩期の助産診断の特徴と診断類型について	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
2	分娩期の助産診断とフィジカルアセスメント	分娩の経過診断とフィジカルアセスメント① 分娩開始の診断、産道の診断	事前：事前ワークシート、	事後：講義内容の復習
3	分娩期の助産診断とフィジカルアセスメント	分娩の経過診断とフィジカルアセスメント② 分娩時期の診断、分娩進行状態の診断	事前：事前ワークシート、	事後：講義内容の復習
4	分娩期の助産診断とフィジカルアセスメント	分娩の経過診断とフィジカルアセスメント③ 分娩進行状態の診断	事前：事前ワークシート、	事後：講義内容の復習
5	分娩期の助産診断とフィジカルアセスメント	分娩の経過診断とフィジカルアセスメント④ 胎児の診断、胎児附属物の診断	事前：事前ワークシート、	事後：講義内容の復習
6	分娩期の助産診断とフィジカルアセスメント	分娩の経過診断⑤分娩進行に伴う生理的变化への適応診断(産婦の心理的適応の診断、出産行動の診断、産婦の社会的適応の診断)、分娩予測	事前：事前ワークシート、	事後：講義内容の復習
7	産婦支援の基本	分娩進行に伴う産婦と家族のケア 自然な経膈分娩の介助 出生直後の母子接触 早期授乳の支援 産婦の分娩想起と出産体験理解への支援	事前：なし	事後：講義内容の復習
8	演習	診断結果と援助目標 援助計画立案	事前：なし	事後：講義内容の復習
9	演習	診断結果と援助目標 援助計画立案	事前：なし	事後：講義内容の復習
10	正常経過からの逸脱に対する助産診断とケアに必要な知識	異常発生時の観察と診断および行動 異常発生時の判断と必要な介入、正常範囲を超える出血への処置、子癇発作時の処置 骨盤位娩出術、急速逸脱術の介助 異常状態と他施設搬送の必要性の判断	事前：ワークシート	事後：講義内容の復習
11	正常経過からの逸脱に対する助産診断とケアに必要な知識	異常発生時の観察と診断および行動 異常発生時の判断と必要な介入、正常範囲を超える出血への処置、子癇発作時の処置 骨盤位娩出術、急速逸脱術の介助 異常状態と他施設搬送の必要性の判断	事前：ワークシート	事後：講義内容の復習
12	産科手術についての基本的知識	産科手術各論 分娩誘発・促進法、会陰切開・縫合術、クリステレル胎児圧出法、吸引逸脱術、帝王切開術、	事前：なし	事後：講義内容の復習
13	産科手術についての基本的知識	産科手術各論 分娩誘発・促進法、会陰切開・縫合術、クリステレル胎児圧出法、吸引逸脱術、帝王切開術、	事前：なし	事後：講義内容の復習
14	演習	①計画立案した事例を基に一連の流れを実施(グループワーク) ②分娩時緊急時の対応(グループワーク)	事前：計画書作成	事後：講義内容の復習
15	演習	①計画立案した事例を基に一連の流れを実施(グループワーク) ②分娩時緊急時の対応(グループワーク)	事前：計画書作成	事後：講義内容の復習

関連科目 母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断技術学演習、助産学実習、助産管理論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院
2	最新産科学 正常編 改訂22版	荒木勤	東京文光堂本郷	
3	最新産科学 異常編 改訂22版	荒木勤	東京文光堂本郷	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	試験 70%、グループワーク・課題発表 30%
学生への メッセージ	課題学習が多くあります。自己学習に努めてください。
担当者の 研究室等	7号館 3階 赤井(研究室 14)、但馬(研究室)
備考	教科書：改訂 2 版 胎児心拍数モニタリング講座 藤森敬也著 メディカ出版

科目名	助産診断・技術学Ⅲ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	宮本 雅子, 但馬 まり子

授業概要・目的	(概要) 褥婦・新生児経過の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理を学習する。分娩想起や褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦の復古促進や母子の愛着形成促進のためのケアが実践できるよう学習する。そして、母子とその家族を包括したケアの展開をめざし、新しい役割や家族システムの変化への支援を行うための知識・技術の基礎を学習する。また、新生児は正常な適応過程が診断でき、状況に応じたケアを学習する。 (目的) 産褥・新生児期の助産診断の特徴と、経過の助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる
到達目標	1. 産褥・新生児期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる 2. 褥婦・新生児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる 3. 産褥・新生児期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる 4. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる 5. 助産診断に基づいて個別指導案を立案できる
授業方法と留意点	講義およびレポート作成、助産過程と個別指導の発表
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格に関わる必修科目です

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	産褥・新生児期における助産診断の特徴を学ぶ	事前課題なし 事後課題は、助産診断指標の作成を開始する
2	産褥・新生児期の助産過程の展開	産褥・新生児期に必要な助産過程の展開の理論・内容・方法について学ぶ	事前課題なし 事後課題は、助産過程の展開を開始する
3	正常産褥期の助産診断	正常な産褥経過の助産診断について、身体的・心理的・社会的側面から考える。	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
4	正常新生児の助産診断	新生児の子宮外適応過程について学ぶ。生後1か月までの生理的変化について学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
5	母乳栄養確立への助産診断と援助	産褥期の進行性変化の助産診断、および母乳育児を促進する援助について学ぶ	事前課題は、助産診断指標の提出 事後課題は、授業の内容を振り返る
6	母子関係・家族形成過程と援助	母子関係形成・育児行動取得・家族形成と必要な援助について学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
7	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と援助	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と必要な援助について学ぶ。NICU・GCUと母子関係形成への援助について学ぶ。ディベロップメンタルケアについて理解する	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
8	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産過程と個別指導の発表の準備を行う
9	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産過程と個別指導の発表の準備を行う
10	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産過程と個別指導の発表の準備を行う
11	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(4)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	事前・事後課題 助産過程の展開と個別指導案、教材、発表の準備
12	発表とまとめ(1)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行うことにより、自己課題が明らかにする	事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返る
13	発表とまとめ(2)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行うことにより、自己課題が明らかにする	事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返る
14	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開まとめ(1)	各自の課題の基づき、助産過程の修正・追加を行い完成する	課題は、助産過程で作成した資料を全て提出する
15	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開まとめ(2)	各自の課題の基づき、助産過程の修正・追加を行い完成する	課題は、助産過程で作成した資料を全て提出する

関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 小児看護学概論, 小児看護学援助論Ⅰ, 小児看護学援助論Ⅱ, 地域看護学, 家族看護学, 精神看護学援助論Ⅰ, 産褥期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・	横尾 京子 編集	医学書院

		乳幼児期			
	2	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 医学書院	我部山 キヨ子 編集	医学書院	
	3	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健	我部山 キヨ子／毛利 多恵子 編集	医学書院	
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂
		2			
		3			
評価方法 (基準)	定期試験 60% 助産過程の展開・個別保健指導案立案・教材作成 30% 助産過程と保健指導発表、および課題提出 10%				
学生への メッセージ	助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や自己学習ノートを作成し、要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は授業開始から自主的に開始してください				
担当者の 研究室等	7号館3階 宮本(研究室12)				
備考	保健指導案, および教材は助産学実習で活用します				

科目名	助産技術学演習	科目名 (英文)	Practice in Midwifery Skills
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	宮本 雅子, 赤井 由紀子, 但馬 まり子, 穂迫 享子

授業概要・目的	<p>(概要) 助産師としてケアを提供するために必要な知識、技術、態度について助産診断・技術学の履修内容をもとに、演習を通して統合できる能力を養う。妊婦の診察技術、分娩助産技術、出生時の新生児処置技術、産褥期のケアである乳房マッサージ、褥婦及び新生児の診察について演習を通して学ぶ。助産師の行う業務として分娩助産とともに保健指導は重要な内容である。集団指導、家族指導（家庭訪問、1ヶ月健診時）の方法を演習を通して学ぶ</p> <p>(目的) 周産期に必要な母児の診察と処置技術、分娩助産技術、保健指導技術について助産の技法を学修する</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の知識と助産診断をもとに対象者への援助を実施できる 2. 妊産褥婦・新生児の診察と処置の助産技術を習得できる 3. 周産期の保健指導技術を習得できる 4. 分娩助産技術を習得できる 5. 対象者へのケアの提供に対する責任と敬意をもった態度で援助ができる
授業方法と留意点	演習を主に、妊産褥婦・新生児への助産技術、および集団指導、分娩助産演習を行います
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験、および助産学実習に関わる科目です

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	助産師に必要な保健指導について (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・集団指導と個別指導 ・指導案作成の基礎 ・集団指導時の媒体の使用方法 ・保健指導の実施と評価 	事前課題なし 授業で集団指導テーマ紹介とグループ分けをする 事後課題は保健指導案作成を開始する
2	助産師に必要な保健指導について (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導の実際 ・個別指導の実施と評価 	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る	
3	妊娠期の健康診査	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦のフィジカルアセスメント ・妊婦健診項目と診察技術 	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る	
4	出生直後の新生児の処置	<ul style="list-style-type: none"> ・出生直後の呼吸確立への援助 ・新生児のフィジカルアセスメント ・インファントウォーマーの機能と使用 ・母子のアタッチメントの技術 ・新生児の蘇生 	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る	
5	産褥・新生児期のケア	<ul style="list-style-type: none"> ・産褥・新生児期の診察技術 ・褥婦の退行性変化を促進するケア ・母乳確立への援助 	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る	
6	家庭訪問の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・産後の家庭訪問における指導技術 	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る	
7	思春期教育	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期教育の必要性 ・思春期教室の実際 	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る	
8	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教育 (母親教室後期) ・退院指導 (産後の生活と家族計画) ・育児指導 (新生児の観察と母乳育児) ・沐浴指導 	事前課題は集団指導案の作成 授業で、以下の準備を行う ・ 集団指導発表時は役割分担を決める ・ 資料や媒体 (教材) と発表の準備 事後課題は集団指導の発表の準備を行う	
9	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教育 (母親教室後期) ・退院指導 (産後の生活と家族計画) ・育児指導 (新生児の観察と母乳育児) ・沐浴指導 	事前・事後課題 集団指導案の作成と媒体作成 発表準備	
10	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教育 (母親教室後期) ・退院指導 (産後の生活と家族計画) ・育児指導 (新生児の観察と母乳育児) ・沐浴指導 	事前・事後課題 集団指導案の作成と媒体作成 発表準備	
11	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教育 (母親教室後期) ・退院指導 (産後の生活と家族計画) ・育児指導 (新生児の観察と母乳育児) ・沐浴指導 	事前・事後課題 集団指導案の作成と媒体作成 発表準備	
12	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教育 (母親教室後期) ・退院指導 (産後の生活と家族計画) ・育児指導 (新生児の観察と母乳育児) ・沐浴指導 	事前・事後課題 集団指導案の作成と媒体作成 発表準備	
13	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教育 (母親教室後期) ・退院指導 (産後の生活と家族計画) ・育児指導 (新生児の観察と母乳育児) ・沐浴指導 	事前・事後課題 集団指導案の作成と媒体作成 発表準備	
14	集団指導発表と討議 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教育発表 ・退院指導発表 	事前課題は指導案と発表用資料を完成させる 授業は以下のとおり行う ・ 発表 ・ 質疑応答 ・ 評価と修正 事後課題は、発表時のコメントをもとに修正し、指導案と資料を提出する	
15	集団指導発表と討議 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・育児指導発表 ・沐浴指導発表 	事前課題は指導案と発表用資料を完成させる 授業は以下のとおり行う ・ 発表 ・ 質疑応答	

				・評価と修正 事後課題は、発表時のコメントをもとに修正し、指導案と資料を提出する
	16	分娩介助技術演習(1)	・分娩介助手順と事例の配布 ・分娩介助デモンストレーション ・演習と分娩介助技術試験ガイダンス	事前課題なし 事後課題は分娩介助手順の根拠について各自レポートを作成する
	17	分娩介助技術演習(2)	・外陰部消毒：洗浄・清拭 ・清潔操作の基本操作の復習	事前学習は分娩介助手順の根拠レポート提出 事後課題は、授業の内容を振り返る
	18	分娩介助技術演習(3)	・外陰部消毒：洗浄・清拭 ・清潔操作の基本操作の復習	事前課題なし 事後課題は分娩介助手順の根拠について各自レポートを作成する
	19	分娩介助技術演習(4)	・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰切開時の対処 ・児娩出までの分娩介助法	事前学習は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
	20	分娩介助技術演習(5)	・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰切開時の対処 ・児娩出までの分娩介助法	事前学習は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
	21	分娩介助技術演習(6)	・臍帯巻絡の解除法 ・手鉗子法 ・分娩第3期までの分娩介助法	事前学習は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
	22	分娩介助技術演習(7)	・臍帯巻絡の解除法 ・手鉗子法 ・分娩第3期までの分娩介助法	事前学習は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
	23	分娩介助技術演習(8)	・肩甲難産時の体位と介助 ・分娩介助(全)	事前学習は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
	24	分娩介助技術演習(9)	・肩甲難産時の体位と介助 ・分娩介助(全)	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
	25	分娩介助技術演習(10)	・分娩体位と分娩介助法	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	26	分娩介助技術演習(11)	・複数の産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
	27	分娩介助技術演習(12)	・複数の産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
	28	分娩介助技術演習(13)	・複数の産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
	29	分娩介助技術演習(14)	・複数の産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
	30	分娩介助技術演習(15)	・複数の産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、地域看護学、家族看護学、精神看護学援助論Ⅰ、周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内 成子	医学書院
	2	食品80キロカロリーガイドブックー大きさ・量がひと目でわかる	香川芳子	女子栄養大学 出版部
	3	UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 「母乳育児成功のための10ヵ条」の実践	BFHI 2009 翻訳編集委員会 訳	医学書院
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験 30% 保健指導案・保健指導発表 30% 分娩介助技術試験 40%			
学生へのメッセージ	保健指導技術や分娩介助技術は助産学実習の実施項目です。自主的、積極的に学習してください			
担当者の研究室等	7号館3階 宮本(研究室12)			
備考	分娩介助技術、および保健指導案は助産学実習で活用します			

科目名	助産管理論	科目名(英文)	Midwifery Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	赤井 由紀子, 宮本 雅子

授業概要・目的	助産管理の概要及び運用に必要な基本概念(法的根拠やその内容、管理の原則)を理解し、管理者が果たす役割、助産における危機管理について学ぶ。
到達目標	助産管理の概要を理解し、助産における危機管理について理解する。 また、助産業務の行われる場の管理、業務の管理に必要な基礎的知識、さらに、産科医療の特徴と医療事故防止について理解を深める。
授業方法と留意点	実際の事例を通して、産科医療の特徴を学び、助産の場面での管理の在り方を考えていきます。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関連する必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産管理の基本概念とプロセスについて	マネジメントの定義とマネジメントサイクル、管理理論について学ぶ。	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
2	助産管理の概念	助産師の業務範囲、助産管理の特性と組織化について	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
3	助産と医療経済	医療保障制度と助産業務について、助産業務の診療報酬	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
4	関係法規と助産師の義務・責任について	助産業務に関連する法律について	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
5	周産期の医療事故とリスクマネジメントー1	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメント	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
6	周産期の医療事故とリスクマネジメントー2	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメント	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
7	周産期の医療事故とリスクマネジメントー3	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメント	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
8	助産所における助産業務管理	助産所の助産業務管理 柏助産院院長：柏悦子先生	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、助産学概論、周産期医学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学演習、助産学実習、統合実習
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座10 助産管理	我部山キヨ子 他	医学書院
2	新版 助産師業務要覧 第2版 [1基礎編]	福井トシ子	日本看護協会出版会
3	母子保健の主なる統計 平成27年度	公益財団法人母子衛生研究会編集	公益財団法人母子衛生研究会

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	試験：80点、グループワーク・課題発表：20点
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	助産師課程のまとめの講義です。目標とする助産師を目指すには、今、何を課題とすべきか考えていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	研究室14(赤井)
----------	-----------

備考	
----	--

科目名	助産学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Midwifery and Maternity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	11	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	赤井 由紀子, 宮本 雅子, 但馬 まり子, 穂迫 享子

授業概要・目的	<p>(概要) 妊婦、産婦、褥婦及び新生児とその家族への助産課程の展開を通して、助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。また、実践を通して個別的な援助方法について学び、医療・保健チームの中での助産師の役割や機能を考察する。そして、受け持ち事例を通して、地域におけるケア継続の必要性について理解を深め、地域における助産師の役割を考え、助産師としての職業アイデンティティの形成を図れる素地を養う。</p> <p>(目的) 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、助産診断・技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。実習を通して助産のあり方を考え、職業的アイデンティティの形成を図る。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦と新生児及びその家族に対して、助産過程を展開し、母子のニーズに応じた援助ができる。 2. 対象の人間性を尊重し、倫理的な態度や能力を習得することができる。 3. 助産活動を通じて、助産師としての役割と責任について理解できる。 4. 助産実践の向上、助産学の発展のため、常に主体的に学習する態度を養う。 																
授業方法と留意点	病院および助産所にて助産に関わる実習を行う																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	助産学実習要綱参照（継続実習、分娩介助実習、助産所実習）																
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、地域看護学、家族看護学、精神看護学援助論Ⅰ 周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ 助産技術学演習、助産管理論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	分娩介助技術、実習内容、実習態度、実習記録、出席状況を基にした実習目標の達成度を総合的に評価する。 詳細は、助産学実習要綱参照のこと。																
学生へのメッセージ	教材は、関連科目の教科書、参考書を用いて学習する。実習時は必要時紹介します。 少人数制で長期の実習となります。健康管理を十分行ってください。 チームワークをもちながらも、個々に主体的・積極的な態度で臨んでください。																
担当者の研究室等	7号館3階 赤井（研究室14）、宮本（研究室12） 但馬（研究室 ）																
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> ・病院：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、大阪府済生会野江病院、大阪市立総合医療センター、西川医院、大和郡山病院 ・助産所：ひまわり助産院、ゆう助産院、橋本助産院、柏助産院 2. 分娩介助実習では、分娩介助例数が10例に達するまで継続的に実習を行う 																

基礎科目

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	村木 美紀子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1: Summer Weight Gain	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示
	2	Unit 2: Sugar in Danger Useful expressions 1	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	3	Unit 3: Adult Diapers	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	4	Unit 4: Medical Robots	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	5	Unit 5: Coffee Drinking	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	6	Useful Expression 2, 3	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	7	Unit 6: How Emergency Rooms Work	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	8	Review	復習テスト 1	授業で提示します。
	9	Unit 7: Keep Your Heart Moving	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	10	Unit 8: Teens Light up E-Cigarettes Useful Expression 4	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	11	Unit 9: Curing Peanut Allergies	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	12	Unit 10: Cancer and Poverty Useful Expression 5	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	13	Unit 11: AED	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	14	Unit 12: Global Warming Useful Expression 6	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	15	全体のまとめ	復習テスト 2	授業で提示します。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Caregiver -New Edition-	近藤 進 他	Asahi Press (朝日出版社)
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	--	-------------------

学生へのメッセージ 辞書必携 語学は「継続は力なり」です。休まずに出席してください

担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。



科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	米田 繭子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	テキストの予習の仕方、授業の進め方、評価の方法などについて説明する。	
2	Unit 1: Cold, Flu and Folk Advice	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
3	Unit 2: Mask-wearing Significantly Boosts Flu Protection	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
4	Unit 3: Drinking Beer Could Provide Health Benefits	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
5	Unit 4: Alcohol, the 'Asian Flush' and the Risk of Cancer	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
6	Unit 5: Cancer May Soon Be World's Leading Killer	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
7	Unit 6: Insomnia	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
8	Unit 7: The Mystery of Dreams and Dreaming	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
9	Unit 8: Headache	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
10	Unit 9: Saving Preterm Babies with an Idea from Nature	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
11	Unit 10: Looking for New Uses for Spices in the Medical Lab	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
12	Unit 11: Feeling No Pain: The World of Anesthesia	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、まとめテスト等含む)
13	Unit 12: How Autoimmune diseases Attack the Body's Defenses: A Look at Lupus	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
14	まとめ	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
15	まとめテスト		次回の授業と小テストに向けて予習すること。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Caregiver -New Edition-	近藤 進 他著	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。辞書は必携。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	自己紹介	
2	病院内の様々な診療科	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
3	病院内の様々な診療科	冠詞の使い方、位置の説明	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
4	問診票の記入	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
5	問診票の記入	疑問詞、疑問文の作り方、用紙に記入する方法	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
6	身体パーツ	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
7	身体パーツ	時制 (現在進行形、現在形)、健康上の問題について説明する	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
8	病気の種類	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
9	病気の種類	過去時制、病気と症状を説明する	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
10	病院の日課	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
11	病院の日課	前置詞、休暇中にしたことを説明する	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
12	医療用品	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
13	医療用品	未来形、夏休みの予定を説明する	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
14	まとめと復習		指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
15	まとめと復習		指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ホスピタルイングリッシュ 2 Vital Signs 2 Reading and Writing</td> <td>Vivian Morooka</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ホスピタルイングリッシュ 2 Vital Signs 2 Reading and Writing	Vivian Morooka	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	ホスピタルイングリッシュ 2 Vital Signs 2 Reading and Writing	Vivian Morooka	南雲堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	沢田 美保子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション(授業の進め方、評価について) Unit 1: First Visit to a Hospital	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示
	2	Unit 2: How to Fill in a Registration Form	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	3	Unit 3: Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	4	Unit 4: Mr. Brown's Symptoms	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	5	Unit 5: Medical Check Up 1	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	6	Unit 6: Medical Check up 2	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	7	前半の復習	復習テスト1	授業で提示します。
	8	Unit 7: Mr. Brown's Diagnosis	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	9	Unit 8: Mr. Anderson's Symptoms	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	10	Unit 9: Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	11	Unit 10: Explaining Blood Test Results	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	12	Unit 11: How to Take Medicine	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	13	Unit 12: Mrs. Johnson Feels Dizzy	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	14	Unit 13: An MRI Test	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	15	全体のまとめ	復習テスト2	授業で提示します。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Aid! English for Nursing	Akihiko Higuchi, John Tremarco	KINSEIDO (金星堂)
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
学生への		

メッセージ	辞書必携
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 II	科目名 (英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	米田 繭子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション(授業の進め方、評価について)		
	2	Unit 1: First Visit to a Hospital	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	3	Unit 2: How to Fill in a Registration Form	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	4	Unit 3: Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	5	Unit 4: Mr. Brown's Symptoms	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	6	Unit 5: Medical Check up 1	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	7	Unit 6: Medical Check up 2	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	8	Unit 7: Mr. Brown's Diagnosis	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	9	Unit 8: Mr. Anderson's Symptoms	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	10	Unit 9: Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	11	Unit 10: Explaining Blood Test Results	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	12	Unit 11: How to Take Medicine	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	13	Unit 12: Mrs. Johnson Feels Dizzy	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	14	Unit 13: An MRI Test	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
		15	まとめテスト	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>First Aid! English for Nursing</td> <td>Akihiko Higuchi, John Tremarco</td> <td>KINSEIDO (金星堂)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Aid! English for Nursing	Akihiko Higuchi, John Tremarco	KINSEIDO (金星堂)	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	First Aid! English for Nursing	Akihiko Higuchi, John Tremarco	KINSEIDO (金星堂)													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。
担当者の研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室
備考	辞書必携 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語 II	科目名 (英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	医療品の収納場所	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	
	2	医療品の収納場所	未来をあらわす進行形、将来の自分を想像し、説明する	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	3	病院内を案内する	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	4	病院内を案内する	命令形、学校内にある特定の場所への行き方を説明する	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	5	病院の外を案内する	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	6	病院の外を案内する	能動態と受動態、学校の近くにある自分のお気に入りの場所への道順を教える	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	7	患者とおしゃべり	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	8	患者とおしゃべり	完了形、頻度を表す単語、趣味について質問する	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	9	既往歴を聴取する	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	10	既往歴を聴取する	過去形と現在完了形の違い、自分の既往歴を書き表す	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	11	病院での検査	音読、英文内容把握、英語による質疑応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	12	病院での検査	付加疑問文、付加疑問形を使って質問応答	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	13	まとめと復習		指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	14	まとめと復習		指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	15	まとめと復習		指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ホスピタルイングリッシュ 2 Vital Signs 2 Reading and Writing	Vivian Morooka	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果 (資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	複母音(3), 鼻母音(4), 子音(3), 子音(4), 子音(5)	発音編 3, 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
3	形容詞述語文, 副詞1, 変調, 文末助詞, 主述述語文, 自己紹介, 疑問詞疑問文	第1課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
4	会話1	第1課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
5	是構文, 副詞2, 構造助詞1, 指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞2, 副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第2課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
6	会話2	第2課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
7	動目構造, 動詞重畳, 文末助詞2, 副詞3, 二重目的語, 副詞4	第3課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
8	会話3	第3課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
9	数詞, 量詞1, 数詞2, 副詞5, 所有, 存在, 疑問代名詞2	第4課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
10	会話4	第4課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
11	数詞3, 曜日, 時間詞, 名詞述語文, 疑問代名詞3, 介詞1	第5課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
12	会話5	第5課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
13	方位詞, 不定代名詞, 量詞2, 動詞「在」, 副詞6, 指示代名詞2	第6課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
14	会話6	第6課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
15	第1課～第6課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること

関連科目	中国語
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (80%)、出席・授業態度 (20%) により総合評価する。
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。																																																																		
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。																																																																		
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>四声, 単母音, 子音(1), 複母音(1), 複母音(2), 鼻母音(1)</td> <td>発音編 1, 2</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>複母音(3), 鼻母音(4), 子音(3), 子音(4), 子音(5)</td> <td>発音編 3, 4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>形容詞述語文, 副詞1, 変調, 文末助詞, 主述述語文, 自己紹介, 疑問詞疑問文</td> <td>第1課 1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>会話1</td> <td>第1課 4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>是構文, 副詞2, 構造助詞1, 指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞2, 副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文</td> <td>第2課 1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>会話2</td> <td>第2課 4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>動目構造, 動詞重畳, 文末助詞2, 副詞3, 二重目的語, 副詞4</td> <td>第3課 1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>会話3</td> <td>第3課 4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>数詞, 量詞1, 数詞2, 副詞5, 所有, 存在, 疑問代名詞2</td> <td>第4課 1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>会話4</td> <td>第4課 4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>数詞3, 曜日, 時間詞, 名詞述語文, 疑問代名詞3, 介詞1</td> <td>第5課 1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>会話5</td> <td>第5課 4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>方位詞, 不定代名詞, 量詞2, 動詞「在」, 副詞6, 指示代名詞2</td> <td>第6課 1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>会話6</td> <td>第6課 4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第1課～第6課まとめ</td> <td>テスト</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	四声, 単母音, 子音(1), 複母音(1), 複母音(2), 鼻母音(1)	発音編 1, 2	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	2	複母音(3), 鼻母音(4), 子音(3), 子音(4), 子音(5)	発音編 3, 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	3	形容詞述語文, 副詞1, 変調, 文末助詞, 主述述語文, 自己紹介, 疑問詞疑問文	第1課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	4	会話1	第1課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	5	是構文, 副詞2, 構造助詞1, 指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞2, 副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第2課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	6	会話2	第2課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	7	動目構造, 動詞重畳, 文末助詞2, 副詞3, 二重目的語, 副詞4	第3課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	8	会話3	第3課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	9	数詞, 量詞1, 数詞2, 副詞5, 所有, 存在, 疑問代名詞2	第4課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	10	会話4	第4課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	11	数詞3, 曜日, 時間詞, 名詞述語文, 疑問代名詞3, 介詞1	第5課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	12	会話5	第5課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	13	方位詞, 不定代名詞, 量詞2, 動詞「在」, 副詞6, 指示代名詞2	第6課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	14	会話6	第6課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	15	第1課～第6課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	四声, 単母音, 子音(1), 複母音(1), 複母音(2), 鼻母音(1)	発音編 1, 2	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
2	複母音(3), 鼻母音(4), 子音(3), 子音(4), 子音(5)	発音編 3, 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
3	形容詞述語文, 副詞1, 変調, 文末助詞, 主述述語文, 自己紹介, 疑問詞疑問文	第1課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
4	会話1	第1課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
5	是構文, 副詞2, 構造助詞1, 指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞2, 副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第2課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
6	会話2	第2課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
7	動目構造, 動詞重畳, 文末助詞2, 副詞3, 二重目的語, 副詞4	第3課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
8	会話3	第3課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
9	数詞, 量詞1, 数詞2, 副詞5, 所有, 存在, 疑問代名詞2	第4課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
10	会話4	第4課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
11	数詞3, 曜日, 時間詞, 名詞述語文, 疑問代名詞3, 介詞1	第5課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
12	会話5	第5課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
13	方位詞, 不定代名詞, 量詞2, 動詞「在」, 副詞6, 指示代名詞2	第6課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
14	会話6	第6課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
15	第1課～第6課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
関連科目	中国語																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>摂南大学 中国語入門</td> <td>摂南大学外国語学部</td> <td>摂南大学外国語学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	定期試験 (80%)、出席・授業態度 (20%) により総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。																																																																		
担当者の研究室等備考	1号館2階 非常勤講師室																																																																		

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果(資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	会話 7	第 7 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
3	介詞 4, 動量詞, 了 1, 了 2, 了 1 了 2, 副詞 8	第 8 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
4	会話 8	第 8 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
5	状態補語, 介詞 5, 結果補語, 介詞 6, 副詞 9, 把字句	第 9 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
6	会話 9	第 9 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
7	第 7 課～第 9 課会話文から出題	復習 3	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
8	動態助詞「過」副詞 10, 動量詞 2, 副詞 11, 能願動詞 1	第 10 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
9	会話 10	第 10 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
10	能願動詞 2, 動量詞 3, 疑問代名詞 4, 能願動詞 3, 比較文, 能願動詞 4	第 11 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
11	会話 11	第 11 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
12	方向補語, 進行文, 接続詞 1, 疑問代名詞 5, 副詞 12	第 12 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
13	会話 12	第 12 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
14	第 10 課～第 12 課会話文から出題	復習 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
15	第 7 課～第 12 課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること

関連科目	中国語
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	撰南大学 中国語入門	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)により総合評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。																																																																		
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。																																																																		
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。																																																																		
科目学習の効果(資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>介詞3, 量詞3, 連動文, 選択疑問文, 副詞7</td> <td>第7課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>会話7</td> <td>第7課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>介詞4, 動量詞, 了1, 了2, 了1了2, 副詞8</td> <td>第8課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>会話8</td> <td>第8課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>状態補語, 介詞5, 結果補語, 介詞6, 副詞9, 把字句</td> <td>第9課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>会話9</td> <td>第9課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第7課～第9課会話文から出題</td> <td>復習3</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>動態助詞「過」副詞10, 動量詞2, 副詞11, 能願動詞1</td> <td>第10課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>会話10</td> <td>第10課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>能願動詞2, 動量詞3, 疑問代名詞4, 能願動詞3, 比較文, 能願動詞4</td> <td>第11課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>会話11</td> <td>第11課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>方向補語, 進行文, 接続詞1, 疑問代名詞5, 副詞12</td> <td>第12課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>会話12</td> <td>第12課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第10課～第12課会話文から出題</td> <td>復習4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第7課～第12課まとめ</td> <td>テスト</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	介詞3, 量詞3, 連動文, 選択疑問文, 副詞7	第7課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	2	会話7	第7課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	3	介詞4, 動量詞, 了1, 了2, 了1了2, 副詞8	第8課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	4	会話8	第8課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	5	状態補語, 介詞5, 結果補語, 介詞6, 副詞9, 把字句	第9課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	6	会話9	第9課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	7	第7課～第9課会話文から出題	復習3	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	8	動態助詞「過」副詞10, 動量詞2, 副詞11, 能願動詞1	第10課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	9	会話10	第10課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	10	能願動詞2, 動量詞3, 疑問代名詞4, 能願動詞3, 比較文, 能願動詞4	第11課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	11	会話11	第11課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	12	方向補語, 進行文, 接続詞1, 疑問代名詞5, 副詞12	第12課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	13	会話12	第12課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	14	第10課～第12課会話文から出題	復習4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	15	第7課～第12課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	介詞3, 量詞3, 連動文, 選択疑問文, 副詞7	第7課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
2	会話7	第7課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
3	介詞4, 動量詞, 了1, 了2, 了1了2, 副詞8	第8課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
4	会話8	第8課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
5	状態補語, 介詞5, 結果補語, 介詞6, 副詞9, 把字句	第9課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
6	会話9	第9課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
7	第7課～第9課会話文から出題	復習3	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
8	動態助詞「過」副詞10, 動量詞2, 副詞11, 能願動詞1	第10課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
9	会話10	第10課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
10	能願動詞2, 動量詞3, 疑問代名詞4, 能願動詞3, 比較文, 能願動詞4	第11課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
11	会話11	第11課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
12	方向補語, 進行文, 接続詞1, 疑問代名詞5, 副詞12	第12課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
13	会話12	第12課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
14	第10課～第12課会話文から出題	復習4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
15	第7課～第12課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
関連科目	中国語																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>摂南大学 中国語入門</td> <td>摂南大学外国語学部</td> <td>摂南大学外国語学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)により総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。																																																																		
担当者の研究室等備考	1号館2階 非常勤講師室																																																																		

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子

授業概要・目的
本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。

到達目標
まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。

授業方法と留意点
教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。

科目学習の効果 (資格)
韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書 基礎 1 課
	2	母音 1	基本母音	教科書 基礎 2 課
	3	子音 1	基本子音	教科書 基礎 3 課
	4	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 基礎 3 課
	5	母音 2	複合母音	教科書 基礎 4 課
	6	文字の確認	文字の確認	
	7	パッチム	終声について	教科書 基礎 5 課
	8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 基礎 6 課 p 3 0 - 3 1
	9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 基礎 6 課 p 3 2 - 3 4
	10	体言の平叙文	体言文 (平叙)	教科書 1 課
	11	体言の疑問文	体言文 (疑問)	教科書 2 課
	12	体言の否定文	体言文 (否定)	教科書 3 課
	13	復習	復習	
	14	総確認	総確認	
	15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る	

関連科目
韓国語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)
授業時に行われる複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
1号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子

授業概要・目的
本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。

到達目標
まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。

授業方法と留意点
教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。

科目学習の効果 (資格)
韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書 基礎 1 課
	2	母音 1	基本母音	教科書 基礎 2 課
	3	子音 1	基本子音	教科書 基礎 3 課
	4	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 基礎 3 課
	5	母音 2	複合母音	教科書 基礎 4 課
	6	文字の確認	文字の確認	
	7	パッチム	終声について	教科書 基礎 5 課
	8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 基礎 6 課 p 3 0 - 3 1
	9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 基礎 6 課 p 3 2 - 3 4
	10	体言の平叙文	体言文 (平叙)	教科書 1 課
	11	体言の疑問文	体言文 (疑問)	教科書 2 課
	12	体言の否定文	体言文 (否定)	教科書 3 課
	13	復習	復習	
	14	総確認	総確認	
	15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る	

関連科目
韓国語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)
授業時に行われる複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
1 号館 2 階 非常勤講師室

備考

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子

授業概要・目的
 前期に引き続き、韓国語の構造、文法と表現の特色を学習しながら、日常韓国語の運用（特に読む、書く）能力を養うことを目指す。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。

到達目標
 日常会話で使う基本的な表現を学んでいく。語尾表現を中心に習得し、簡単な文を作れるようにする。

授業方法と留意点
 教科書に基づいて文法説明を加えつつ、購読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。辞書を持参すること。

科目学習の効果(資格)
 韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			教科書	基礎
1	文字の復習	母音・子音の復習	教科書	基礎 2課～4課
2	パッチムの復習	パッチムの復習	教科書	基礎 5課
3	発音の復習	発音の復習	教科書	基礎 6課
4	数詞	固有数詞と漢数詞	教科書	9課・10課
5	用言文1	公的で固い表現の「です・ます」形1	教科書	4課
6	用言文2	公的で固い表現の「です・ます」形2	教科書	5課
7	用言文3	公的で固い表現の「です・ます」形3	教科書	7課
8	文法事項の確認	文法事項の確認		
9	用言文4	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形1	教科書	6課
10	用言文5	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形2	教科書	8課 p 82-86
11	用言文6	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形3	教科書	8課 p 87
12	助詞	助詞	教科書	172・173
13	文の作成練習	文の作成練習		
14	総確認	総確認		
15	韓国語の実際	韓国のドラマをみる。		

関連科目
 韓国語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)
 授業時に行う複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
 1号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子

授業概要・目的
 前期に引き続き、韓国語の構造、文法と表現の特色を学習しながら、日常韓国語の運用（特に読む、書く）能力を養うことを目指す。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。

到達目標
 日常会話で使う基本的な表現を学んでいく。語尾表現を中心に習得し、簡単な文を作れるようにする。

授業方法と留意点
 教科書に基づいて文法説明を加えつつ、購読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。辞書を持参すること。

科目学習の効果(資格)
 韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			教科書	基礎
1	文字の復習	母音・子音の復習	教科書	基礎 2課～4課
2	パッチムの復習	パッチムの復習	教科書	基礎 5課
3	発音の復習	発音の復習	教科書	基礎 6課
4	数詞	固有数詞と漢数詞	教科書	9課・10課
5	用言文1	公的で固い表現の「です・ます」形1	教科書	4課
6	用言文2	公的で固い表現の「です・ます」形2	教科書	5課
7	用言文3	公的で固い表現の「です・ます」形3	教科書	7課
8	文法事項の確認	文法事項の確認		
9	用言文4	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形1	教科書	6課
10	用言文5	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形2	教科書	8課 p 82-86
11	用言文6	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形3	教科書	8課 p 87
12	助詞	助詞	教科書	172・173
13	文の作成練習	文の作成練習		
14	総確認	総確認		
15	韓国語の実際	韓国のドラマをみる。		

関連科目
 韓国語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)
 授業時に行う複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
 1号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	日本語表現法	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	濱中 祐子

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 論理的な文章を書くスキルは、大学生活、また今後の社会生活に必要である。 この講義では、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 手紙文の基本を学び、実際に目上の人への手紙を作成する。
到達目標	作文・感想文とレポート・論文との違いを認識し、論理的な文章を書く力を身につける。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果(資格)	レポート・論文・手紙文の作成に必要な文章スキルを身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	教科書を復習する
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	教科書を復習する
4	「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ	講義	教科書を復習する
5	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
6	「要約1」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
7	「課題1フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	フィードバックと実践(要約文の作成)	教科書を復習する 返却した課題を見直す
8	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	教科書を復習する
9	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
11	【課題2】資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
12	「手紙1」 手紙の書き方の基本を学ぶ	講義	教科書を復習する
13	「手紙2」電子メールの書き方を学ぶ	講義	配布プリントを復習する
14	講義のまとめ 小テストの復習テスト	講義 復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む
15	「課題2フィードバック」 課題2を見直す 「手紙3」 手紙を書く	フィードバックと実践(手紙の作成)	返却した課題を見直す

関連科目	コミュニケーション論
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組み(提出物等により評価する)と小テストの復習テスト(30%) 100点満点中60点以上で合格 二回の課題の提出は必須
----------	---

学生への	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてもらいたい。
------	---

メッセージ	2回の課題は添削して返却するので、各自必ず見直すこと。 読書は、語彙力や文章力をアップさせるために重要である。日頃から読書の習慣を身につけておくこと。
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語表現法	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	濱中 祐子

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 論理的な文章を書くスキルは、大学生活、また今後の社会生活に必要である。 この講義では、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 手紙文の基本を学び、実際に目上の人への手紙を作成する。
到達目標	作文・感想文とレポート・論文との違いを認識し、論理的な文章を書く力を身につける。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果(資格)	レポート・論文・手紙文の作成に必要な文章スキルを身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	教科書を復習する
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	教科書を復習する
4	「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ	講義	教科書を復習する
5	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
6	「要約1」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
7	「課題1フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	フィードバックと実践(要約文の作成)	教科書を復習する 返却した課題を見直す
8	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	教科書を復習する
9	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
11	【課題2】資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
12	「手紙1」 手紙の書き方の基本を学ぶ	講義	教科書を復習する
13	「手紙2」電子メールの書き方を学ぶ	講義	配布プリントを復習する
14	講義のまとめ 小テストの復習テスト	講義 復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む
15	「課題2フィードバック」 課題2を見直す 「手紙3」 手紙を書く	フィードバックと実践(手紙の作成)	返却した課題を見直す

関連科目	コミュニケーション論
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組み(提出物等により評価する)と小テストの復習テスト(30%) 100点満点中60点以上で合格 二回の課題の提出は必須
学生への	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてもらいたい。

メッセージ	2回の課題は添削して返却するので、各自必ず見直すこと。 読書は、語彙力や文章力をアップさせるために重要である。日頃から読書の習慣を身につけておくこと。
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）
備考	

科目名	情報リテラシー	科目名(英文)	Information Literacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博

授業概要・目的	今日、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に行い、グループを作って互いにサポートし合いながら進める。情報セキュリティやモラルについて事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	PC、インターネットの基礎(2)	インターネット、電子メール、基本操作(2) 情報のセキュリティとモラル(2)	PCを使い慣れること
3	ワードの使い方(1)	Windowsの基礎、文書の作成(1) 情報のセキュリティとモラル(3)	PCを使い慣れること
4	ワードの使い方(2)	文書の作成(2) 情報のセキュリティとモラル(4)	PCを使い慣れること
5	ワードの使い方(3)	図表・グラフの作成、文書の作成(3) 情報のセキュリティとモラル(5)	PCを使い慣れること
6	パワーポイントの使い方(1)	プレゼンテーション資料の作成(文章) 情報のセキュリティとモラル(6)	PCを使い慣れること
7	パワーポイントの使い方(2)	プレゼンテーション資料の作成(図表) 情報のセキュリティとモラル(7)	PCを使い慣れること
8	パワーポイントの使い方(3)	プレゼンテーションの構成と方法 情報のセキュリティとモラル(8)	PCを使い慣れること
9	エクセルの使い方(1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)	PCを使い慣れること
10	エクセルの使い方(2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)	PCを使い慣れること
11	エクセルの使い方(3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)	PCを使い慣れること
12	エクセルの使い方(4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)	PCを使い慣れること
13	エクセルの使い方(5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)	PCを使い慣れること
14	エクセルの使い方(6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル(14)	PCを使い慣れること
15	まとめ	まとめの演習	PCを使い慣れること

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	実教出版	実教出版
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。
学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかりと学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
担当者の研究室等	7号館3階24
備考	

科目名	情報リテラシー	科目名(英文)	Information Literacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博

授業概要・目的	<p>今日、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に行い、グループを作って互いにサポートし合いながら進める。情報セキュリティやモラルについて事例を通して学ぶ。</p>																																																																		
到達目標	<p>コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>PC、インターネットの基礎(1)</td> <td>しくみ、機能、著作権、基本操作(1) 情報のセキュリティとモラル1(1)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>PC、インターネットの基礎(2)</td> <td>インターネット、電子メール、基本操作(2) 情報のセキュリティとモラル(2)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ワードの使い方(1)</td> <td>Windowsの基礎、文書の作成(1) 情報のセキュリティとモラル(3)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ワードの使い方(2)</td> <td>文書の作成(2) 情報のセキュリティとモラル(4)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ワードの使い方(3)</td> <td>図表・グラフの作成、文書の作成(3) 情報のセキュリティとモラル(5)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>パワーポイントの使い方(1)</td> <td>プレゼンテーション資料の作成(文章) 情報のセキュリティとモラル(6)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>パワーポイントの使い方(2)</td> <td>プレゼンテーション資料の作成(図表) 情報のセキュリティとモラル(7)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>パワーポイントの使い方(3)</td> <td>プレゼンテーションの構成と方法 情報のセキュリティとモラル(8)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>エクセルの使い方(1)</td> <td>データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>エクセルの使い方(2)</td> <td>表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>エクセルの使い方(3)</td> <td>図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>エクセルの使い方(4)</td> <td>グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>エクセルの使い方(5)</td> <td>エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>エクセルの使い方(6)</td> <td>データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル(14)</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>まとめの演習</td> <td>PCを使い慣れること</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	PC、インターネットの基礎(1)	しくみ、機能、著作権、基本操作(1) 情報のセキュリティとモラル1(1)	PCを使い慣れること	2	PC、インターネットの基礎(2)	インターネット、電子メール、基本操作(2) 情報のセキュリティとモラル(2)	PCを使い慣れること	3	ワードの使い方(1)	Windowsの基礎、文書の作成(1) 情報のセキュリティとモラル(3)	PCを使い慣れること	4	ワードの使い方(2)	文書の作成(2) 情報のセキュリティとモラル(4)	PCを使い慣れること	5	ワードの使い方(3)	図表・グラフの作成、文書の作成(3) 情報のセキュリティとモラル(5)	PCを使い慣れること	6	パワーポイントの使い方(1)	プレゼンテーション資料の作成(文章) 情報のセキュリティとモラル(6)	PCを使い慣れること	7	パワーポイントの使い方(2)	プレゼンテーション資料の作成(図表) 情報のセキュリティとモラル(7)	PCを使い慣れること	8	パワーポイントの使い方(3)	プレゼンテーションの構成と方法 情報のセキュリティとモラル(8)	PCを使い慣れること	9	エクセルの使い方(1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)	PCを使い慣れること	10	エクセルの使い方(2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)	PCを使い慣れること	11	エクセルの使い方(3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)	PCを使い慣れること	12	エクセルの使い方(4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)	PCを使い慣れること	13	エクセルの使い方(5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)	PCを使い慣れること	14	エクセルの使い方(6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル(14)	PCを使い慣れること	15	まとめ	まとめの演習	PCを使い慣れること
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	PC、インターネットの基礎(1)	しくみ、機能、著作権、基本操作(1) 情報のセキュリティとモラル1(1)	PCを使い慣れること																																																																
2	PC、インターネットの基礎(2)	インターネット、電子メール、基本操作(2) 情報のセキュリティとモラル(2)	PCを使い慣れること																																																																
3	ワードの使い方(1)	Windowsの基礎、文書の作成(1) 情報のセキュリティとモラル(3)	PCを使い慣れること																																																																
4	ワードの使い方(2)	文書の作成(2) 情報のセキュリティとモラル(4)	PCを使い慣れること																																																																
5	ワードの使い方(3)	図表・グラフの作成、文書の作成(3) 情報のセキュリティとモラル(5)	PCを使い慣れること																																																																
6	パワーポイントの使い方(1)	プレゼンテーション資料の作成(文章) 情報のセキュリティとモラル(6)	PCを使い慣れること																																																																
7	パワーポイントの使い方(2)	プレゼンテーション資料の作成(図表) 情報のセキュリティとモラル(7)	PCを使い慣れること																																																																
8	パワーポイントの使い方(3)	プレゼンテーションの構成と方法 情報のセキュリティとモラル(8)	PCを使い慣れること																																																																
9	エクセルの使い方(1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)	PCを使い慣れること																																																																
10	エクセルの使い方(2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)	PCを使い慣れること																																																																
11	エクセルの使い方(3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)	PCを使い慣れること																																																																
12	エクセルの使い方(4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)	PCを使い慣れること																																																																
13	エクセルの使い方(5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)	PCを使い慣れること																																																																
14	エクセルの使い方(6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル(14)	PCを使い慣れること																																																																
15	まとめ	まとめの演習	PCを使い慣れること																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013</td> <td>実教出版</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>情報モラル&情報セキュリティ</td> <td></td> <td>FOM出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	実教出版	実教出版	2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM出版	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	実教出版	実教出版																																																																
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM出版																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかりと学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。</p>																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考																																																																			

科目名	スポーツ科学	科目名(英文)	Sports Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 江川 達郎

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式で行う場合がある）。 授業での開講種目は、以下のとおりである。アルティメット・バレーボールなど。 受講生を半数に区分し、オムニバス形式で行う。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など	ルールの理解
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価
4	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ
7	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
8	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
11	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	基礎技術練習	授業内容のまとめ
12	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ
13	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
14	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業（競技）への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間にグリーンハウス教員室へ来てください。授業曜日以外は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室へ問い合わせてください。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方キャンパスグリーンハウス体育準備室（ただし授業開講曜日のみ） 他の曜日は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
----------	---

備考

トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと



科目名	スポーツ科学	科目名(英文)	Sports Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 江川 達郎

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式で行う場合がある）。 授業での開講種目は、以下のとおりである。アルティメット・バレーボールなど。 受講生を半数に区分し、オムニバス形式で行う。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など	ルールの理解
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価
4	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ
7	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
8	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バレーボール	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
11	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	基礎技術練習	授業内容のまとめ
12	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ
13	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
14	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技 Aコース：バレーボール Bコース：アルティメット	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間にグリーンハウス教員室へ来てください。授業曜日以外は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室へ問い合わせてください。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方キャンパスグリーンハウス体育準備室(ただし授業開講曜日のみ) 他の曜日は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
----------	---

備考

トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと



科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的
日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。

到達目標
日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。

授業方法と留意点
各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習

科目学習の効果(資格)
自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目
日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法(基準)
各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。

学生へのメッセージ
映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。

担当者の研究室等
7号館4階(門脇研究室)

備考

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	語彙テスト、授業への参加態度 (課題やタスクへの取り組み) 等を総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 I
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	語彙テスト、授業への参加態度 (課題やタスクへの取り組み) 等を総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。		
到達目標	中上級の文法項目が適切に使えるようになる。		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習 復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習 復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習 復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習 復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習 復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習 復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習 復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習 復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習 復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習 復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習 復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習 復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習 復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習 復習
	15	総復習	総復習 復習
関連科目	日本語文法 II		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	小テスト、授業への参加態度 (練習への取り組み) 等を総合的に評価します。		
学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的
この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標
中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点
教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果 (資格)
高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目
日本語読解 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
小テスト、授業への参加態度 (練習への取り組み) 等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ
日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!

担当者の研究室等
7号館2階 (非常勤講師室)

備考
(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。
(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指す。																																																																		
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、レポートや論文の適切な表現、書き方のルールを身につけることを目指す。
到達目標	レポートや論文の適切な表現、書き方のルールを身につける。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成する。
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文Ⅰ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。 また、授業内で書き進めたレポートを評価の対象とする。
----------	--

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	日本語総合 F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る</p> <p>②まとまった内容の文章の大意を把握する</p> <p>③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	————
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ビジネス場面のライティング</td> <td>授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>就職活動 1</td> <td>就職活動について学習する 履歴書を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>就職活動 2</td> <td>自己 PR を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション</td> <td>ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ビジネスメールの基本</td> <td>ビジネスメールの基本を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ビジネスメール 1</td> <td>挨拶メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ビジネスメール 2</td> <td>報告メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ビジネスメール 3</td> <td>通知メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ビジネスメール 4</td> <td>案内メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ビジネスメール 5</td> <td>確認メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ビジネスメール 6</td> <td>依頼メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ビジネスメール 7</td> <td>問い合わせ/回答メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ビジネスメール 8</td> <td>アポイントを取るメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ビジネスメール 9</td> <td>お詫び/お礼のメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————	2	就職活動 1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習	3	就職活動 2	自己 PR を書く	復習	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習	6	ビジネスメール 1	挨拶メール	復習	7	ビジネスメール 2	報告メール	復習	8	ビジネスメール 3	通知メール	復習	9	ビジネスメール 4	案内メール	復習	10	ビジネスメール 5	確認メール	復習	11	ビジネスメール 6	依頼メール	復習	12	ビジネスメール 7	問い合わせ/回答メール	復習	13	ビジネスメール 8	アポイントを取るメール	復習	14	ビジネスメール 9	お詫び/お礼のメール	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————																																																																
2	就職活動 1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習																																																																
3	就職活動 2	自己 PR を書く	復習																																																																
4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習																																																																
5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習																																																																
6	ビジネスメール 1	挨拶メール	復習																																																																
7	ビジネスメール 2	報告メール	復習																																																																
8	ビジネスメール 3	通知メール	復習																																																																
9	ビジネスメール 4	案内メール	復習																																																																
10	ビジネスメール 5	確認メール	復習																																																																
11	ビジネスメール 6	依頼メール	復習																																																																
12	ビジネスメール 7	問い合わせ/回答メール	復習																																																																
13	ビジネスメール 8	アポイントを取るメール	復習																																																																
14	ビジネスメール 9	お詫び/お礼のメール	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。			
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。			
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	トピック⑦	議論	復習
	8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)			
備考				

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美徳

授業概要・目的	日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	8	トピック⑦	議論	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本事情R II	科目名(英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的
日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。

到達目標
日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。

授業方法と留意点
各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習

科目学習の効果(資格)
自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目
日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法(基準)
各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。

学生へのメッセージ
映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。

担当者の研究室等
7号館4階(門脇研究室)

備考

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	語彙テスト、授業への参加態度(課題やタスクへの取り組み)等を総合的に評価します。
----------	--

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的
この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標
中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点
教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果(資格)
高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目
日本語読解 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
小テスト、授業への参加態度(練習への取り組み)等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ
日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!

担当者の研究室等
7号館2階(非常勤講師室)

備考
(1)授業外の質問等には、メールで対応する。
(2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指す。
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文Ⅱ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。
----------	------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	————
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的	日本語会話F Iと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	8	トピック⑦	議論	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)
----------	-----------------

備考	
----	--

教 養 科 目

科目名	コミュニケーション論	科目名(英文)	Study of Communication
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 瑛

授業概要・目的
 生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。
 本科目では、日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。コミュニケーションの諸場面に生じる問題を通して、円滑な意志疎通のあり方を探る。

到達目標
 日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。それを通じてコミュニケーションの諸場面に生じる問題乗り越え、円滑な意志疎通が可能なる力を身につける。

授業方法と留意点
 講義による授業方法。適宜演習も取り入れる。

科目学習の効果(資格)
 特になし

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義と演習	授業時に指示する
2	コミュニケーションとは何か①	講義と演習	授業時に指示する
3	コミュニケーションとは何か②	講義と演習	授業時に指示する
4	言語コミュニケーション①	講義と演習	授業時に指示する
5	言語コミュニケーション②	講義と演習	授業時に指示する
6	言語コミュニケーション③	講義と演習	授業時に指示する
7	非言語コミュニケーション①	講義と演習	授業時に指示する
8	非言語コミュニケーション②	講義と演習	授業時に指示する
9	非言語コミュニケーション③	講義と演習	授業時に指示する
10	非言語コミュニケーション④	講義と演習	授業時に指示する
11	コミュニケーションと文化①	講義と演習	授業時に指示する
12	コミュニケーションと文化②	講義と演習	授業時に指示する
13	コミュニケーション・スキルとは何か①	講義と演習	授業時に指示する
14	コミュニケーション・スキルとは何か②	講義と演習	授業時に指示する
15	コミュニケーション・スキルとは何か③	講義と演習	授業時に指示する

関連科目
 国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション学など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 定期試験 60%、平常点 40%で評価します。平常点は、①授業での質問に対する積極的な応答、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢、④授業内の演習の達成度などで評価します。出席するだけでは平常点はつかないので注意すること。

学生へのメッセージ
 積極的な参加を求めます。

担当者の研究室等
 1号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	ボランティア活動論	科目名(英文)	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一

授業概要・目的
東日本大震災という未曾有の災害を経験し、ボランティア活動が日本で再び注目されるようになってきました。1995年が日本のボランティア元年と呼ばれるようになったきっかけは阪神・淡路大震災でした。ただ、一言でボランティア活動と言っても、地域の清掃を行うといったような身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修し理解することを目標としています。

到達目標
この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。
(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる
(2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる
(3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる

授業方法と留意点
この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	授業中に指示します。
3	なぜボランティアが必要なのか?	ボランティアの必要性について学修します。	授業中に指示します。
4	日本のボランティア活動	日本でボランティア活動が盛んになった経緯について学修します。	授業中に指示します。
5	市民社会論	ボランティア活動の基礎にある市民について、市民とは何か、市民社会とはどのようなものか学修します。	授業中に指示します。
6	NPO、NGO	NPO、NGOとは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものか学修します。	授業中に指示します。
7	社会制度とボランティア活動	社会制度がNPO、NGOの活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	授業中に指示します。
8	中間のふり回り	前回までの内容をひと通り理解し、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。	授業中に指示します。
9	災害とボランティア(1)	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。	授業中に指示します。
10	災害とボランティア(2)	災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	授業中に指示します。
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業中に指示します。
12	文化ボランティア	文化ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業中に指示します。
13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業中に指示します。
14	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	授業中に指示します。
15	まとめ、全体のふり回り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	これまでの授業をふり振り返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、受講態度(積極的な発言など)5%、小テスト10%、期末試験70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。

学生へのメッセージ
決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界でももっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要である

	ということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。
担当者の 研究室等	メールアドレス : xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。

科目名	女性学	科目名(英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂

教養科目

授業概要・目的
 女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。また、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。

到達目標
 各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。

科目学習の効果(資格)
 様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習
2	メディアの中の男女のイメージ(1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴し次回に備える。
3	メディアの中の男女のイメージ(2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴する
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー(1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー(2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー(3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習
7	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習
8	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習
9	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習
10	労働と社会(1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習
11	労働と社会(2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習・事例を探すレポート
12	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性(男性)か、について考える。	配布プリントの復習
14	教育とジェンダー	日本の教育に関するジェンダーの問題について考える。	配布プリントの復習
15	今日的課題と向き合う	震災、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業内レポートおよび課題レポート (30%)、定期試験 (70%) により総合評価する。
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	女性学	科目名(英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂

教養科目

授業概要・目的
 女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。また、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。

到達目標
 各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。

科目学習の効果(資格)
 様々な角度からの議論を紹介していきたいとします。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習
2	メディアの中の男女のイメージ(1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴し次回に備える。
3	メディアの中の男女のイメージ(2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴する
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー(1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー(2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー(3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習
7	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習
8	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習
9	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習
10	労働と社会(1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習
11	労働と社会(2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習・事例を探すレポート
12	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性(男性)か、について考える。	配布プリントの復習
14	教育とジェンダー	日本の教育に関するジェンダーの問題について考える。	配布プリントの復習
15	今日的課題と向き合う	震災、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業内レポートおよび課題レポート (30%)、定期試験 (70%) により総合評価する。
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	法学入門	科目名(英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安藤 由香里

授業概要・目的	本授業は、法が社会のなかでどのような機能を果たしているかについて楽しく学ぶことを目的とする。																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。 																																																																		
授業方法と留意点	教科書および参考書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、今後の社会生活に必ず役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法ってなんだろう？</td> <td>講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法</td> <td>復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人間らしく生きていくためにー基本的人権(1)</td> <td>基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人間らしく生きていくためにー基本的人権(2)</td> <td>表現の自由、生存権、法の下での平等、在留外国人</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>すべては契約から</td> <td>契約の自由、損害賠償、住まいと法律</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>いろいろな決済方法</td> <td>クレジットカード、連帯保証、自己破産</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家族と法ー結婚</td> <td>法律婚、事実婚</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>家族と法ー離婚</td> <td>離婚、親権、監護権</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>家族と法ー親子関係</td> <td>扶養、相続、遺言</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日常生活のアクシデントー交通事故</td> <td>交通事故、自動車、自転車</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>日常生活のアクシデントー医療事故</td> <td>インフォームドコンセント、医療過誤</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>日常生活のアクシデントー製造物責任・悪徳商法</td> <td>クーリングオフ</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>罪と罰ー犯罪</td> <td>犯罪の形式と性質、刑務所</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>罪と罰ー国際犯罪</td> <td>国際赤十字連盟、医療NGO、国際人道法</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>労働・社会保障と法ー子育て・介護</td> <td>労働契約、解雇・失業、子育て、介護</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>今までのまとめと総括</td> <td>復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法	復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	2	人間らしく生きていくためにー基本的人権(1)	基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	3	人間らしく生きていくためにー基本的人権(2)	表現の自由、生存権、法の下での平等、在留外国人	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	4	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	5	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	6	家族と法ー結婚	法律婚、事実婚	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	7	家族と法ー離婚	離婚、親権、監護権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	8	家族と法ー親子関係	扶養、相続、遺言	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	9	日常生活のアクシデントー交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	10	日常生活のアクシデントー医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	11	日常生活のアクシデントー製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	12	罪と罰ー犯罪	犯罪の形式と性質、刑務所	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	13	罪と罰ー国際犯罪	国際赤十字連盟、医療NGO、国際人道法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	14	労働・社会保障と法ー子育て・介護	労働契約、解雇・失業、子育て、介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認	15	まとめ	今までのまとめと総括	復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法	復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
2	人間らしく生きていくためにー基本的人権(1)	基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
3	人間らしく生きていくためにー基本的人権(2)	表現の自由、生存権、法の下での平等、在留外国人	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
4	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
5	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
6	家族と法ー結婚	法律婚、事実婚	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
7	家族と法ー離婚	離婚、親権、監護権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
8	家族と法ー親子関係	扶養、相続、遺言	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
9	日常生活のアクシデントー交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
10	日常生活のアクシデントー医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
11	日常生活のアクシデントー製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
12	罪と罰ー犯罪	犯罪の形式と性質、刑務所	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
13	罪と罰ー国際犯罪	国際赤十字連盟、医療NGO、国際人道法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
14	労働・社会保障と法ー子育て・介護	労働契約、解雇・失業、子育て、介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
15	まとめ	今までのまとめと総括	復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認																																																																
関連科目	日本国憲法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新・レッスン法学(改訂版)</td> <td>目崎哲久ほか</td> <td>嵯峨野書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新・レッスン法学(改訂版)	目崎哲久ほか	嵯峨野書院	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新・レッスン法学(改訂版)	目崎哲久ほか	嵯峨野書院																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新・シネマで法学</td> <td>野田進ほか</td> <td>有斐閣ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新・シネマで法学	野田進ほか	有斐閣ブックス	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新・シネマで法学	野田進ほか	有斐閣ブックス																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート 50% 2. グループ討議に積極的に参加しているか。 20% 3. コメント用紙に積極的に記入し提出するか。 30% 																																																																		
学生へのメッセージ	法は、わたしたちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

教養科目

科目名	経済学	科目名(英文)	Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	紀国 正典

授業概要・目的	<p>経済学は人間の生活全般に関係する学問です。このためその取り扱い範囲や課題は広大です。</p> <p>概論として表面をなぞって説明したとしても、とても2単位の講義日数では時間が足りません。</p> <p>それゆえ本講義では、「リスク管理・制御」、「生活者」、「現代性」という三つのキーワードで、講義テーマを絞り込みます。</p> <p>一つめの「リスク管理・制御」とは、人間の生存や幸福を妨げるいろんなリスク要因を学び、それを上手に管理・制御して、人間の持続的的幸福を実現することです。</p> <p>このための経済のあり方を、生活者の立場から、わかりやすく学び、考えます。さらに詐欺にあつたり、損失をかかえたり、借金漬けになつたりしないための生活知識を、わかりやすく学び、考えます。</p> <p>学生さんも、社会に出てから生涯かかわる生活問題ですので、興味・関心をもって参加していただけたと思います。</p> <p>二つめの「生活者」とは、実際にこの社会で生活しているみなさん自身の立場から、社会や経済のあり方をみて、学び、考えることです。</p> <p>生活者の視点からみると、日本経済と世界経済の全体と問題点をとてもよく理解できます。また金融は誰でもがかわる生活取引ですので、その点、金融・国際金融から世の中をみると、いろんな謎がわかるのです。</p> <p>三つめの「現代性」とは、現実みなさんの目の前で起こっている経済現象を材料にして、講義をすすめることです。できるだけ最新のニュースや新聞記事を資料として配布し、テーマに関係したDVDを上映いたします。</p> <p>みなさんの身の回りで実際に起こっていることですので、興味・関心をもって、聞いていただけたと思います。</p>																
到達目標	<p>講義の三つのキーワードの順序でいうと、到達目標は次の三つになります。</p> <p>第1に、人間の持続的的幸福を実現するための経済のあり方についての知識を学び、詐欺にあつたり、損失をかかえたり借金漬けになつたりしないための生活知識を身につけることです。</p> <p>第2に、生活者の視点から、日本経済と世界経済の出来事をよく理解できるようになることです。</p> <p>第3に、自分の身の回りで実際に起こっている日本経済と世界経済について、興味・関心をもてるようにすることです。</p>																
授業方法と留意点	<p>まじめに努力すれば、その努力度を評価しますので、誰でも良い成績がとれる授業です。ただしマナー・モラルを守らない不真面目な学生さんは、単位を取れません。</p> <p>学習方法は、毎回、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。</p> <p>次の三つの講義方針で臨みます。</p> <p>(1) 努力がむくわれる講義 真面目に努力したことが成績に反映するよう工夫しております。</p> <p>(2) 参加型講義 学生さんが、毎回の講義について、意見カードで自分の感想や考えを述べてもらい、授業への努力集中度を成績に反映します。</p> <p>(3) モラル・マナーが守られる講義 私語でうるさい学生さん、およびスマホをいじっている学生さんは退出させます。 遅刻の多い学生さんはマイナス評価をします。</p> <p>なお、感想・意見カードに書いて頂いた講義内容に関する疑問・質問の内、重要なものについては、次の講義の最初に回答いたします。 また授業時間中に回答できなかった疑問・質問と、それ以外の要望や相談事項については、次のメールアドレスに、携帯・スマホ・パソコンから送信してもらえば、その返信で回答いたします。件名に必ず、「摂南大学：学部・氏名」と入れてください。 紀国メールアドレス (kinokuni@pure.biglobe.ne.jp)</p>																
科目学習の効果(資格)	<p>生活の経済学という内容で講義しますので、教養の経済学としての科目学習効果は十分に得られると思います。</p>																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経済学の概要とこの講義での授業方法および成績評価方法について知ります。 教材DVDで、スマホ・インターネットの功罪と上手な付き合い方について考えます(情報の経済学)</td> <td>学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。</td> <td>必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人間の持続的的幸福を実現する経済およびリスクとリスク管理制御方法について学びます。自然リスクの管理・制御方法について考えます(防災経済学)。 教材DVDで、大震災の予測と防災について考えます。</td> <td>学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。</td> <td>必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>リスク管理・制御の大失敗例として福島原発事故を取り上げ、事故の発生原因とリス</td> <td>学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順</td> <td>必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	経済学の概要とこの講義での授業方法および成績評価方法について知ります。 教材DVDで、スマホ・インターネットの功罪と上手な付き合い方について考えます(情報の経済学)	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。	2	人間の持続的的幸福を実現する経済およびリスクとリスク管理制御方法について学びます。自然リスクの管理・制御方法について考えます(防災経済学)。 教材DVDで、大震災の予測と防災について考えます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。	3	リスク管理・制御の大失敗例として福島原発事故を取り上げ、事故の発生原因とリス	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題														
1	経済学の概要とこの講義での授業方法および成績評価方法について知ります。 教材DVDで、スマホ・インターネットの功罪と上手な付き合い方について考えます(情報の経済学)	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。														
2	人間の持続的的幸福を実現する経済およびリスクとリスク管理制御方法について学びます。自然リスクの管理・制御方法について考えます(防災経済学)。 教材DVDで、大震災の予測と防災について考えます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。														
3	リスク管理・制御の大失敗例として福島原発事故を取り上げ、事故の発生原因とリス	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。														

	<p>ク管理・制御方法について考えてみます(原子力の経済学)。</p> <p>教材DVDで、原発事故予防対策について考えます。</p>	<p>序で行います。</p>	
4	<p>原発エネルギーのリスクと再生可能エネルギーについて考えます。(エネルギー経済学)</p> <p>教材DVDで、ヒロシマ、チェルノブイリ、フクシマと続いた大惨事を振り返り、人類が核とどのように対処すべきなのかについて考えます。</p>	<p>学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。</p>	<p>必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。</p>
5	<p>人間の持続的幸福を妨げるだけでなく、人間もふくめ生物の大量絶滅も起こし得る地球温暖化問題について考えます(環境経済学)。</p> <p>教材DVDで、地球温暖化にどう対処すべきかについて考えます。</p>	<p>学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。</p>	<p>必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。</p>
6	<p>リスク管理・制御方法に、どのような方法があるかについて考えます(リスク管理経済学)。</p> <p>教材DVDで、持続可能な人類の生産と生活方法のあり方について考えます。</p>	<p>学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。</p>	<p>必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。</p>
7	<p>公共財および公共財である金融の制御方法について考えます。</p> <p>教科書の概要を説明して、誰もが持続的幸福を得られる経済と金融のあり方について考えます(公共性の経済学)。</p> <p>期末試験の問題予告をし、その学習方法について説明します。</p> <p>試験は、教科書を学習して、自分で選択した章について、自分の意見を述べる方式で行います。</p> <p>教材DVDで、歌手の Mr.チルドレンさんたちが取り組んでいる「アーティスト・パワー・バンク」の活動について考えます(金融の公共性論)。</p>	<p>学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。</p>	<p>必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。</p>
8	<p>買う取引にひそむリスクとリスク管理方法について考え、人間の持続的幸福に貢献する消費のあり方について考えます(消費経済論)。</p> <p>教材DVDで、先進国で安売りをするため、途上国で搾取をする国際ブラック企業のおくどさについて考えます。</p>	<p>学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。</p>	<p>必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。</p>
9	<p>売る取引にひそむリスクとリスク管理方法について考えます(労働経済論)。</p> <p>リスクとは、若者を使い捨てにするブラック企業やブラックバイトのことです。リスク管理とは、ブラック企業の見分け方とブラック企業・ブラックバイトへの対処の仕方のことです。</p> <p>教材DVDで、ブラック企業とブラックバイトに立ち向かう若者の取組みを学び</p>	<p>学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。</p>	<p>必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。</p>

	ます。		
10	借りの取引にひそむリスクと多重債務問題およびその根底にある貧困・格差の現状について考えます(福祉経済論)。 教材DVDで、貧困と多重債務問題への対策として、家計を見直し生活再建をめざす方法について考えます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
11	リスク管理・制御の大失敗例として世界金融危機を取り上げ、その発生原因と制御方法について考えます(国際金融論と国際経済論)。 教材DVDで、世界金融危機の引き金になったサブプライム・ローンの実態について学びます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
12	貯める取引のリスクとリスク管理方法および金融商品のリスクとリターンの法則および預貯金について学び、貯める取引にひそむリスクについて考えます(金融消費者論)。 教材DVDで、わかりやすい貯める方法について学びます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
13	金融詐欺・ネット犯罪にあわないためのリスクとリスク管理方法について考えます(金融とネット犯罪論)。 教材DVDで、金融やネット犯罪に巻き込まれない方法について学びます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
14	円高・円安について学び、外貨建金融商品について理解できるようにし、外貨建金融商品のリスクとリスク管理方法について考えます(外国為替論と国際金融論)。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
15	株式、公社債と投資信託などの金融商品について学び、人間の持続的・幸福に貢献する金融取引について考えます(社会的責任金融論)。 教材DVDで、人間の持続的・幸福に基本である平和について考えます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。

関連科目 とくになし。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融の公共性と金融ユニバーサルデザイン	紀国正典	ナカニシヤ出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 毎回の授業で提出してもらった感想・意見カードを点数評価して15回分を合計し、これに期末試験の点数を加えて、成績を評価します。

感想・意見カードの点数(70%)、期末試験の点数(30%)の割合で、合計いたします。

コツコツと努力したことが、確実に成績に反映する公正な評価方法です。

学生へのメッセージ 経済あるいは経済学についての予備知識はまったくありません。

経済・金融あるいは経済学が苦手という学生さんこそ、大歓迎です。

わかりやすく、おもしろく、楽しい授業を、いっしょに創り出していきます。

担当者の研究室等 1号館2階(非常勤講師室)

科目名	生物・化学の基礎	科目名(英文)	Biology and Chemistry
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	眞島 崇

授業概要・目的	生物、化学は、看護師を目指す学生が専門科目を学ぶ上で基礎となる学問である。したがって、十分な生物、化学の基礎知識を有することが必須であるが、高校での履修科目のみでは不十分な点も多い。更には、高校時代に生物、化学を選択しなかった、あるいは生物、化学のみを選択した学生もいる。従って、本科目では、以後の専門科目の履修に必要な生物、化学に関する基礎力を身につける。
到達目標	医療・健康に関連する領域はもちろん、自然界で生じる現象に対して基礎的な範囲で科学的に説明する。 将来、仕事を共にする医師・薬剤師等の医療スタッフとの共通知識基盤として、基本的な科学に基づいた思考を行う。
授業方法と留意点	講義（講義室）
科目学習の効果（資格）	生物、化学は、職業人の教養として必要であり、また、専門家を目指す上での基礎となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	場という考え方、物質の状態（純物質・混合物・元素・化合物）	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
	2	細胞の構造と生命誕生	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
	3	原子と電子、電子の居場所	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
	4	生命体を構成する物質	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
	5	化学結合、溶質の化学	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
	6	細胞の分裂・情報伝達・がん化	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
	7	電磁波の科学、電磁波の使い方	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
	8	生命体の受精と成長	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
	9	仕事をする能力、熱のエネルギー、自由エネルギー、生体内のエネルギー	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
	10	遺伝の仕組みと遺伝病	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
	11	物質変化の速さ、溶液の化学	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
	12	遺伝の仕組みと遺伝病、遺伝子の構造と機能	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
	13	化学式、構造式の読み方	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
	14	遺伝子の構造と機能	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
	15	試験（生物・化学）	講義（講義室）	プリント

関連科目 人体の構造と機能（1年次前後期）、代謝栄養学（1年次後期）、感染と防御（1年次後期）、薬理学総論（2年次前期）、薬物治療学（2年次後期）

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎生物学	南雲 保 ほか	羊土社
	2	やさしい物理化学—自然を楽しむための12講	小池 透	共立出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ZEROからの生命科学	木下勉ほか	南山堂
	2	はじめて学ぶ化学	『はじめて学ぶ化学』野島高彦	化学同人
	3			

評価方法（基準） 試験時に実施する演習と試験、および授業修了後の定期試験で総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。

学生へのメッセージ 看護師を目指す上で、生物、化学の基礎は必要である。特に高等学校時代にこれらの科目を履修していない、あるいは3年間履修していない学生は、この機会に、高等学校の教科書や参考書も含めて、しっかりと学習することをすすめる。また、履修した学生でも、受験科目として勉強していない場合、自分が思うよりも力がついていないことが多いので、予習、復習を欠かさずに行うことをすすめる。

担当者の研究室等 1号館

備考 看護に関係する範囲を中心に、高等学校で学ぶ内容の復習から専門性の高い内容まで幅広い講義になります。限られた回数での早足の講義になります。また、大学の学習は、講義だけではなく、学生各自の自学自習をもって完結するものです。特に高等学校で生物、化学を十分に学習していない学生は、予習（教科書を読むだけでも構いません）、復習をしっかりと行うこと。高等学校の理科（生物・化学）の内容に自信がない者は、高校で用いた教科書、参考書、資料集等を残しておくこと。

科目名	生命倫理	科目名(英文)	Bioethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 奈津子

授業概要・目的	医療・ケアの専門職としてその社会的な責務を果たすためには、ケアの実践において人々の人権を尊重することが求められる。また科学技術の急速な進歩に伴う、医療現場における多くの倫理的な課題についての理解が必要である。本科目では、現代の医療が直面する倫理的諸問題の歴史的・社会的背景を、具体的事例を交えながら考察し、生命倫理と患者主体の医療の中で看護職の果たす役割について学習する。
到達目標	現代の医療は、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植・脳死、ターミナルケア等多くの倫理的問題を抱えている。このような倫理的問題の本質とさまざまな側面を、具体的事例を通して学ぶことで、自ら問題を抽出し、より良いケアを考える力を育む。
授業方法と留意点	『事例でまなぶ ケアの倫理』(G supple 編集委員会編、メディカ出版)を教科書とし、レジュメを配布する。講義中心。
科目学習の効果(資格)	看護職に就くものとして備えるべき高い倫理観の醸成に資し、看護の専門科目を学ぶ上での基礎となる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	生殖補助医療技術	講義:生殖補助医療技術について説明できる。女性の身体の道具化、生殖のビジネス化、子どもの出自を知る権利等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
3	出生前診断と選択的人工妊娠中絶	講義:出生前診断・着床前診断と、選択的人工妊娠中絶について説明できる。優生思想、優生保護法の倫理的問題、胎児条項、リプロダクティブ・ライツ、胚と胎児の道徳的地位等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
4	重症新生児治療の差し控え・中止	講義:新生児医療が直面する問題について説明できる。NICUにおける医療倫理、重症新生児の治療をめぐる諸ガイドライン等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
5	安楽死・尊厳死	講義:安楽死と尊厳死の違いについて説明できる。海外での安楽死・尊厳死をめぐる主要な出来事と関連法、日本における経緯と現状を理解する。患者と家族に対して医療者ができることを考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
6	脳死と臓器移植	講義:生体臓器移植・脳死臓器移植およびそれらが抱える問題について説明できる。脳死は人の死か、脳死患者と移植待機患者そしてそれぞれの家族の苦悩について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
7	子どもにおけるインフォームドコンセント	講義:子どもに医療におけるインフォームドコンセント(アセント)と親権、児童虐待の問題について説明できる。病気説明・告知や治療に関する自己決定の在り方、医療現場における児童虐待の発見と課題について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
8	患者のQOLとは何か	映像資料鑑賞:映像資料を通して、患者のQOLとは何か、自分が当事者であればどう考え行動するか、専門職医療者としては何ができるかを考える。	講義直後にレポート提出。
9	病気と差別	講義:HIV感染症と、その感染者やAIDS発症者をめぐる問題について説明できる。葉害HIV事件、強制HIV検査の是非、守秘義務と警告義務について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
10	難病を生きるということ	講義:難病と難病政策について説明できる。難病を抱えながら生きる人々に対し医療者ができること、患者とその家族の苦悩や負担について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
11	自己決定と遺伝カウンセリング	講義:遺伝子診断と遺伝カウンセリングについて説明できる。遺伝子診断をめぐる倫理的問題(知る権利と知らないでいる権利、血縁者への情報提供、DTC遺伝子検査、遺伝子差別等)について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
12	認知症を抱えて	講義:認知症とそのケアの在り方について説明できる。患者のQOL、身体拘束、高齢者虐待、認知症患者が関わる事件・事故(交通事故・行方不明など)等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
13	ターミナルケア	講義:終末期の医療・緩和ケア、家族や遺族のケアについて説明できる。死の受容と延命治療、鎮静(セデーション)、家族・遺族の悲嘆のケアの在り方等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
14	医療が患者に害をもたらすとき	講義:医療事故とインシデントおよびそれらへの取り組みについて説明できる。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。

			実際に起こった医療事故例を振り返り、失敗に学ぶ医療安全体制の構築や患者の救済について考える。																	
	15	医療倫理に関する事例の検討	講義：これまで学んできた、生命倫理・医療倫理における諸問題を、映像資料鑑賞を通して確認し、これからの医療と医療者に課せられた問題とあるべき姿について考える。	講義直後にレポート提出。																
関連科目	看護倫理をはじめとした看護専門科目すべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事例でまなぶ ケアの倫理</td> <td>G supple 編集委員会編</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	事例でまなぶ ケアの倫理	G supple 編集委員会編	メディカ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	事例でまなぶ ケアの倫理	G supple 編集委員会編	メディカ出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業中のレポート(20%)、定期試験(80%)により評価する。100点満点の60点以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	医療・ケアの現場で起きている、あるいはこれから起きる可能性がある諸問題について学びます。病気や障害を抱える人に接するうえで大事にしなければならない、専門職としての考え方・視点とともに、様々な立場の当事者の視点や社会の関わりについても理解していく一助となればと思います。																			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																			
備考																				

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第12回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4月8日(金)5限	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (荻田・鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
2	自己の探求 4月16日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
3	自己の探求 4月17日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
4	今、地域で何が起きているか 4月22日(金)5限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワードを調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月6日(金)5限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月13日(金)5限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (平田・稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 5月20日(金)5限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林・内部)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには？ー 5月27日(金)5限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (荻田・田中)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
9	事前学習① グループワーク 6月3日(金)5限	5回目～8回目の4分野ごとに分かれ議論をし、グループごとに発表をします。	【事前学習】 これまでの授業の復習をして、ポイントを整理しておく。 【事後学習】 発表をきいて、再度、4分野ごとに要点をまとめておく。
10	事前学習② グループワーク 6月10日(金)5限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞きします。	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
11	事前学習③ グループワーク 6月17日(金)5限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。ま	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】

教養科目

		た、グループ内での分担を決めます。	由良町でのフィールドワークの準備を行う。																
	12	体験学習 (和歌山県由良町) 6月25日(土)、7月2日(土) のいずれか	和歌山県由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。 【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
	13	事後学習① グループワーク 7月8日(金)5限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
	14	事後学習② グループワーク 7月15日(金)5限	グループごとに成果発表を行います。 【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させる。																
	15	事後学習③ グループワーク 7月22日(金)5限	グループごとに成果発表を行います。 【事前学習】 14回目に発表したグループの内容をふりかえる。 【事後学習】 最終レポート作成にむけての準備をする。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% 最終レポート 40% 60%で合格とする。																		
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																		
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																		
備考																			

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾山 廣

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。地域連携センター所属の教職員が授業の企画・運営に参画する。毎回、授業時間内に授業内容に沿ったレポート課題を課す(15分以上の遅刻には課題用紙を配布しない)。なお、事前に、北河内8市の広報HPを閲覧しておくこと。
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、自分自身が学ぶ摂南大学の歴史と、地域で活躍する方々の思いや人生観に触れることで、この地域がどのようなところで、そこには何があるのかを発見できる。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	摂南大学とこの地域を学ぶ「北河内を知る」	摂南大学の歴史と教育の理念、本学と地域社会との関わりなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	2	地域を考える(1)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	3	地域を考える(2)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	4	地域を考える(3)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	5	グループ・ディスカッション(1)	「地域を考える」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
	6	地域をつくる(1)	北河内地域をモデルに都市の景観やシビルデザインの考え方を紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	7	地域をつくる(2)	北河内地域の交通網やライフラインの整備状況や計画などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	8	地域をつくる(3)	北河内地域の交通網やライフラインの整備状況や計画などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	9	地域をつくる(4)	北河内地域の環境とその保全、河川整備や防災対策などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	10	グループ・ディスカッション(2)	「地域をつくる」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
	11	地域をまなぶ(1)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	12	地域をまなぶ(2)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	13	地域をまなぶ(3)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	14	地域をまなぶ(4)	淀川とその流域の北河内地域の地理・歴史や文化などを説明する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	15	グループ・ディスカッション(3)	「地域をまなぶ」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回の講義におけるレポート課題に対する評価とグループ・ディスカッションの相互評価(外部講師、教職員、学生など)を総合して評価する。なお、受講態度等を勘案し、更なるレポートを課すことがある(評価に加味)。
----------	---

学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか?
-----------	----------------------

担当者の研究室等	1号館9階 尾山教授室
----------	-------------

備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。
----	--

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題についてのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考える。 ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返して唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修：企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる① ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる② ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえる ー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本① ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：問題プリント①を解く。 ・事後学修：問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修：一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修：CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニング ー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。	・事前学修：各自がテーマを見つける。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修：最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。
------	--------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務総論：付加価値創造のための基礎実務論 ー 改訂版	全国大学実務教育協会編	紀伊国屋書店
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の上社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	文章表現法	科目名(英文)	Academic Japanese
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	濱中 祐子

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 論理的な文章を書くスキルは、大学生活、また今後の社会生活に必要である。 この講義では、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 手紙文の基本を学び、実際に目上の人への手紙を作成する。
到達目標	作文・感想文とレポート・論文との違いを認識し、論理的な文章を書く力を身につける。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果(資格)	レポート・論文・手紙文の作成に必要な文章スキルを身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	教科書を復習する
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	教科書を復習する
4	「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ	講義	教科書を復習する
5	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
6	「要約1」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
7	「課題1フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	フィードバックと実践(要約文の作成)	教科書を復習する 返却した課題を見直す
8	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	教科書を復習する
9	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
11	【課題2】資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
12	「手紙1」 手紙の書き方の基本を学ぶ	講義	教科書を復習する
13	「手紙2」電子メールの書き方を学ぶ	講義	配布プリントを復習する
14	講義のまとめ 小テストの復習テスト	講義 復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む
15	「課題2フィードバック」 課題2を見直す 「手紙3」 手紙を書く	フィードバックと実践(手紙の作成)	返却した課題を見直す

関連科目	コミュニケーション論
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組み(提出物等により評価する)と小テストの復習テスト(30%) 100点満点中60点以上で合格 二回の課題の提出は必須
----------	---

学生への	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてもらいたい。
------	---

メッセージ	2回の課題は添削して返却するので、各自必ず見直すこと。 読書は、語彙力や文章力をアップさせるために重要である。日頃から読書の習慣を身につけておくこと。
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）
備考	

科目名	文章表現法	科目名(英文)	Academic Japanese
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	濱中 祐子

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 論理的な文章を書くスキルは、大学生活、また今後の社会生活に必要である。 この講義では、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 手紙文の基本を学び、実際に目上の人への手紙を作成する。
到達目標	作文・感想文とレポート・論文との違いを認識し、論理的な文章を書く力を身につける。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果(資格)	レポート・論文・手紙文の作成に必要な文章スキルを身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	教科書を復習する
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	教科書を復習する
4	「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ	講義	教科書を復習する
5	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
6	「要約1」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
7	「課題1フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	フィードバックと実践(要約文の作成)	教科書を復習する 返却した課題を見直す
8	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	教科書を復習する
9	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
11	【課題2】資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
12	「手紙1」 手紙の書き方の基本を学ぶ	講義	教科書を復習する
13	「手紙2」電子メールの書き方を学ぶ	講義	配布プリントを復習する
14	講義のまとめ 小テストの復習テスト	講義 復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む
15	「課題2フィードバック」 課題2を見直す 「手紙3」 手紙を書く	フィードバックと実践(手紙の作成)	返却した課題を見直す

関連科目	コミュニケーション論
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組み(提出物等により評価する)と小テストの復習テスト(30%) 100点満点中60点以上で合格 二回の課題の提出は必須
----------	---

学生への	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてもらいたい。
------	---

メッセージ	2回の課題は添削して返却するので、各自必ず見直すこと。 読書は、語彙力や文章力をアップさせるために重要である。日頃から読書の習慣を身につけておくこと。
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）
備考	

科目名	コミュニケーション論	科目名(英文)	Study of Communication
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 瑛

授業概要・目的	生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。 本科目では、日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。コミュニケーションの諸場面に生じる問題を通して、円滑な意志疎通のあり方を探る。
到達目標	日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。それを通じてコミュニケーションの諸場面に生じる問題乗り越え、円滑な意志疎通が可能能力を身につける。
授業方法と留意点	講義による授業方法。適宜演習も取り入れる。
科目学習の効果(資格)	特になし

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義と演習	授業時に指示する
	2	コミュニケーションとは何か①	講義と演習	授業時に指示する
	3	コミュニケーションとは何か②	講義と演習	授業時に指示する
	4	言語コミュニケーション①	講義と演習	授業時に指示する
	5	言語コミュニケーション②	講義と演習	授業時に指示する
	6	言語コミュニケーション③	講義と演習	授業時に指示する
	7	非言語コミュニケーション①	講義と演習	授業時に指示する
	8	非言語コミュニケーション②	講義と演習	授業時に指示する
	9	非言語コミュニケーション③	講義と演習	授業時に指示する
	10	非言語コミュニケーション④	講義と演習	授業時に指示する
	11	コミュニケーションと文化①	講義と演習	授業時に指示する
	12	コミュニケーションと文化②	講義と演習	授業時に指示する
	13	コミュニケーション・スキルとは何か①	講義と演習	授業時に指示する
	14	コミュニケーション・スキルとは何か②	講義と演習	授業時に指示する
	15	コミュニケーション・スキルとは何か③	講義と演習	授業時に指示する

関連科目 国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション学など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期試験 60%、平常点 40%で評価します。平常点は、①授業での質問に対する積極的な応答、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢、④授業内の演習の達成度などで評価します。出席するだけでは平常点はつかないので注意すること。

学生へのメッセージ 積極的な参加を求めます。

担当者の研究室等 1号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	生命科学概論	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹内 健治

授業概要・目的	生命科学の基礎を学習する。解剖・生理・生化学の基礎を包含しつつ、生命科学の先端情報や学習項目と医療・健康との関わりについても理解する。
到達目標	生命科学の基礎を習得する。
授業方法と留意点	プロジェクターや配布資料などを用いて、モデル図や写真を使って解説します。小テストや課題により理解度を確認します。
科目学習の効果(資格)	

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	細胞	生命の基本単位である細胞の成り立ちについて。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	2	生体膜	生体膜の構造と働き。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	3	細胞と個体①細胞接着	細胞同士の接着構造。細胞と細胞外基質との接着。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	4	細胞と個体②細胞間情報伝達	分泌型の情報伝達システム。神経系の情報伝達システム。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	5	生殖と発生	体細胞分裂と減数分裂。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	6	がん	がん発生のしくみ。がん抑制遺伝子とDNA修復。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	7	生体の構成成分①水とタンパク質	水とタンパク質の構造と働き	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	8	生体の構成成分②糖質、脂質、核酸	糖質、脂質、核酸の構造と働き。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	9	酵素と代謝①酵素	酵素反応。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	10	酵素と代謝②代謝	糖代謝、アミノ酸代謝、脂質代謝、核酸代謝。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	11	遺伝	メンデルの法則、遺伝の多様性、遺伝子と形質。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	12	ヒトの遺伝病	遺伝病の原因、常染色体遺伝の遺伝病、伴性遺伝病、染色体異常	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	13	遺伝子の複製と発現①複製	DNAと遺伝子、DNAの複製。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	14	遺伝子の複製と発現②転写と発現	転写、翻訳、遺伝子発現、遺伝子修復。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
	15	生体防御系	免疫システム。自然免疫、獲得免疫。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。

関連科目	生物・化学の基礎、代謝栄養学
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	illustrated 基礎生命科学第2版	竹島浩	京都廣川書店
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト(30%)、課題(10%)、定期試験(60%)により評価する。
学生へのメッセージ	質問は適宜受け付けます。
担当者の研究室等	1号館5階
備考	

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博

授業概要・目的	今日、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に行い、グループを作って互いにサポートし合いながら進める。情報セキュリティやモラルについて事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	PC、インターネットの基礎 (2)	インターネット、電子メール、基本操作 (2) 情報のセキュリティとモラル (2)	PC を使い慣れること
3	ワードの使い方 (1)	Windows の基礎、文書の作成 (1) 情報のセキュリティとモラル (3)	PC を使い慣れること
4	ワードの使い方 (2)	文書の作成 (2) 情報のセキュリティとモラル (4)	PC を使い慣れること
5	ワードの使い方 (3)	図表・グラフの作成、文書の作成 (3) 情報のセキュリティとモラル (5)	PC を使い慣れること
6	パワーポイントの使い方 (1)	プレゼンテーション資料の作成 (文章) 情報のセキュリティとモラル (6)	PC を使い慣れること
7	パワーポイントの使い方 (2)	プレゼンテーション資料の作成 (図表) 情報のセキュリティとモラル (7)	PC を使い慣れること
8	パワーポイントの使い方 (3)	プレゼンテーションの構成と方法 情報のセキュリティとモラル (8)	PC を使い慣れること
9	エクセルの使い方 (1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル (9)	PC を使い慣れること
10	エクセルの使い方 (2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル (10)	PC を使い慣れること
11	エクセルの使い方 (3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル (11)	PC を使い慣れること
12	エクセルの使い方 (4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル (12)	PC を使い慣れること
13	エクセルの使い方 (5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル (13)	PC を使い慣れること
14	エクセルの使い方 (6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル (14)	PC を使い慣れること
15	まとめ	まとめの演習	PC を使い慣れること

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	実教出版	実教出版
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかりと学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 24
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博

授業概要・目的	今日、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に行い、グループを作って互いにサポートし合いながら進める。情報セキュリティやモラルについて事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	PC、インターネットの基礎 (2)	インターネット、電子メール、基本操作 (2) 情報のセキュリティとモラル (2)	PC を使い慣れること
3	ワードの使い方 (1)	Windows の基礎、文書の作成 (1) 情報のセキュリティとモラル (3)	PC を使い慣れること
4	ワードの使い方 (2)	文書の作成 (2) 情報のセキュリティとモラル (4)	PC を使い慣れること
5	ワードの使い方 (3)	図表・グラフの作成、文書の作成 (3) 情報のセキュリティとモラル (5)	PC を使い慣れること
6	パワーポイントの使い方 (1)	プレゼンテーション資料の作成 (文章) 情報のセキュリティとモラル (6)	PC を使い慣れること
7	パワーポイントの使い方 (2)	プレゼンテーション資料の作成 (図表) 情報のセキュリティとモラル (7)	PC を使い慣れること
8	パワーポイントの使い方 (3)	プレゼンテーションの構成と方法 情報のセキュリティとモラル (8)	PC を使い慣れること
9	エクセルの使い方 (1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル (9)	PC を使い慣れること
10	エクセルの使い方 (2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル (10)	PC を使い慣れること
11	エクセルの使い方 (3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル (11)	PC を使い慣れること
12	エクセルの使い方 (4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル (12)	PC を使い慣れること
13	エクセルの使い方 (5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル (13)	PC を使い慣れること
14	エクセルの使い方 (6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル (14)	PC を使い慣れること
15	まとめ	まとめの演習	PC を使い慣れること

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	実教出版	実教出版
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかりと学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 24
----------	-------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	情報リテラシーII	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博

授業概要・目的	この授業では統計理論の基本を学び、また実際にエクセルを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。		
到達目標	統計の基本を理解し、エクセルを使って正しく統計解析を行えるようになる。		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解を深める。		
科目学習の効果(資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	統計とは	統計の役割と種類、尺度
	2	統計の基本(1)	度数分布、ヒストグラム
	3	統計の基本(2)	代表値(平均値、中央値、最頻値など)
	4	統計の基本(3)	代表値と散布度(分散、標準偏差など)
	5	相関と回帰	相関係数と回帰直線
	6	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率
	7	確率分布(2)	二項分布、 χ^2 乗分布
	8	確率分布(3)	F分布、t分布
	9	母集団と標本(1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散
	10	母集団と標本(2)	中心極限定理
	11	母集団と標本(3)	母分散と標本分散
	12	推定(1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間
	13	推定(2)	母集団の分散・比率の推定
	14	検定(1)	Z検定、F検定
	15	検定(2)	χ^2 乗検定、t検定
関連科目	疫学・保健統計		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	仕事に役立つExcel統計解析 第4版	日花弘子
	2	やさしい統計学—保健・医療・看護・福祉関係者のために	片平潤彦
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。		
学生へのメッセージ	エクセルに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかりと学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にエクセルを使うこと。		
担当者の研究室等	7号館3階24		
備考	なし		

科目名	情報リテラシーII	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博

授業概要・目的	この授業では統計理論の基本を学び、また実際にエクセルを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。		
到達目標	統計の基本を理解し、エクセルを使って正しく統計解析を行えるようになる。		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解を深める。		
科目学習の効果(資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	統計とは	統計の役割と種類、尺度
	2	統計の基本(1)	度数分布、ヒストグラム
	3	統計の基本(2)	代表値(平均値、中央値、最頻値など)
	4	統計の基本(3)	代表値と散布度(分散、標準偏差など)
	5	相関と回帰	相関係数と回帰直線
	6	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率
	7	確率分布(2)	二項分布、 χ^2 乗分布
	8	確率分布(3)	F分布、t分布
	9	母集団と標本(1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散
	10	母集団と標本(2)	中心極限定理
	11	母集団と標本(3)	母分散と標本分散
	12	推定(1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間
	13	推定(2)	母集団の分散・比率の推定
	14	検定(1)	Z検定、F検定
	15	検定(2)	χ^2 乗検定、t検定
関連科目	疫学・保健統計		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	仕事に役立つExcel統計解析 第4版	日花弘子
	2	やさしい統計学—保健・医療・看護・福祉関係者のために	片平潤彦
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。		
学生へのメッセージ	エクセルに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかりと学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にエクセルを使うこと。		
担当者の研究室等	7号館3階24		
備考	なし		

教養科目

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西鶴 智香

授業概要・目的	<p>●概要：「自分のキャリア」＝「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのもののこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積みばいいか、を中心に、皆で議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。</p> <p>●看護師という職業は、これから、職務・職域拡大についてどのように変革しようとしているかを知り、キャリアデザインの参考にします。</p>
到達目標	<p>●到達目標：2年次の自分なりに、で構いません。看護師になって自分は何がやりたいのか、自分がやりがいを持てるのは何か、自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでも具体的に描けるようになることを目標とします。</p> <p>●私と皆さん、皆さん同士、のディスカッションを中心に進めていきます。「多様な価値観を認められる自分になること」「周囲からの評価を気にせず、自分の意見を言えるようになること」も目標としています。</p>
授業方法と留意点	<p>●毎回のテーマ講義後、少人数でのディスカッション・全体でのディスカッションを実施。回によっては、配布したワークシートを記入しながらのディスカッションもあります。</p> <p>●毎回終了時に、レポート提出あります。</p> <p>●毎回、周りを気にせず、自分の意見を述べることを求めます。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>●看護師としての生涯キャリアを学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。</p> <p>●自分を理解できることで、周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●講義概要、講師自身のキャリア形成、社会の現状とキャリアデザインの重要性 ●「上手に議論する方法」について説明 	<ul style="list-style-type: none"> ●「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどのようなふう動いているのか、しっかりと理解しましょう。 ●多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であることを理解しましょう。
2	「看護師」という職業を考える！	職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。	日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみましょう。
3	日本の医療業界の現状課題、将来予測から看護師の職域を考える！	日本の世界に誇る国民皆保険制度、医療・介護の将来像、医療業界の問題点についてディスカッション。その中で看護師はどのような職域で、どんなニーズがありそうか調べる。	新聞記事等にある内容から、現在の医療業界の現状を読んでおいて下さい。自分がリーダーだったら、日本の医療制度をどのように変化させたいか、看護師にどのように活躍させたいか、意見を考えておいて下さい。
4	自分自身を知る①	求められる「社会人基礎力」は、自分は何の程度出来ているかチェック。自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。	「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。まずは自分の行動目標を立てます。率直に意見を言い合う面白さ、を実感しましょう。
5	自分自身を知る②	「自分に自信がある、ない」は何に起因されているのか。自身の成功体験の整理、自信のつけ方、についてディスカッション。	患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみましょう。
6	リーダーシップを考える	社会で求められるリーダーになるには、何を身につければいいのか。	今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。リーダーのタイプを観察し、まとめてみましょう。
7	自分の生涯キャリアを考える①	結婚、出産、転勤、介護等、人生に起こりうるイベントでも、自分のキャリアデザインを修正していくことも迫られる可能性があることを知しましょう。	看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。目標に向かってどのような道をたどっているのか、調べる。
8	自分の生涯キャリアを考える②	自分のキャリアデザインシート作成	友人、家族にも意見をもらい、参考にしながら作成してみましょう。
9	事前オリエンテーション	講義形式	テーマにそって、考えをまとめましょう
10	看護学部と薬学部との共同ディスカッション	ディスカッション形式	事前に与えられたテーマについて、意見を考えておいて下さい
11	ディスカッション内容の発表①	ディスカッション形式	論理的に話せるよう、自分の意見をまとめておくようにして下さい。
12	ディスカッション内容の発表②	ディスカッション形式	論理的に話せるよう、自分の意見をまとめておくようにして下さい。
13	「自分はこんな人、こんな看護師になりたい」①	発表	誰からの評価も気にせず、自分の意見を発表しましょう。今の自分の意見、で構わないのです。
14	「自分はこんな人、こんな看護師になりたい」②	発表	誰からの評価も気にせず、自分の意見を発表しましょう。今の自分の意見、で構わないのです。
15	まとめ～「自分のキャリア」は何を目指しているのか	「自分のキャリアは自己責任」を理解し、セルフカウセリング力をつける重要性について	常に、「なぜそうなのか？」を考えるクセをつけ、率直に自分の意見を言い、また他人を受容する力をつけましょう。

関連科目	特記なし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	葉学生のためのキャリアデザインブック（この本の半分以上をテキストとして使用します）	西鶴智香	葉事日報社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を通じて作成するワークシートを完成させ、講義終了時のレポートと合わせ提出することを必須要件とする。 ・出席回数・講義中に使用するワークシート記入・講義終了後レポート内容 60% ディスカッションでの発言・受講態度40% <p>※評価ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常事態でない限り、一定回数以上の欠席は単位を認めません。 ・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。 ・ディスカッションで自分の考えを積極的に発言し、また他人の意見に耳を傾け受容し、コミュニケーションをとっているか。 			
学生への メッセージ	<p>自分の人生プランを一から描けるのは、若い時にだけできること。 この講義を通して、自分自身のこと、人生で絶対やりたいこと、等を整理し、これからの人生を、自立できて、迷うことなく明るく進んでほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻厳禁！前半の講義進行に影響が出るので慎むこと。 ・私語厳禁！誰かが発言している際に私語を慎むのは、大人の常識！ 意見を言いたい時には、手を挙げて発言すること。 ・自立した大人を目指すため、様々なアドバイスをします。耳が痛いことも言うかもしれませんが、皆さんが社会人になって「残念な人だ」と言われないために、と思っはつきりと注意します。ご理解下さい。 			
担当者の 研究室等	非常勤講師			
備考	メールアドレス chika@career-position.com			

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	米田 満子

授業概要・目的	本科目では、医学・医療英語を総合的に扱うテキストを用いて、高度なリーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの4技能を修得し、看護職に必要とされる英語力を身につける。
到達目標	①医療に関する基本的な語彙・表現を身につける。 ②専門用語さえわかれば英文を読むこと自体はそれほど難しくないと理解する。 ③教科書を読んでいない人にも英文内容をわかりやすく説明することができる。
授業方法と留意点	TOEIC のスコアを成績評価の 20% に組み込む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC 等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	授業の進め方、テストの受け方、評価などの説明	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	2	Unit 1: Basic for Health Care Professionals	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	3	Unit 2: The Digestive System: How It Works	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	4	Unit 3: The Cardiovascular System: The Heart, Pump for Life-giving Blood	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	5	Unit 4: The Neurological System: Neuroscience	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	6	Unit 5: The Urinary System: Kidney Transplantation	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回のまとめテストに向けて復習すること。
	7	Unit 6: The Reproductive System: Infertility Treatments	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	8	Unit 7: The Skeletal System: Bone Health	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	9	Unit 8: The Immune System: Allergies	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	10	Unit 9: The Endocrine System: Diabetes	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	11	Unit 10: Preventing the Spread of Infectious Disease	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	12	TOEIC 模擬テスト		
	13	Unit 11: Cancer Detection	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
	14	Unit 14: Clinical Research	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回のまとめテストに向けて復習すること。
15	まとめテスト			

関連科目	他の英語関係科目及び専門医療用語
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Understanding Health Care 医療の世界	Tsukimaro Nishimura / David L. Brooks	Asahi Press 朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業参加度・小テスト・課題等)(40%)、まとめテスト(30%)、TOEIC 模擬テスト1回(10%)、TOEICスコア(20%)により総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。
----------	---

学生へのメッセージ	指示に従って予習を行い、授業に真面目にかつ積極的に参加してください。 辞書必携
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	辞書必携
----	------

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	村木 美紀子

授業概要・目的	本科目では、「英語Ⅱ」での学習をもとに、より高度なリーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの4技能を修得し、看護職者に必要とされる英語コミュニケーション能力を身につける。
到達目標	看護に関わる様々な話題を述べた英文を読み、理解する力を備える。
授業方法と留意点	しっかり予習をして授業に臨んでください。 辞書は各自必ず持参すること。

科目学習の効果(資格)	TOEIC等
-------------	--------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1: Basic for Health Care Professionals	テキストの予習の仕方、授業の進め方、評価の方法などについて説明する。	授業で提示します。
	2	Unit 2: The Digestive System	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	3	Unit 3: The Cardiovascular System	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	4	Unit 4: The Neurological System	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	5	Unit 5: The Urinary System	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	6	Unit 6: The Reproductive System	単語小テスト(5) pp. 174-177 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	7	Review	まとめテスト(Unit 1-6)	授業で提示します。
	8	Unit 7: The Skeletal System	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	9	Unit 8: The Immune System	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	10	Unit 9: The Endocrine System	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	11	Unit 10: Preventing the Spread of Infectious Disease	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	12	Unit 11: Cancer Detection	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	13	Unit 14: Clinical Research	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	14	Unit 15: Health Care for the Aging: Geriatric Nursing	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	15	Review	まとめのテスト(Unit 7以降)	授業で提示します。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Understanding Health Care	Tsukimaro Nishimura 他	Asahi Press 朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業参加度・小テスト・課題等)(30%) まとめのテスト2回(40%) 単語小テスト(レベル3)(10%) TOEIC IPテスト(20%)により総合的に評価
----------	--

学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。 辞書必携
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子

授業概要・目的	<p>本授業では現代人の心身の健康に関する内容を取り扱います。テキストの内容を把握し、小テストで読解確認をした後、最新の情報や発表論文の一部や研究結果などを利用しながら、さらに理解を深めていく予定です。テキストの内容は多岐にわたっているために、興味のある情報を取り上げ、理解し、さらにその情報を update していくことが求められます。</p> <p>さらに、1年生から行ってきた TOEIC の単語学習をさらに進めるといって形では TOEIC の内容もカバーしていきます。(単語テキストは Part 3 が相当します)</p> <p>小テスト、提出物については毎週あるので、必ずテキストの内容については予習するようにしましょう。(単語小テストについては、授業中にテスト範囲予定を配布します)</p>
到達目標	1年生で復習した英語全般を利用しながら、さらに専門分野での英語を理解し、さらに応用できるようになることを目指します。TOEIC で試される英語力も意識しながら、医療系の情報を英語で理解し、ある程度発信できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	情報処理室を利用し、ワード等を利用するので、Keyboard には慣れておくこと。 さらに、リスニングに際しても PC を利用する予定であるので、操作に慣れておくこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC 等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1		授業の意図、流れ、そして何を求めるかを説明する。そののちに、テキスト Unit 1～3 を利用し、授業の流れを実際に把握する。	Unit 1～3 までの内容を把握する。その内容を利用し、1～3 のうちのひとつを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。
2		Unit 4～6	Unit 4～6 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちのひとつを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 7～9 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
3		Unit 7～9	Unit 7～9 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちのひとつを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 10～12 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
4		Unit 10～12	Unit 10～12 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちのひとつを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
5		Review Quiz & Class Report (1)	Unit 1～12 について、内容のまとめと、自らの研究ノートの情報から、指示されたことについて、英文の授業内レポートを書く。	Unit 13～15 の予習が必要になる。
6		Unit 13～15	Unit 13～15 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちのひとつを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 16～18 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
7		Unit 16～18	Unit 16～18 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちのひとつを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 19～21 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
8		Unit 19～21	Unit 19～21 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちのひとつを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 22～24 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
9		Unit 22～24	Unit 22～24 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちのひとつを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
10		Review Quiz & Class Report (2)	Unit 13～24 について、内容のまとめと、自らの研究ノートの情報から、指示されたことについて、英文の授業内レポートを書く。	Unit 25～27 の予習が必要になる。
11		Unit 25～27	Unit 25～27 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちのひとつを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 28～30 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。

	12	Unit 28~30	Unit 28~30までの内容をlistening、そしてReadingの両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 31~33の予習が必要になる。本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。
	13	Unit 31~33	Unit 31~33までの内容をlistening、そしてReadingの両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 34~36の予習が必要になる。本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。
	14	Unit 34~36	Unit 34~36までの内容をlistening、そしてReadingの両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	授業で提示します。
	15	Review Quiz & Class Report (3)	テキスト全体から、内容のまとめと、自らの研究ノートの情報から、指示されたことについて、英文の授業内レポートを書く。	テキストすべての中からの復習をしておくこと
	関連科目 他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「Good Health」	Yukio Seya 他	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単語小テスト(10%) TOEIC IP テスト(20%) Review Quiz & Class Report (50%) 研究ノートと発表(20%)			
学生への メッセージ	できるだけ、実践的、かつ学術的な英語を理解し、話せるようになっていただきたいと思いますので、英語でのプレゼンテーションなどの場合は、自分の力をしっかり出していただきたい。さらに、発音についても、日頃からNativeの発音を聞くようにしておいていただきたい。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	英語IV	科目名(英文)	English IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人

授業概要・目的	本授業では、医療、看護、科学に関する英文学術論文を読解できる能力を養う。また、より多くの情報を得るために、インターネット等を用いた学術論文の収集方法を学習し、学術論文の要点を把握する能力を修得することを目的とする。さらに、医療現場等で必要とされる実用的な英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。
到達目標	1) 医療、看護、科学等に関する英語の代表的な用語を列挙し、その内容を説明できる。 2) 医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。 3) 医療、看護、科学等に関連する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。 4) インターネット等を用いて学術論文の読解に必要な情報を収集できる。 5) 医療、看護、科学等に関する英文学術論文を読解し、その内容を説明できる。
授業方法と留意点	医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読解します。また、英文学術論文を読み、その内容に関する説明資料の作成・発表を行います。辞書を必ず持参して下さい。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(1)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
2	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(2)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
3	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(3)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
4	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(4)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
5	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(5)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
6	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(6)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
7	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(7)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
8	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(8)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
9	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(9)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
10	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(10)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
11	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(11)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
12	英文の学術論文の読み方(1)	学術論文の読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
13	英文の学術論文の読み方(2)	学術論文のデータの読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
14	英文の学術論文の要約作成	学術論文の要約を作成する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。
15	英文の学術論文の内容発表と全体のまとめ	学術論文の内容を発表する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「プリント」を講義で配付します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>学術論文の発表に用いるプレゼン資料 (20%)、各授業中の発表と学術論文発表 (20%) および定期試験 (60%) で総合的に評価します。なお、出席、受講態度不良の者については20点を限度に減点することがあります。</p>			
学生への メッセージ	<p>本講義は、アドバンス型の英語の講義です。英語の論文を毎週読んでもらいますので、講義外での、予習・準備が相当必要になります。意欲的態度で臨み、積極的に授業に参加し、発表して下さい。</p>			
担当者の 研究室等	1号館5階 生化学研究室 (薬学部)			
備考	<p>事前学習：次回の授業範囲の単語、慣用語句等に関する学習および要約作成・発表に必要な情報調査等 (1時間×15回) 事後学習：授業で用いた英語文章の単語等の復習 (0.5時間×15回)</p>			

キャリア形成科目

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西鶴 智香

授業概要・目的	<p>●概要：「自分のキャリア」＝「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのもののこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積みばいいか、を中心に、皆で議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。</p> <p>●看護師という職業は、これから、職務・職域拡大についてどのように変革しようとしているかを知り、自分のキャリアデザインの参考にします。</p>
到達目標	<p>●到達目標：1年次の自分なりに、で構いません。看護師になって自分は何がやりたいのか、自分がやりがいを持てるのは何か、自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでも具体的に描けるようになることを目標とします。</p> <p>●「大学生」である皆さんには、大人としての態度、意見を求めます。講義を通して、自立し成長することを目標とします。</p> <p>●私と皆さん、皆さん同士、のディスカッションを中心に進めていきます。「多様な価値観を認められる自分になること」「周囲からの評価を気にせず、自分の意見を言えるようになること」も目標としています。</p>
授業方法と留意点	<p>●毎回のテーマ講義後、少人数でのディスカッション・全体でのディスカッションを実施。</p> <p>●回によっては、配布したワークシートを記入しながらのディスカッションもあります。</p> <p>●毎回終了時に、レポート提出あります。</p> <p>●毎回、周りを気にせず、自分の意見を述べることを求めます。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>●看護師としての生涯キャリアを学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。</p> <p>●自分を理解できることで、周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●講義概要、講師自身のキャリア形成、社会の現状とキャリアデザインの重要性 ●「上手に議論する方法」について説明 	<ul style="list-style-type: none"> ●「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどういうふう動いているのか、しっかりと理解しましょう。 ●多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であることを理解しましょう。
	2	「看護師」という職業を考えると！	職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。	日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみましょう。
	3	自分自身を知る①	求められる「社会人基礎力」は、自分は何の程度出来ているかチェック。自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。	「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。まずは自分の行動目標を立てます。率直に意見を言い合う面白さ、を実感しましょう。
	4	自分自身を知る②	「自分に自信がある、ない」は何に起因されているのか。自身の成功体験の整理、自信のつけ方、についてディスカッション。	患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみましょう。
	5	リーダーシップを考える	社会で求められるリーダーになるには、何を身につければいいのか。	今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。リーダーのタイプを観察し、まとめてみましょう。
	6	自分の生涯キャリアを考える①	結婚、出産、転勤、介護等、人生に起こりうるイベントでも、自分のキャリアデザインを修正していくことも迫られる可能性があることを知しましょう。自分のキャリアデザインシート作成します。	看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。目標に向かってどのような道をたどっているのか、調べる。
	7	「自分はこんな人、こんな看護師になります！」	各自発表	誰からの評価も気にせず、自分の意見を発表しましょう。今の自分の意見、で構わないのです。
	8	まとめ～節目ごとに「自分のキャリアデザイン」を。	「自分のキャリアは自己責任」時代。今後、自分の人生の節目ごとに、自分で生涯キャリアを設計、修正することの意義を理解する。	自分の人生は自分で決める。常に、「なぜそうなのか？」を考えるクセをつけ、率直に自分の意見を言い、また他人を受容する力をつけましょう。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

関連科目	特記なし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬学生のためのキャリアデザインブック (この本の半分以上をテキストとして使用します)	西鶴智香	薬事日報社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を通じて作成するワークシートを完成させ、講義終了時のレポートと合わせ提出することを必須要件とする。 ・出席回数・講義中に使用するワークシート記入・講義終了後レポート内容 60% ディスカッションでの発言・受講態度40% <p>※評価ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常事態でない限り、一定回数以上の欠席は単位を認めません。 ・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。 ・ディスカッションで自分の考えを積極的に発言し、また他人の意見に耳を傾け受容し、コミュニケーションをとっているか。
学生への メッセージ	<p>自分の人生プランを一から描けるのは、若い時にだけできること。 この講義を通して、自分自身のこと、人生で絶対やりたいこと、等を整理し、これからの人生を、自立できて、迷うことなく明るく進んでほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻厳禁！前半の講義進行に影響が出るので慎むこと。 ・私語厳禁！誰かが発言している際に私語を慎むのは、大人の常識！ 意見を言いたい時には、手を挙げて発言すること。 ・自立した大人を目指すため、様々なアドバイスをします。耳が痛いことも言うかもしれませんが、皆さんが社会人になって「残念な人だ」と言われないために、と思っはつきりと注意します。ご理解下さい。
担当者の 研究室等	非常勤講師
備考	メールアドレス chika@career-position.com

科目名	キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 小崎 篤志

授業概要・目的	高校生から大学生への円滑な移行に向けて、摂南大学看護学部生として、学習意欲の向上、専門職としての意識の醸成、人格的な成長を培うことを目的とする。
到達目標	1) 大学で看護学を学ぶための基礎的な学習技術を取得する。 2) 自身で学び考えるための基礎的能力を取得する。 3) 看護学生としての自己管理能力を身につける。 4) キャリア体験と動機づけによって看護の目標志向を育む。
授業方法と留意点	・講義、薬学部との合同演習、現役看護職との交流会を実施します。 ・薬学部での合同演習では、責任感をもって個々の役割を担って下さい。 ・現役看護職との交流では、貴重な機会となりますので、自らの将来や目標を見据え、質問したいことを事前に考えてくるようにして下さい。
科目学習の効果 (資格)	専門職への意識を高め、目標に向かって主体的に、学習をすすめていくことができる。 看護師としての成長のみならず、人間的に成長することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前学習課題	事後学習課題
1	履修ガイダンス・履修指導	摂南大学生として卒業時に目指す姿 履修内容、方法および学習を深める方法について学ぶ。	事前学習課題：ファーストイヤースタディガイドを読んでおく	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
2	学生生活ガイダンス	充実した学生生活を過ごすために心がけること、大学の規範や社会の一員としてのマナーを身に付ける。	事前学習課題：ファーストイヤースタディガイドを読んでおく	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
3	先輩から学ぼう	小グループで上級生との交流することを通じて、具体的な学習方法や大学生活を知り、見通しをたてる。	事前学習課題：大学生活の実際や学習方法について、質問したいことをまとめる	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
4	キャリアガイダンス	看護師国家資格について、看護職としての就職について理解し、目標を明確にする。目標達成に向けて自分自身が取り組むべき課題を明らかにする。	事前学習課題：ファーストイヤースタディガイドを読んでおく	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
5	チームビルディング	チームワークとは何か、チーム医療とは何かを明確にし、薬学部生とのグループワークを行う	事前学習課題：チームとは、チームワークとは、チーム医療とは何かについて調べておく	事後学習課題：チームにおける自分の果たすべき役割についてまとめる
6	生命の尊厳と人間の尊重 「緩和医療について」	ゲストスピーカーを招いて、緩和医療について学ぶ。	事前学習課題：緩和医療について、緩和医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。	事後学習課題：緩和医療について学んだこと、考えたことをまとめる
7	「緩和医療について」チームアプローチを考える	事前学習内容をグループで共有し合い、薬学部生とともに緩和医療におけるチームアプローチについてグループで検討する。	事前学習課題：緩和医療について、緩和医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。	事後学習課題：緩和医療について学んだこと、考えたことをまとめる
8	チーム医療 「在宅医療について」	ゲストスピーカーを招いて、在宅医療、チーム連携について学ぶ。	事前学習課題：在宅医療について、在宅医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。	事後学習課題：在宅医療について学んだこと、考えたことをまとめる
9	「在宅医療について」、チームアプローチを考える	薬学部生とともに在宅医療におけるチームアプローチについてグループで検討する。	事前学習課題：在宅医療について、在宅医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。	事後学習課題：在宅医療について学んだこと、考えたことをまとめる
10	グループ発表会	緩和医療、在宅医療について、グループで検討した内容を発表する	事前事後学習課題：グループで検討した内容を発表するための準備をし、最終プロダクトを仕上げる	
11	グループ発表会	緩和医療、在宅医療について、グループで検討した内容を発表する	事前事後学習課題：グループで検討した内容を発表するための準備をし、最終プロダクトを仕上げる	
12	私のキャリア①	専門看護師について (資格取得の方法、役割、具体的な実践内容等)	事前学習課題：専門看護師について、資格取得方法や役割について	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
13	私のキャリア①	専門看護師について (資格取得の方法、役割、具体的な実践内容等)	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
14	私のキャリア②	連携 4 病院の現役看護師をゲストスピーカーとして招き、自身のキャリア体験や活動内容について学ぶ	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
15	私のキャリア②	グループに分かれて、現役看護職と交流し、看護の実際や看護師のキャリア経験を聞き、自分の未来を見通す	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる	事後学習課題：さらに知りたいことを深める

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

キャリア形成科目

評価方法 (基準)	授業への参加態度、提出物を総合的に判断する
学生への メッセージ	自分の将来の目標を明確にし、それに向かって着実に前進できるよう、具体的な計画を立てましょう。
担当者の 研究室等	研究室17 鎌田
備考	ゲストスピーカーの都合によりシラバス内容が一部変更することがあります。

專 門 基 礎 科 目



科目名	代謝栄養学	科目名(英文)	Biochemical Nutriology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹内 健治

授業概要・目的	糖質、脂質、タンパク質(アミノ酸)、ビタミン、ミネラルの五大栄養素を中心に、その構造、性質、役割など生化学的な特徴を理解する。また、摂取した食物の消化、吸収の機序を知り、どのように体内で代謝され生体のエネルギーや構成成分になるのかについて、体内で起こる種々の化学反応とその反応を触媒している酵素の役割を中心に理解する。さらに、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解する。
到達目標	栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、プロジェクター、プリントなどを用いて講義する。
科目学習の効果(資格)	生物系科目全般の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	糖質の代謝	食べた糖質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	糖質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
3	栄養素各論「脂質」	栄養素としての脂質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「脂質」の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
4	脂質の代謝	食べた脂質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	脂質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
5	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」	栄養素としてのアミノ酸とタンパク質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
6	アミノ酸とタンパク質の代謝 エネルギー代謝の統合と制御	食べたタンパク質の消化、吸収と、アミノ酸の代謝を理解する。 代謝のバランスが崩れたときに、どのようなことが起こるかを理解する。	アミノ酸とタンパク質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
7	体の中での酵素の役割 代謝異常と疾患	私たちの体温は37℃、pHは中性である。このような緩和な状況で栄養を代謝できるのは体内に酵素があるおかげである。 遺伝情報に誤りがあると、それが原因で代謝異常がおこることを理解する	酵素の役割の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
8	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」 遺伝情報	ヌクレオチドと核酸の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。 遺伝情報がどのように保存され、どのように次世代へ伝わるのかを理解する。	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」と遺伝情報の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	生物・化学の基礎など生物系科目全般
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小テストと課題(25%)、定期試験(75%)で評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	代謝栄養学の観点からみると、健康とは、食物の消化・吸収から代謝、および老廃物の排出という人体の活動が正常に営まれることであり、疾病はこの正常な営みが崩れた場合に起こる。代謝栄養学の知識は、他領域の分野を学習するための基礎であり、それらの習得に役立つことは間違いない。講義時間が少ないため、覚えるだけの部分は授業時間以外の学習で補ってもらおう。講義内容についての質問はいつでも受け付けますので、気軽にたずねてください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館5階
------------	-------

科目名	食生活論	科目名(英文)	Dietary Life
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 真理子

授業概要・目的	私達は毎日食材を調理し、食事をするという習慣的な食生活を営んでいる。近年、健康食品ブームなど人々の食への関心が高まっている一方で、経済成長やライフスタイルの変化は私達の食生活にも大きな影響を及ぼし、栄養バランスのひずみなどが大きな社会問題となっている。本科目では、人間にとって「食べる」とはどのようなことかについて、生理的・精神的・社会的な機能などから考える。また、各ライフステージにおける食の特徴や役割について学習する。
到達目標	栄養素の役割について理解し、各ライフステージにおいてどのような食事が必要かについて理解する。 また、疾病時の栄養管理について、看護師として必要な知識を身につける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。教科書と各回に配布するプリントを活用する。
科目学習の効果(資格)	生活から切り離すことの出来ない「食」について理解を深めるとともに、各ライフステージにおける食の特徴や役割を理解することで、今後の履修科目の理解につながることを期待する。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	食生活の概念	はじめに食生活の概念と、食生活論を学ぶ意義について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
2	食生活の変遷—日本・世界の食文化—	古代から現代に至るまで、ヒトは何をどのように食べてきたのか、「おいしさ」と食文化について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
3	食品と栄養	私たちが普段何気なく口にしている食品について理解を深める。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
4	食生活の機能—生理的機能1—	三大栄養素の生理的機能について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
5	食生活の機能—生理的機能2—	ビタミンの生理的機能について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
6	食生活の機能—生理的機能3—	ミネラルの生理的機能について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
7	ライフステージにおける食の特徴と役割—妊娠期—	妊娠期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
8	ライフステージにおける食の特徴と役割—乳幼児期—	乳幼児期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
9	ライフステージにおける食の特徴と役割—学童期—	学童期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
10	ライフステージにおける食の特徴と役割—思春期—	思春期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
11	ライフステージにおける食の特徴と役割—成人期—	成人期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
12	ライフステージにおける食の特徴と役割—高齢期—	高齢期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
13	食生活の現状と課題1	現在の食生活について、現状と課題について、また、現代の情報化社会における、本当に信頼できる情報とは何か、を理解する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
14	食生活の現状と課題2	遺伝子組み換えなど食材の安全性や、食中毒・食品汚染などの安全性の問題について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。	
15	これからの食生活	現代社会の「食」を取り巻く背景から、食の役割、これからの食生活について学習する。最後にまとめの小テストを行う。	まとめの小テストを行うので、これまでの授業内容をしっかりと復習して講義に望むこと。	

関連科目	生化学、栄養学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	保健・医療・福祉のための栄養学	渡邊早苗・寺本房子・丸山千寿子	医歯薬出版株式会社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験、小テストおよび課題などから総合的に判断する。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	「食」は私たちが生きていく上で切り離すことのできないものです。しっかりと理解し、自分の食生活にも応用して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

専門基礎科目

科目名	薬理学総論	科目名(英文)	Pharmacology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	奈邊 健

授業概要・目的
薬物療法における看護師の役割として、(1) 誤薬の防止、(2) 治療効果の確認、(3) 有害作用の予防と早期発見、(4) 服薬に対する患者指導、(5) 患者・家族に対する治療の説明、などがある。これらを適切に実行するためには、薬物が生体に及ぼす種々の作用及びその作用機序について詳細に学ぶ必要がある。薬理学総論では、薬物の作用を、分子、細胞、臓器、個体レベルで学習し、上記の役割を実践していく上で必要な薬物の基礎知識を修得する。また、薬物の投与方法と投薬後の注意点、副作用とその対策、医薬品の取り扱い上の留意点等を総合的に理解し、臨床での実践へ向けた薬物療法の基盤を確かなものとする。

到達目標
(1) 薬物療法における看護師の役割について概説できる。
(2) 薬が作用するしくみについて、受容体、イオンチャネル、酵素、などを交えて説明できる。
(3) 薬を投与した際の体内挙動(吸収、分布、代謝、排泄)について概説できる。
(4) 薬物相互作用について例を挙げて説明できる。
(5) 薬物の危険性について理解し、例を挙げて説明できる。
(6) 薬に関連した法律について概説できる。
(7) 自律神経系(交感神経・副交感神経)に作用する薬物について説明できる。
(8) 体性神経系(運動神経、知覚神経)に作用する薬物について説明できる。
(8) 心臓血管系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。
(9) 呼吸器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。
(10) 抗がん薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。

授業方法と留意点
基本的には指定した教科書に沿って講義を進め、必要に応じてプリントなどを配付します。また、臨床的観点から、薬物治療や新薬の話題も提供したい。小テストを複数回実施する。普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。

科目学習の効果(資格)
看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬による病気の治療について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
2	薬理学の基礎知識(1)	薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
3	薬理学の基礎知識(2)	薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
4	薬理学の基礎知識(3)	薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
5	薬理学の基礎知識(4)	薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
6	末梢での神経活動に作用する薬物(1)	神経系による情報伝達、自律神経作用薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
7	末梢での神経活動に作用する薬物(2)	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
8	末梢での神経活動に作用する薬物(3)	筋弛緩薬・局所麻酔薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
9	心臓・血管系に作用する薬物(1)	抗高血圧薬・狭心症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
10	心臓・血管系に作用する薬物(2)	心不全治療薬、抗不整脈薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
11	心臓・血管系に作用する薬物(3)	利尿薬、脂質異常症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
12	心臓・血管系に作用する薬物(4)	血液に作用する薬物について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
13	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
14	抗がん薬(1)	がん治療に関する基礎事項について説明する。	教科書の該当範囲の予習・復習
15	抗がん薬(2)	抗がん薬各論について説明する。	教科書の該当範囲の予習・復習

関連科目
人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
定期試験、小テストにより、100点満点の60点以上で合格とする。

学生へのメッセージ
私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で薬剤師と意見交換が出来るよう薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。質問は遠慮せず来てください。

担当者の研究室等
1号館7階 奈邊教授室

備考

専門基礎科目

科目名	薬物治療学	科目名(英文)	Pharmacotherapeutics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	担当者未定

授業概要・目的	薬理学総論で修得した薬物の作用機序をもとに、さらに幅を広げ、全身の各種疾患に対して科学的根拠に基づいた薬物治療を行うための実践的な医薬品の使用方法を学ぶ。医療チームの一員として患者の治療に貢献できる看護師となるために、医薬品を投与した際の患者の管理や観察に必要な知識・技能・態度を身につける。
到達目標	(1) 中枢神経に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (2) 免疫系、アレルギー疾患、炎症性疾患に用いる薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (3) 消化器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (4) 抗がん薬、緩和医療について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (5) 生殖系・物質代謝に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (6) 抗感染症薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (7) 救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。
授業方法と留意点	指定した教科書に沿って講義を進め、必要に応じてプリントなどを配布します。また、臨床的観点からの薬物治療や新薬の話題も提供します。小テストを複数回実施する予定です。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	中枢神経系に作用する薬物(2)	催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
3	中枢神経系に作用する薬物(3)	気分障害治療薬、パーキンソン症候群治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
4	中枢神経系に作用する薬物(4)	抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
5	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬(1)	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬(2)	関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症、片頭痛治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
8	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬、消化管運動促進薬、制吐薬などについて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
9	抗がん薬(1)	がん治療に関する基礎事項について、緩和医療を交えて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
10	抗がん薬(2)	抗がん薬各論について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
11	生殖系・物質代謝に作用する薬物	女性ホルモン関連製剤、骨粗しょう症治療薬などについて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
12	物質代謝に作用する薬物	糖尿病治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
13	抗感染症薬(1)	感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、感染症治療に関する問題点について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
14	抗感染症薬(2)	抗感染症薬の血中濃度測定の意義、およびその際の看護上の注意点について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
15	救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物、漢方医学の基礎知識について概説する。また、消毒薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、疾病・治療論Ⅰ、Ⅱ、薬理学総論
------	-----------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験、小テスト、出席率等を加味し、100点満点の60点以上で合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で薬剤師と意見交換が出来るよう薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。質問は遠慮せず来てください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	薬理学総論と同じ教科書を使用します。
----	--------------------

専門基礎科目

科目名	病院薬学演習	科目名(英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	X
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真徳, 小森 浩二, 三田村 しのぶ, 小西 麗子

授業概要・目的	チーム医療を担える看護師になるために、模擬処方せんを用いて調剤や服薬指導を実践する中で、病院内で薬剤を取り扱う際の注意点や薬剤に関わる基本的な実務を理解する。
到達目標	チーム医療を担える看護師になるために、演習を通して薬剤に関わる基本的な実務を理解し、薬剤に関する基本的な知識、技能を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義（7号館にて実施）と演習（6号館にて実施）を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果（資格）	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	処方せんの読み方を理解する	講義（小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
2	調剤の基本（計数調剤・散剤・水剤・軟膏剤）を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
3	調剤の基本を実践する 計数調剤／軟膏剤 前半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
4	調剤の基本を実践する 計数調剤／軟膏剤 後半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
5	調剤の基本を実践する 水剤／散剤 前半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
6	調剤の基本を実践する 水剤／散剤 後半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
7	基本的な処方箋の意図を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
8	注射剤の基本的な計算が出来る	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
9	注射剤調剤（混注）の基本を理解する	講義（菊田・小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
10	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製／調剤薬の 監査 前半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
11	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製／調剤薬の 監査 後半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
12	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製／消毒剤調 製・医薬品管理 前半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
13	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製／消毒剤調 製・医薬品管理 後半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
14	医薬品情報提供書の作成の 基本を理解し、服薬指導を実 践する（発表会） 前半	演習（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。
15	医薬品情報提供書の作成の 基本を理解し、服薬指導を実 践する（発表会） 後半	演習（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。

関連科目	薬理学総論、薬物治療学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本[技能]	上村直樹、平井みどり	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち－臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度(70%)および成果物(30%)で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100点満点中60点以上で合格。			
学生への メッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称など初めて目にする知識もあるとは思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。			
担当者の 研究室等	6号館3階 医療薬学研究室			
備考	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間×15回 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間×15回			

科目名	病院薬学演習	科目名(英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	Y
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真徳, 小森 浩二, 三田村 しのぶ, 小西 麗子

授業概要・目的	チーム医療を担える看護師になるために、模擬処方せんを用いて調剤や服薬指導を実践する中で、病院内で薬剤を取り扱う際の注意点や薬剤に関わる基本的な実務を理解する。
到達目標	チーム医療を担える看護師になるために、演習を通して薬剤に関わる基本的な実務を理解し、薬剤に関する基本的な知識、技能を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義（7号館にて実施）と演習（6号館にて実施）を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果（資格）	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	処方せんの読み方を理解する	講義（小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
2	調剤の基本（計数調剤・散剤・水剤・軟膏剤）を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
3	調剤の基本を実践する 計数調剤／軟膏剤 前半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
4	調剤の基本を実践する 計数調剤／軟膏剤 後半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
5	調剤の基本を実践する 水剤／散剤 前半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
6	調剤の基本を実践する 水剤／散剤 後半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
7	基本的な処方箋の意図を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
8	注射剤の基本的な計算が出来る	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
9	注射剤調剤（混注）の基本を理解する	講義（菊田・小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
10	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製／調剤薬の 監査 前半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
11	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製／調剤薬の 監査 後半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
12	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製／消毒剤調 製・医薬品管理 前半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
13	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製／消毒剤調 製・医薬品管理 後半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
14	医薬品情報提供書の作成の 基本を理解し、服薬指導を実 践する（発表会） 前半	演習（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。
15	医薬品情報提供書の作成の 基本を理解し、服薬指導を実 践する（発表会） 後半	演習（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。

関連科目	薬理学総論、薬物治療学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本[技能]	上村直樹、平井みどり	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち－臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度(70%)および成果物(30%)で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100点満点中60点以上で合格。			
学生への メッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称など初めて目にする知識もあるとは思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。			
担当者の 研究室等	6号館3階 医療薬学研究室			
備考	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間×15回 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間×15回			

科目名	カウンセリング論	科目名(英文)	Counseling
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮川 貴美子

授業概要・目的
 臨床現場で役に立つカウンセリングの基礎理論と技法を学び、援助的なコミュニケーションとは何かを考える力を育てることを目的とする。ここではカウンセリングの基本となる「きくこと」の援助的な意味を学び、カウンセリング的対話と日常的対話の違いを理解することを目指すものである。これら講義による知的理解に加えて、「聴く・聴いてもらう」「聴く・語る」という自らの体験実習と、さまざまな映像資料を通して、援助的対話のあり方とは何か、カウンセリングの基本的要素である「傾聴」を学び、カウンセリングについての理解を深めていく。

到達目標
 カウンセリングの基礎を学ぶとともに、対象者に寄り添い、傾聴する構えを習得することができる。

授業方法と留意点
 授業はプリントを使用して講義形式により行うとともに、補助的に映像資料を用いたり、さまざまな実習(実習1～実習8)を行う予定である。講義による知的理解に加えて、これらの実習を通して受講生それぞれの体験的理解を目指している。実習では、ペアやグループでの作業が多くなるので、受講生の主体的な参加が求められる。また実習の体験をもとにレポートが課されるので、欠席・遅刻をするとレポートの作成ができないだけでなく他のメンバーへも迷惑をかけることになる。したがって、やむをえない場合を除き、原則として欠席・遅刻は認めない。

授業中に数回、宿題レポートを提出してもらう予定である。レポートの提出期限については、指定の日時を厳守すること。期日を過ぎたものについては、いかなる理由であっても受け付けない(ただし学校感染症などによる欠席の場合は、公的な証明書類の提出をもって考慮する)。

毎回、授業の最後に講義を受けて気づいたこと、感じたこと、考えたこと、疑問に思うこと、講師への質問などを自由にまとめる「コメントカード」を提出してもらい、書かれた内容について次回の授業の中で、教員から全体へ向けてのフィードバックを行う。この「コメントカード」の提出は「授業への積極的関与度」をはかる指標とするとともに、学生と教員との双方向コミュニケーションをめざすものである。

科目学習の効果(資格)
 看護の現場で役に立つカウンセリングの態度と技法を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: カウンセリングとは	・授業のねらいと授業概要の概説。 ・カウンセリングとは何かを考えるきっかけをつくる(実習1)	授業内容をふりかえって、次回の授業に備えましょう。
2	心理療法の歴史	心理療法の歴史と理論を概観する。	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
3	心理療法とカウンセリング	・心理臨床における心理療法とカウンセリング ・心理療法の構造	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
4	対人援助の方法としてのカウンセリング	・対人援助としてのカウンセリングの意味 ・援助的なコミュニケーションとは何か(実習2)	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
5	カウンセリングにおける応答のあり方	・カウンセリング場面の実際を知る ・援助的な応答とは何かを考えるきっかけを作る(実習3)	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
6	カウンセリングにおける援助の技法	・カウンセリングの方法論 ・カウンセリングの目的 ・基本的なカウンセリング技法 ・共感とは	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
7	クライアント中心療法	C. R. ロジャーズの理論を学ぶ	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
8	カウンセリングの実際	映像資料を通して、カウンセリングの理論と技法の理解を深める。	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
9	援助的なコミュニケーションとは	コミュニケーション実習(実習4、実習5、実習6)を通して、カウンセリングについて体験的に理解する。	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
10	「聴く」ことを考える	・自分の聴き方の特徴に気づく ・傾聴の意義について考える(実習7)	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
11	カウンセリングにおけるラポールと転移・逆転移	・ラポールとは ・転移・逆転移とは	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
12	カウンセリングのロールプレイ	クライアント役とカウンセラー役を体験してみる(実習8)。	実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
13	カウンセリングの実際	資料映像を通して、終末期にある人に対する援助的コミュニケーションのあり方を考える。	終末期を生きるということの意味を考えてみましょう。
14	看護師のメンタルヘルス	・メンタルヘルスとは何か ・ストレスコーピング ・看護師のメンタルヘルスの必要性	自分のメンタルヘルスについて考えてみましょう。
15	まとめ	授業全体をふりかえる	授業全体をふりかえって整理し、期末試験に備えましょう。

関連科目 臨床心理学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 期末試験の成績(60%)とレポートの評価および授業への積極的関与度(40%)をもって、総合的に評価する。

(基準)	上記の「授業方法と留意点」にあるように、ほぼ毎回の授業の最後には「コメントカード」の提出があり、このコメントカードの記述内容により授業への積極的関与の程度を判断する。
学生へのメッセージ	カウンセリング論は実践の学である。したがって知的な理解だけでは臨床の現場では役に立たないとの観点から、この授業では講義による知的理解に加えて、さまざまな実習が用意されている。実習に対しては主体的に参加することが求められている。また受講生諸君には、この授業を通して看護師としての対人援助のあり方について考える機会としてほしい。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	疾病・治療論Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Medicine II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小崎 篤志

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に血液・膠原病・腎および泌尿器疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅲとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	疾病・治療論(麻酔学)	講義で配布するプリントにて、麻酔学について学習する	配布プリントの復習
2	疾病・治療論(血液1)	講義にて血液疾患、主に赤血球系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
3	疾病・治療論(血液2)	講義にて血液疾患、主に赤血球系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
4	疾病・治療論(血液3)	講義にて血液疾患、主に白血球・血液凝固系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
5	疾病・治療論(血液4)	講義にて血液疾患、主に白血球・血液凝固系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
6	疾病・治療論(免疫・膠原病1)	講義にて免疫・膠原病疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
7	疾病・治療論(免疫・膠原病2)	講義にて免疫・膠原病疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
8	疾病・治療論(感染症1)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
9	疾病・治療論(感染症2)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
10	疾病・治療論(感染症3)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の復習
11	疾病・治療論(感染症4)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(4)	教科書内授業部分の復習
12	疾病・治療論(腎泌尿器1)	講義にて腎泌尿器疾患、主に腎疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
13	疾病・治療論(腎泌尿器2)	講義にて腎泌尿器疾患、主に腎疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
14	疾病・治療論(腎泌尿器3)	講義にて腎泌尿器疾患、主に泌尿器疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
15	疾病・治療論(腎泌尿器4)	講義にて腎泌尿器疾患、主に泌尿器疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習

関連科目	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅲ
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.5 血液		メディックメディア
2	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症		メディックメディア	
3	病気がみえる vol.8 腎・泌尿器		メディックメディア	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出题する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度など(10%)で最終評価する。
学生への	第2回以降、講義には指定教科書を持参して下さい。

専門基礎科目

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室23
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	疫学・保健統計	科目名(英文)	Epidemiology and Health Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子

授業概要・目的	集団の健康を扱い、人々の健康の維持・増進、そして疾病予防を目指す公衆衛生では、集団の健康や疾病発生に関連する情報の入手とその解析が不可欠である。そうした情報は将来を見通し適切な対策を立てる上でも欠かせない。本講義では、集団の健康や疾病の分布とその関連要因を明らかにする疫学について講義し、その基本的考え方及び方法について学ぶ。また、疫学で用いられる統計とその基礎について学び、日本人の健康を表す人口・出生・死亡に関わる保健統計の理解も深める。																																																																		
到達目標	疫学および保健統計を含む統計学の基本を学び、疾病予防の背景にある科学的な根拠およびその意味が理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>疫学の概要</td> <td>疫学の考え方、歴史</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>疫学指標</td> <td>割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>観察研究</td> <td>疫学研究デザイン(1)</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>介入研究</td> <td>疫学研究デザイン(2)</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>バイアスと交絡</td> <td>偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性、交絡、交絡の調整</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>スクリーニング</td> <td>検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC曲線</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>疫学研究と倫理</td> <td>医学研究と倫理の歴史、日本の薬害の歴史、研究倫理に関する日本法令・指針</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>統計の基本</td> <td>データの種類、度数分布、ヒストグラム</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>記述統計(1)</td> <td>保健統計(人口、出生、死亡、様々な統計調査)</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>記述統計(2)</td> <td>代表値、散布度、相関</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>確率分布(1)</td> <td>正規分布、標準正規分布</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>確率分布(2)</td> <td>その他の確率分布</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>母集団の推定</td> <td>母集団の推定、推定と検定、点推定、区間推定</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>仮説の検定(1)</td> <td>平均値の差の検定</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>仮説の検定(2)</td> <td>割合の差の検定</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	疫学の概要	疫学の考え方、歴史	授業をよく聞き、考えること	2	疫学指標	割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク	授業をよく聞き、考えること	3	観察研究	疫学研究デザイン(1)	授業をよく聞き、考えること	4	介入研究	疫学研究デザイン(2)	授業をよく聞き、考えること	5	バイアスと交絡	偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性、交絡、交絡の調整	授業をよく聞き、考えること	6	スクリーニング	検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC曲線	授業をよく聞き、考えること	7	疫学研究と倫理	医学研究と倫理の歴史、日本の薬害の歴史、研究倫理に関する日本法令・指針	授業をよく聞き、考えること	8	統計の基本	データの種類、度数分布、ヒストグラム	授業をよく聞き、考えること	9	記述統計(1)	保健統計(人口、出生、死亡、様々な統計調査)	授業をよく聞き、考えること	10	記述統計(2)	代表値、散布度、相関	授業をよく聞き、考えること	11	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布	授業をよく聞き、考えること	12	確率分布(2)	その他の確率分布	授業をよく聞き、考えること	13	母集団の推定	母集団の推定、推定と検定、点推定、区間推定	授業をよく聞き、考えること	14	仮説の検定(1)	平均値の差の検定	授業をよく聞き、考えること	15	仮説の検定(2)	割合の差の検定	授業をよく聞き、考えること
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	疫学の概要	疫学の考え方、歴史	授業をよく聞き、考えること																																																																
2	疫学指標	割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク	授業をよく聞き、考えること																																																																
3	観察研究	疫学研究デザイン(1)	授業をよく聞き、考えること																																																																
4	介入研究	疫学研究デザイン(2)	授業をよく聞き、考えること																																																																
5	バイアスと交絡	偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性、交絡、交絡の調整	授業をよく聞き、考えること																																																																
6	スクリーニング	検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC曲線	授業をよく聞き、考えること																																																																
7	疫学研究と倫理	医学研究と倫理の歴史、日本の薬害の歴史、研究倫理に関する日本法令・指針	授業をよく聞き、考えること																																																																
8	統計の基本	データの種類、度数分布、ヒストグラム	授業をよく聞き、考えること																																																																
9	記述統計(1)	保健統計(人口、出生、死亡、様々な統計調査)	授業をよく聞き、考えること																																																																
10	記述統計(2)	代表値、散布度、相関	授業をよく聞き、考えること																																																																
11	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布	授業をよく聞き、考えること																																																																
12	確率分布(2)	その他の確率分布	授業をよく聞き、考えること																																																																
13	母集団の推定	母集団の推定、推定と検定、点推定、区間推定	授業をよく聞き、考えること																																																																
14	仮説の検定(1)	平均値の差の検定	授業をよく聞き、考えること																																																																
15	仮説の検定(2)	割合の差の検定	授業をよく聞き、考えること																																																																
関連科目	情報リテラシーⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめて学ぶやさしい疫学 ～疫学への招待～</td> <td>日本疫学会</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめて学ぶやさしい疫学 ～疫学への招待～	日本疫学会	南江堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	はじめて学ぶやさしい疫学 ～疫学への招待～	日本疫学会	南江堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしい統計学—保健・医薬・看護・福祉関係者のために</td> <td>片平 潤彦</td> <td>桐書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい統計学—保健・医薬・看護・福祉関係者のために	片平 潤彦	桐書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	やさしい統計学—保健・医薬・看護・福祉関係者のために	片平 潤彦	桐書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、疫学・保健統計を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁 ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い 																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	保健医療福祉行政論	科目名(英文)	Health and Welfare Administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子

授業概要・目的 日本の上衆衛生を向上させ、国民の健康を守ってきたのが保健医療福祉行政とその制度である。本講義ではこうした保健医療福祉行政とその制度や仕組みについて学ぶ。また、保健、医療、福祉が連携して展開されている現状について講義する。

到達目標 保健医療福祉行政とその制度・仕組みについて理解するとともに、制度ごとの関係や違いについても説明できる。

授業方法と留意点 講義と事例検討を行う。

科目学習の效果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	医療保険(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意
3	医療保険(2)	保険料と給付	最新ニュースに留意
4	医療保険(3)	高齢者医療制度	最新ニュースに留意
5	医療保険(4)	国民医療費	最新ニュースに留意
6	生活保護(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意
7	生活保護(2)	給付の要件と保護基準	最新ニュースに留意
8	生活保護(3)	事例学習	最新ニュースに留意
9	社会福祉(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意
10	社会福祉(2)	給付と社会手当	最新ニュースに留意
11	社会福祉(3)	事例学習	最新ニュースに留意
12	社会福祉(4)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意
13	介護保険(1)	保険料、給付とサービス提供体制	最新ニュースに留意
14	介護保険(2)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意
15	介護保険(3)	財政方式	最新ニュースに留意

関連科目 地域看護学、公衆衛生学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	社会福祉と社会保障 (ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障)	増田 雅暢 平野 かよ子 島田 美喜	メディカ出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。

学生へのメッセージ

- ・授業では、保健医療福祉行政論を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけではわかりにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。
- ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁
- ・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い

担当者の研究室等 7号館3階24

備考 なし

専門基礎科目

科目名	公衆衛生学	科目名(英文)	Introduction to Public Health
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子

授業概要・目的
産業が発達して都市に人口が集中し始めた18世紀に、人々の健康を集団の健康問題として対処すべき必要性から生まれた。そこでは個人ではなく集団や社会を対象とした健康問題の把握・対処方法がとられ、領域も環境、地域、産業、学校など多岐にわたる。本講義では、公衆衛生の歴史、日本人の健康問題の変化と現状、及び各領域の公衆衛生について取り上げる。また、社会の変化に伴って、現在の公衆衛生制度が抱える課題について考察する。

到達目標
私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する。

授業方法と留意点
講義中心。視聴覚教材も用いる。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意
2	保健統計	健康指標と人口統計	最新ニュースに留意
3	疫学	集団の疾病をとらえる	最新ニュースに留意
4	疾病予防と健康管理	予防医学の考え方	最新ニュースに留意
5	感染症と予防	感染症の疫学と予防	最新ニュースに留意
6	慢性疾患と予防	慢性疾患の疫学と予防	最新ニュースに留意
7	環境保健	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意
8	地域保健	地域保健のしくみ	最新ニュースに留意
9	母子保健	母子保健の現状と課題	最新ニュースに留意
10	学校保健	子どもの健康と学校保健	最新ニュースに留意
11	産業保健	勤労者の労働災害と健康	最新ニュースに留意
12	高齢者の健康と福祉	高齢期の健康と福祉	最新ニュースに留意
13	精神保健	精神障害の現状と保健福祉	最新ニュースに留意
14	保健医療制度	日本の保健医療制度と法規	最新ニュースに留意
15	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意

関連科目
疫学・保健統計、保健医療福祉行政論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	シンプル衛生公衆衛生学 2016	鈴木 庄亮	南江堂
2	国民衛生の動向 2016/2017	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
定期試験 60%以上で合格。授業全15回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。

学生へのメッセージ
・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけではわかりにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。
・授業中の私語、教室の出入りは厳禁
・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い。

担当者の研究室等
7号館3階24

備考
なし

科目名	医療経済論	科目名(英文)	Healthcare Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 医療における課題を経済学的に考察し、医療サービスの供給体制、制度及び医療機関の経営問題に関わる考察を行い、看護職に求められる経済学的視点を修得する。 看護職となるに当たって保健・医療・福祉における経済面・経営面に関する社会常識としての知識を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬制度として収入が規定されており、一般の企業における売上とは異なる収入体系とその制度の必要性について認識・理解した上で適正なコスト意識と業務改善意識を持って看護業務に従事できることを目標とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 看護職に求められる経済学視点について講義する。診療報酬制度に基づく報酬の支払いを中心に経済学による需要と供給の価格決定プロセスを比較しながら考察する。 医療における財・サービスの交換システムの特異性に焦点を置きながら、多くの看護職が勤務する病院での現状と課題について講義する。 後半は、看護職の管理的立場において求められる考え方について講義する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 看護専門職の科目だけでなく、就職・勤務にむけた経済社会の財・サービス交換活動への経済学的思考の修得を目的とする。 経済理論だけでなく実際の組織において必要とされる看護職の今後の課題に対する政策構築に関する考察についても考慮したい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経済学からみた看護サービス	経済活動と医療経済との違いについて講義する。	第I章
2	社会経済環境の変化と看護師雇用の現状	変化に伴う看護師の環境と雇用関係について講義する。	第II章
3	診療報酬制度がもたらす影響1	看護師が他職種業務を担うメカニズムについて講義する。	第III章
4	診療報酬制度がもたらす影響2	看護師の技能評価を妨げるメカニズムについて講義する。	第IV章
5	看護師の労働供給	看護師の労働力提供の体系について説明する。その主な原因である結婚と出産・育児について講義する。	第V章
6	看護師の労働需要と市場構造	労働市場における搾取と労働力不足について講義する。	第VI章
7	人的資本論から検証する労働条件格差	看護師間で生じている賃金格差の状況を確認した上で、その格差を、教育やトレーニングにより養成される技能の差異をもって説明する「人的資産」の視点から講義する。	第VII章
8	市場の階層性が生み出す賃金格差	日本における看護師の労働市場構造において、人的投資の機会費用をはじめとして看護師の賃金を決める要因は何か、看護師の賃金決定メカニズムについて講義する。	第VIII章
9	職務価値からみた賃金格差	賃金格差を説明するもう1つの分析視角、「職務価値」と看護師の賃金との関係について講義する。	第IX章
10	看護師の雇用政策とインパクト	看護師の労働市場にどのような影響を及ぼしそして雇用にどう影響を与えたのかについて講義する。	第X章
11	よりよい看護を実現するために	看護師の働きが、そして技能が正当に評価され、消費者である患者に対してよりよい看護サービスを生産し、それをどのように提供していくかについて講義する。	第XI章
12	習熟度試験(予定)	講義時間内に論述形式での中間試験を行う。	これまでの配布資料、教科書のみ持込可。
13	看護管理職の備えるべき視点1	「看護部長の基本事務、変化への対応力、看護部長の組織管理、マネジメント技法への関心度、専門看護職と組織改革、看護部門の組織文化」について講義する。	「病院のDON Director Of Nursing」 Chapter 2, 3, 4
14	看護管理職の備えるべき視点2	「変革期の人材マネジメント、看護政策対応力、院内看護政策力、情報マネジメント、コミュニケーション、看護業務の変化、苦情対応のマネジメント、組織フレームワークの再検討」について講義する。	「病院のDON Director Of Nursing」 Chapter 9, 11, 12
15	看護管理職の備えるべき視点3	「コスト意識と金銭感覚、看護情報提供と看護連携、看護業務の電子化、病院統治力」について講義する。	「病院のDON Director Of Nursing」 Chapter 32, 34, 35

関連科目 労働経済学、ミクロ経済学、経営学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護師の働き方を経済学から読み解く 看護のポリティカル・エコノミー	角田由佳	医学書院
2	病院のDON 看護管理で病院がよみがえる	小林秀夫	医学書院	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

専門基礎科目

	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職になるための科目の修得は、国家資格取得も含め必須である。しかし、卒業後、多くの看護職が勤務する病院や福祉施設の運営は、公的な補助があるものの経済学の考え方に基づいて運営されている。 ・少子高齢化社会の到来に向けて、これからの看護職は、社会的な知識(経済学等の社会科学科目)も必要とされる。本講義は、そのための基礎的な考え方の習得を目指す。 			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス1号館7階 田井准教授室(経済学部)			
備考	社会科学分野である経済学、経営学による分析内容について、看護職の視点から説明する。			

科目名	看護関係法規	科目名(英文)	Nursing-related Laws
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹中 泉

授業概要・目的	(概要) ・看護職は保健医療福祉サービスに携わる多くの職種と連携し、対象となる人々の健康を回復・維持・増進する。 ・チーム医療の中で看護職がどのような役割を担い、職務を遂行する必要があるのか理解するために、基盤となる保健師助産師看護師法をはじめ、保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を学ぶ必要がある。 ・看護職として職務を遂行するための根拠や判断基準が修得できるよう学ぶ。
到達目標	・保健師助産師看護師法の目的を説明できるようになる。 ・「ヒヤリ・ハット」、「医療事故」および「医療過誤」の区別を理解する。 ・医療従事者の行政責任、民事責任および刑事責任の内容を正しく理解する。 ・保健師助産師看護師法および周辺の医事法、医薬品医療機器等法、環境衛生法、社会保険法、労働法の重要事項を理解する。
授業方法と留意点	ミニレクチャーと事前課題に基づいたディスカッション形式で行う。 必要に応じてレジュメを配布する。
科目学習の効果(資格)	看護専門職業人として必要な看護に関係する法規の基本的事項を学び、職務を遂行するための根拠や判断基準の知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法の概念	・講義概要の説明 ・厚生行政のしくみ	・教科書の入手 ・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
2	看護法(1)	・保健師助産師看護師法	・事前：教科書該当箇所の精読 看護学概論で学んだ内容を復習しておく ・事後：要点をノートに整理
3	看護法(2)	・看護師等の人材確保の促進に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
4	医事法と看護(1)	・医療法	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
5	医事法と看護(2)	・医師法等医療関係職種に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
6	保健衛生法と看護(1)	・共通保健法 ・分野別保健法	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
7	保健衛生法と看護(2)	・感染症に関する法律 ・食品に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
8	薬務法と看護	・薬事一般に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
9	労働法と看護	・労務法 ・社会基盤整備	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
10	看護事故の法的責任(1)	・医療過誤 ・民事上の責任 ・刑事上の責任 ・行政上の責任	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
11	看護事故の法的責任(2)	・相対的医行為と看護業務 ・他の医療職種の業務範囲と看護業務	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
12	看護職と介護職の協働	・介護職の資格制度と教育 目的・定義・免許・業務	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
13	看護学生の臨地実習と法の関係	・臨地実習における事故の法的責任	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
14	時事的な医療関連の法律	医療関連法律のトピックス	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
15	全体のふりかえりとまとめ		・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理

関連科目 法学入門、日本国憲法、保健医療福祉行政論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令	森山 幹夫	医学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護師を目指す人のための関係法規	森田=野畑/編著	法律文化社
2	私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法	田村やよひ	日本看護協会出版会
3			

専門基礎科目

評価方法 (基準)	定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。 定期試験 60%、課題・グループワーク 40%
学生への メッセージ	看護職に関係する法律へ関心をもち、テレビ・新聞・インターネットなどから情報を得て、身の回りで体験している事象と関連付けて学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室 25 竹中
備考	